

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更									
フリガナ設置者	ガッコウホウジンキョウトセイアンガクエン 学校法人京都成安学園									
フリガナ大学の名称	セイアンゾウケイダイガク 成安造形大学(Seian University of Art and Design)									
大学本部の位置	滋賀県大津市仰木の里東四丁目3番1号									
大学の目的	デザイン及び美術に関する学術の中心として、広く知識を授けると共に、深く専門の理解、技能及びその応用を教授研究し、人格の完成を図り、国際性に富み、個性豊かな教養の高い人材を育成し、もって文化の創造・発展、産業の発展、国家社会の福祉に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	<p>本学の入学・編入学ニーズは近年高まりを見せている。本学としては、アドミッション・ポリシーを満たす者の受入れ要請に応え学びの機会を確保するという使命を有する一方で、入学定員充足率の適正化を図ることが求められ、現行の定員規模ではその調整が困難な状況が続いている。実践的学士課程教育を行う本学への進学ニーズは引き続き高い状態が続くとみられることから、入学定員と収容定員を変更する必要がある。また、編入学においては現在、3年次編入学のみを受入れているが、近年、学びのニーズが多様化している。非芸術系学部からの編入学生など、3年次編入学生の多くが2年次開講科目を履修している状況を踏まえ、効果的効率的に学習成果が得られるようにするために、3年次編入学定員を減じ、2年次編入学を開始する必要がある。このようなことから本申請を行うものとする。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	芸術学部 (Faculty of Art)	年	人	年次人	人	学士（芸術学） (Bachelor of Art)	年月 第 年次	滋賀県大津市仰木の里東 四丁目3番1号		
	芸術学科 (Department of Art)	4	220 (200)	2年次 4 (0)	900 (820)		令和5年4月 第1年次			
			3年次 4 (10)		令和5年4月 第2年次					
計		220 (200)	2年次 4 (0) 3年次 4 (10)	900 (820)		令和5年4月 第3年次				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	—	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計		
	新設分	芸術学部 芸術学科	22人 (22)	13人 (13)	2人 (2)	7人 (7)	44人 (44)	9人 (9)	131人 (131)	
		計	22人 (22)	13人 (13)	2人 (2)	7人 (7)	44 (44)	9人 (9)	131人 (131)	
	既設分	なし	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
		計	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
	合計	22人 (22)	13人 (13)	2人 (2)	7人 (7)	44人 (44)	9人 (9)	131人 (131)		
教員以外の職員の概要	職種			専任		兼任		計		
	事務職員			35人 (35)		34人 (34)		69人 (69)		
	技術職員			0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員			1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	その他の職員			1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	計			37人 (37)		34人 (34)		71人 (71)		

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計					
	校舎敷地	49,688.26 m ²	— m ²	— m ²	49,688.26 m ²					
	運動場用地	3,131 m ²	— m ²	— m ²	3,131 m ²					
	小計	52,819.26 m ²	— m ²	— m ²	52,819.26 m ²					
	その他	2,535 m ²	— m ²	— m ²	2,535 m ²					
	合計	55,354.26 m ²	— m ²	— m ²	55,354.26 m ²					
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計					
		20668.1 m ² (20668.1m ²)	— m ² (— m ²)	— m ² (— m ²)	20668.1 m ² (20668.1m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	8室	6室	114室	15室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数						
		大学全体		31室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	大学全体	85,534 [8,089] (81,934 [7,999])	376種 [31] (376種 [31])	0 [] ([])	3,144 (2,994)	0 0	0 0			
	計	85,534 [8,089] (81,934 [7,999])	376種 [31] (376種 [31])	0 [] ([])	3,144 (2,994)	0 (0)	0 (0)			
図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体			
	793 m ²		104		63,550					
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
	917.46 m ²		該当なし							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	専任教員職員 特別任用教育職員 助教
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	—	—	
		共同研究費等		150千円	150千円	150千円	150千円	—	—	
		図書購入費	1,700千円	1,700千円	1,700千円	1,700千円	1,700千円	—	—	
		設備購入費	25,514千円	25,514千円	25,514千円	25,514千円	25,514千円	—	—	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	総合領域 地域実践領域 上記以外		
		1,363千円	1,163千円	1,163千円	1,163千円	—千円	—千円			
		1,163千円	963千円	963千円	963千円	—千円	—千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、寄付金収入等							
	既設大学の状況	大学の名称	成安造形大学							
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
芸術学部 芸術学科		4年	200人	年次3年次10	820人	学士(芸術学) (Bachelor of Art)	1.14倍	平成5年度	滋賀県大津市仰木の里東四丁目3番1号	
附属施設の概要		該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人京都成安学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
成安造形大学			
芸術学部		3年次	
芸術学科	200	10	820
計	200	3年次10	820

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
成安造形大学				
芸術学部		2年次		
芸術学科	<u>220</u>	<u>4</u>	<u>900</u>	入学定員変更(20)
		3年次		2年次編入受入開始(4)
		<u>4</u>		3年次編入学定員変更(△6)
計	<u>220</u>	2年次 <u>4</u> 3年次 <u>4</u>	<u>900</u>	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術学部芸術学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 科目 群	スタート プログラム 科目	大学入門1	1前	1			○		2	1					【オムニバス】
		大学入門2	1後	1			○		4						【オムニバス】
		スタディスキル実習1	1前	1				○	2						【共担】
		スタディスキル実習2	1前	1				○	2						【共担】
		スタディスキル実習3	1後	1				○	2						【共担】
		スタディスキル実習4	1後	1				○	2						【共担】
	芸術 基礎 科目	東洋・日本美術史概説A	1前	2			○		1						
		東洋・日本美術史概説B	1後	2			○		1						
		西洋美術史概説A	1前	2			○		1						
		西洋美術史概説B	1後	2			○		1						
		デザイン史概説A	1前	2			○		1						
		デザイン史概説B	1後	2			○		1						
	ファ ウン デ ー シ ョ ン 科 目	ファウンデーション実習A1	1後	1				○	1	1		2		兼 8	
		ファウンデーション実習A2	1後	1				○	1	1		2		兼 8	
		ファウンデーション実習A3	1前	1				○	1	1		1		兼 9	
		ファウンデーション実習A4	1前	1				○	1	1		1		兼 9	
		ファウンデーション実習B1	1前	1				○				2			
		ファウンデーション実習B2	1後	1				○				2			
		ファウンデーション実習B3	1後	1				○						兼 1	
		ファウンデーション実習C1	1前	1				○							【共担・集中】
		ファウンデーション実習C2	1後	1				○	1			1			【共担・集中】
		プレファウンデーション実習1	1前	1				○	1						
	プレファウンデーション実習2	1前	1				○	1							
小計 (23科目)		—	0	29	0	—		27	5	0	13	0	兼 35		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
応用科目群	芸術応用科目	総合デザイン概論	1・2前	2		○			5		1				兼 1	【オムニバス】		
		イラストレーション概論	1・2前	2		○			1									
		イラストレーション論 1	2前	2		○												
		イラストレーション論 2	2後	2		○			1									
		イラストレーション論 3	3前	2		○				1								
		イラストレーション論 4	3後	2		○			1									
		美術概論	1・2後	2		○				3						兼 3	【オムニバス】	
		美術論 1	2前	2		○				1						兼 1		
		美術論 2	2後	2		○										兼 1		
		美術論 3	3前	2		○				1								
		美術論 4	3後	2		○				1								
		情報デザイン概論	1・2後	2		○				5	1					兼 1	【オムニバス】	
		情報デザイン論 1	2・3前	2		○										兼 1		
		情報デザイン論 2	2・3後	2		○										兼 1		
		情報デザイン論 3	2・3後	2		○					1					兼 1		
		情報デザイン論 4	2・3前	2		○				1								
		空間デザイン概論	1・2後	2		○				1	2					兼 1	【オムニバス】	
		空間デザイン論 1	2・3後	2		○										兼 1		
		空間デザイン論 2 A	2・3前	2		○					1						【隔年】	
		空間デザイン論 2 B	2・3前	2		○										兼 1	【隔年】	
		空間デザイン論 2 C	2・3前	2		○										兼 1	【隔年】	
		空間デザイン論 2 D	2・3前	2		○					1						【隔年】	
		空間デザイン論 2 E	2・3前	2		○				1							【隔年】	
		空間デザイン論 2 F	2・3前	2		○					1						【隔年】	
		美術理論	2・3前	2		○										兼 1		
		現代デザイン論 A	2・3前	2		○					1							
		現代デザイン論 B	2・3後	2		○					1							
		現代美術論 A	2・3後	2		○										兼 1	【隔年】	
		現代美術論 B	2・3後	2		○										兼 1	【隔年】	
		絵画材料学	2・3後	2		○										兼 1		
		メディアアート概論	2・3前	2		○					1							
		日本美術史 A	2・3・4前	2		○										兼 1	【隔年】	
		日本美術史 B	2・3・4後	2		○					1						【隔年】	
		西洋美術史 A	2・3・4前	2		○					1							
		西洋美術史 B	2・3・4後	2		○					1							
		日本建築史	2・3・4前	2		○										兼 1	【隔年】	
		西洋建築史	2・3・4前	2		○										兼 1	【隔年】	
		工芸史	2・3・4後	2		○										兼 1	【隔年】	
		図法演習	2・3・4後	2				○								兼 1		
		色彩演習	2・3前	2				○								兼 1		
		人体表現演習	3後	2				○								兼 1		
		彫刻演習	2・3前後	2				○								兼 1	【集中】	
		工芸演習	2・3前後	2				○								兼 1	【集中】	
		絵画演習	2・3前後	2				○		1							【集中】	
		デザイン演習	2・3前後	2				○		2							【オムニバス・集中】	
		舞台美術演習	1・2・3・4前	2				○			1						【集中】	
		芸術鑑賞 A	1・2・3・4前	2		○				1							【隔年】	
		芸術鑑賞 B	1・2・3・4後	2		○				1							【隔年】	
		特別講義 1	2・3・4前	1		○				1							【集中】	
		特別講義 2	2・3・4前	1		○				1						兼 1	【集中】	
		特別講義 3	2・3前	1		○					1					兼 2	【集中】	
		特別講義 4	1・2・3・4後	1		○				1						兼 1	【集中】	
		特別講義 5	1・2・3・4前	1		○				1						兼 1	【集中】	
		特別講義 6	1・2・3・4後	1		○				1						兼 1	【集中】	
		美術科教育法 1	2前	2		○				1								
		美術科教育法 2	2後	2		○				1								
		美術科教育法 3	3前	2		○				1								
		美術科教育法 4	3後	2		○				1								
		2級建築士受験資格科目	住居と法律	2・3・4前			1	○			1							【隔年】
			建築施工	2・3・4前			1	○			1							【隔年】
			建築構造演習 1	2・3・4後			2		○							兼 1	【隔年】	
			建築構造演習 2	2・3・4後			2		○							兼 1	【隔年】	
			住宅一般構造	2・3・4前			2	○									兼 1	【隔年】
			住居・住宅論	2・3・4前			3	○									兼 1	【隔年】
小計 (64科目)		-	0	110	11	-		35	19	1	0	0	兼 36					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養科目群	教養科目	自然科学概論A	2・3・4前	2			○								兼 1	【隔年】		
		自然科学概論B	2・3・4後	2			○								兼 1	【隔年】		
		自然科学概論C	2・3・4前	2			○								兼 1	【隔年】		
		自然科学概論D	2・3・4後	2			○								兼 1	【隔年】		
		社会学A	2・3・4前	2			○								兼 1	【隔年】		
		社会学B	2・3・4前	2			○								兼 1	【隔年】		
		現代社会論A	2・3・4前	2			○								兼 1	【隔年】		
		現代社会論B	2・3・4前	2			○								兼 1	【隔年】		
		法学 [日本国憲法]	1・2・3・4前	2			○								兼 1	【集中】		
		人権教育	2・3前	2			○			1								
		哲学A	1・2・3・4前	2			○			1								
		哲学B	1・2・3・4後	2			○			1								
		宗教学A	1・2・3・4後	2			○			1								
		宗教学B	1・2・3・4前	2			○			1								
		文化人類学A	2・3・4後	2			○								兼 1	【隔年・集中】		
		文化人類学B	2・3・4後	2			○								兼 1	【隔年・集中】		
		文化史A	2・3・4後	2			○			1							【隔年】	
		文化史B	2・3・4後	2			○			1							【隔年】	
		心理学A	1・2・3・4前	2			○			1								
		心理学B	1・2・3・4後	2			○			1								
		深層芸術心理学A	2・3前	2			○			1							【隔年】	
		深層芸術心理学B	2・3後	2			○			1							【隔年】	
		考古学A	1・2・3・4前	2			○								兼 1	【隔年】		
		考古学B	1・2・3・4前	2			○								兼 1	【隔年】		
		美学A	2・3・4前	2			○								兼 1	【隔年】		
		美学B	2・3・4前	2			○								兼 1	【隔年】		
		人間関係実習A	1・2・3・4前	1					○	1							【集中】	
		人間関係実習B	1・2・3・4前	1					○	1							【集中】	
		健康体力論	1・2・3・4前	2			○								兼 1	【集中】		
		スポーツ実習A	1・2・3・4後	1					○						兼 1			
		スポーツ実習B	1・2・3・4前後	1					○						兼 1			
		スポーツ実習C	1・2・3・4前後	1					○						兼 1			
		スポーツ実習D	1・2・3・4前	1					○						兼 1			
スポーツ実習E	1・2・3・4後	1					○						兼 1					
外国語科目	外国語科目	英語入門Ⅰ	1・2前	1				○	1									
		英語入門Ⅱ	1・2後	1				○	1									
		英語A	1・2・3・4前後	1					○	1								
		英語B	1・2・3・4前後	1					○	1								
		英語C	1・2・3・4前後	1					○	2							【隔年】	
		英語D	1・2・3・4前後	1					○	2	1						【隔年】	
		英語E	1・2・3・4前後	1					○	2	1						【隔年】	
		英語F	1・2・3・4前後	1					○	2	1						【隔年】	
		英語G	1・2・3・4後	1						○	1							
		英会話A	1・2・3・4前	1						○	1							【隔年】
		英会話B	1・2・3・4後	1						○	1							【隔年】
		英会話C	1・2・3・4前	1						○	1							【隔年】
		英会話D	1・2・3・4後	1						○	1							【隔年】
		英会話E	1・2・3・4前	1						○	1							
		日本語A	1前	1						○					兼 1			
		日本語B	1後	1						○					兼 1			
日本語C	2前	1						○					兼 1					
日本語D	2後	1						○					兼 1					
小計 (52科目)		—	0	79	0	—			23	11	0	0	0	兼 25				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
社会 実践 科目 群	地域 貢献 ・ プロ ジェ クト 科目	コミュニティデザイン概論	2前	2		○			1	1					兼 1	【隔年】	
		コミュニティデザイン論1	2・3・4後	2		○									兼 1	【隔年】	
		コミュニティデザイン論2	2・3・4後	2		○									兼 1	【集中】	
		琵琶湖の民俗史	1・2・3・4後	2		○			1							兼 1	【隔年・集中】
		近江学A	1・2・3・4前	2		○			1						兼 1	【隔年・集中】	
		近江学B	1・2・3・4前	2		○			1						兼 1	【隔年・集中】	
		エコロジーと社会	2・3・4後	2		○									兼 1		
		プロジェクト演習1A	1通年	2			○		1						兼 1		
		プロジェクト演習1B	1通年	2			○		1								
		プロジェクト演習1C	1通年	2			○			4							
		プロジェクト演習1D	1通年	2			○			1							
		プロジェクト演習1E	1通年	2			○			3							
		プロジェクト演習2A	2通年	2			○		3	1					兼 1		
		プロジェクト演習2B	2通年	2			○		4	1							
		プロジェクト演習2C	2通年	2			○			4							
		プロジェクト演習2D	2通年	2			○			1							
		プロジェクト演習2E	2通年	2			○		2	3							
		プロジェクト演習3A	3通年	2			○		3	1					兼 1		
		プロジェクト演習3B	3通年	2			○		4	1							
		プロジェクト演習3C	3通年	2			○		1	4					兼 1		
		プロジェクト演習3D	3通年	2			○			1							
		プロジェクト演習3E	3通年	2			○		2	3							
		プロジェクト演習4A	4通年	2			○		3	1					兼 1		
	プロジェクト演習4B	4通年	2			○		4	1								
	プロジェクト演習4C	4通年	2			○		1	4					兼 1			
	プロジェクト演習4D	4通年	2			○			1								
	プロジェクト演習4E	4通年	2			○		2	3								
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン 科 目	キャリアデザイン概論1	1前	1		○				1							【オムニバス】
		キャリアデザイン概論2	1後	1		○				1							
		キャリアデザイン論A	2・3前	2		○			1								
		キャリアデザイン論B	2・3後	2		○			2	2							
就業力育成論1		2前	1		○				1								
就業力育成論2		2後	1		○				1								
就業力育成論3		3前	1		○				1								
就業力育成論4		3後	1		○				1								
就業力育成演習A		2前	2			○			1								
就業力育成演習B		2後	2			○			1								
就業力育成演習C		3前	2			○			1								
就業力育成演習D		3後	2			○			1								
ポートフォリオ演習		2後	2			○			1								
インターンシップA		2・3前	2				○			1							
インターンシップB		3前	2				○			1							
コンピュータ実践講座A		1・2・3・4前後	1				○		1								
コンピュータ実践講座B		1・2・3・4前後	1				○		1								
英語実践講座A	1・2・3・4前後	1				○		1									
英語実践講座B	1・2・3・4前後	1				○		1									
英語実践講座C	1・2・3・4前後	1				○		1									
色彩実践講座A	1・2・3・4前後	1				○		1									
色彩実践講座B	1・2・3・4前後	1				○		1									
小計 (49科目)		—	0	85	0	—		46	53	0	0	0	兼 11				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 導入 科目群	専門 導入 科目	基礎造形実習 1 A	1前後	2				○	1					兼 3	【共担】	
		基礎造形実習 2 A	1前	2				○	1					兼 1	【共担】	
		基礎造形実習 3 A	1前後	2				○	1					兼 1		
		基礎造形実習 4 A	1後	2				○	1					兼 1		
		基礎造形実習 2 B	1前後	2				○	1		1			兼 1		
		基礎造形実習 4 B	1前後	2				○						兼 2		
		基礎造形実習 3 C	1後	2				○	1					兼 3	【オムニバス】	
		基礎造形実習 4 C	1後	2				○	1					兼 3	【オムニバス】	
		基礎造形実習 1 D	1前後	2				○	1							
		基礎造形実習 2 D	1前後	2				○	1						兼 1	
		基礎造形実習 4 D	1前後	2				○				1				
		基礎造形実習 1 E	1前	2				○	1					兼 1	【共担】	
		基礎造形実習 2 E	1前	2				○	1					兼 1	【共担】	
		基礎造形実習 3 E	1後	2				○	1	1					兼 1	【共担】
		総合デザイン基礎演習 1	1前	2				○	1							
		総合デザイン基礎演習 2	1後	2				○	1							
		イラストレーション基礎演習 1	1後	2				○	1						兼 1	
		イラストレーション基礎演習 2	1前	2				○	1						兼 1	
		美術基礎演習 1	1前	2				○	1						兼 1	【共担】
		美術基礎演習 2	1後	2				○	1						兼 1	【共担】
		情報デザイン基礎演習 1	1前後	2				○	2						兼 1	【オムニバス】
		情報デザイン基礎演習 2	1前後	2				○	1						兼 1	【共担】
		空間デザイン基礎演習 1	1前後	2				○	1		1				兼 1	【共担】
		空間デザイン基礎演習 2	1後	2				○	1							
		地域実践学入門 1	1前	2				○	1							
		地域実践学入門 2	1後	2				○	1							
		地域実践基礎演習 1	1前	2				○	1							
		地域実践基礎演習 2	1前	2				○	1							
		地域実践基礎演習 3	1後	2				○	1							
		地域実践基礎演習 4	1後	2				○	1							
小計 (30科目)		—	0	60	0	—	—	14	15	1	2	0	兼 25			
専門 基盤 科目群	専門 基盤 科目	総合デザイン演習 1	2前	2				○	1							
		総合デザイン演習 2	2前	2				○			1					
		総合デザイン演習 3	2後	2				○						兼 1		
		総合デザイン演習 4	2後	2				○						兼 1		
		総合デザイン演習 5	3前	2				○			1					
		総合デザイン演習 6	3前	2				○	1							
		総合デザイン演習 7	3後	2				○			1					
		総合デザイン演習 8	3後	2				○	1							
		総合デザイン実習 1	2後	2					○						兼 1	
		総合デザイン実習 2	3前	2					○						兼 1	
		総合プロジェクト演習 1	1・2・3前後	2					○	1						
		総合プロジェクト演習 2	1・2・3前後	2					○	1						
		総合プロジェクト演習 3	1・2・3前後	2					○	1						
		総合プロジェクト演習 4	1・2・3前後	2					○	1						
		総合プロジェクト演習 5	1・2・3前後	2					○	1						
		イラストレーション演習 1	2後	2					○						兼 1	
		イラストレーション演習 2	2前後	2					○						兼 1	
		イラストレーション演習 3	2前後	2					○						兼 1	
		イラストレーション演習 4	2前	2					○	2	1					【オムニバス】
		イラストレーション演習 5	3前	2					○						兼 1	
		イラストレーション演習 6	3前	2					○						兼 2	
		イラストレーション演習 7	3後	2					○	1					兼 1	
		イラストレーション演習 8	3後	2					○	4	3					
		イラストレーション実習 1-a	2前	2					○	1		1				
		イラストレーション実習 1-b	2前	2					○						兼 2	
		イラストレーション実習 1-c	2前	2					○		1				兼 1	
		イラストレーション実習 1-d	2後	2					○	1						
イラストレーション実習 1-e	2前	2					○		1							
イラストレーション実習 1-f	2前	2					○		1							
イラストレーション実習 1-g	2前	2					○	1								
イラストレーション実習 1-h	2前	2					○	1								
イラストレーション実習 1-i	2前	2					○						兼 1			

専門
基盤
科目
目録

専門
基盤
科目
目録

イラストレーション実習 2-a	2後	2	○			1			
イラストレーション実習 2-b	2後	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 2-c	2後	2	○			1		兼 1	
イラストレーション実習 2-d	2前	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 2-e	2後	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 2-f	2後	2	○			1			
イラストレーション実習 2-g	2後	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 2-h	2後	2	○					兼 2	【共担】
イラストレーション実習 2-i	2後	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 3-a	3後	2	○			1			
イラストレーション実習 3-b	3前	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 3-c	3前	2	○			2			
イラストレーション実習 3-d	3前	2	○			1			
イラストレーション実習 3-e	3前	2	○			1		兼 1	【共担】
イラストレーション実習 3-f	3前	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 3-g	3前	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 3-h	3前	2	○			1			
イラストレーション実習 3-i	3前	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 4-a	3前	2	○			1			
イラストレーション実習 4-b	3後	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 4-c	3後	2	○			1	1		
イラストレーション実習 4-d	3後	2	○			1			
イラストレーション実習 4-e	3後	2	○			1			
イラストレーション実習 4-f	3後	2	○			1			
イラストレーション実習 4-g	3後	2	○			1			
イラストレーション実習 4-h	3後	2	○			1			
イラストレーション実習 4-i	3後	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 5	2・3前後	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 6	2・3後	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 7	2・3前	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 8	2・3前後	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 9	2・3前後	2	○					兼 1	
イラストレーション実習 10	2・3前後	2	○					兼 1	
美術演習 1	2前	2	○			1			
美術演習 2-a	2前	2	○			1			
美術演習 2-b	2前	2	○			1			
美術演習 2-c	2前	2	○					兼 1	
美術演習 3	2後	2	○			1		兼 1	
美術演習 4-a	2後	2	○			1			
美術演習 4-b	2後	2	○			1			
美術演習 4-c	2後	2	○			1			
美術演習 5-a	2前	2	○					兼 1	
美術演習 5-b	2前	2	○			1			
美術演習 5-c	2前	2	○			1			
美術演習 6-a	2後	2	○					兼 1	
美術演習 6-b	2後	2	○			1			
美術演習 6-c	2後	2	○					兼 1	
美術演習 7-a	3前	2	○					兼 1	
美術演習 7-b	3前	2	○			1			
美術演習 7-c	3前	2	○					兼 1	
美術演習 8-a	3後	2	○					兼 1	
美術演習 8-b	3後	2	○					兼 1	
美術演習 8-c	3後	2	○			1			
美術実習 1-a	2前	2	○			1			
美術実習 1-b	2前	2	○			1			
美術実習 1-c	2前	2	○			1			
美術実習 2-a	2前	2	○					兼 1	
美術実習 2-b	2前	2	○			1			
美術実習 2-c	2前	2	○					兼 1	
美術実習 3-a	2後	2	○			1			
美術実習 3-b	2後	2	○			1			
美術実習 3-c	2後	2	○			1			

専門 基盤 科目 目	専門 基盤 科目	美術実習4-a	2後	2			○					兼 1
		美術実習4-b	3前	2			○					兼 1
		美術実習4-c	2後	2			○					兼 1
		美術実習5-a	3前	2			○					兼 1
		美術実習5-b	3前	2			○	1				
		美術実習5-c	3前	2			○					兼 1
		美術実習6-a	3前	2			○		1			
		美術実習6-b	2後	2			○	1				
		美術実習6-c	3前	2			○					兼 1
		美術実習7-a	3後	2			○		1			
		美術実習7-b	3後	2			○					兼 1
		美術実習7-c	3後	2			○					兼 1
		美術実習8-a	3後	2			○					兼 1
		美術実習8-b	3後	2			○		1			
		美術実習8-c	3後	2			○					兼 1
		情報デザイン演習1-a	2後	2			○		1			
		情報デザイン演習1-b	2前	2			○					兼 1
		情報デザイン演習1-c d	2前	2			○					兼 1
		情報デザイン演習2-a b	2前	2			○					兼 1
		情報デザイン演習2-c	2後	2			○	1				
		情報デザイン演習2-d	2後	2			○		1			
		情報デザイン演習3	3前	2			○		1			
		情報デザイン演習4-a	2前	2			○					兼 1
		情報デザイン演習4-b c d	2前後	2			○	1				
		情報デザイン演習5-a	3後	2			○					兼 1
		情報デザイン演習5-b	3後	2			○					兼 1
		情報デザイン演習5-c d	3後	2			○		1			
		情報デザイン演習6-a d	3後	2			○		1			
		情報デザイン演習6-b	3後	2			○	1				
		情報デザイン演習6-c	3後	2			○	1				
		情報デザイン演習7	3前	2			○					兼 1
		情報デザイン演習8	2後	2			○		1			兼 1
		情報デザイン実習1-a b d	2前	2			○	1				兼 1
		情報デザイン実習1-c	2前	2			○	1				
		情報デザイン実習2-a	2後	2			○					兼 1
		情報デザイン実習2-b c	2後	2			○	1				
		情報デザイン実習2-d	2前	2			○	1				
		情報デザイン実習3-a c d	2前後	2			○					兼 1
		情報デザイン実習3-b	2後	2			○					兼 1
		情報デザイン実習4-a b d	2前後	2			○	1				
		情報デザイン実習4-c	2後	2			○					兼 1
		情報デザイン実習5-a	3前	2			○					兼 1
		情報デザイン実習5-b	3後	2			○					兼 1
		情報デザイン実習5-c d	3後	2			○		1			
		情報デザイン実習6-a	3後	2			○	1				
		情報デザイン実習6-b	3後	2			○	1				
		情報デザイン実習6-c d	3前	2			○	1				
		情報デザイン実習7-a c	3前	2			○	2				
情報デザイン実習7-b	3前	2			○	1						
情報デザイン実習7-d	3前	2			○					兼 1		
情報デザイン実習8-a b d	3前後	2			○					兼 1		
情報デザイン実習8-c	3後	2			○	1						
空間デザイン演習1-a	2前	2			○					兼 1		
空間デザイン演習1-b	2前	2			○					兼 1		
空間デザイン演習1-c	2前	2			○	1						
空間デザイン演習2-a	2前	2			○		1					
空間デザイン演習2-b	2前	2			○					兼 1		
空間デザイン演習2-c	2前	2			○		1					

【共担】

		空間デザイン演習 3-a	2後	2			○														兼	1		
		空間デザイン演習 3-b	2後	2			○			1												兼	1	
		空間デザイン演習 3-c	2後	2			○															兼	1	
		空間デザイン演習 4-a	2後	2			○															兼	1	
		空間デザイン演習 4-b	2後	2			○			1														
		空間デザイン演習 4-c	2後	2			○															兼	1	
		空間デザイン演習 5	3前	2			○			1														
		空間デザイン演習 6-a	3前	2			○															兼	1	
		空間デザイン演習 6-b	3前	2			○															兼	1	
		空間デザイン演習 6-c	3前	2			○				1													
		空間デザイン演習 7	3後	2			○				1													
		空間デザイン演習 8-a	3後	2			○															兼	1	
		空間デザイン演習 8-b	3前	2			○															兼	1	
		空間デザイン演習 8-c	3後	2			○															兼	1	
		空間デザイン実習 1-a	2前	2			○															兼	1	
		空間デザイン実習 1-b	2前	2			○			1														
		空間デザイン実習 1-c	2前	2			○															兼	1	
		空間デザイン実習 2-a b	2前	2			○				1											兼	1	
		空間デザイン実習 2-c	2前	2			○			1														
		空間デザイン実習 3-a	2後	2			○															兼	1	
		空間デザイン実習 3-b	2後	2			○															兼	1	
		空間デザイン実習 3-c	2後	2			○															兼	1	
		空間デザイン実習 4-a b	2後	2			○				1											兼	1	
		空間デザイン実習 4-c	2後	2			○			1														
		空間デザイン実習 5-a	3前	2			○															兼	1	
		空間デザイン実習 5-b	3前	2			○															兼	1	
		空間デザイン実習 5-c	3前	2			○															兼	1	
		空間デザイン実習 6-a b	3前	2			○				1											兼	1	
		空間デザイン実習 6-c	3前	2			○			1														
		空間デザイン実習 7-a	3後	2			○															兼	1	
		空間デザイン実習 7-b	3後	2			○			1														
		空間デザイン実習 7-c	3後	2			○				1													
		空間デザイン実習 8-a	3後	2			○				1													
		空間デザイン実習 8-b	3後	2			○				1													
		空間デザイン実習 8-c	3後	2			○															兼	1	
		地域実践学 1	2前	2			○															兼	1	
		地域実践学 2	2後	2			○															兼	1	
		地域実践学 3	3前	2			○																	
		地域実践学 4	3後	2			○																	
		地域実践演習 1	2前	2			○				1													
		地域実践演習 2	2前	2			○				1													
		地域実践演習 3	2後	2			○				1											兼	1	
		地域実践演習 4	2後	2			○				1											兼	1	
		地域実践演習 5	3前	2			○				1	1												
		地域実践演習 6	3前	2			○				1	1												
		地域実践演習 7	3後	2			○				1	1												
		地域実践演習 8	3後	2			○				1	1												
		地域実践プロジェクト演習 1	2前後	2			○				1													
		地域実践プロジェクト演習 2	2前後	2			○				1													
		地域実践プロジェクト演習 3	3前後	2			○				1													
		地域実践プロジェクト演習 4	3前後	2			○				1													
専門 研究 科目	専門研究科 目	卒業研究 1	4前	4			○			15	9	1									兼	2		
		卒業研究 2	4後	6			○			15	9	1										兼	2	【共担】
		小計 (205科目)	—	10	406	0	—			95	74	9	3	0							兼	107		

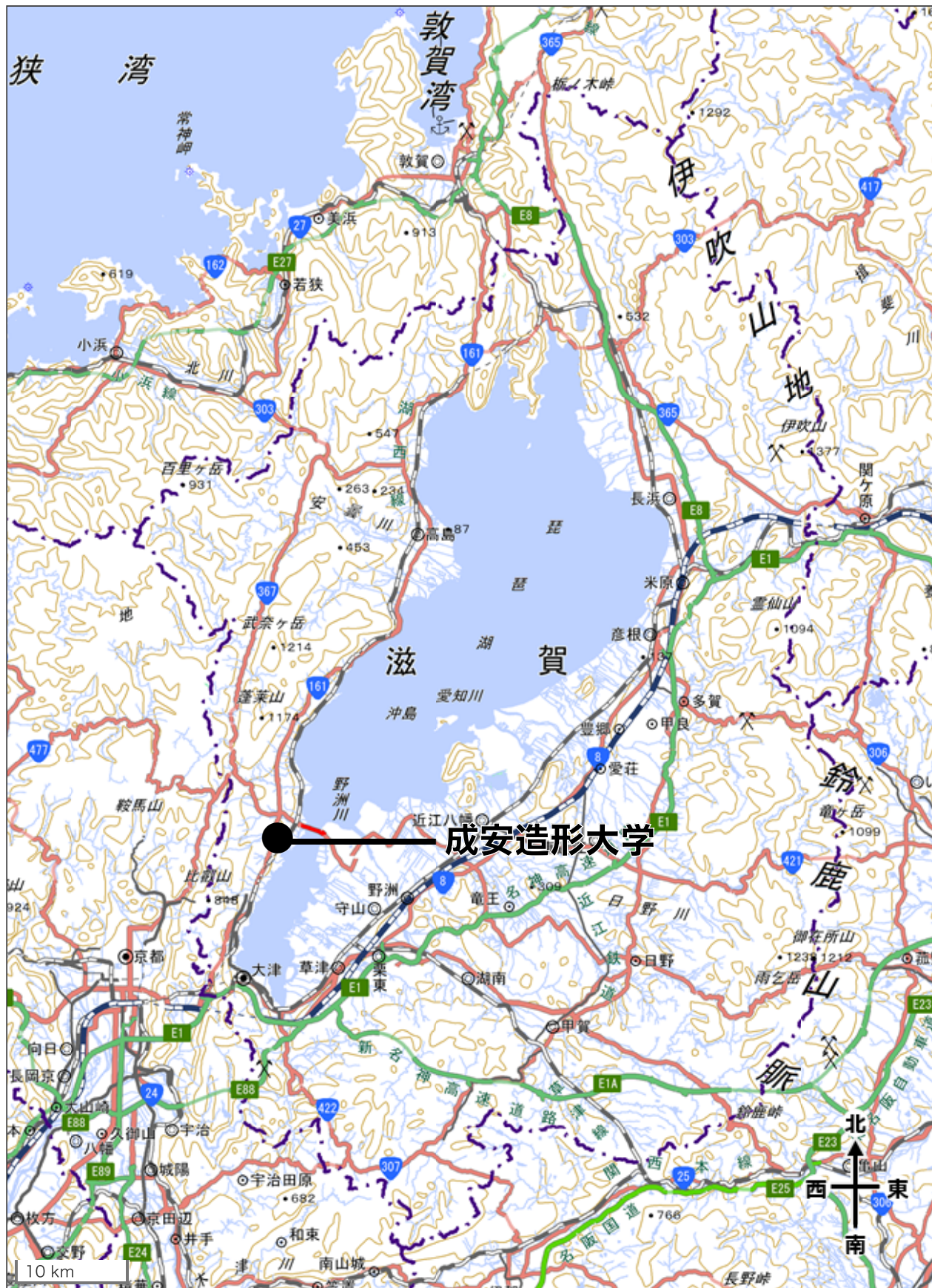
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学芸員課程に関する科目	必修科目	博物館教育論		2		○								兼 1	【集中】	
		博物館情報・メディア論	学芸員課程2後	2		○								兼 1	【集中】	
		生涯学習概論	学芸員課程1後	2		○			1							
		博物館概論	学芸員課程1後	2		○			1							
		博物館資料論	学芸員課程2後	2		○			1							
		博物館資料保存論	学芸員課程3前	2		○			1							
		博物館経営論	学芸員課程3後	2		○								兼 1		
		博物館展示論	学芸員課程2前	2		○								兼 1		
		博物館実習1	学芸員課程3前	1					○	1						
		博物館実習2	学芸員課程3後	1					○	1						
		博物館実習3	学芸員課程4前	1					○	1						
		教科及び教科の指導法に関する科目	教育的理解の基礎	教育原理	教職課程2後	2		○								兼 1
教職入門	教職課程1後			2		○			1							
教育制度論	教職課程1後			2		○			1							
教育心理学	教職課程2前			2		○			1							
道徳教育論	道徳教育論		教職課程3前	2		○			1							
	教育方法及び総合的な学習の時間の指導法		教職課程2後	2		○								兼 1		
	教育課程・特別活動論		教職課程2後	2		○								兼 1		
	教育現場でのICT活用		教職課程2前	1		○			1							
生徒指導・進路指導論	生徒指導・進路指導論		教職課程3前	2		○								兼 1		
	教育相談		教職課程3後	2		○			1							
演習実践	教育実習事前事後指導	教職課程3前	1		○			2						【共担】		
	教育実習A	教職課程4前	2					○	2					【共担】		
	教育実習B	教職課程4後	2					○	2					【共担】		
	教職実践演習(中・高)	教職課程4後	2			○		2						【共担】		
現場体験活動	現場体験活動1	教職課程3前	1					○	1							
	現場体験活動2	教職課程3後	1					○	1							
小計(28科目)				0	49	0			23	0	0	0	0	兼 9		
合計(451科目)				10	818	11			263	177	11	18	0	兼 248		
学位又は称号		学士(芸術学)	学位又は学科の分野		芸術											
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
卒業に必要な単位数は、次の各号に定めるところにより、124単位以上とする。							1学年の学期区分					2期				
(1) 専門研究科目群の10単位を修得する。							1学期の授業期間					14週				
(2) 専門導入科目群、専門基礎科目群、基礎科目群、応用科目群、社会実践科目群、教養科目群より114単位以上を修得する。							1時限の授業時間					100分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

(1) 滋賀県内における位置関係の図面

地理院地図
GSI Maps



地理院地図(国土地理院)を加工して作成

(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間が分かる図面



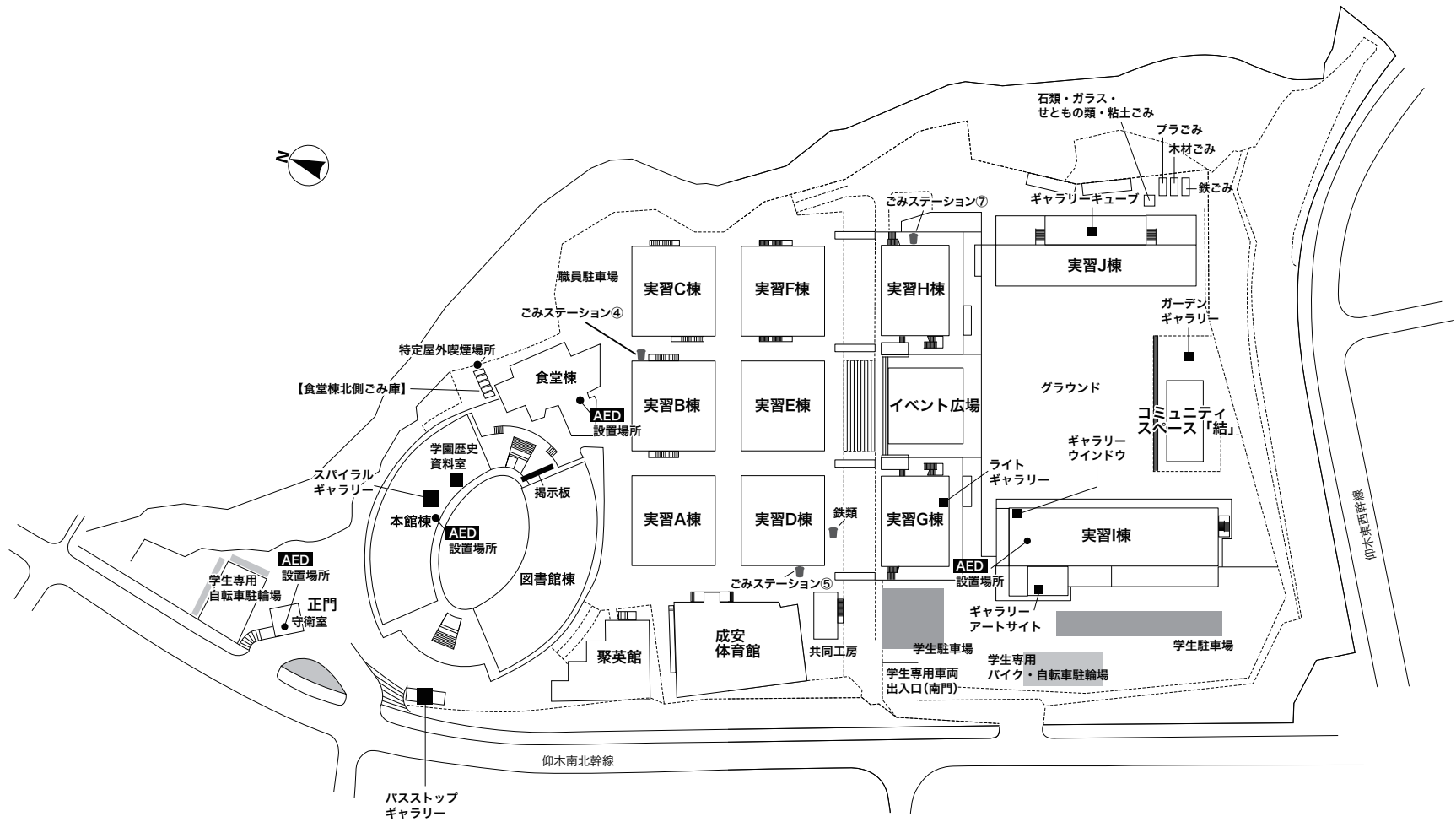
「JRおごと温泉駅」から大学までの距離約 1.4km



(3) 校舎、運動場等の配置図

校地面積：55,354.26㎡

校舎面積：20,668.10㎡



図面-3

学則

目次

- (1) 学則案の全文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) 変更事項を記載した書類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 0
- (3) 変更部分の新旧対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 1

(1)学則案の全文
(1-2-2-001)

成安造形大学学則

平成3年7月31日制定

目次

第1章 総則	第19条 入学手続き及び入学許可
第1節 目的、自己点検・評価及び情報の積極的な公開	第20条 学籍
第1条 目的	第21条 編入学
第1条の2 自己点検・評価	第21条の2 転入学
第1条の3 情報の積極的に公開	第21条の3 再入学
第2節 組織	第3節 教育課程及び履修方法等
第2条 学部、学科及び定員	第22条 教育課程
第2条の2 学部、学科の人材育成目的	第22条の2 授業科目の方法
第3条 附属研究機関	第23条 授業科目の履修と卒業要件
第4条 附属図書館	第24条 単位の計算方法
第5条 事務局	第25条 単位の授与
第3節 職員組織	第26条 他大学等における授業科目の履修等
第6条 職員組織	第27条 大学以外の教育施設等における学修
第4節 学長、副学長及び学部長	第28条 第1年次入学者の既修得単位の認定
第6条の2 学長	第29条 第2年次、3年次入学者の既修得単位の認定
第6条の3 副学長	第30条 成績
第6条の4 学部長	第31条 資格取得
第5節 教授会及び専門組織	第31条の2 免許取得
第7条 教授会	第32条 その他
第8条 専門組織	第4節 休学、復学、転学、留学及び退学並びに除籍
第6節 学年、学期、授業期間及び休業日	第33条 休学
第9条 学年	第34条 休学期間
第10条 学期	第35条 復学
第11条 授業期間	第36条 転学
第12条 休業日	第37条 留学
第2章 学部及び学科	第38条 退学
第1節 修業年限及び在学期間	第39条 除籍
第13条 修業年限	第5節 卒業及び学位授与
第14条 在学期間	第40条 卒業
第2節 入学	第41条 学位授与
第15条 入学の時期	
第16条 入学資格	
第17条 入学の出願	
第18条 入学者の選考	

第6節 研究生、聴講生、単位互換履修生、
科目等履修生、委託生、研修生、客
員研究員及び外国人留学生

第42条 研究生

第43条 聴講生

第44条 単位互換履修生

第45条 科目等履修生

第46条 委託生及び研修生

第47条 客員研究員

第48条 外国人留学生

第3章 学納金及びその他の納付金等

第49条 学納金及びその他の納付金
等の金額

第50条 学納金等の納入期日

第51条 転学、退学及び停学の場合の
学納金等

第52条 休学の場合の学納金等

第53条 復学の場合の学納金等

第54条 学年の途中で卒業する場合
の学納金等

第55条 学納金等の免除及び徴収の
猶予

第56条 納付した学納金等

第4章 賞罰

第57条 表彰

第58条 懲戒

第5章 厚生施設

第59条 保健室

第6章 奨学金

第60条 奨学金

第7章 公開講座

第61条 公開講座

第8章 学則の変更

第62条 学則の変更

成安造形大学学則

最終改正施行日 令和5年4月1日

第1章 総則

第1節 目的、自己点検・評価及び情報の積極的な公開

(目的)

第1条 成安造形大学（以下「本学」という。）は、デザイン及び美術に関する学術の中心として、広く知識を授けると共に、深く専門の理論、技能及びその応用を教授研究し、人格の完成を図り、国際性に富み、個性豊かな教養の高い人材を育成し、もって文化の創造・発展、産業の発展、国家社会の福祉に寄与することを目的とする。

(自己点検・評価)

第1条の2 本学は、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について、自ら点検・評価を行い、教育研究水準の向上を図るものとする。

2 前項の点検・評価を行なうにあたっての項目の設定、実施体制等については、別に定める。

(情報の積極的な公開)

第1条の3 本学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができ
る方法によって積極的に公開するものとする。

第2節 組織

(学部、学科及び定員)

第2条 本学に芸術学部を置く。

2 芸術学部（以下、「学部」という。）に置く学科及び学生定員は、次のとおりとする。

学部	学 科	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
芸術学部	芸術学科	220	4	4	900

(学部、学科の人材育成目的)

第2条の2 建学の精神、校訓、及び基本理念（教育理念）の下、芸術分野の専門性と創造性

(クリエイティビティ)に優れ、よりよき社会のあり方について主体的に考え行動することができる人材の育成を目的とする。

(附属研究機関)

第3条 本学の目指す教育及び研究活動の一層の推進を図るため、附属の研究機関を置く。

2 各研究機関に関する必要な事項は、別に定める。

(附属図書館)

第4条 本学の目指す教育及び研究活動の一層の推進を図るため、附属の研究機関を置く。

2 各研究機関に関する必要な事項は、別に定める。

(事務局)

第5条 本学に、事務局を置く。

2 前項の事務局に関する必要な事項は、別に定める。

第3節 職員組織

(職員組織)

第6条 本学に、次の職員を置く。

(1) 学長、副学長及び学部長

(2) 教授、准教授、講師、助教及び助手並びに事務職員及び技術職員、その他必要な職員

2 職員の任免その他の人事に関する必要な事項は、別に定める。

第4節 学長、副学長及び学部長

(学長)

第6条の2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

(副学長)

第6条の3 副学長は、学長を助け、学長の命を受けて校務をつかさどる。

(学部長)

第6条の4 学部長は、学長の命を受けて、学部に関する校務をつかさどる。

第5節 教授会及び専門組織

(教授会)

第7条 本学に、教授会を置く。

2 教授会に関する必要な事項は、別に定める。

(専門組織)

第8条 本学に、必要な専門組織を設けることができる。

第6節 学年、学期、授業期間及び休業日

(学年)

第9条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第10条 学年を次の2期に分ける。

前期 4月1日に始まり、9月15日に終わる。

後期 9月16日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学長は、前項に定める学期について、事情により学期の数又は期間を変更することができる。

(授業期間)

第11条 1年間の授業期間は、35週を原則とする。

2 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い期間において授業を行うことができる。

(休業日)

第12条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 土曜日

(3) 国民の祝日に関する法律に定める休日

(4) 学校法人京都成安学園の創立記念日(7月17日)

(5) 春期休業(3月10日より3月31日までを原則とする)

(6) 夏期休業(7月26日より9月15日までを原則とする)

(7) 冬期休業(12月20日より翌年1月10日までを原則とする)

2 学長は、必要のある場合、前項の休業日を変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は臨時の休業日を定めることができる。

第2章 学部及び学科

第1節 修業年限及び在学期間

(修業年限)

第13条 本学の修業年限は、4年とする。

(在学期間)

第14条 本学の在学期間は、8年を超えることができない。ただし、第21条及び第21条の2の規定により入学した学生の在学期間は、同条第2項に定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えることができない。

第2節 入学

(入学の時期)

第15条 本学に入学する時期は、学年の始めとする。ただし、本学が必要と認めた場合は、学期の区分に従い入学することができる。

(入学資格)

第16条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で、文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者（昭和23年文部省告示第47号）
- (7) 高等学校卒業程度認定規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者も含む。）
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、入学までに18歳に達する者

(入学の出願)

第17条 本学への入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて、学長に願出しなければならない。

(入学者の選考)

第18条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考の上、教授会の意見

を聴いて学長が合格者を決定する。

(入学手続き及び入学許可)

第19条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに誓約書、身元保証書その他所定の書類を提出すると共に、所定の入学金及びその他の納付金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(学籍)

第20条 前条第1項に定める入学の手続きをした者は、本学の学籍に入れ、学籍簿に登録する。

2 前項に定めるところにより、本学の学籍を有する学生は、本学則その他別に定める規定に基づき、学生の身分に伴う権利を有し、義務を負うものとする。

(編入学)

第21条 本学の第3年次に編入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 本学と同系列(学位授与機構の定める芸術学「美術」の専門科目に準じる。以下省略)の大学を卒業した者

(2) 本学と同系列の短期大学、高等専門学校を卒業した者

(3) 本学と同系列の大学に2年以上在学し、62単位以上修得した者

(4) 本学と同系列の専修学校のうち文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者。ただし、学校教育法第90条第1項に定める大学入学資格を有する者に限る

(5) 外国において学校教育における14年以上の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。)を修了した者。但し、本学と同系列の学士、または準学士、短期大学士を取得した者に限る

(6) 本学において、前各号と同等と認められた者で、入学までに20歳に達する者

2 本学の第2年次に編入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 短期大学、高等専門学校を卒業した者

(3) 大学に1年以上在学し、32単位以上修得した者

(4) 専修学校のうち文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者。ただし、学校教育法第90条第1項に定める大学入学資格を有する者に限る

(5) 外国において学校教育における14年以上の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。)を修了した者。但し、学士、または準学士、短期大学士を取得した者に限る

(6) 本学において、前各号と同等と認められた者で、入学までに19歳に達する者

3 前項、前々項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取

り扱い、並びに在学すべき年数については、学長が決定する。

4 編入学に関する必要な事項は、別に定める。

(転入学)

第21条の2 本学の第3年次に転入学することができる者は、本学と同系列の大学に2年以上在学中で、62単位以上取得した者に限る。また、本学の第2年次に転入学することができる者は、大学に1年以上在学中で、32単位以上取得した者に限る。

2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取り扱い、並びに在学すべき年数については、学長が決定する。

3 転入学に関する必要な事項は、別に定める。

(再入学)

第21条の3 次の各号の一に該当する者で、本学に再入学を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(1) 学則第38条の規定により退学した者

(2) 学則第39条第1項第1号の規定により除籍した者

2 再入学に関する必要な事項は、別に定める。

第3節 教育課程及び履修方法等

(教育課程)

第22条 教育課程は、本学の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。

2 各授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目に区分し、これを各年次に配当して編成するものとする。

3 本学の授業科目の種類、単位数は別表第1-1及び別表第1-2、別表第2-1及び別表第2-2のとおりとする。

4 資格・免許状取得に関する科目は、次の各号に定めるところによる。

(1) 博物館法及び同法施行規則に定める学芸員の資格取得に必要な科目・単位数は、別表第2-1のとおりとする。

(2) 教育職員免許法及び同法施行規則に定める科目・単位数は、別表第2-2のとおりとする。

(授業科目の方法)

第22条の2 授業科目は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業科目は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

- 3 第1項の授業科目を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
- 4 文部科学大臣が別に定めるところにより、第1項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

(授業科目の履修と卒業要件)

第23条 学生は、次の各号に定めるところにより、別表第1-1及び別表第1-2の教育課程を履修しなければならない。

- (1) 開設授業科目は、第1年次より第4年次までにおいて履修する。
- (2) 必修授業科目は、卒業までにその全部の単位を修得しなければならない。選択授業科目は卒業までに規定の単位数を修得しなければならない。
- 2 卒業に必要な単位数は、次の各号に定めるところにより、124単位以上とする。
 - (1) 専門研究科目群の10単位を修得する。
 - (2) 専門導入科目群、専門基盤科目群、基礎科目群、応用科目群、社会実践科目群、教養科目群より114単位以上を修得する。
- 3 前項の規定により卒業要件として修得すべき124単位のうち、第22条の2第2項の授業の方法により修得した単位数は60単位を超えることができない。

(単位の計算方法)

第24条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習及び実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 卒業研究の授業科目については、その学修の成果を評価して単位を与えることができる。
- 3 学修と評価に関する事項は、別に定める。

(単位の授与)

第25条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。ただし第24条第2項の授業科目については、別に定める方法により学修の成果を評価して単位を与える。

(他大学等における授業科目の履修等)

第26条 教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合にも準用する。
- 3 前各項に関する必要な事項については、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第27条 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、第26条第1項及び第2項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 3 前2項に関する必要な事項については、別に定める。

(第1年次入学者の既修得単位の認定)

第28条 教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学等において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし単位を与えることができる。
- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第26条第1項及び第2項並びに前条第1項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 4 前3項に関する必要な事項は、別に定める。
- 5 第1年次入学者の単位認定は、学長が決定する。

(第2年次、3年次入学者の既修得単位の認定)

第29条 第2年次、3年次入学者の単位認定は、入学以前の大学、短期大学又は専門学校において修得した単位のうち、卒業に必要な単位として認定できる単位数の上限を62単位とする。

- 2 第2年次、3年次入学者の単位認定は、学長が決定する。
- 3 第2年次、3年次入学者の既修得単位の認定に関する必要な事項は、別に定める。

(成績)

第30条 授業科目の試験の成績は、秀(90点以上)・優(80点～89点)・良(70点～79点)・可(60点～69点)・不可(59点以下)の5種の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とする。

(資格取得)

第31条 博物館法（昭和26年法律第285号）同法施行規則（昭和30年文部省令第24号）に規定する博物館に関する科目及び別に定める科目の単位を修得した者には、学芸員の資格を授与する。

(免許取得)

第31条の2 本学に教育職員免許状授与の所要資格を得させるための課程をおく。

2 本学において取得することができる免許状の種類は次のとおりとする。

学部・学科	免許状の種類
芸術学部芸術学科	中学校教諭1種免許状（美術） 高等学校教諭1種免許状（美術）

3 本学において前項の免許状取得を希望する者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

(その他)

第32条 この節に定めるもののほか、履修方法等に関する必要な事項は、別に定める。

第4節 休学、復学、転学、留学及び退学並びに除籍

(休学)

第33条 疾病その他特別の理由により2カ月以上修学することができない者は、事由を付して保証人連署の上「休学願」を提出し、学長の許可を受けなければならない。

2 疾病、その他特別の理由により修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第34条 休学期間は、当該年度内とする。ただし、特別の理由がある場合は、継続して2年を超えない範囲を原則として、休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

3 休学期間は、第14条の在学期間には算入しない。

(復学)

第35条 休学者が復学しようとする場合は、事由を付して保証人連署の上「復学願」を提出し、学長の許可を受けなければならない。

(転学)

第36条 他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、事由を付して保証人連署の上「転学願」を提出し、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第37条 本学と協定を結んでいる外国の大学等で学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可により留学できる期間は、1年以内とする。

3 留学期間は、第13条に規定する修業年限に含めることができる。

4 留学した大学等で修得した単位の取り扱いについては、第26条の規定による。

5 留学に関する必要な事項は、別に定める。

(退学)

第38条 退学しようとする者は、事由を付して保証人連署の上「退学願」を提出し、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第39条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

(1) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納入しない者

(2) 第14条に規定する在学期間を超えた者

(3) 第34条第2項に規定する休学期間を超えてなお復学又は退学についての願い出のない者

(4) 死亡又は長期にわたり行方不明の者

(5) 正当な理由がなく所定の手続きを怠り、修学意思がないと認められる者

第5節 卒業及び学位授与

(卒業)

第40条 本学に4年(第21条及び第21条の2の規定により入学した者は、同条2項の在学すべき年数)以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に対して卒業証書・学位記を授与する。

(学位授与)

第41条 本学を卒業した者に対して、学士(芸術学)の学位を授与する。

第6節 研究生、聴講生、単位互換履修生、科目等履修生、委託生、研修生、

客員研究員及び外国人留学生

(研究生)

第42条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者がいるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生に関する必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第43条 本学の特定の授業科目の聴講を希望する者がいるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、聴講生として聴講を許可することができる。

2 聴講生に関する必要な事項は、別に定める。

(単位互換履修生)

第44条 本学において他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む）との協議により、当該他大学等の学生に単位互換履修生として本学の授業科目を履修させることができる。

2 単位互換履修生に関する必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第45条 本学の特定の授業科目の履修を希望する者がいるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として履修を許可することができる。

2 科目等履修生には、本学則第25条及び第30条の規定を準用して単位を与えることができる。

3 科目等履修生に関する必要な事項は、別に定める。

(委託生及び研修生)

第46条 他大学等又は地方公共団体等から、学生や職員の研究・研修を本学に委託したい旨の申し出があった場合は、委託する理由、これらの学生又は職員の学歴その他必要な事項を審査し、その結果に基づき、本学の教育研究に支障のない場合に限り、委託生及び研修生として受け入れることができる。

2 他大学等から委託された学生は、委託生といい、地方公共団体等から委託された職員は、研修生という。

3 委託生・研修生に関する必要な事項は、別に定める。

(客員研究員)

第47条 本学に客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員に関する必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第48条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関する必要な事項は、別に定める。

第3章 学納金及びその他の納付金

(学納金及びその他の納付金等の金額)

第49条 本学の学納金及びその他の納付金等(以下、「学納金等」という。)の種別と金額は、別表第3及び別表第3-2のとおりとする。

(学納金等の納入期日)

第50条 学納金等は、全額一括納入又は2期に分けて納入しなければならない。ただし、特別の事情があると認められる者は、分納又は延納を認めることができる。

2 前項の学納金等の納付方法に関する必要な事項は、別に定める。

(退学及び停学の場合の学納金等)

第51条 学期の途中で退学又は除籍された者の当該期分の学納金等は徴収する。

2 停学期間中の学納金等は徴収する。

(休学の場合の学納金等)

第52条 休学を許可され又は命ぜられた者については、在籍料を納付することにより休学期間中の学納金等を免除する。

2 学期途中から休学する場合の学納金等の取扱については、別に定める。

(復学の場合の学納金等)

第53条 復学した者は、復学を許可された学期末までの学納金等を指定する期日までに納入しなければならない。

(学年の途中で卒業する場合の学納金等)

第54条 学年の途中で卒業する見込の者は、当該学期までの学納金等を納入しなければならない。

(学納金等の免除及び徴収の猶予)

第55条 経済的理由により学納金等の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合又はその他やむを得ない事情があると認められる場合は、学費等の全部又は一部を免除し、又は徴収を猶予することができる。

- 2 学納金等の免除及び徴収の猶予に関する必要な事項は、別に定める。
- 3 外国人留学生については、別に定める。

(納付した学納金等)

第56条 既納された学納金等は、原則として返還しない。

第4章 賞罰

(表彰)

第57条 学長は、学力優秀・品行方正にして学生生活において他の学生の模範となる者を、卒業時又はその他の機会にこれを表彰することができる。

- 2 表彰に関する必要な事項は、別に定める。

(懲戒)

第58条 学長は、学生が本学の学則又は諸規程に違反し、又は学生の本分に反する行為があったときは、これを懲戒する。

- 2 懲戒は、訓告、戒告、謹慎、停学及び退学とする。
- 3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行うことができる。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当な理由がなくて出席が常でない者
 - (4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に著しく反した者
- 4 懲戒処分に関する必要な事項は、別に定める。

第5章 厚生施設

(保健室)

第59条 本学に保健室を附設する。

- 2 保健室に関する必要な事項は、別に定める。

第6章 奨学金

(奨学金)

第60条 本学に奨学金の制度を設ける。

- 2 奨学金の制度に関する必要な事項は、別に定める。

第7章 公開講座

(公開講座)

第61条 本学は、社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関する必要な事項は、別に定める。

第8章 学則の変更

(学則の変更)

第62条 本学則の変更は、教授会の意見を聴いて、学長がこれを行う。

附 則

本学則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成6年4月1日から改正施行する。

附 則

本学則は、平成7年4月1日から改正施行する。

附 則

本学則は、平成8年4月1日から改正施行する。

附 則

1 本学則は、平成9年4月1日から改正施行する。

2 本学則の施行により、学則第22条第3項に定める別表2「学芸員課程」について、施行日の前に修得した科目の単位は、新学則の単位を修得したものとみなす。

附 則

本学則は、平成10年4月1日から改正施行する。

附 則

本学則は、平成11年4月1日から改正施行する。

附 則

1 本学則は、平成12年4月1日から改正施行する。

2 本学則の施行により、学則第22条第3項に定める別表第2「学芸員課程」について、施行日の前に修得した科目の単位は、新学則の単位を修得したものとみなす。

附 則

- 1 本学則は、平成14年4月1日から改正施行する。
- 2 本学則は、平成14年度第1年次入学者及び平成16年度第3年次編入学者から適用し、平成13年度以前の第1年次入学者及び平成15年度以前の第3年次編入学者は、第16条、第27条を除き平成12年4月1日改正施行の規程による。
- 3 前項にかかわらず、次の授業科目は、平成11年度、平成12年度、平成13年度の第1年次入学者及び平成13年度、平成14年度、平成15年度の第3年次編入学者に適用する。

経営学1	2単位	専門英語D	2単位
経営学2	2単位	専門英語E	2単位
体育実技〔身体表現〕	2単位	専門英語F	2単位
造形産業実習A	2単位	専門英語G	2単位
造形産業実習B	2単位	専門英語H	2単位
身体論	2単位	専門英語I	2単位
舞台美術論	2単位	専門英語J	2単位
基本科目特講A	2単位	専門英語K	2単位
基本科目特講B	2単位	専門英語L	2単位
基本科目特講C	2単位	観光文化論2	2単位
基本科目特講D	2単位	国際文化交流論2	2単位
基本科目特講E	2単位	ファッション素材論	2単位
基本科目特講F	2単位	服飾史1〔日本〕	2単位
基本科目特講G	2単位	服飾史2〔西洋〕	2単位
基本科目特講H	2単位	ファッションビジネス論	2単位
基本科目特講I	2単位	服飾心理学	2単位
基本科目特講J	2単位	服飾社会学	2単位
専門英語A	2単位	住宅一般構造	2単位
専門英語B	2単位	住環境と法律	2単位
専門英語C	2単位	住環境設備	2単位

附 則

- 1 本学則は、平成15年4月1日から改正施行する。
- 2 本学則は、平成14年度第1年次入学者及び平成16年度第3年次編入学者から適用する。平成13年度以前の第1年次入学者及び平成15年度以前の第3年次編入学者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、平成16年4月1日から改正施行する。
- 2 本学則は、平成16年度第1年次入学者から適用する。なお、3年次編入学者については平成18年度入学者から適用する。

附 則

- 1 本学則は、平成17年4月1日から改正施行する。
- 2 本学則は、平成17年度第1年次入学者から適用する。なお、3年次編入学者については平成19年入学者から適用する。
- 3 前項にかかわらず、次の授業科目は、平成14年度、平成15年度、平成16年度の第1年次入学者及び平成16年度、平成17年度、平成18年度の第3年次編入学者に適用する。
イラストレーション特別演習A 1単位 イラストレーション特別演習B 1単位
イラストレーション特別演習C 1単位 イラストレーション特別演習D 1単位

附 則

- 1 本学則は、平成18年4月1日から改正施行する。
- 2 本学則は、平成18年度第1年次入学者から適用する。なお、3年次編入学者については平成20年度入学者から適用する。
- 3 前項にかかわらず、次の授業科目は、平成15年度、平成16年度、平成17年度の第1年次入学者及び平成17年度、平成18年度、平成19年度の第3年次編入学者に適用する。
プロダクトデザイン概論 2単位 インターフェイス概論 2単位
デザインマーケティング論 2単位 生産技術論 2単位
デザインマネジメント論 2単位

附 則

- 1 本学則は、平成19年4月1日から改正施行する。
- 2 本学則は、平成19年度第1年次入学者から適用する。なお、3年次編入学者については平成21年度から適用する。
- 3 前項にかかわらず、次の授業科目は、平成16年度、平成17年度、平成18年度の第1年次入学者及び平成18年度、平成19年度、平成20年度の3年次編入学者に適用する。
経済学 2単位 経営学 2単位 法学〔日本国憲法〕 2単位
琵琶湖の民俗史 2単位 近江学A 2単位 近江学B 2単位
科学技術概論 2単位 地域文化論 2単位 健康体力論 2単位
スポーツ実習A 1単位 スポーツ実習B 1単位 スポーツ実習C 1単位
スポーツ実習D 1単位 スポーツ実習E 1単位 教養演習A-I 2単位
教養演習A-II 2単位 教養演習B-I 2単位 教養演習B-II 2単位
教養演習C-I 2単位 教養演習C-II 2単位 教養演習D-I 2単位
教養演習D-II 2単位 教養演習E-I 2単位 教養演習E-II 2単位
教養演習F-I 2単位 教養演習F-II 2単位 教養演習G-I 2単位
教養演習G-II 2単位 教養演習H-I 2単位 教養演習H-II 2単位
教養演習I-I 2単位 教養演習I-II 2単位 教養演習J-I 2単位
教養演習J-II 2単位 基礎英語D 2単位 中級英語D 2単位
中級英語E 2単位 中級英語F 2単位 中級英語G 2単位

中級英語 H	2 単位	中級英語 I	2 単位	中級英語 J	2 単位
上級英語 C	2 単位	上級英語 D	2 単位	上級英語 E	2 単位
上級英語 F	2 単位	上級英語 G	2 単位	上級英語 H	2 単位
フランス語 A	2 単位	フランス語 B	2 単位		
キャリアデザイン特講 1	2 単位	キャリアデザイン特講 2	2 単位		
キャリアデザイン特講 3	2 単位	キャリアデザイン演習 A	2 単位		
キャリアデザイン演習 B	2 単位	キャリアデザイン演習 C	2 単位		
キャリアデザイン演習 D	2 単位	キャリアデザイン演習 E	2 単位		
キャリアデザイン演習 F	2 単位	キャリアデザイン演習 G	2 単位		
キャリアデザイン演習 H	2 単位	インターンシップ A	2 単位		
インターンシップ B	2 単位	インターンシップ C	2 単位		
コンピュータ資格講座 A	1 単位	コンピュータ資格講座 B	1 単位		
英語資格講座 A	1 単位	英語資格講座 B	1 単位		
英語資格講座 C	1 単位	色彩検定講座 1	1 単位		
色彩検定講座 2	1 単位	東洋・日本美術史概説 A	2 単位		
東洋日本美術史概説 B	2 単位	西洋美術史概説 A	2 単位		
西洋美術史概説 B	2 単位	デザイン史概説 A	2 単位		
デザイン史概説 B	2 単位	図法演習	2 単位	現代音楽論	2 単位
芸術鑑賞 A	2 単位	芸術鑑賞 B	2 単位	芸術鑑賞 C	2 単位
芸術鑑賞 D	2 単位				
コンピュータ基礎演習 1	2 単位	コンピュータ基礎演習 2	2 単位		
コンピュータ基礎演習 3	2 単位	コンピュータ基礎演習 4	2 単位		
コンピュータ実践講座 A	1 単位	コンピュータ実践講座 B	1 単位		
コンピュータ実践講座 C	1 単位	コンピュータ実践講座 D	1 単位		
コンピュータ実践講座 E	1 単位	コンピュータ実践講座 F	1 単位		
解剖学	2 単位	美術特論	2 単位	映画史	2 単位
アニメーション・映像論	2 単位	放送論	2 単位	日本建築史	2 単位
西洋建築史	2 単位	都市論	2 単位		
プロダクトデザイン概論	2 単位				
インターフェイス概論	2 単位	生産技術論	2 単位		
デザインマーケティング論	2 単位	デザインマネジメント論	2 単位		
日本服飾史	2 単位	西洋服飾史	2 単位	絵画材料学	2 単位
造形特別実習 A	1 単位	造形特別実習 B	1 単位	造形特別実習 C	1 単位
素描基礎実習 A	1 単位	素描基礎実習 B	1 単位	素描基礎実習 C	1 単位
国際文化交流論	2 単位	国際文化交流実習	2 単位	展示学 A	2 単位
展示学 B	2 単位	創作における権利と倫理	2 単位	観光論	2 単位
アートマネジメント論 A	2 単位	アートマネジメント論 B	2 単位		
地域文化振興論	2 単位	プロデュース論 A	2 単位		

プロデュース論 B	2 単位	プロデュース論 C	2 単位		
プロジェクト演習 A 1	2 単位	プロジェクト演習 A 2	2 単位		
プロジェクト演習 A 3	2 単位	プロジェクト演習 A 4	2 単位		
プロジェクト演習 A 5	2 単位	プロジェクト演習 B 1	2 単位		
プロジェクト演習 B 2	2 単位	プロジェクト演習 B 3	2 単位		
プロジェクト演習 B 4	2 単位	プロジェクト演習 B 5	2 単位		
プロジェクト演習 C 1	2 単位	プロジェクト演習 C 2	2 単位		
プロジェクト演習 C 3	2 単位	プロジェクト演習 C 4	2 単位		
プロジェクト演習 C 5	2 単位	プロジェクト演習 D 1	2 単位		
プロジェクト演習 D 2	2 単位	プロジェクト演習 D 3	2 単位		
プロジェクト演習 D 4	2 単位	プロジェクト演習 D 5	2 単位		
プロジェクト特別実習 A 1	1 単位	プロジェクト特別実習 A 2	1 単位		
プロジェクト特別実習 A 3	1 単位	プロジェクト特別実習 A 4	1 単位		
プロジェクト特別実習 A 5	1 単位	プロジェクト特別実習 B 1	1 単位		
プロジェクト特別実習 B 2	1 単位	プロジェクト特別実習 B 3	1 単位		
プロジェクト特別実習 B 4	1 単位	プロジェクト特別実習 B 5	1 単位		
プロジェクト特別実習 C 1	1 単位	プロジェクト特別実習 C 2	1 単位		
プロジェクト特別実習 C 3	1 単位	プロジェクト特別実習 C 4	1 単位		
プロジェクト特別実習 C 5	1 単位	プロジェクト特別実習 D 1	1 単位		
プロジェクト特別実習 D 2	1 単位	プロジェクト特別実習 D 3	1 単位		
プロジェクト特別実習 D 4	1 単位	プロジェクト特別実習 D 5	1 単位		
発想法演習	2 単位	住環境フィールドワーク演習	2 単位		
住宅一般構造	2 単位	住環境と法律	2 単位	住環境設備	2 単位
民族服飾論	2 単位	衣装芸術論	2 単位	社会調査法演習	2 単位
サウンド演習	2 単位	メディア演習	2 単位	デザイン総合実習 A	2 単位
デザイン総合実習 B	2 単位	造形表現総合実習 A	2 単位		
造形表現総合実習 B	2 単位				

附 則

- 1 本学則は、平成 20 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 2 本学則は、平成 20 年度第 1 年次入学者から適用する。なお、3 年次編入学者については平成 22 年度から適用する。
- 3 前項にかかわらず、次の授業科目は、平成 17 年度、平成 18 年度、平成 19 年度の第 1 年次入学者及び平成 19 年度、平成 20 年度、平成 21 年度の 3 年次編入学者に適用する。

教養演習 K-I	2 単位	教養演習 K-II	2 単位	中級英語 K	2 単位
中級英語 L	2 単位	上級英語 I	2 単位	上級英語 J	2 単位

附 則

- 1 本学則は、平成22年4月1日から改正施行する。
(造形学部デザイン科、造形美術科の存続に関する経過措置)
造形学部デザイン科、造形美術科は、改正後の学則の第2条の規定にかかわらず、平成22年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとし、その時点で廃止する。
- 2 本学則は、平成22年度第1年次入学者から適用する。尚、3年次編入学者については平成24年度から適用する。
- 3 前項にかかわらず、平成22年度と平成23年度の3年次編入学者は、造形学部デザイン科、または造形美術科に入学するものとする。尚、その入学定員はデザイン科7名、造形美術科3名とする。
- 4 前3項にかかわらず、次の授業科目は、平成19年度、平成20年度、平成21年度の第1年次入学者及び平成21年度、平成22年度、平成23年度の3年次編入学者に適用する。

ファッションマーケティング論	2単位	ユーザーインタフェース論	2単位
ファッションデザイン論	2単位	ファッションデザイン史	2単位
メディアアート概論	2単位	大型プリンタ特別実習	1単位
版画特別実習	1単位	住居と法律	1単位
建築施工	1単位	建築構造演習1	2単位
建築構造演習2	2単位	英語実践講座A	1単位
英語実践講座B	1単位	英語実践講座C	1単位
色彩実践講座1	1単位	色彩実践講座2	1単位

附 則

本学則は、平成23年4月1日から改正施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成24年4月1日から改正施行する。
- 2 前項にかかわらず、本学則第22条第3項に定める別表第2-1「学芸員に関する科目」については、平成24年度第1年次入学者及び第3年次編入学者から適用する。平成23年度以前の第1年次入学者及び第3年次編入学者は、なお従前の例による。
- 3 前第1項にかかわらず、本学則第30条に定める成績は、平成24年度第1年次入学者及び平成26年度第3年次編入学者から適用する。

附 則

- 1 本学則は、平成25年4月1日から改正施行する。
- 2 前項にかかわらず、次の授業科目は平成22年度の第1年次入学者及び平成24年度第3年次編入学者から適用する。

デザインプロデュース演習1	2単位	デザインプロデュース実習1	1単位
デザインプロデュース演習2	2単位	デザインプロデュース実習2	1単位
デザインプロデュース演習3	2単位	デザインプロデュース実習3	1単位

デザインプロデュース演習 4	2 単位	デザインプロデュース実習 4	1 単位
デザインプロデュース演習 5	2 単位	デザインプロデュース実習 5	1 単位

附 則

- 1 本学則は、平成 26 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 2 前項にかかわらず、第 22 条第 3 項に定める別表第 1-2、別表第 2-1、別表第 2-2 及び第 23 条第 2 項については、平成 26 年度第 1 年次入学者及び平成 28 年度 3 年次編入学者から適用する。

附 則

- 1 本学則は、平成 27 年 4 月 1 日から改正施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成 28 年 4 月 1 日から改正施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成 29 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 2 本学則は、平成 29 年度第 1 年次入学者から適用する。なお、第 3 年次入学者については平成 31 年度から適用する。
- 3 造形学部デザイン科・造形美術科の廃止の時期は、平成 29 年 3 月 31 日とする。

附 則

- 1 本学則は、平成 30 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 2 前項にかかわらず、第 22 条第 3 項に定める別表第 1-1、別表第 1-2 及び第 22 条第 4 項第 2 号に定める別表第 2-2 については、平成 30 年度第 1 年次入学者及び平成 32 年度第 3 年次編入学者から適用する。なお平成 29 年度以前の第 1 年次入学者及び平成 31 年度までの第 3 年次編入学者については、従前の別表第 1-1、別表第 1-2 及び別表第 2-2 を適用する。
- 3 前項にかかわらず、第 22 条第 3 項に定める別表第 1-1、別表第 1-2 の次の授業科目については、平成 29 年度以前の第 1 年次入学者及び平成 31 年度までの第 3 年次編入学者にも適用する。

ファウンデーション実習 B 3	1 単位	総合デザイン概論	2 単位
情報デザイン概論	2 単位	情報デザイン論 1	2 単位
情報デザイン論 2	2 単位	情報デザイン論 3	2 単位
情報デザイン論 4	2 単位	舞台美術演習	2 単位
特別講義 6	1 単位	エコロジーと社会	2 単位

- 4 前第 2 項にかかわらず、第 22 条第 4 項第 2 号に定める別表第 2-2 の次の授業科目については、平成 29 年度以前の第 1 年次入学者及び平成 31 年度までの第 3 年次編入学者にも適用する。

英語E	1単位	英語F	1単位	英語G	1単位
英会話E	1単位	ファウンデーション実習B3	1単位		

附 則

- 1 本学則は、平成31年4月1日から改正施行する。
- 2 前項にかかわらず、第22条第3項に定める別表第1-1、別表第1-2及び別表第2-2については平成31年度第1年次入学者及び平成33年度第3年次編入学者から適用する。なお平成30年度以前の第1年次入学者及び平成32年度までの第3年次編入学者については、従前の別表第1-1、別表第1-2及び別表第2-2を適用する。
- 3 前項にかかわらず、第22条第3項に定める別表第1-1の次の授業科目については、平成30年度以前の第1年次入学者及び平成32年度までの第3年次編入学者にも適用する。
美術理論 2単位

附 則

- 1 本学則は、令和3年4月1日から改正施行する。

附 則

- 1 本学則は、令和4年4月1日から改正施行する。
- 2 前項にかかわらず、第22条第3項に定める別表第2-2については令和4年度第1年次入学者から適用する。なお令和3年度以前の入学者については、従前の別表第2-2を適用する。

附 則

- 1 本学則は、令和5年4月1日から改正施行する。

別表第1-1 授業科目と単位数(第22条第3項関係)

授業科目の区分等		授業科目の名称	単位又は時間数		
			必修	選択	自由
基礎科目群	スタートプログラム科目	大学入門1		1	
		大学入門2		1	
		スタディスキル実習1		1	
		スタディスキル実習2		1	
		スタディスキル実習3		1	
		スタディスキル実習4		1	
	芸術基礎科目	東洋・日本美術史概説A		2	
		東洋・日本美術史概説B		2	
		西洋美術史概説A		2	
		西洋美術史概説B		2	
		デザイン史概説A		2	
		デザイン史概説B		2	
	ファウンデーション科目	ファウンデーション実習A1		1	
		ファウンデーション実習A2		1	
		ファウンデーション実習A3		1	
		ファウンデーション実習A4		1	
		ファウンデーション実習B1		1	
		ファウンデーション実習B2		1	
		ファウンデーション実習B3		1	
		ファウンデーション実習C1		1	
		ファウンデーション実習C2		1	
		プレファウンデーション実習1		1	
		プレファウンデーション実習2		1	
応用科目群	芸術応用科目	総合デザイン概論		2	
		イラストレーション概論		2	
		イラストレーション論1		2	
		イラストレーション論2		2	
		イラストレーション論3		2	
		イラストレーション論4		2	
		美術概論		2	
		美術論1		2	
		美術論2		2	
		美術論3		2	
		美術論4		2	
		情報デザイン概論		2	
		情報デザイン論1		2	
		情報デザイン論2		2	
		情報デザイン論3		2	
		情報デザイン論4		2	
		空間デザイン概論		2	
		空間デザイン論1		2	
空間デザイン論2A		2			
空間デザイン論2B		2			

		空間デザイン論 2 C		2	
		空間デザイン論 2 D		2	
		空間デザイン論 2 E		2	
		空間デザイン論 2 F		2	
		美術理論		2	
		現代デザイン論 A		2	
		現代デザイン論 B		2	
		現代美術論 A		2	
		現代美術論 B		2	
		絵画材料学		2	
		メディアアート概論		2	
		日本美術史 A		2	
		日本美術史 B		2	
		西洋美術史 A		2	
		西洋美術史 B		2	
		日本建築史		2	
		西洋建築史		2	
		工芸史		2	
		図法演習		2	
		色彩演習		2	
		人体表現演習		2	
		彫刻演習		2	
		工芸演習		2	
		絵画演習		2	
		デザイン演習		2	
		舞台美術演習		2	
		芸術鑑賞 A		2	
		芸術鑑賞 B		2	
		特別講義 1		1	
		特別講義 2		1	
		特別講義 3		1	
		特別講義 4		1	
		特別講義 5		1	
		特別講義 6		1	
		美術科教育法 1		2	
		美術科教育法 2		2	
		美術科教育法 3		2	
		美術科教育法 4		2	
	2 級建築士受験資格 科目	住居と法律			1
		建築施工			1
		建築構造演習 1			2
		建築構造演習 2			2
		住宅一般構造			2
		住居・住宅論			3
教養科目群	教養科目	自然科学概論 A		2	
		自然科学概論 B		2	
		自然科学概論 C		2	
		自然科学概論 D		2	

	社会学A		2	
	社会学B		2	
	現代社会論A		2	
	現代社会論B		2	
	法学 [日本国憲法]		2	
	人権教育		2	
	哲学A		2	
	哲学B		2	
	宗教学A		2	
	宗教学B		2	
	文化人類学A		2	
	文化人類学B		2	
	文化史A		2	
	文化史B		2	
	心理学A		2	
	心理学B		2	
	深層芸術心理学A		2	
	深層芸術心理学B		2	
	考古学A		2	
	考古学B		2	
	美学A		2	
	美学B		2	
	人間関係実習A		1	
	人間関係実習B		1	
	健康体力論		2	
	スポーツ実習A		1	
	スポーツ実習B		1	
	スポーツ実習C		1	
	スポーツ実習D		1	
	スポーツ実習E		1	
外国語科目	英語入門 I		1	
	英語入門 II		1	
	英語A		1	
	英語B		1	
	英語C		1	
	英語D		1	
	英語E		1	
	英語F		1	
	英語G		1	
	英会話A		1	
	英会話B		1	
	英会話C		1	
	英会話D		1	
	英会話E		1	
	日本語A		1	
	日本語B		1	
日本語C		1		
日本語D		1		

社会実践科目群	地域貢献・プロジェクト科目	コミュニティデザイン概論		2	
		コミュニティデザイン論1		2	
		コミュニティデザイン論2		2	
		琵琶湖の民俗史		2	
		近江学A		2	
		近江学B		2	
		エコロジーと社会		2	
		プロジェクト演習1A		2	
		プロジェクト演習1B		2	
		プロジェクト演習1C		2	
		プロジェクト演習1D		2	
		プロジェクト演習1E		2	
		プロジェクト演習2A		2	
		プロジェクト演習2B		2	
		プロジェクト演習2C		2	
		プロジェクト演習2D		2	
		プロジェクト演習2E		2	
		プロジェクト演習3A		2	
		プロジェクト演習3B		2	
		プロジェクト演習3C		2	
		プロジェクト演習3D		2	
		プロジェクト演習3E		2	
		プロジェクト演習4A		2	
		プロジェクト演習4B		2	
	プロジェクト演習4C		2		
	プロジェクト演習4D		2		
	プロジェクト演習4E		2		
	キャリアデザイン科目	キャリアデザイン概論1		1	
		キャリアデザイン概論2		1	
		キャリアデザイン論A		2	
		キャリアデザイン論B		2	
		就業力育成論1		1	
		就業力育成論2		1	
		就業力育成論3		1	
		就業力育成論4		1	
		就業力育成演習A		2	
		就業力育成演習B		2	
		就業力育成演習C		2	
		就業力育成演習D		2	
		ポートフォリオ演習		2	
		インターンシップA		2	
		インターンシップB		2	
		コンピュータ実践講座A		1	
コンピュータ実践講座B			1		
英語実践講座A			1		
英語実践講座B			1		
英語実践講座C		1			
色彩実践講座A		1			

	色彩実践講座B		1	
--	---------	--	---	--

別表第2-1 学芸員課程に関する科目（第22条第4項第1号関係）

		授業科目	単位数	備考
必修科目		博物館教育論	2	19単位
		博物館情報・メディア論	2	
		生涯学習概論	2	
		博物館概論	2	
		博物館資料論	2	
		博物館資料保存論	2	
		博物館経営論	2	
		博物館展示論	2	
		博物館実習 1	1	
		博物館実習 2	1	
		博物館実習 3	1	
選択科目	美術史系列	東洋・日本美術史概説A	2	2系列以上より 2科目 4単位以上
		東洋・日本美術史概説B	2	
		西洋美術史概説A	2	
		西洋美術史概説B	2	
		デザイン史概説A	2	
		デザイン史概説B	2	
		工芸史	2	
	文化史系列	文化史A	2	
		文化史B	2	
	考古学系列	考古学A	2	
		考古学B	2	
	民俗学系列	琵琶湖の民俗史	2	
		文化人類学A	2	
		文化人類学B	2	

別表第1-2 授業科目と単位数(第22条第3項関係)

授業科目の区分等		授業科目の名称	単位又は時間数		
			必修	選択	自由
専門導入科目群	専門導入科目	基礎造形実習 1 A		2	
		基礎造形実習 2 A		2	
		基礎造形実習 3 A		2	
		基礎造形実習 4 A		2	
		基礎造形実習 2 B		2	
		基礎造形実習 4 B		2	
		基礎造形実習 3 C		2	
		基礎造形実習 4 C		2	
		基礎造形実習 1 D		2	
		基礎造形実習 2 D		2	
		基礎造形実習 4 D		2	
		基礎造形実習 1 E		2	
		基礎造形実習 2 E		2	
		基礎造形実習 3 E		2	
		総合デザイン基礎演習 1		2	
		総合デザイン基礎演習 2		2	
		イラストレーション基礎演習 1		2	
		イラストレーション基礎演習 2		2	
		美術基礎演習 1		2	
		美術基礎演習 2		2	
		情報デザイン基礎演習 1		2	
		情報デザイン基礎演習 2		2	
		空間デザイン基礎演習 1		2	
		空間デザイン基礎演習 2		2	
		地域実践学入門 1		2	
		地域実践学入門 2		2	
		地域実践基礎演習 1		2	
		地域実践基礎演習 2		2	
		地域実践基礎演習 3		2	
		地域実践基礎演習 4		2	
専門基盤科目群	専門基盤科目	総合デザイン演習 1		2	
		総合デザイン演習 2		2	
		総合デザイン演習 3		2	
		総合デザイン演習 4		2	
		総合デザイン演習 5		2	
		総合デザイン演習 6		2	
		総合デザイン演習 7		2	
		総合デザイン演習 8		2	
		総合デザイン実習 1		2	
		総合デザイン実習 2		2	
		総合プロジェクト演習 1		2	
		総合プロジェクト演習 2		2	
		総合プロジェクト演習 3		2	

総合プロジェクト演習 4		2	
総合プロジェクト演習 5		2	
イラストレーション演習 1		2	
イラストレーション演習 2		2	
イラストレーション演習 3		2	
イラストレーション演習 4		2	
イラストレーション演習 5		2	
イラストレーション演習 6		2	
イラストレーション演習 7		2	
イラストレーション演習 8		2	
イラストレーション実習 1-a		2	
イラストレーション実習 1-b		2	
イラストレーション実習 1-c		2	
イラストレーション実習 1-d		2	
イラストレーション実習 1-e		2	
イラストレーション実習 1-f		2	
イラストレーション実習 1-g		2	
イラストレーション実習 1-h		2	
イラストレーション実習 1-i		2	
イラストレーション実習 2-a		2	
イラストレーション実習 2-b		2	
イラストレーション実習 2-c		2	
イラストレーション実習 2-d		2	
イラストレーション実習 2-e		2	
イラストレーション実習 2-f		2	
イラストレーション実習 2-g		2	
イラストレーション実習 2-h		2	
イラストレーション実習 2-i		2	
イラストレーション実習 3-a		2	
イラストレーション実習 3-b		2	
イラストレーション実習 3-c		2	
イラストレーション実習 3-d		2	
イラストレーション実習 3-e		2	
イラストレーション実習 3-f		2	
イラストレーション実習 3-g		2	
イラストレーション実習 3-h		2	
イラストレーション実習 3-i		2	
イラストレーション実習 4-a		2	
イラストレーション実習 4-b		2	
イラストレーション実習 4-c		2	
イラストレーション実習 4-d		2	
イラストレーション実習 4-e		2	
イラストレーション実習 4-f		2	
イラストレーション実習 4-g		2	
イラストレーション実習 4-h		2	
イラストレーション実習 4-i		2	
イラストレーション実習 5		2	
イラストレーション実習 6		2	

イラストレーション実習 7		2	
イラストレーション実習 8		2	
イラストレーション実習 9		2	
イラストレーション実習 10		2	
美術演習 1		2	
美術演習 2 - a		2	
美術演習 2 - b		2	
美術演習 2 - c		2	
美術演習 3		2	
美術演習 4 - a		2	
美術演習 4 - b		2	
美術演習 4 - c		2	
美術演習 5 - a		2	
美術演習 5 - b		2	
美術演習 5 - c		2	
美術演習 6 - a		2	
美術演習 6 - b		2	
美術演習 6 - c		2	
美術演習 7 - a		2	
美術演習 7 - b		2	
美術演習 7 - c		2	
美術演習 8 - a		2	
美術演習 8 - b		2	
美術演習 8 - c		2	
美術実習 1 - a		2	
美術実習 1 - b		2	
美術実習 1 - c		2	
美術実習 2 - a		2	
美術実習 2 - b		2	
美術実習 2 - c		2	
美術実習 3 - a		2	
美術実習 3 - b		2	
美術実習 3 - c		2	
美術実習 4 - a		2	
美術実習 4 - b		2	
美術実習 4 - c		2	
美術実習 5 - a		2	
美術実習 5 - b		2	
美術実習 5 - c		2	
美術実習 6 - a		2	
美術実習 6 - b		2	
美術実習 6 - c		2	
美術実習 7 - a		2	
美術実習 7 - b		2	
美術実習 7 - c		2	
美術実習 8 - a		2	
美術実習 8 - b		2	
美術実習 8 - c		2	

情報デザイン演習 1-a		2	
情報デザイン演習 1-b		2	
情報デザイン演習 1-c d		2	
情報デザイン演習 2-a b		2	
情報デザイン演習 2-c		2	
情報デザイン演習 2-d		2	
情報デザイン演習 3		2	
情報デザイン演習 4-a		2	
情報デザイン演習 4-b c d		2	
情報デザイン演習 5-a		2	
情報デザイン演習 5-b		2	
情報デザイン演習 5-c d		2	
情報デザイン演習 6-a d		2	
情報デザイン演習 6-b		2	
情報デザイン演習 6-c		2	
情報デザイン演習 7		2	
情報デザイン演習 8		2	
情報デザイン実習 1-a b d		2	
情報デザイン実習 1-c		2	
情報デザイン実習 2-a		2	
情報デザイン実習 2-b c		2	
情報デザイン実習 2-d		2	
情報デザイン実習 3-a c d		2	
情報デザイン実習 3-b		2	
情報デザイン実習 4-a b d		2	
情報デザイン実習 4-c		2	
情報デザイン実習 5-a		2	
情報デザイン実習 5-b		2	
情報デザイン実習 5-c d		2	
情報デザイン実習 6-a		2	
情報デザイン実習 6-b		2	
情報デザイン実習 6-c d		2	
情報デザイン実習 7-a c		2	
情報デザイン実習 7-b		2	
情報デザイン実習 7-d		2	
情報デザイン実習 8-a b d		2	
情報デザイン実習 8-c		2	
空間デザイン演習 1-a		2	
空間デザイン演習 1-b		2	
空間デザイン演習 1-c		2	
空間デザイン演習 2-a		2	
空間デザイン演習 2-b		2	
空間デザイン演習 2-c		2	
空間デザイン演習 3-a		2	
空間デザイン演習 3-b		2	
空間デザイン演習 3-c		2	
空間デザイン演習 4-a		2	
空間デザイン演習 4-b		2	

		空間デザイン演習 4 - c		2	
		空間デザイン演習 5		2	
		空間デザイン演習 6 - a		2	
		空間デザイン演習 6 - b		2	
		空間デザイン演習 6 - c		2	
		空間デザイン演習 7		2	
		空間デザイン演習 8 - a		2	
		空間デザイン演習 8 - b		2	
		空間デザイン演習 8 - c		2	
		空間デザイン実習 1 - a		2	
		空間デザイン実習 1 - b		2	
		空間デザイン実習 1 - c		2	
		空間デザイン実習 2 - a b		2	
		空間デザイン実習 2 - c		2	
		空間デザイン実習 3 - a		2	
		空間デザイン実習 3 - b		2	
		空間デザイン実習 3 - c		2	
		空間デザイン実習 4 - a b		2	
		空間デザイン実習 4 - c		2	
		空間デザイン実習 5 - a		2	
		空間デザイン実習 5 - b		2	
		空間デザイン実習 5 - c		2	
		空間デザイン実習 6 - a b		2	
		空間デザイン実習 6 - c		2	
		空間デザイン実習 7 - a		2	
		空間デザイン実習 7 - b		2	
		空間デザイン実習 7 - c		2	
		空間デザイン実習 8 - a		2	
		空間デザイン実習 8 - b		2	
		空間デザイン実習 8 - c		2	
		地域実践学 1		2	
		地域実践学 2		2	
		地域実践学 3		2	
		地域実践学 4		2	
		地域実践演習 1		2	
		地域実践演習 2		2	
		地域実践演習 3		2	
		地域実践演習 4		2	
		地域実践演習 5		2	
		地域実践演習 6		2	
		地域実践演習 7		2	
		地域実践演習 8		2	
		地域実践プロジェクト演習 1		2	
		地域実践プロジェクト演習 2		2	
		地域実践プロジェクト演習 3		2	
		地域実践プロジェクト演習 4		2	
専門研究 科目群	専門研究 科目	卒業研究 1		4	
		卒業研究 2		6	

別表第2-2 教職課程に関する科目（第22条第4項第2号関係）

教科及び教科の指導法に関する科目

学部	学科	科目区分	授業科目	単位数		備考
				必修	選択	
芸術学部	芸術学科	絵画 (映像メディア表現を含む。)	○基礎造形実習1A		2	
			イラストレーション基礎演習1		2	
			美術実習1-a		2	
			美術実習1-b		2	
			○絵画演習		2	
		彫刻	○基礎造形実習2A		2	
			美術実習1-c		2	
			○彫刻演習		2	
		デザイン (映像メディア表現を含む。)	○基礎造形実習3A		2	
			○デザイン演習		2	
			情報デザイン演習3		2	
			情報デザイン演習7		2	
		工芸	○基礎造形実習4A		2	中1種免のみ
			○工芸演習		2	
		美術理論及び美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	○東洋・日本美術史概説A		2	
			○西洋美術史概説A		2	
			○美術理論		2	
			東洋・日本美術史概説B		2	
			西洋美術史概説B		2	
			デザイン史概説A		2	
			デザイン史概説B		2	
			日本美術史A		2	
			日本美術史B		2	
			西洋美術史A		2	
			西洋美術史B		2	
			現代美術論A		2	
			現代美術論B		2	
		各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	○美術科教育法1		2	
			○美術科教育法2		2	
			○美術科教育法3		2	
			○美術科教育法4		2	

(注) 1 授業科目名の○は教職課程に関する必修科目を示す。

教育の基礎的理解に関する科目等

学部	学科	科目区分	授業科目	単位数		備考
				必修	選択	
芸術学部	芸術学科	教育の基礎的理解に関する科目	○教育原理		2	
			○教職入門		2	
			○教育制度論		2	
			○教育心理学		2	
			○特別支援教育論		2	
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	○道徳教育論		2	中1種免のみ
			○教育方法及び総合的な学習の時間の指導法		2	
			○教育課程・特別活動論		2	
			○教育現場でのICT活用		1	
			○生徒指導・進路指導論		2	
			○教育相談		2	
		教職実践演習に関する科目	○教育実習事前事後指導		1	
			○教育実習A		2	
			教育実習B		2	中1種免必修
○教職実践演習(中・高)			2			

(注) 授業科目名の○は教職課程に関する必修科目を示す。

大学が独自に設定する科目

学部	学科	科目区分	授業科目	単位数		備考
				必修	選択	
芸術学部	芸術学科	大学が独自に設定する科目	○人権教育		2	
			○現場体験活動1		1	
			○現場体験活動2		1	

(注) 授業科目名の○は教職課程に関する必修科目を示す。

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

学部	学科	科目区分	授業科目	単位数		備考
				必修	選択	
		日本国憲法	○法学 [日本国憲法]		2	
		体 育	スポーツ実習A		1	※ここから2単位以上 選択必修
			スポーツ実習B		1	
			スポーツ実習C		1	
			スポーツ実習D		1	
			スポーツ実習E		1	
			健康体力論		2	
		外国語 コミュニケーション	英語A		1	※ここから2単位以上 選択必修
			英語B		1	
			英語C		1	
			英語D		1	
			英語E		1	
			英語F		1	
			英語G		1	
			英会話A		1	
			英会話B		1	
			英会話C		1	
			英会話D		1	
		英会話E		1		
		情報機器の操作	ファウンデーション実習B1		1	※ここから2単位以上 選択必修
			ファウンデーション実習B2		1	
			ファウンデーション実習B3		1	

(注) 1 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目は、別表第1-1の授業科目より履修する。

2 授業科目名の○は教職課程に関する必修科目を示す。

別表第3 入学検定料及び学納金(第49条関係)

区分・項目		前期納入金額	後期納入金額	備考
入学検定料		35,000円		入学検定時
		15,000円		大学入学共通テスト利用
学納金	入学金	200,000円		入学時のみ
	授業料	770,000円	770,000円	総合領域・地域実践領域以外の領域
		490,000円	490,000円	総合領域
		450,000円	450,000円	地域実践領域
	教育充実費	31,250円	31,250円	総合領域以外の領域
91,250円		91,250円	総合領域	

注1)本表は、令和3年度第1年次入学生及び令和5年度第3年次入学生より適用するものとする。なお令和2年度以前の第1年次入学生及び令和4年度以前の第3年次入学生は、従前のとおりとする。

別表第3-2 研究生、聴講生、単位互換履修生、科目等履修生の学納金及びその他の納付金
(第49条関係)

研究生

区分・項目		前期納入金額	後期納入金額	備考
選考料		10,000円		入学選考時(本学出身者)
		35,000円		入学選考時(本学出身者以外)
学納金	入学金	50,000円		入学時のみ
	研究料	200,000円	200,000円	

聴講生

区分・項目	金額
選考料	10,000円
聴講料	1単位につき10,000円

単位互換履修生

区分・項目	金額
選考料	協定による
履修料	協定による

科目等履修生

区分・項目	金額
選考料	15,000円
登録料	40,000円(年度ごとに納付)
履修料	(1単位につき)12,500円

(2)変更事項を記載した書類

学則の変更事由及び変更点

収容定員の変更に伴う学則変更

【主な変更事由】

- 1 アドミッション・ポリシーを満たす者の受入れ要請に応え、学びの機会を確保する。
- 2 入学定員充足率を適正化する。
- 3 多様な進学ニーズに応じるため2年次編入学定員を設ける。
- 4 3年次編入学制度では対応が難しい非芸術系学部からの受験生を、2年次編入学制度により受け入れる。

【主な変更点】

- 1 入学定員について、200人から220人にすること。
- 2 2年次編入学定員について、新たに4人定員を設けること。
- 3 3年次編入学定員について、10人から4人にすること。
- 4 収容定員について、820人から900人にすること。
- 5 3年次編入学・転入学できる要件を再設定すること。
- 6 2年次編入学・転入学できる要件を設定すること。
- 7 2年次編入学者の既修得単位の認定方法を定めること。

【改正施行日】

令和5年4月1日（予定）

(3) 変更部分の新旧対照表

改正案						現行																																	
<p>(学部、学科及び定員)</p> <p>第2条 本学に芸術学部を置く。</p> <p>2 芸術学部（以下、「学部」という。）に置く学科及び学生定員は、次のとおりとする。</p>						<p>(学部、学科及び定員)</p> <p>第2条 本学に芸術学部を置く。</p> <p>2 芸術学部（以下、「学部」という。）に置く学科及び学生定員は、次のとおりとする。</p>																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学部</th> <th rowspan="2">学科</th> <th rowspan="2">入学定員</th> <th>2年次編</th> <th>3年次編</th> <th rowspan="2">収容定員</th> </tr> <tr> <th>入学定員</th> <th>入学定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術学部</td> <td>芸術学科</td> <td>220</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>900</td> </tr> </tbody> </table>						学部	学科	入学定員	2年次編	3年次編	収容定員	入学定員	入学定員	芸術学部	芸術学科	220	4	4	900	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学部</th> <th rowspan="2">学科</th> <th rowspan="2">入学定員</th> <th>3年次編</th> <th colspan="2">収容定員</th> </tr> <tr> <th>入学定員</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術学部</td> <td>芸術学科</td> <td>200</td> <td>10</td> <td></td> <td>820</td> </tr> </tbody> </table>					学部	学科	入学定員	3年次編	収容定員		入学定員			芸術学部	芸術学科	200	10		820
学部	学科	入学定員	2年次編	3年次編	収容定員																																		
			入学定員	入学定員																																			
芸術学部	芸術学科	220	4	4	900																																		
学部	学科	入学定員	3年次編	収容定員																																			
			入学定員																																				
芸術学部	芸術学科	200	10		820																																		
<p>(編入学)</p> <p>第21条 本学の第3年次に編入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。</p> <p>(1) 本学と同系列（学位授与機構の定める芸術学「美術」の専門科目に準じる。以下省略）の大学を卒業した者</p> <p>(2) 本学と同系列の短期大学、高等専門学校を卒業した者</p> <p>(3) 本学と同系列の大学に2年以上在学し、62単位以上修得した者</p> <p>(4) 本学と同系列の専修学校のうち文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者。ただし、学校教育法第90条第1項に定める大学入学資格を有する者に限る</p>						<p>(編入学)</p> <p>第21条 本学の第3年次に編入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。</p> <p>(1) 大学を卒業した者</p> <p>(2) 短期大学、高等専門学校を卒業した者</p> <p>(3) <u>大学に2年以上在学し、62単位以上修得した者</u></p> <p><u>(4) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了又は卒業した者</u></p> <p><u>(5) 専修学校のうち文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者。ただし、学校教育法第90条第1項に定める大学入学資格を有する者に限る</u></p>																																	

(5) 外国において学校教育における14年以上の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を修了した者。**但し、本学と同系列の学士、または準学士、短期大学士を取得した者に限る**

(6) 本学において、前各号と同等と認められた者で、入学までに20歳に達する者

2 本学の第2年次に編入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 短期大学、高等専門学校を卒業した者

(3) 大学に1年以上在学し、32単位以上修得した者

(4) 専修学校のうち文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者。ただし、学校教育法第90条第1項に定める大学入学資格を有する者に限る

(5) 外国において学校教育における14年以上の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を修了した者。但し、学士、または準学士、短期大学士を取得した者に限る

(6) 本学において、前各号と同等と認められた者で、入学までに19歳に達する者

3 前項、**前々項**の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取り扱い、並びに在学すべき年数については、学長が決定する。

4 編入学に関する必要な事項は、別に定める。

(6) 外国において学校教育における14年以上の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を修了した者

(7) 本学において、前各号と同等と認められた者で、入学までに20歳に達する者

2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取り扱い、並びに在学すべき年数については、学長が決定する。

3 編入学に関する必要な事項は、別に定める。

<p>(転入学)</p> <p>第21条の2 本学の第3年次に転入学することができる者は、本学と同系列の大学に2年以上在学中で、62単位以上取得した者に限る。また、本学の第2年次に転入学することができる者は、大学に1年以上在学中で、32単位以上取得した者に限る。</p> <p>2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取り扱い、並びに在学すべき年数については、学長が決定する。</p> <p>3 転入学に関する必要な事項は、別に定める。</p> <p>(第2年次、3年次入学者の既修得単位の認定)</p> <p>第29条 第2年次、3年次入学者の単位認定は、入学以前の大学、短期大学又は専門学校において修得した単位のうち、卒業に必要な単位として認定できる単位数の上限を62単位とする。</p> <p>2 第2年次、3年次入学者の単位認定は、学長が決定する。</p> <p>3 第2年次、3年次入学者の既修得単位の認定に関する必要な事項は、別に定める。</p> <p>附 則</p> <p>1 本学則は、令和5年4月1日から改正施行する。</p>	<p>(転入学)</p> <p>第21条の2 他の大学に在学している者で、本学への転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、入学を許可することができる。</p> <p>2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取り扱い、並びに在学すべき年数については、学長が決定する。</p> <p>3 転入学に関する必要な事項は、別に定める。</p> <p>(第3年次入学者の既修得単位の認定)</p> <p>第29条 第3年次入学者の単位認定は、入学以前の大学、短期大学又は専門学校において修得した単位のうち、卒業に必要な単位として認定できる単位数の上限を62単位とする。</p> <p>2 第3年次入学者の単位認定は、学長が決定する。</p> <p>3 第3年次入学者の既修得単位の認定に関する必要な事項は、別に定める。</p>
---	--

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目次

ア	学則変更（収容定員変更）の内容	2
イ	学則変更（収容定員変更）の必要性	3
ウ	学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	6
	（ア）教育課程の変更内容	6
	（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容	10
	（ウ）教員組織の変更内容	15
	（エ）大学全体の施設・設備の変更内容	15
【添付資料】	教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))	20

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

令和5年度入学生から、成安造形大学学則第2条に定める、芸術学部芸術学科の入学定員、3年次編入学定員及び収容定員を以下のとおり変更する。

(現在) 単位：人

学部	学科	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
芸術学部	芸術学科	200	—	10	820

(変更後) 単位：人

学部	学科	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
芸術学部	芸術学科	220	4	4	900

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

成安造形大学（以下、本学という。）は、学校法人京都成安学園の建学の精神「成安」と校訓「誠と熱」のもと、「芸術による社会への貢献」を基本理念（教育理念）として、芸術分野の専門性と創造性（クリエイティビティ）に優れ、主体的に考え行動することができる人材の育成を目的としている。

※建学の精神「成安」……「成」とは、成し遂げること。「安」とは、安寧であること。つまり「成安」とは人の和を大切に、一人ひとりが自己の使命を追求し、全うし続けることを通じて、心安らぐ平和な社会をつくることに貢献するという意味である。

※校訓「誠と熱」……正しい信念から生まれる純真な「誠」。すべてのものを生かし得る「熱」。何かを成し遂げるためには、強い信念を持ち、実力を養成することが大切であるとの学祖の言葉である。

芸術学部芸術学科では、デザインやアートなどの専門分野において専門的に特化したスペシャリスト、幅広い知識と技術を身につけたジェネラリスト、そしてバランス感覚に優れたクリエイターの育成を目指している。そのために、総合領域・イラストレーション領域・美術領域・情報デザイン領域・空間デザイン領域・地域実践領域の6つの領域に分かれた専門的な学びを用意し、志向や興味に合わせて、学生一人ひとりの専門性を高めてきた。

現在本学では、芸術学部芸術学科に履修上の区分として6つの領域と、19の専門コースを設けている。

総合領域

総合デザインコース

イラストレーション領域

メディアイラストコース

アートイラストコース

デジタルイラストコース

マンガ・絵本コース

アニメーションコース

3DCG コース

風景イラストコース

美術領域

日本画コース
洋画コース
現代アートコース

情報デザイン領域

グラフィックデザインコース
情報デザインコース
写真コース
映像コース

空間デザイン領域

コスチュームデザインコース
プロダクトデザインコース
住環境デザインコース

地域実践領域

クリエイティブ・スタディーズコース

※ イラストレーション領域については、令和5年度に以下の4コースに再編

イラストレーション領域

メディアイラスト表現コース
キャラクターイラスト表現コース
映像イラスト表現コース
アートイラスト表現コース

現在、7コース編成のイラストレーション領域を、令和5年度に4コースに再編する。1つのコースで学べる内容に幅と深さをもたらし、これまで以上に濃密な学びを実践する。新設の4コースは表現の立ち位置としてのコース設定であり、自分の軸となるコースに所属して専門性を高めると同時に、他コースの授業や多様な選択授業を組み合わせ、自分に合った興味や専門性を深化するセミオーダーカリキュラムは従来そのまま維持し、画材やツール、アナログやデジタルに縛られない学びを提供するための再編である。

このように本学では、常に志願者や学生の視点に立って学習環境の充実と改善のために日々見直しを続けている。その結果として、本学は志願者や学生及び社会に評価されていると認識しており、これからもこの組織を維持・発展していくことに注力する。

現在の入学定員での近年の志願者数・入学者数・入学定員充足率等は【表1】のとおりであり、本学の基本理念（教育理念）が多くの受験生に受け入れられ、入学したい大学として高く評価されていることが、安定的な定員の充足に結び付いている。

【表1】芸術学部芸術学科の過去5年間の入学定員・志願者数・入学者数・入学定員充足率等

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入学定員(人)	200	200	200	200	200
志願者数(人)	743	727	698	721	691
入学者数(人)	239	235	234	230	221
入学定員充足率	1.19	1.17	1.17	1.15	1.10
収容定員(人)	820	820	820	820	820
在籍者数(人)	901	943	949	921	920
収容定員充足率	1.09	1.15	1.15	1.12	1.12

入学定員充足率・収容定員充足率は小数点以下第3位を切り捨て
令和3年度より入試改革のためエントリー者数を志願者数に読み替えて掲載

このような状況のもと、教育の質を確保しつつ社会に対して大学の門戸を広げ、大学教育の機会をできるだけ多くの人々に提供することにより、社会の要望に応えることは「芸術による社会への貢献」という基本理念（教育理念）を掲げる本学の重要な責務である。

平成22年度、初等・中等教育の変化によるデザイン・美術の学習機会減少と相反する実践・実学志向に応じるため、本学はデザインと美術の障壁を取り払い、1学部2学科(造形学部デザイン科・造形美術科)から1学部1学科(芸術学部芸術学科)へと学科再編を行った。学科再編後、入学定員充足率はしばらく1.00倍前後で推移していたが、本学の専門研究に至る基礎技量の向上を目指す教育課程の編成と、デザインと美術を分断しない総合的な教育研究システムが社会に広く認知・評価された結果、また、その教育課程に基づいて志願者や学生の視点に立って学習環境の充実と改善のために日々様々な見直しを行った結果、本学への進学ニーズはますます高まりを見せ、近年、恒常的に入学定員充足率が1.00倍を超えている状況にある。

本学としては、アドミッション・ポリシーを満たす者の受入れ要請に応え、学びの機会を確保するという使命を有する一方で、入学定員充足率の適正化を図ることが求められ、現行の定員規模ではその調整が困難な状況が続いている。加えて、実践教育、実学教育を受けた学生に対する社会的なニーズはますます高まり、実践的学士課程教育を行う本学への進学ニーズの後押しになると考えられるため、現在の本学への進学ニーズの高まりは一過性のものではなく、学科再編時からの経年的な変化と捉えている。そのため、本学は滋賀県内唯一の芸術大学として、アドミッション・ポリシーを満たす者の受入れ要請に応え、学びの機会を確保する責務を果たすため、入学定員を変更する必要がある。

また、編入学においては学びのニーズが多様化しており、効果的・効率的に学習成果を得られるように体制整備をすることは本学の責務であり、一定数存在している非芸術系学部からの編入者に対して、本学の教育課程における専門基盤科目群を効果的・効率的に履修

させるためには、2年次編入学を開始する必要がある。

今般の学則変更においては、入学定員が285人であった学科再編前と同じ規模の施設を現在も有していることを踏まえ、教育の質と水準を維持しつつ社会の受入れ要請に対応すること、非芸術系学部からの編入学者に効果的・効率的な学習機会を提供することを目的に、入学定員については現行の200人から220人に変更すること、2年次編入学については新たに4人の定員を設けること、3年次編入学については10人から4人に定員を変更すること、その結果、収容定員を現行の820人から900人に変更することが必要であるため、学則を変更する。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

今般の学則変更(収容定員総数の増加)は、本学の実践的学士課程教育が社会に広く認知・評価された結果、本学への進学ニーズが高まりを見せている状況を踏まえて、アドミッション・ポリシーを満たす者の受入れ要請に応え、学びの機会を確保する責務を果たすこと、一定数存在している非芸術系学部からの編入学者に対して、効果的・効率的に学習成果を得られるように体制を整備する責務を果たすことが目的である。そのため、学習環境の充実と改善のために履修上の区分等をはじめとした継続的な見直しによって、教育の質は確保しているものと判断しており、社会に広く認知・評価されている現在の教育課程等の変更は計画していない。

(ア) 教育課程の変更内容

本学では、教育課程の基盤となる基本理念(教育理念)を定め、建学の精神、校訓、基本理念(教育理念)の下に人材育成目的、そしてそれを達成するためにディプロマ・ポリシー(学位授与方針)を定めており、ディプロマ・ポリシーに定めた人材育成の実現に向け、カリキュラム・ポリシーを定め、教育課程を編成している。

(1) 基本理念（教育理念）「芸術による社会への貢献」

私たち成安造形大学は、芸術分野における真摯な教育と研究を通して社会に貢献する。独自の実践的学士課程教育によって、発想力・提案力・技術力に優れた清廉な人材を育成する。そして、誇るべき永い伝統を全員が胸に抱き、新しき名門を目指す。

私たちは今、自らの文化や精神性を改めて深く認識し、それらをしっかり引き継ぐことを真剣に考えねばならない時代にある。芸術の果たす役割もますます大きくなっていくに違いない。その中で私たちは、芸術大学の今日的意義を模索し、あるべき姿を追い求める。そして、新たな芸術観の確立に向けて研鑽を重ね、公正なまなざしで自らの社会性を高め、創造性豊かな提案を続けていく。

私たちは、学びのクオリティーにこだわる。総合性と専門性を両立しうる高度なカリキュラムを準備するとともに、和気藹々（あいあい）と心地よく学べるゆきとどいた教育環境を整える。学生一人ひとりの個性としっかり向き合い、持てる力を大きく引き出す少人数教育を行う。

私たちは、造形に基づく叡智を開く。もののかたちづくりその過程において、多くを学び、心が生き生きする出会いの瞬間を見いだす。自然や素材と交わる経験を通して、学生たちが感性を大きく伸ばせる実践教育を行う。

私たちは、決して揺るがない。自らの芸術を実現し、高く成し遂げるための信念において揺るがない。なぜなら、本学には校訓「誠と熱」が脈々と息づいているからである。私たちは、私たちの起源であるその盤石の精神を継承し、さらに発展させ、学生たちに伝えていく。

私たちは、この場所から始めていく。この場所から生み出していく。学生たちとともに、多くの人々との交流と連携を進め、芸術の力で地域を活性化させる。そして私たちは、美しい湖国唯一の芸術大学であるという自負を携え、その熱き鼓動を世界に向けて響かせる。

（２）人材育成目的

建学の精神、校訓、及び基本理念（教育理念）の下、芸術分野の専門性と創造性（クリエイティビティ）に優れ、よりよき社会のあり方について主体的に考え行動することができる人材の育成を目的とする。（成安造形大学学則第2条の2 人材育成目的）

（３）ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

人材育成目的を実現するために、本学では、所定の課程を修め 124 単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、以下に示す資質・能力を修得した者に学位を授与する。

①実践力

専門分野をいかし、社会の中で実践することができる。

②創造力

専門分野における制作によって、獲得した知識・技能・態度等を総合的にいかし成果を提示できる。

③課題解決力

課題を正しく理解し、解決策を立て実行することができる。

④協働力

多様性の理解を深め、他者とともに行動し、集団や社会のために貢献することができる。

⑤主体的行動力

自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ誠意と熱意をもって行動することができる。

(4) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）で示した目標を達成できるように、以下の方針にもとづき教育課程を編成する。

- ①学修の順次性を明確にし、芸術分野における実践力、創造力、課題解決力、協働力、及び主体的行動力を養成するカリキュラムを構築する。
- ②1年前期・後期を《専門導入課程》、2年前期・後期、3年前期・後期を《専門基盤課程》、4年前期・後期を《専門研究課程》の3段階で編成する。各科目を「専門科目」と「学部共通科目」に分類する。
- ③学修成果を、各科目において掲げる学修目標への到達度により厳正に評価する。《専門研究課程》に進むにあたり、主体的に研究を行う能力の有無を見極める進級審査を実施する。
- ④導入教育を充実させて以後の学びを進めるために必要な汎用的基礎力（協働力及び主体的行動力）と課題解決力を養成し、またそれぞれが学ぶ専門分野と密接に結びついた創造力及び実践力を確立できる科目を設置する。
 - a. 「専門科目」では、課程に応じて「専門導入科目群」、「専門基盤科目群」、「専門研究科目群」の3つの段階で履修する。「専門導入科目群」では専門分野を修めるために必要不可欠な最低限の知識や技能を養うための実習科目と演習科目が、「専門基盤科目群」では各自の専門領域の基盤となる知識や技術を修得することで専門性を深く究めるための実習科目と演習科目がある。「専門研究科目群」ではゼミ段階的な履修や選択的な履修をもとに、各自の専門領域にかかわる知識や技術を広く修得することを通して、より高度な表現力や思考力を獲得するとともに、各自が主体的に自律的研究を進め、専門性を深く究めるための科目、卒業研究を設置している。
 - b. 「学部共通科目」は専門分野の研究やその後の進路を支える広範な学びを提供する科目で、「基礎科目群」、「応用科目群」、「教養科目群」、「社会実践科目群」の4つを大きな柱としている。

「基礎科目群」では、4年間の大学生活を自主的かつ円滑に進めるために必要な基礎的学力を身につけるスタートプログラム科目や芸術に対する認識の基盤となる理論の初歩を幅広く学び、広範な造形活動を支える芸術基礎科目、基本的な造形力

を幅広く身につけるファウンデーション科目で構成されている。

「応用科目群」では、広範な芸術活動の専門性を理論的、実践的に支え、各領域の専門基盤課程、専門研究課程において必要とされる専門的知識・技能を修得するための芸術応用科目を提供する。

「教養科目群」には幅広い視点から造形活動を捉えることができる資質を獲得するための教養科目、異文化コミュニケーション能力を身につけるための外国語科目がある。また、単位互換協定を締結した大学、短期大学の科目を受講することもできる。

「社会実践科目群」は、社会との関係のなかで自己を確認し、卒業後の自己実現のために寄与する科目群である。地域貢献・プロジェクト科目は、地域社会における実践的な学びで、課題解決力を養う科目である。また、キャリアデザイン科目は、段階的な学びにおいて各自の目標に合わせたキャリアデザインを構築するための科目である。

(5) 教育課程

このカリキュラム・ポリシーに基づいて教育課程は編成されており、ディプロマ・ポリシーに定めた5つの資質・能力(芸術分野における実践力・創造力・課題解決力・協働力・主体的行動力)の修得に向け、順次性に即してそれぞれの段階で必要な科目を配置し編成している。科目は、学生が所属する専門領域で学ぶ「専門科目」と芸術学部共通の科目である「共通教育センター科目(学部共通科目)」とに大別される。

「専門科目」は、「専門導入科目群」「専門基盤科目群」「専門研究科目群」の3つの段階で設置している。「専門導入科目群」では、専門分野を修めるための知識や技能を養うために必要不可欠な実習科目、演習科目を設置している。「専門基盤科目群」では各自の専門領域の基盤となる知識や技術を修得することで、各自の専門性を深く究めるための実習科目と演習科目を設置している。「専門研究科目群」ではゼミ段階的な履修や選択的な履修をもとに、各自の専門領域にかかわる知識や記述を広く修得することを通して、より高度な表現力や思考力を獲得するとともに、各自の専門性を深く究めてもらうための研究科目として、「卒業研究」を設置している。

また、科目の種別は、必修科目、指定科目(必修科目に準ずる科目)、選択科目で構成されている。必修科目は、卒業するために単位修得が必要な科目であり、各領域で指定しているスタンダードカリキュラムを学んだ後、最終学年で自分の専門分野の集大成として学ぶ科目である。

指定科目(必修科目に準ずる科目)は、芸術学を専門とする本学の学びを確実にするために必要な科目である。各領域(コース)の専門性を修得するために指定している科目と学びの質を保証する科目から構成しており、各学年で受講を指定している。なお、指定科目は「領域受講指定科目」、「学部共通受講指定科目」、「選択受講指定科目」に分かれており、「領域

受講指定科目」は領域の専門性を取得するために必要な科目であることから、各領域（コース）の専門的な内容をスタンダードカリキュラムとして受講指定している。「学部共通受講指定科目」は、本学の学びの質を保証する基礎的な要素を「大学入門」「学びの基礎」「社会貢献」として共通教育センターが受講科目を指定している。「選択受講指定科目」は、本学の学びの質を発展的に保証する要素として「芸術基礎」「芸術応用」「社会貢献」として共通教育センターが科目分類（芸術応用科目、芸術基礎科目、地域貢献・プロジェクト科目、キャリアデザイン科目）毎に必要な単位数を指定している。

選択科目は、芸術学の専門に関連する科目を自主的に選択して学べる科目であり、“幅広い教養”、“多文化・異文化理解とコミュニケーション”、“他大学の学び”をカテゴリーとして提供している。

（6）教育課程と2年次編入学

2年次編入学については、カリキュラム・ポリシーで定める専門基盤課程(2・3年次)の初めから編入学する形となる。これにより非芸術系学部からの志願者であっても、専門研究課程(4年次)に至るまでに修得しておくべき、教育課程に定める専門基盤科目群を、本来履修すべき年次に履修登録することが可能となり、各自の専門領域の基盤となる知識や技術を無理なく修得することが可能となる。そのため、2年次編入学を開始することに係る教育課程の変更は、必要としない。

「イ 学則変更（収容定員変更）の必要性」で述べたとおり、日々改善を行った結果として受験生や社会から現在の教育課程が評価されており、今後も維持・発展が可能な内容である。そのため、学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程の変更は行わず、今後も学習環境の充実と改善を継続することで、同等以上の内容が担保できるものと考えている。

（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容

本学では、ディプロマ・ポリシーに定めた人材育成の実現に向け、特色ある教育方法及び履修指導方法を展開している。

（1）教育方法

・履修制限

1単位における授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成されることが標準とされており、一定期間に受講できる授業科目の数は自ら一定の限界がある。そうしたことから、学生にとって適切な学修時間の確保のためには、過剰な授業科目の履修を防ぐ必要があることから、科目登録の上限を設定し、各年次にわたり適切に授業科目を履修するよう指導している。

なお、学期別に履修登録できる単位数は、【表2】のとおりである。

【表2】学期別に履修登録できる単位数

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
学期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	24	24	24	24	24	24	24	24

(登録単位数から除くもの)

1. 卒業要件に含まない科目 (学芸員課程科目、教職課程科目、二級建築士受験資格科目)
2. 単位互換事業による科目
3. プロジェクト科目
4. 集中講義による科目

・教養教育の実施

専門分野の研究やその後の進路を支える広範な学びを提供するため「共通教育センター」を設置し、専任の教育職員を配置している。「共通教育センター」が提供する科目は「共通教育センター科目(学部共通科目)」と称し、概ね4年間を通じて履修可能であるが、1年生で履修すべき基礎的な科目や2、3、4年生での履修が望ましい科目などがあり、それらはバランスよく科目・単位数を設定している。なお、「共通教育センター科目(学部共通科目)」は、以下の科目群で構成している。

(i) 基礎科目群

4年間の大学生活を自主的かつ円滑に進めるために必要な基礎的学力を身につけるスタートプログラム科目や芸術に対する認識の基盤となる理論の初歩を幅広く学び広範な造形活動を支える芸術基礎科目、所属する領域に関係なく、基本的な造形力を幅広く身につけるファウンデーション科目で構成している。

スタートプログラム科目、芸術基礎科目、ファウンデーション科目は1年生全員が学ぶ科目として設定している。

スタートプログラム科目には、充実した学生生活を送るために、大学での学び方を理解し、大学での生活に慣れ、意欲的に学生生活を送るための基礎作りとしての「大学入門」、領域での専門的な学修の基礎となる知識や技能を学び、グループディスカッションやワークショップを通してコミュニケーションの能力を高め、「スタディスキル実習」の科目がある。

芸術基礎科目には、芸術に対する認識の基盤となる理論の初歩を幅広く学び、広範な造形活動を支えるための「東洋・日本美術史概説A・B」「西洋美術史概説A・B」「デザイン史概説A・B」の科目がある。

ファウンデーション科目には、“描く”、“つくる”、“発想する”の3つの基本的なテーマに沿って、実技、講義、ワークショップ、発表、合評などで授業構成し、表現過程での工夫や発見を通して、視野を広げていく楽しさと柔軟な思考を養う「ファウンデーション実習A」とコンピュータの基礎を学ぶ「ファウンデーション実習B」の科目があり、各領域に所属する実技系教員が担当している。

(ii) 応用科目群

広範な芸術活動の専門性を理論的、実践的に支え、各領域の「専門基盤科目」、「専門研究課程」において必要とされる専門的知識・技能を修得するための「芸術応用科目」を開設している。

(iii) 社会実践科目群

社会との関係の中で自己を確認し、卒業後の自己実現のために寄与する科目群であり、実践的な知識・技術を活用し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力に優れた人材育成を目的とする地域貢献・プロジェクト科目、“自己分析・自己発見”、“社会を知る”ということを段階的に学ぶことにより、学生が各々の目標に合わせたキャリアデザインを構築するためのキャリアデザイン科目で構成している。

特に地域貢献・プロジェクト科目は、“結ぶ、つなげる、広げる”をテーマに、“学生・教員の教育、研究に貢献していること”、“連携先の社会活動に貢献していること”、“大学を含む地域社会全体に貢献していること”という3つの貢献を包括する事業をプロジェクトとして展開している。その中でも、学生の教育・研究に資する内容があるものについて、「プロジェクト演習」という科目名で、2単位を認定している。プロジェクト演習は「歴史・地域」「デザイン」「文化・芸術」「教育・福祉」「プロデュース」の5つのカテゴリーに分類している。また、学年ごとに学修目標を設定している。

また、本学が設置する附属研究機関である附属近江学研究所との連携による科目として「近江学A」「近江学B」「琵琶湖の民俗史」といった講義科目を開設し、近江に根ざした造形教育の導入として位置づけ展開している。

・主体的な学びのための教育上の工夫

本学では、芸術大学という特性から開学以来、ほとんどの実習科目で「合評」を取り入れている。合評では、学生が自ら制作した課題をプレゼンテーションした上で、教員が講評するだけでなく、他の学生からの感想や意見を聞くなどしている。領域によっては、科目単位でなく、学年を超え領域全体で合同合評を行い、同学年ではない学生と意見交換する機会を設けている。

・少人数教育

質の高い少人数教育を標榜する本学は、適正な規模で授業運営を行っている。特に、本学は演習・実習科目において受講者の多い場合や領域の新入生の人数により、20人から25人を一定の基準としてクラス分割を行っている。また、新入生を対象とした「ファウンデーション実習A」と「スタディスキル実習」については、基礎学力と造形基礎を学ぶ科目であるため、40人程度を1クラスとして行っている。「ファウンデーション実習B」のコンピュータ基礎については、入学時にコンピュータスキルに係るアンケートを実施し、初心者と初

級とに区分し、コンピュータ室のコンピュータ設置台数に合わせ 30 人又は 20 人程度を 1 クラスとして行っている。ただし、30 人で授業を行う場合は指導をスムーズにするため、アシスタントを配置している。4 年生のゼミについては、ゼミ担当者の専門領域をベースに開講し、学生に対してゼミの特色である専門領域（研究・制作）を明確にして、行き届いた指導をきめ細かく行うため 1 ゼミ 9 人程度を基準として行っている。

（２）履修指導方法

本学は「芸術による社会への貢献」を基本理念（教育理念）として教育研究を展開している。その中で、学生自らの興味・関心を引き出し、学生一人ひとりを個別で支援していく「成安パーソナルプログラム(SPP)」という教育システムを導入し、以下にあげる 4 項目を中心に、学生の夢の実現のため、本学が今日まで培ってきた「めんどろみの良さ」を強力に推進している。

・成安パーソナルプログラム（SPP）

1. 「個別」にこだわる。

少人数教育で学生一人ひとりとしっかり向き合い、適性或希望に合わせて、ていねいな指導を行う。

2. 「導入」で伸ばす。

1 年次を中心に充実した導入教育を用意し、授業を通して社会人に必要な基礎力が着実に身につくよう工夫する。

3. 「専門」を鍛える。

専門分野を自由に選んで学べるカリキュラムと、思う存分制作に打ち込める環境で自分の“専門性”をとことん追求する。

4. 「進路」と向き合う。

1 年次からキャリアサポートを実施し将来の目標に向かって、必要な力を積み重ねながら着実に進むことができる。

・GPA(Grade Point Average)の有効活用

GPA(Grade Point Average)を導入して学びの質を評価する指標を明確にできるようにし、学修指導、給付奨学生や特待生の適正審査の判断基準や退学勧告等に利用している。学修指導では、各学期の GPA が 1.5 未満の学生に対しては、個別に履修指導を行い、履修計画の見直しを行っている。また、学生の学習意欲(態度)を可視化できる資料として領域での学修指導にも活かしている。

なお、GPA の計算は、履修登録したすべての科目を対象にしており、単位を修得できなかった不合格科目も成績に加算している。ただし、履修を取り消した科目、認定科目と卒業要件対象外の資格課程必修科目は、算出対象から除いている。

$$\text{GPA} = \frac{\text{Sの修得単位数} \times 4.0 + \text{Aの修得単位数} \times 3.0 + \text{Bの修得単位数} \times 2.0 + \text{Cの修得単位数} \times 1.0}{\text{総履修登録単位数（「D」の単位数含む）}}$$

・履修登録ガイダンス・履修登録相談・個別履修相談会

本学では各学期初めに履修登録に関するガイダンスを実施し、これまでの学修状況をふりかえり、これからの履修計画を検討する機会を設けている。学年ごとに説明を行う全体ガイダンスと個別で授業内容や履修登録、学修について質問できる履修登録相談時間を設定している。

また履修登録ガイダンスの一環として、個別履修相談会を行っている。個別履修相談会では、これまでの成績評価において未修得科目がある学生やGPAが低い学生、教員が個別に指導が必要と判断した学生に対して、上記全体ガイダンスとは別に個別に時間を設定し、教員と面談をおこないこれからの履修指導を行う機会を設定している。対象学生は必ずこの相談会に出席し今後の履修指導を受ける。

・進級判定

1年次から2年次への進級と、3年次から4年次への進級については、進級判定を教務委員会で審議し、学長が決定している。決定した内容については学長から教授会にて報告している。なお、進級判定基準は以下のとおりで、学生には「学修案内シラバス」で周知している。

① 1年次から2年次への進級

以下の判定基準をすべて満たす必要がある。

- a) 領域受講指定科目（所属する領域が受講指定する専門導入科目及び芸術応用科目）の修得単位数が8単位以上であること。
- b) 総修得単位数が16単位以上であること。

② 3年次から4年次への進級

以下の判定基準をすべて満たす必要がある。

- c) 領域受講指定科目（所属する領域が受講指定する専門導入科目及び専門基盤科目、所属する領域が受講指定する芸術応用科目）の修得単位数が54単位であること。
- d) 総修得単位数が76単位以上であること。

※c)、d)の要件を充たさない場合は面接による審査を行う。ただし総修得単位数が75単位以下もしくは領域の専門科目及び芸術応用科目の修得単位数が43単位以下の場合は、書類審査のみで自動的に3年次留年とする。

(在学期間が2.5年で、領域受講指定科目(所属する領域が受講指定する専門導入科目及び専門基盤科目、所属する領域が受講指定する芸術応用科目)の修得単位数が44単位以上で、総修得単位数が52単位以上の場合を除く)

カリキュラム・ポリシーで定める専門導入課程(1年次)、専門基盤課程(2・3年次)、専門研究課程(4年次)という3段階で編成された各課程の節目に進級判定を設定することで、それぞれの課程における履修指導に活かすとともに、各課程での学びを確かなものとしている。

「イ 学則変更(収容定員変更)の必要性」で述べたとおり、日々改善を行った結果として受験生や社会から現在の教育方法及び履修指導方法が評価されており、今後も維持・発展が可能な内容である。そのため、学則変更(収容定員変更)に伴う教育方法及び履修指導方法の変更は行わず、今後も学習環境の充実と改善を継続することで、同等以上の内容が担保できるものと考えている。

(ウ) 教員組織の変更内容

今回の学則変更(収容定員変更)を行った場合においても、【表3】のとおり大学設置基準に規定される人数を上回る専任教員、教授を擁している。また、学則変更(収容定員変更)による教員1人に対する学生の増加は、0.5人以下の増加に留まり、きめ細かな教育の維持が十分可能であるため、教員組織の変更は行わず、教員の専門などのバランスに配慮し、十分な教育効果をあげるために必要な教員組織の編成に努めていくことで、定員変更後も同等以上の内容が担保できるものと考えている。

【表3】芸術学部芸術学科の職位別教員数

単位：人

専任教員等						兼任 教員等
教授	准教授	講師	助教	計	助手	
22	13	2	7	44	9	131

注. 基本計画書より引用

(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容

校地・校舎の現況は【表4】のとおりであり、学科再編前に入学定員285名を受入れていた頃の規模を維持している。基準面積から見ても、大学設置基準上必要とされている校地・校舎面積を十分に満たしている。

【表4】校地・校舎の面積

校地等	区分	専用
	校舎敷地	49,688.26 m ²
	運動場用地	3,131 m ²
	小計	52,819.26 m ²
	その他	2,535 m ²
	合計	55,354.26 m ²
校舎		20,668.1 m ²

注. 基本計画書より引用

また、芸術大学における実習環境は教育効果に大きく影響するため、実習施設は計10棟を整備し、領域及び学年ごとに実習室を設けている。原則、学生が課題や自主制作などを行えるように机・椅子もしくは制作スペースを学生一人ひとりに提供しており、制作だけでなくキャンパスライフを有意義に過ごすための拠り所となっている。また、領域によっては、その専門性や人数を考慮の上、独自のコンピュータールームを設置し、学修の利便性を図っている。前記以外に、ユーティリティに利用できる多目的室を2室、250人程度が収容できるホールを1室、プレゼンルームを1室、共通演習室を1室、デッサン室を3室、生涯学習センターを1室設けている。

講義室は、科目の受講者数に対応できるように、100人から150人程度収容できる中講義室を2教室、40人程度収容できる小講義室を6教室設けている。講義室は全て、机と椅子が可動式で、大画面のモニターを完備し、アクティブラーニングに対応できるようになっている。なお、中講義室1教室と小講義室5教室の側壁は、アクティブラーニングが促進されるよう展示ボードを設置している。また、学生が自主制作や課外活動などで有効に活用できるように、授業時間以外は届出のみで自由に使用できる。

実習室や講義室だけでなく、本学では様々な機器・機材が設置された施設についても、授業以外でも活用可能な体制を整えている。「クリエイティブサポート」は、学生・教職員の制作や研究から課外活動まで、機材・施設・技術面から支援するシステムであり、「情報メディアセンター」、「ファブリケーションcommons」、「造形ラボ」、「鉄工ラボ」、「版画ラボ」を5つの軸として設置し、多様なニーズに応えられるよう、専門スタッフが常駐し、制作へのアドバイスや技術的な質問、様々なトラブルへの対応を行っている。

なお、「クリエイティブサポート」の各施設では、学生の課外活動や日常生活における支援としての施設や機器の利用を認めている。例えば、クラブ・サークル活動における制作や、個展・グループ展などにおいても、施設での制作活動が行え、機材等の貸出や技術的なレファレンスも行っている。

また、本学では、Microsoft Office365 と Adobe CreativeCloud を全学生に無償で利用できるように提供している。これらソフトウェアの無償提供は学生の学修上、必要なツールとなっており、重要な役割を担っている。

「情報メディアセンター」は、コンピュータやカメラなどの情報機器を使用して行われる授業をはじめ、学生・教職員の制作や研究、課外活動までを、機材・施設・技術面から支援をしている。機材貸出や施設使用の手続などの窓口業務の他、それらの日常的なメンテナンスも行っている。なお、学生に無償で提供している Microsoft Office365 と Adobe CreativeCloud の管理とサポートも「情報メディアセンター」が行っている。また、写真・映像などの各分野に詳しい専門スタッフを配置し、技術的な質問や機材のトラブルなどにも対応している。こうして、学内の機材・施設の管理を一元化することから、それらを効率的に活用できるよう環境を整備し、その一方で蓄積したノウハウを学内の様々な研究・発表活動のサポートにも活かしている。なお、「情報メディアセンター」独自の活動として、メディアやアートを軸にした多様な講演会、ワークショップなどの企画も行っている。

また、施設の利用や機器の使用に関してライセンス制度を導入しており、「情報メディアセンター」が各コースの機材・施設を集中管理し、ライセンス制度に基づいた貸出を行うことにより、他コースの所有であってもライセンスを取得すれば自分の制作に必要な機材・施設を使用することができる。

「ファブリケーションcommons」は、3D プリンターやレーザー加工機、デジタル刺しゅうミシンといったデジタル工作機器を完備し、初めてデジタル工作機器に触れる学生でも作業できるよう、専門スタッフによる加工データ制作のアドバイスや、機器の使い方講習などのサポートを行っている。また、立体作品の制作だけでなく、プロトタイプ開発や雑貨づくりなど幅広い目的で様々な分野の学生、教員に利用されている。

STEAM 教育の台頭により初等から中等教育においても 3D プリンター導入やプログラミング授業が実施され、また市民に開かれた工房が全国各地に開設される等、デジタルファブリケーションによるモノづくりの一般化が進みつつある。さらにデジタルファブリケーションが浸透した社会においては、STEAM 教育における『Art』の面から芸術系大学が重要な役割を果たすことになり、本施設は学生の未来的思考によるモノづくりを見据えた、新たな研究・制作活動の場として機能している。

「造形ラボ」は、木工・樹脂・塗装の作業を行うための施設であり、常駐する技術スタッフの指導と安全管理の下、学生のものづくりサポートを行っており、学生が課題制作や自主制作に積極的に活用している。

「鉄工ラボ」は、金属加工に特化した実習施設であり、彫刻作品やオブジェの制作はもちろんのこと、家具や照明器具、ロートアイアン、工芸雑貨の制作など利用目的は様々であり、安全管理から授業のサポート、個別の指導まで、総合的な技術サポートを行っている。

「版画ラボ」は、版画教育、印刷実習の場として活用されている施設であり、木版画、銅版画、リトグラフ、シルクスクリーンといった 4 版種の研究とともに、印刷メディアに関する研究施設としての役割を担っている。

それぞれのラボの利用は、各ラボスタッフの監督の下であれば、所属領域や学年を問わず誰でも使用することができる。さらに、「造形ラボ」と「版画ラボ」については、それぞれ

のラボが発行するライセンスを取得することで、スタッフ不在の時間帯でも利用することが可能になる。

芸術の学習と研究を行うにあたっては、図書館の存在も欠かせないものである。附属図書館は、学生の制作や学習補助のため、一般図書に加え、美術、イラストレーション、空間デザイン、情報デザイン、地域学関連の図書や雑誌、視聴覚資料などを所蔵しており、閲覧室にある資料は自由に手に取ってみることができる。所蔵資料は、館内に設置してある検索用のコンピュータや、館外からも附属図書館 OPAC（蔵書検索システム）で検索することができる。

また、館内にある視聴覚ブースでは、ブルーレイや DVD 等を視聴することができる。視聴覚資料は開架し、学生がパッケージを手にとって選択できるようにしている。課題の調べものはもとより、制作のヒントや論文作成・研究など、学生の様々なニーズに応えられるよう、また「感性としての造形」から「知性としての造形」へと学生を導くよう蔵書を揃えている。図書資料の収集は、学生からの個別購入希望図書の申し込みや各領域からの購入希望図書を確認し、可能な限り要望に応えられるようにしている。また就職活動に役立つ資料、事（辞）典や図解・年鑑類も豊富に取り揃えている。またウェブサービスを導入し、学生はインターネット経由で図書資料の予約と利用状況を確認できる。

飲食施設としては食堂、購買部を設置し、学生の生活面での支援を行っている。食堂は、約 200 人が同時に食事を楽しむスペースを確保している。購買部では、制作に必要な教材・教具などが市価より安く購入できるとともに、軽食も販売している。

また、本学グラウンド南側にあるコミュニティスペース「結」は、平成 16 年に建築から内装まで本学の学生が主体となって、セルフビルド（自力建設）で完成させた施設であり、地元で有名なオーガニックのパン工房がテナントで営業し、広く一般にも開放しており、学生や教職員、地域の方たちの憩いの場となっている。地元のクレープ店が移動販売車により本学構内に月に数回出店し、スイーツを販売している。

体育施設としては成安体育館を設置し、体育の授業やクラブ・サークル活動以外にも、学生が大きな作品を制作する際の作業スペースとしても活用されている。

食堂に併設する形で学生ホールを設置している。シンクや壁面スクリーンを完備しており、自由に飲食やミーティング、大学行事や領域懇親会、各種親睦会などに利用されている。

その他、屋外施設として、グラウンドやイベント広場があり、学生が憩いの場として、また課題のモチーフとして、自由に活用している。

また、地域にも積極的に開放しており、キャンパス内は自由に散策でき、食堂なども自由に利用できるとともに、体育館やグラウンドなどは、地元のスポーツ少年団、講義室はそばん教室などの活動場所として提供している。

本学では情報インフラにも注力しており、光ファイバー幹線を平成 9 年から敷設し始め、無線 LAN などの学内の情報ネットワーク網を順次整備してきたが、幹線や各種機器の経年劣化に伴い令和 2 年度に大規模な情報ネットワークの再整備に着手し、大幅な利便性の向

上を図った。各棟間に光ファイバーケーブルを新たに引き直し、各棟内の LAN ケーブルも将来的な高速通信に耐えうる規格のものに交換した。また、講義室や実習室などほとんどの部屋に無線アクセスポイントを設置し、Wi-Fi 環境の充実を図った。これにより、学内 LAN はもちろん、学生や教職員に提供しているフリーWi-Fi も、ストレスなく利用できるようになった。

また、令和 3 年度からコロナ禍を踏まえた遠隔授業への対応や学修支援環境の整備を目的として、新入生全員を対象とするノートパソコン (MacBookAir) の 4 年間無償貸与制度を開始した。

これらのことから、収容定員の増加に係る学則変更には現状の施設・設備でも対応できる状況にあり、収容定員変更後も現状の施設・設備でこれまでと同等の教育の質の維持が可能であるため、学則変更 (収容定員変更) に伴う大学全体の施設・設備の変更内容は行わず、今後も学習環境の充実と改善を継続することで、定員変更後も同等以上の内容が担保できるものと考えている。

以上

教 育 課 程 等 の 概 要																
(芸術学部芸術学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
基礎 科目 群	スタート プログラム 科目	大学入門1	1前	1			○		2	1					【オムニバス】	
		大学入門2	1後	1			○		4						【オムニバス】	
		スタディスキル実習1	1前	1				○	2						【共担】	
		スタディスキル実習2	1前	1				○	2						【共担】	
		スタディスキル実習3	1後	1				○	2						【共担】	
		スタディスキル実習4	1後	1				○	2						【共担】	
	芸術 基礎 科目	東洋・日本美術史概説A	1前		2			○		1						
		東洋・日本美術史概説B	1後		2			○		1						
		西洋美術史概説A	1前		2			○		1						
		西洋美術史概説B	1後		2			○		1						
		デザイン史概説A	1前		2			○		1						
		デザイン史概説B	1後		2			○		1						
	ファ ウン デー シ ョ ン 科 目	ファウンデーション実習A1	1後		1				○	1	1		2		兼 8	
		ファウンデーション実習A2	1後		1				○	1	1		2		兼 8	
		ファウンデーション実習A3	1前		1				○	1	1		1		兼 9	
		ファウンデーション実習A4	1前		1				○	1	1		1		兼 9	
		ファウンデーション実習B1	1前		1				○				2			
		ファウンデーション実習B2	1後		1				○				2			
		ファウンデーション実習B3	1後		1				○						兼 1	
		ファウンデーション実習C1	1前		1				○				2			【共担・集中】
		ファウンデーション実習C2	1後		1				○	1			1			【共担・集中】
		プレファウンデーション実習1	1前		1				○	1						
	プレファウンデーション実習2	1前		1				○	1							
小計（23科目）		—	0	29	0	—			27	5	0	13	0	兼 35		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
応用科目群	芸術応用科目	総合デザイン概論	1・2前	2		○			5		1				【オムニバス】	
		イラストレーション概論	1・2前	2		○			1							
		イラストレーション論1	2前	2		○							兼	1		
		イラストレーション論2	2後	2		○			1							
		イラストレーション論3	3前	2		○			1	1						
		イラストレーション論4	3後	2		○			1							
		美術概論	1・2後	2		○				3				兼	3	【オムニバス】
		美術論1	2前	2		○				1				兼	1	
		美術論2	2後	2		○								兼	1	
		美術論3	3前	2		○				1						
		美術論4	3後	2		○				1						
		情報デザイン概論	1・2後	2		○				5	1			兼	1	【オムニバス】
		情報デザイン論1	2・3前	2		○								兼	1	
		情報デザイン論2	2・3後	2		○								兼	1	
		情報デザイン論3	2・3後	2		○					1			兼	1	
		情報デザイン論4	2・3前	2		○				1						
		空間デザイン概論	1・2後	2		○				1	2			兼	1	【オムニバス】
		空間デザイン論1	2・3後	2		○								兼	1	
		空間デザイン論2 A	2・3前	2		○					1					【隔年】
		空間デザイン論2 B	2・3前	2		○								兼	1	【隔年】
		空間デザイン論2 C	2・3前	2		○								兼	1	【隔年】
		空間デザイン論2 D	2・3前	2		○					1					【隔年】
		空間デザイン論2 E	2・3前	2		○				1						【隔年】
		空間デザイン論2 F	2・3前	2		○					1					【隔年】
		美術理論	2・3前	2		○								兼	1	
		現代デザイン論A	2・3前	2		○					1					
		現代デザイン論B	2・3後	2		○					1					
		現代美術論A	2・3後	2		○								兼	1	【隔年】
		現代美術論B	2・3後	2		○								兼	1	【隔年】
		絵画材料学	2・3後	2		○								兼	1	
		メディアアート概論	2・3前	2		○					1					
		日本美術史A	2・3・4前	2		○								兼	1	【隔年】
		日本美術史B	2・3・4後	2		○					1					【隔年】
		西洋美術史A	2・3・4前	2		○					1					
		西洋美術史B	2・3・4後	2		○					1					
		日本建築史	2・3・4前	2		○								兼	1	【隔年】
		西洋建築史	2・3・4前	2		○								兼	1	【隔年】
		工芸史	2・3・4後	2		○								兼	1	【隔年】
		図法演習	2・3・4後	2				○						兼	1	
		色彩演習	2・3前	2				○						兼	1	
		人体表現演習	3後	2				○						兼	1	
		彫刻演習	2・3前後	2				○						兼	1	【集中】
		工芸演習	2・3前後	2				○						兼	1	【集中】
		絵画演習	2・3前後	2				○			1					【集中】
		デザイン演習	2・3前後	2				○			2					【オムニバス・集中】
		舞台美術演習	1・2・3・4前	2				○				1				【集中】
		芸術鑑賞A	1・2・3・4前	2		○					1					【隔年】
		芸術鑑賞B	1・2・3・4後	2		○					1					【隔年】
		特別講義1	2・3・4前	1		○					1					【集中】
		特別講義2	2・3・4前	1		○					1			兼	1	【集中】
特別講義3	2・3前	1		○					1			兼	2	【集中】		
特別講義4	1・2・3・4後	1		○					1			兼	1	【集中】		
特別講義5	1・2・3・4前	1		○					1			兼	1	【集中】		
特別講義6	1・2・3・4後	1		○					1			兼	1	【集中】		
美術科教育法1	2前	2		○					1							
美術科教育法2	2後	2		○					1							
美術科教育法3	3前	2		○					1							
美術科教育法4	3後	2		○					1							
2級建築士受験資格科目	住居と法律	2・3・4前			1	○				1				【隔年】		
	建築施工	2・3・4前			1	○				1				【隔年】		
	建築構造演習1	2・3・4後			2		○					兼	1	【隔年】		
	建築構造演習2	2・3・4後			2		○					兼	1	【隔年】		
	住宅一般構造	2・3・4前			2	○						兼	1	【隔年】		
住居・住宅論	2・3・4前			3	○						兼	1	【隔年】			

	小計 (64科目)	-	0	110	11	-	35	19	1	0	0	兼 36
--	-----------	---	---	-----	----	---	----	----	---	---	---	------

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目群	教養科目	自然科学概論A	2・3・4前	2		○								兼 1	【隔年】	
		自然科学概論B	2・3・4後	2		○								兼 1	【隔年】	
		自然科学概論C	2・3・4前	2		○								兼 1	【隔年】	
		自然科学概論D	2・3・4後	2		○								兼 1	【隔年】	
		社会学A	2・3・4前	2		○								兼 1	【隔年】	
		社会学B	2・3・4前	2		○								兼 1	【隔年】	
		現代社会論A	2・3・4前	2		○								兼 1	【隔年】	
		現代社会論B	2・3・4前	2		○								兼 1	【隔年】	
		法学〔日本国憲法〕	1・2・3・4前	2		○								兼 1	【集中】	
		人権教育	2・3前	2		○			1							
		哲学A	1・2・3・4前	2		○			1							
		哲学B	1・2・3・4後	2		○			1							
		宗教学A	1・2・3・4後	2		○			1							
		宗教学B	1・2・3・4前	2		○			1							
		文化人類学A	2・3・4後	2		○								兼 1	【隔年・集中】	
		文化人類学B	2・3・4後	2		○								兼 1	【隔年・集中】	
		文化史A	2・3・4後	2		○			1							【隔年】
		文化史B	2・3・4後	2		○			1							【隔年】
		心理学A	1・2・3・4前	2		○			1							
		心理学B	1・2・3・4後	2		○			1							
		深層芸術心理学A	2・3前	2		○			1							【隔年】
		深層芸術心理学B	2・3後	2		○			1							【隔年】
		考古学A	1・2・3・4前	2		○								兼 1	【隔年】	
		考古学B	1・2・3・4前	2		○								兼 1	【隔年】	
		美学A	2・3・4前	2		○								兼 1	【隔年】	
		美学B	2・3・4前	2		○								兼 1	【隔年】	
		人間関係実習A	1・2・3・4前	1					○	1						【集中】
		人間関係実習B	1・2・3・4前	1					○	1						【集中】
		健康体力論	1・2・3・4前	2		○								兼 1	【集中】	
		スポーツ実習A	1・2・3・4後	1					○					兼 1		
		スポーツ実習B	1・2・3・4前後	1					○					兼 1		
		スポーツ実習C	1・2・3・4前後	1					○					兼 1		
		スポーツ実習D	1・2・3・4前	1					○					兼 1		
	スポーツ実習E	1・2・3・4後	1					○					兼 1			
	外国語科目	英語入門Ⅰ	1・2前	1				○	1							
		英語入門Ⅱ	1・2後	1				○	1							
		英語A	1・2・3・4前後	1				○		1						
		英語B	1・2・3・4前後	1				○		1						
		英語C	1・2・3・4前後	1				○	2						【隔年】	
		英語D	1・2・3・4前後	1				○	2	1					【隔年】	
		英語E	1・2・3・4前後	1				○	2	1					【隔年】	
		英語F	1・2・3・4前後	1				○	2	1					【隔年】	
		英語G	1・2・3・4後	1				○		1						
		英会話A	1・2・3・4前	1				○		1					【隔年】	
		英会話B	1・2・3・4後	1				○		1					【隔年】	
		英会話C	1・2・3・4前	1				○		1					【隔年】	
		英会話D	1・2・3・4後	1				○		1					【隔年】	
		英会話E	1・2・3・4前	1				○		1						
		日本語A	1前	1				○						兼 1		
		日本語B	1後	1				○						兼 1		
		日本語C	2前	1				○						兼 1		
		日本語D	2後	1				○						兼 1		
小計(52科目)		—	—	0	79	0	—	—	23	11	0	0	0	兼 25		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
社会 実践 科目 群	地域 貢献 ・ プロ ジェ クト 科目	コミュニティデザイン概論	2前	2		○			1	1					兼 1	【隔年】	
		コミュニティデザイン論1	2・3・4後	2		○									兼 1	【隔年】	
		コミュニティデザイン論2	2・3・4後	2		○									兼 1	【集中】	
		琵琶湖の民俗史	1・2・3・4後	2		○			1							兼 1	【隔年・集中】
		近江学A	1・2・3・4前	2		○			1							兼 1	【隔年・集中】
		近江学B	1・2・3・4前	2		○			1							兼 1	【隔年・集中】
		エコロジーと社会	2・3・4後	2		○										兼 1	
		プロジェクト演習1A	1通年	2				○		1						兼 1	
		プロジェクト演習1B	1通年	2				○		1							
		プロジェクト演習1C	1通年	2				○			4						
		プロジェクト演習1D	1通年	2				○			1						
		プロジェクト演習1E	1通年	2				○			3						
		プロジェクト演習2A	2通年	2				○		3	1					兼 1	
		プロジェクト演習2B	2通年	2				○		4	1						
		プロジェクト演習2C	2通年	2				○			4						
		プロジェクト演習2D	2通年	2				○			1						
		プロジェクト演習2E	2通年	2				○		2	3						
		プロジェクト演習3A	3通年	2				○		3	1					兼 1	
		プロジェクト演習3B	3通年	2				○		4	1						
		プロジェクト演習3C	3通年	2				○		1	4					兼 1	
	プロジェクト演習3D	3通年	2				○			1							
	プロジェクト演習3E	3通年	2				○		2	3							
	プロジェクト演習4A	4通年	2				○		3	1					兼 1		
	プロジェクト演習4B	4通年	2				○		4	1							
	プロジェクト演習4C	4通年	2				○		1	4					兼 1		
	プロジェクト演習4D	4通年	2				○			1							
	プロジェクト演習4E	4通年	2				○		2	3							
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン 科 目	キャリアデザイン概論1	1前	1			○			1							
		キャリアデザイン概論2	1後	1			○			1							
		キャリアデザイン論A	2・3前	2			○			1							
		キャリアデザイン論B	2・3後	2			○			2	2						【オムニバス】
		就業力育成論1	2前	1			○			1							
		就業力育成論2	2後	1			○			1							
		就業力育成論3	3前	1			○			1							
		就業力育成論4	3後	1			○			1							
		就業力育成演習A	2前	2				○			1						
		就業力育成演習B	2後	2				○			1						
		就業力育成演習C	3前	2				○			1						
		就業力育成演習D	3後	2				○			1						
		ポートフォリオ演習	2後	2				○			1						
		インターンシップA	2・3前	2							1						
		インターンシップB	3前	2							1						
コンピュータ実践講座A		1・2・3・4前後	1						○	1							
コンピュータ実践講座B		1・2・3・4前後	1						○	1							
英語実践講座A	1・2・3・4前後	1						○	1								
英語実践講座B	1・2・3・4前後	1						○	1								
英語実践講座C	1・2・3・4前後	1						○	1								
色彩実践講座A	1・2・3・4前後	1						○	1								
色彩実践講座B	1・2・3・4前後	1						○	1								
小計(49科目)		—	0	85	0	—	—	—	46	53	0	0	0	兼 11			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教		助 手		
専門 導入 科目 群	専門 導入 科目	基礎造形実習 1 A	1前後	2				○		1				兼 3	【共担】	
		基礎造形実習 2 A	1前	2				○		1				兼 1	【共担】	
		基礎造形実習 3 A	1前後	2				○	1					兼 1		
		基礎造形実習 4 A	1後	2				○	1					兼 1		
		基礎造形実習 2 B	1前後	2				○	1	1				兼 1		
		基礎造形実習 4 B	1前後	2				○						兼 2		
		基礎造形実習 3 C	1後	2				○	1					兼 3	【オムニバス】	
		基礎造形実習 4 C	1後	2				○	1					兼 3	【オムニバス】	
		基礎造形実習 1 D	1前後	2				○	1					兼 1		
		基礎造形実習 2 D	1前後	2				○	1					兼 1		
		基礎造形実習 4 D	1前後	2				○				1				
		基礎造形実習 1 E	1前	2				○	1					兼 1	【共担】	
		基礎造形実習 2 E	1前	2				○	1					兼 1	【共担】	
		基礎造形実習 3 E	1後	2				○	1	1					【共担】	
		総合デザイン基礎演習 1	1前	2				○	1							
		総合デザイン基礎演習 2	1後	2				○	1							
		イラストレーション基礎演習 1	1後	2				○	1					兼 1		
		イラストレーション基礎演習 2	1前	2				○						兼 1		
		美術基礎演習 1	1前	2				○	1		1			兼 1	【共担】	
		美術基礎演習 2	1後	2				○	1					兼 1	【共担】	
		情報デザイン基礎演習 1	1前後	2				○	2					兼 1	【オムニバス】	
		情報デザイン基礎演習 2	1前後	2				○	1					兼 1	【共担】	
		空間デザイン基礎演習 1	1前後	2				○	1		1			兼 1	【共担】	
		空間デザイン基礎演習 2	1後	2				○	1							
		地域実践学入門 1	1前	2				○	1							
		地域実践学入門 2	1後	2				○	1							
		地域実践基礎演習 1	1前	2				○	1		1					
		地域実践基礎演習 2	1前	2				○	1							
		地域実践基礎演習 3	1後	2				○	1							
		地域実践基礎演習 4	1後	2				○	1							
小計 (30科目)		—	0	60	0	—	—	14	15	1	2	0	兼 25			
専門 基盤 科目 群	専門 基盤 科目	総合デザイン演習 1	2前	2				○	1							
		総合デザイン演習 2	2前	2				○			1					
		総合デザイン演習 3	2後	2				○						兼 1		
		総合デザイン演習 4	2後	2				○						兼 1		
		総合デザイン演習 5	3前	2				○			1					
		総合デザイン演習 6	3前	2				○	1							
		総合デザイン演習 7	3後	2				○			1					
		総合デザイン演習 8	3後	2				○	1							
		総合デザイン実習 1	2後	2				○						兼 1		
		総合デザイン実習 2	3前	2				○						兼 1		
		総合プロジェクト演習 1	1・2・3前後	2				○	1							
		総合プロジェクト演習 2	1・2・3前後	2				○	1							
		総合プロジェクト演習 3	1・2・3前後	2				○	1							
		総合プロジェクト演習 4	1・2・3前後	2				○	1							
		総合プロジェクト演習 5	1・2・3前後	2				○	1							
		イラストレーション演習 1	2後	2				○						兼 1		
		イラストレーション演習 2	2前後	2				○						兼 1		
		イラストレーション演習 3	2前後	2				○						兼 1		
		イラストレーション演習 4	2前	2				○	2	1					【オムニバス】	
		イラストレーション演習 5	3前	2				○						兼 1		
		イラストレーション演習 6	3前	2				○						兼 2		
		イラストレーション演習 7	3後	2				○	1					兼 1		
		イラストレーション演習 8	3後	2				○	4	3						
		イラストレーション実習 1-a	2前	2				○	1		1					
		イラストレーション実習 1-b	2前	2				○						兼 2		
		イラストレーション実習 1-c	2前	2				○		1				兼 1		
		イラストレーション実習 1-d	2後	2				○	1							
イラストレーション実習 1-e	2前	2				○		1								
イラストレーション実習 1-f	2前	2				○		1								
イラストレーション実習 1-g	2前	2				○	1									
イラストレーション実習 1-h	2前	2				○	1									
イラストレーション実習 1-i	2前	2				○						兼 1				

専門基盤科目群

専門基盤科目

イラストレーション実習 2-a	2後	2				○			1			
イラストレーション実習 2-b	2後	2				○					兼	1
イラストレーション実習 2-c	2後	2				○			1		兼	1
イラストレーション実習 2-d	2前	2				○					兼	1
イラストレーション実習 2-e	2後	2				○					兼	1
イラストレーション実習 2-f	2後	2				○		1				
イラストレーション実習 2-g	2後	2				○					兼	1
イラストレーション実習 2-h	2後	2				○					兼	2
イラストレーション実習 2-i	2後	2				○					兼	1
イラストレーション実習 3-a	3後	2				○	1					
イラストレーション実習 3-b	3前	2				○					兼	1
イラストレーション実習 3-c	3前	2				○		2				
イラストレーション実習 3-d	3前	2				○	1					
イラストレーション実習 3-e	3前	2				○		1			兼	1
イラストレーション実習 3-f	3前	2				○					兼	1
イラストレーション実習 3-g	3前	2				○					兼	1
イラストレーション実習 3-h	3前	2				○	1					
イラストレーション実習 3-i	3前	2				○					兼	1
イラストレーション実習 4-a	3前	2				○			1			
イラストレーション実習 4-b	3後	2				○					兼	1
イラストレーション実習 4-c	3後	2				○		1	1			
イラストレーション実習 4-d	3後	2				○	1					
イラストレーション実習 4-e	3後	2				○		1				
イラストレーション実習 4-f	3後	2				○		1				
イラストレーション実習 4-g	3後	2				○		1				
イラストレーション実習 4-h	3後	2				○		1				
イラストレーション実習 4-i	3後	2				○					兼	1
イラストレーション実習 5	2・3前後	2				○					兼	1
イラストレーション実習 6	2・3後	2				○					兼	1
イラストレーション実習 7	2・3前	2				○					兼	1
イラストレーション実習 8	2・3前後	2				○					兼	1
イラストレーション実習 9	2・3前後	2				○					兼	1
イラストレーション実習 10	2・3前後	2				○					兼	1
美術演習 1	2前	2				○		1				
美術演習 2-a	2前	2				○		1				
美術演習 2-b	2前	2				○	1					
美術演習 2-c	2前	2				○					兼	1
美術演習 3	2後	2				○		1			兼	1
美術演習 4-a	2後	2				○		1				
美術演習 4-b	2後	2				○		1				
美術演習 4-c	2後	2				○		1				
美術演習 5-a	2前	2				○					兼	1
美術演習 5-b	2前	2				○		1				
美術演習 5-c	2前	2				○		1				
美術演習 6-a	2後	2				○					兼	1
美術演習 6-b	2後	2				○	1					
美術演習 6-c	2後	2				○					兼	1
美術演習 7-a	3前	2				○					兼	1
美術演習 7-b	3前	2				○		1				
美術演習 7-c	3前	2				○					兼	1
美術演習 8-a	3後	2				○					兼	1
美術演習 8-b	3後	2				○					兼	1
美術演習 8-c	3後	2				○	1					
美術実習 1-a	2前	2				○		1				
美術実習 1-b	2前	2				○	1					
美術実習 1-c	2前	2				○		1				
美術実習 2-a	2前	2				○					兼	1
美術実習 2-b	2前	2				○		1				
美術実習 2-c	2前	2				○					兼	1
美術実習 3-a	2後	2				○		1				
美術実習 3-b	2後	2				○	1					
美術実習 3-c	2後	2				○		1				

【共担】

【共担】

専門基盤科目群	専門基盤科目	美術実習 4-a	2後	2	○			兼 1
		美術実習 4-b	3前	2	○			兼 1
		美術実習 4-c	2後	2	○			兼 1
		美術実習 5-a	3前	2	○			兼 1
		美術実習 5-b	3前	2	○	1		
		美術実習 5-c	3前	2	○			兼 1
		美術実習 6-a	3前	2	○		1	
		美術実習 6-b	2後	2	○	1		
		美術実習 6-c	3前	2	○			兼 1
		美術実習 7-a	3後	2	○		1	
		美術実習 7-b	3後	2	○			兼 1
		美術実習 7-c	3後	2	○			兼 1
		美術実習 8-a	3後	2	○			兼 1
		美術実習 8-b	3後	2	○		1	
		美術実習 8-c	3後	2	○			兼 1
		情報デザイン演習 1-a	2後	2	○		1	
		情報デザイン演習 1-b	2前	2	○			兼 1
		情報デザイン演習 1-c d	2前	2	○			兼 1
		情報デザイン演習 2-a b	2前	2	○			兼 1
		情報デザイン演習 2-c	2後	2	○		1	
		情報デザイン演習 2-d	2後	2	○		1	
		情報デザイン演習 3	3前	2	○		1	
		情報デザイン演習 4-a	2前	2	○			兼 1
		情報デザイン演習 4-b c d	2前後	2	○		1	
		情報デザイン演習 5-a	3後	2	○			兼 1
		情報デザイン演習 5-b	3後	2	○			兼 1
		情報デザイン演習 5-c d	3後	2	○		1	
		情報デザイン演習 6-a d	3後	2	○		1	
		情報デザイン演習 6-b	3後	2	○		1	
		情報デザイン演習 6-c	3後	2	○		1	
		情報デザイン演習 7	3前	2	○			兼 1
		情報デザイン演習 8	2後	2	○		1	兼 1
		情報デザイン実習 1-a b d	2前	2	○		1	兼 1
		情報デザイン実習 1-c	2前	2	○		1	
		情報デザイン実習 2-a	2後	2	○			兼 1
		情報デザイン実習 2-b c	2後	2	○		1	
		情報デザイン実習 2-d	2前	2	○		1	
		情報デザイン実習 3-a c d	2前後	2	○			兼 1
		情報デザイン実習 3-b	2後	2	○			兼 1
		情報デザイン実習 4-a b d	2前後	2	○		1	
情報デザイン実習 4-c	2後	2	○			兼 1		
情報デザイン実習 5-a	3前	2	○			兼 1		
情報デザイン実習 5-b	3後	2	○			兼 1		
情報デザイン実習 5-c d	3後	2	○		1			
情報デザイン実習 6-a	3後	2	○		1			
情報デザイン実習 6-b	3後	2	○		1			
情報デザイン実習 6-c d	3前	2	○		1			
情報デザイン実習 7-a c	3前	2	○		2			
情報デザイン実習 7-b	3前	2	○		1			
情報デザイン実習 7-d	3前	2	○			兼 1		
情報デザイン実習 8-a b d	3前後	2	○			兼 1		
情報デザイン実習 8-c	3後	2	○		1			
空間デザイン演習 1-a	2前	2	○			兼 1		
空間デザイン演習 1-b	2前	2	○			兼 1		
空間デザイン演習 1-c	2前	2	○		1			
空間デザイン演習 2-a	2前	2	○		1			
空間デザイン演習 2-b	2前	2	○			兼 1		
空間デザイン演習 2-c	2前	2	○		1			

【共担】

		空間デザイン演習 3-a	2後	2		○											兼	1	
		空間デザイン演習 3-b	2後	2		○			1										
		空間デザイン演習 3-c	2後	2		○											兼	1	
		空間デザイン演習 4-a	2後	2		○											兼	1	
		空間デザイン演習 4-b	2後	2		○			1										
		空間デザイン演習 4-c	2後	2		○											兼	1	
		空間デザイン演習 5	3前	2		○			1										
		空間デザイン演習 6-a	3前	2		○											兼	1	
		空間デザイン演習 6-b	3前	2		○											兼	1	
		空間デザイン演習 6-c	3前	2		○			1										
		空間デザイン演習 7	3後	2		○			1										
		空間デザイン演習 8-a	3後	2		○											兼	1	
		空間デザイン演習 8-b	3前	2		○											兼	1	
		空間デザイン演習 8-c	3後	2		○											兼	1	
		空間デザイン実習 1-a	2前	2		○											兼	1	
		空間デザイン実習 1-b	2前	2		○			1										
		空間デザイン実習 1-c	2前	2		○											兼	1	
		空間デザイン実習 2-a b	2前	2		○			1								兼	1	
		空間デザイン実習 2-c	2前	2		○			1										
		空間デザイン実習 3-a	2後	2		○											兼	1	
		空間デザイン実習 3-b	2後	2		○											兼	1	
		空間デザイン実習 3-c	2後	2		○											兼	1	
		空間デザイン実習 4-a b	2後	2		○			1								兼	1	
		空間デザイン実習 4-c	2後	2		○			1										
		空間デザイン実習 5-a	3前	2		○											兼	1	
		空間デザイン実習 5-b	3前	2		○											兼	1	
		空間デザイン実習 5-c	3前	2		○											兼	1	
		空間デザイン実習 6-a b	3前	2		○			1								兼	1	
		空間デザイン実習 6-c	3前	2		○			1										
		空間デザイン実習 7-a	3後	2		○											兼	1	
		空間デザイン実習 7-b	3後	2		○			1										
		空間デザイン実習 7-c	3後	2		○				1									
		空間デザイン実習 8-a	3後	2		○				1									
		空間デザイン実習 8-b	3後	2		○				1									
		空間デザイン実習 8-c	3後	2		○											兼	1	
		地域実践学 1	2前	2		○											兼	1	
		地域実践学 2	2後	2		○											兼	1	
		地域実践学 3	3前	2		○							1						
		地域実践学 4	3後	2		○							1						
		地域実践演習 1	2前	2		○			1										
		地域実践演習 2	2前	2		○			1										
		地域実践演習 3	2後	2		○			1								兼	1	
		地域実践演習 4	2後	2		○			1								兼	1	
		地域実践演習 5	3前	2		○			1	1									
		地域実践演習 6	3前	2		○			1	1									
		地域実践演習 7	3後	2		○			1	1									
		地域実践演習 8	3後	2		○			1	1									
		地域実践プロジェクト演習 1	2前後	2		○			1										
		地域実践プロジェクト演習 2	2前後	2		○			1										
		地域実践プロジェクト演習 3	3前後	2		○			1										
		地域実践プロジェクト演習 4	3前後	2		○			1										
専門 研究 科目	専門研究科 目	卒業研究 1	4前	4		○			15	9	1						兼	2	
		卒業研究 2	4後	6		○			15	9	1						兼	2	【共担】
		小計 (205科目)	-	10	406	0	-		95	74	9	3	0				兼	107	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学芸員課程に関する科目	必修科目 博物館教育論 博物館情報・メディア論 生涯学習概論 博物館概論 博物館資料論 博物館資料保存論 博物館経営論 博物館展示論 博物館実習1 博物館実習2 博物館実習3	学芸員課程2後		2		○								兼1	【集中】		
		学芸員課程2後		2		○								兼1	【集中】		
		学芸員課程1後		2		○			1								
		学芸員課程1後		2		○			1								
		学芸員課程2後		2		○			1								
		学芸員課程3前		2		○			1								
		学芸員課程3後		2		○									兼1		
		学芸員課程2前		2		○									兼1		
		学芸員課程3前		1					○	1							
		学芸員課程3後		1					○	1							
学芸員課程4前		1					○	1									
教科及び教科の指導法に関する科目等	目的教育の理解の基礎 教育原理 教科の理解の基礎 教育制度論 教育心理学 特別支援教育論 道徳教育論 教育方法及び総合的な学習の時間の指導法 教育課程・特別活動論 教育現場でのICT活用 生徒指導・進路指導論 教育相談 教育実習事前事後指導 教育実習A 教育実習B 教職実践演習(中・高) 現場体験活動1 現場体験活動2	教職課程2後		2		○								兼1			
		教職課程1後		2		○			1								
		教職課程1後		2		○			1								
		教職課程2前		2		○			1								
		教職課程2前		2		○									兼1		
		教職課程3前		2		○			1						兼1		
		教職課程2後		2		○									兼1		
		教職課程2後		2		○									兼1		
		教職課程2前		1					○	1							
		教職課程3前		2		○									兼1		
教職課程3後		2		○				1									
教職課程3前		1					○	2						【共担】			
教職課程4前		2					○	2						【共担】			
教職課程4後		2					○	2						【共担】			
教職課程4後		2					○	2						【共担】			
教職課程3前		1					○	1									
教職課程3後		1					○	1									
小計(28科目)				0	49	0			23	0	0	0	0	兼9			
合計(451科目)				10	818	11			263	177	11	18	0	兼248			
学位又は称号		学士(芸術学)			学位又は学科の分野			芸術									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
卒業に必要な単位数は、次の各号に定めるところにより、124単位以上とする。 (1) 専門研究科目群の10単位を修得する。 (2) 専門導入科目群、専門基礎科目群、基礎科目群、応用科目群、社会実践科目群、教養科目群より114単位以上を修得する。								1学年の学期区分					2期				
								1学期の授業期間					14週				
								1時限の授業時間					100分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとす場合は、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1)学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
① 学生の確保の見通し	2
ア 定員充足の見込み	2
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	6
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	9
(2)人材需要の動向等社会の要請	11
①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	11
②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	12

(1)学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

- ・入学定員、編入学定員設定の考え方

入学定員

平成 28 年以降、入学定員超過率が 1.00 倍を超えることが常態化していること、本学のアドミッション・ポリシーを満たす者の受入れ要請に応え学びの機会を確保する責務があること、本学への入学志願状況、全国的な芸術系学部への進学状況、本学が滋賀県内唯一の芸術大学であるという滋賀県の高等教育機関の立地状況などを慎重に検討したとき、本学への進学ニーズは今後も高い水準で推移するものと推察されることから、滋賀県内唯一の芸術大学である本学に課せられた使命を全うするため入学定員を現行の 200 人から 220 人に変更する。

編入学定員

編入学など学びのニーズが多様化しており、編入学者が効果的・効率的に学習成果を得られるようにすることは本学の責務であり、一定数存在している非芸術系学部からの編入学者について、編入学後の科目履修が円滑に行え、他の学生と同様の年限で卒業要件を満たすことが可能となる 2 年次編入学定員を新たに 4 人設けること、一方で、従来の 3 年次編入学定員についても一定のニーズがあることに鑑み、現行の 10 人から 6 人減じて 4 人に変更して存続させることとする。

・定員を充足する見込み

入学定員、編入学定員、収容定員総数変更によって学生充足が可能か、入学志願動向や将来予測、社会・地域情勢等から検討を行なった。

入学定員と入学志願動向

本学の過去 5 年間の入学志願動向について調査した。【表 1】のとおり、志願者数は 700 人前後で安定的に推移している。入学定員充足率が 1.00 倍を上回ることが常態化している状況を踏まえて、本学では過去の歩留率の実績に基づいて合格者を減じていく形で適正化をはかる努力を行なっている。一方で、歩留率は上昇傾向で推移している。結果的に、入学定員充足率及び収容定員充足率の超過状態は改善傾向にあるものの、歩留率上昇の影響により依然、超過状態は続いている。この現状からは、定員管理の適正化の観点では十分な状況とは言えないが、定員を充足する見込みという観点では、十分に見込みは立っているものと判断している。

【表1】芸術学部の過去5年間の入学志願動向

入試年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入学定員(人)	200	200	200	200	200
志願者数(人)	743	727	698	721	691
受験者数(人)	737	709	675	404	459
合格者数(人)	515	414	422	373	345
辞退者数(人)	68	54	58	49	50
入学者数(人)	239	235	234	230	221
志願倍率	3.71	3.63	3.49	3.60	3.45
歩留率	46.4%	56.8%	55.5%	61.7%	64.1%
入学定員充足率	1.19	1.17	1.17	1.15	1.10

学校法人基礎調査から抜粋

令和3年度より総合選抜型入試を実施。志願者数にはエントリー者数を加えている

志願倍率は、志願者数/定員（小数点第3位を切り捨て）

歩留率は、入学者数/合格者数

入学定員充足率は、入学者数/定員（小数点第3位を切り捨て）

編入学定員と入試動向

3年次編入学については【表2】のとおり、志願者数は年度によりばらつきがある。令和元年度から外国人留学生の編入学志願者数が増加していたが、志願者に占める外国人留学生の割合の多さに起因して、令和4年度には新型コロナウイルス感染症の影響で志願者数が減少した。今後、新型コロナウイルス感染症が収束に向かえば、再び編入学志願者は増加傾向になると見込んでいる。

本学の3年次編入学志願者及び3年次編入学者に占める外国人留学生の人数・割合は【表3】【表4】のとおり、令和元年度から大幅に増加している。このことから、これまでの3年次編入学とは傾向が異なってきており、編入学者の変化に合わせた編入学制度の見直しが必要であった。

3年次編入学者の履修登録状況に目を向けると、【表5】のとおり、編入学年度の前期に2年生向けに開講されている科目を履修登録した3年次編入学者は、いずれの年度も半数以上という状況で、2年次開講科目を履修するニーズや、履修する必要がある学生が一定数いることが読み取れる。この中には修業年限を超えて在籍する学生もいることから、2年次編入学定員を新たに設けることが急務であると判断し、この度、2年次編入学定員を4人設定することとした。一方で、2年次開講科目を登録せず、あるいは一部の科目を登録しても無理なく履修計画を立てて修業年限内で卒業する3年次編入学者も一定数おり、従来の3年次編入学制度で編入することがふさわしい志願者も想定されることから、現行の10人から6人減じて4人に変更して存続させる。

これまで3年次編入学で受験してきた志願者がそれぞれ2年次編入学と3年次編入学に分散することを想定しており、現状より多くの編入学者を獲得しようという趣旨の変更ではないため、それぞれの編入学定員は充足する見込みである。

【表2】3年次編入学者の編入学志願動向

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
編入学定員(人)	10	10	10	10	10
志願者数(人)	5	24	24	43	19
受験者数(人)	5	19	18	38	19
合格者数(人)	5	10	11	10	16
辞退者数(人)	0	0	0	1	2
編入学者数(人)	5	10	11	9	14
志願倍率	0.5	2.4	2.4	4.3	1.9

本学調べ

【表3】3年次編入学志願者に占める外国人留学生の人数・割合

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
志願者数(人)	5	24	24	43	19
外国人留学生数(人)	3	21	22	34	17
割合	60.0%	87.5%	91.7%	79.1%	89.5%

本学調べ

【表4】3年次編入学者に占める外国人留学生の人数・割合

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
編入学者数(人)	5	10	11	9	14
外国人留学生数(人)	3	9	10	9	13
割合	60.0%	90.0%	90.9%	100.0%	92.9%

本学調べ

【表5】2年次開講科目を編入学年度前期に履修登録した3年次編入学者数・割合

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
編入学者数(人)	5	10	11	9	14
履修登録者数(人)	4	5	8	9	11
割合	80.0%	50.0%	72.7%	100.0%	78.6%

本学調べ

本学を取り巻く環境要因

本学を取り巻く環境要因については、資料も含め詳細については「イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」に記載するが、日本私立学校振興・共済事業団『令和3年度（2021年度）私立大学・短期大学等入学志願動向』において、全国で見た入学定員充足率がはじめて100%を下回る99.81%となり、100%未満の学校の割合が46.4%という状況になったが、芸術系学部だけの推移で見た場合には、入学定員充足率は104.80%、100%未満の学校の割合が37.5%と数字は改善する。

近隣の競合校における学生確保の状況については、本学の入学者は滋賀県、京都府、大阪府在住者が多数を占めている。外国人留学生を除く令和4年度入学者に占める滋賀県、京都府、大阪府在住者の割合は64.3%であり、例年、その割合は大きく変わらないこと、芸術系学部への進学を希望する受験生は美術研究所に通う傾向が高く、いわゆる学力偏差値があ

まり意味を持たないことなどから、偏差値で競合校を設定するのではなく、この3府県に所在する芸術系学部を有する四年制大学(通信制を除く)・学部を本学の競合校として位置付け、当該大学・学部の入学志願状況や入学定員充足率を調査した。競合校として位置付けているのは、京都美術工芸大学工芸学部、京都芸術大学芸術学部、京都精華大学メディア表現学部・芸術学部・デザイン学部・マンガ学部、嵯峨美術大学芸術学部、大阪芸術大学芸術学部、大阪成蹊大学芸術学部、近畿大学文芸学部の7大学10学部(近畿大学文芸学部は芸術学科及び文化デザイン学科を擁するため加えた)である。本学を含めた8大学11学部の入学定員の合計、入学者数の合計から求めた入学定員充足率は1.12倍となる。8大学11学部それぞれに見た場合でも、1.00倍未満の学部の割合は、8大学11学部中1学部のみであるため未充足の学部の割合は9.1%という結果となった。1.00倍未満の結果となった1学部についても、学部の入学定員充足率は0.95倍であり、1.00倍未満ではあるが危険水域にはないものと考えられる(仮にその大学の擁する4つの芸術系学部の入学定員と入学者数を合計し、入学定員充足率を算出した場合、1.01倍となることから、同一大学内の芸術系学部間での入学者数の偏りという見方もできる)。

以上のことから、全国の全学部との対比で比較的堅調な芸術系学部のなかでも、滋賀県・京都府・大阪府に所在する芸術系学部はとりわけ堅調であることがうかがえることから、本学を取り巻く環境から見ても、定員充足の見通しは立っているものと判断している。

長期的な見通し

長期的な見通しについては、18歳人口減少期にあってリクルート進学総研『マーケットレポート Vol.90 令和3(2021)年4月号』によれば、近畿での平成23～令和2年の推移で、大学進学者数は90,318人から98,317人へと7,999人(8.9%)増加している。進学率についても大学では、52.5%から56.7%となり4.2ポイント上昇している。大学進学率(現役)を男女で見た場合、男子は55.9%から58.2%へと2.3ポイント上昇であるのに対し、女子は49.1%から55.2%へと6.1ポイント上昇している。女子は令和2年時点で、男子の平成23年時点での進学率よりもわずかに低い状況であり、今後男子の進学率の水準まで上昇することが期待できる。【表6】に示すとおり、本学は全学年をとって女子学生の割合が高く7割近い学生が女子学生であるため、女子の進学率が上昇することは、本学にとって追い風となる。このように18歳人口の減少は全国的な課題ではあるが、大学進学者数の増加や大学進学率の上昇、女子の大学進学率の上昇等プラス要因も見込めることから数年内に急激に落ち込むような状況には無く、定員充足の見通しは立っているものと判断している。

【表6】在學生に占める女性の割合（令和3年5月1日現在）

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
男性(人)	81	71	85	54	291
女性(人)	149	158	168	155	630
合計(人)	230	229	253	209	921
女性の割合	64.8%	69.0%	66.4%	74.2%	68.4%

本学調べ

定員充足の見込み

現状の本学の好調な入学志願動向、滋賀県・京都府・大阪府の芸術系学部の堅調な状況、18歳人口が減少する中であって、大学進学者数の増加や大学進学率の上昇、女子進学率が上昇している状況などから、令和5年度以降、本学を取り巻く環境において志願者数の急激な落ち込みは想定しておらず、現在と同程度の志願者が集まることが予想されるため、近年の入学実態にあわせた最小限度の定員変更を実施しても、学生は十分に確保でき、定員は充足するものと見込んでいる。

詳細については「イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」に記載する。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

【資料1】芸術学部芸術学科の過去5年間の入学定員・志願者数・入学者数・入学定員充足率

本学の芸術学部芸術学科の志願者数は700人前後で安定的に推移している。入学定員が220人になった場合でも、適正な選抜ができる志願者数であると考えている。平成30年度に1.19倍であった入学定員充足率は、定員管理の適正化のための努力により令和4年には1.10倍まで改善しているものの、依然高い状態である。一方でアドミッション・ポリシーを満たす志願者の受入れ要請に応えることも大学の責務であり、定員を220人とする中で、その要請に応えつつ入学定員充足率も無理なく1.00倍を目指すことが可能となり、入学定員充足率の適正化が進めば、収容定員充足率の改善も見込まれる。実態から大きく乖離した定員変更をするわけではないため、定員は充足するものと考えている。

【資料2】芸術学部芸術学科の過去5年間の外国人留学生の志願者数・入学者数

本学の芸術学部芸術学科の海外での認知度は年々高まりを見せており、外国人留学生の志願者数は新型コロナウイルス感染症の影響が出るまで増加傾向にあった。近年は新型コロナウイルス感染症の影響により若干志願者数は減少しているものの、感染症に係る水際対策による往来規制が緩和されれば、再び増加傾向に転じることが見込まれるため、定員は充足するものと考えている。

【資料3】芸術学部芸術学科の外国人留学生の国籍比率（令和3年5月1日現在）

本学の芸術学部芸術学科に所属する外国人留学生は中国籍の学生が最も多く、インドネシアがそれに続く。日本国外のその他地域では、現時点で積極的な募集活動をおこなっていない。

【資料4】国際交流基金プレスリリース(令和元年11月28日)

国際交流基金と財団法人日本国際教育支援協会が運営する日本語能力試験（JLPT）は、新型コロナウイルス感染症の影響が出るまでは上昇傾向にあった。特に東南アジアで28%、南アジアで22%と顕著な伸びが見られ、東南・南アジアから日本への留学・就労ニーズ等の高まりや、同地域の富裕化が背景にあるものと考えられる。日本語学校との情報交換の中でも、東南・南アジア地域で富裕層や中間層が増えており、それらの層を中心に外国人留学生の母数が増えていること、経済的にゆとりがあり、日本の漫画やアニメを見て育った世代の留学志向が、従来の職業や収入に直結するような教育から、日本の芸術文化等に明確にシフトしつつあるとの情報を得ており、日本語能力試験（JLPT）の受験者数の伸びはそれを裏打ちするものである。ミャンマーやフィリピン等、本学が未だ積極的な募集活動を実施していない地域に潜在的なニーズがあると考えられ、新型コロナウイルス感染症に係る水際対策による往来規制が緩和されれば、堅調な中国・インドネシアに加え、東南・南アジア地域の外国人留学生市場の安定的な成長が見込まれることから、定員は充足するものと考えている。

【資料5】日本私立学校振興・共済事業団『令和3（2021）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向』（抜粋）

日本私立学校振興・共済事業団の令和3年度（2021年度）私立大学・短期大学等入学志願動向において、全国で見た入学定員充足率をはじめて100%を下回る99.81%となり、100%未満の学校の割合が46.4%という状況になった。しかしながら、芸術系学部だけの推移でみた場合には、入学定員充足率は104.80%、100%未満の学校の割合が37.5%と数字は改善する。

【資料6】令和3年度の滋賀県、京都府、大阪府の芸術系学部の定員充足率

本学の入学者は滋賀県、京都府、大阪府在住者が多数を占めている。外国人留学生を除く令和4年度入学者に占める滋賀県、京都府、大阪府在住者の割合は64.3%であり、例年、その割合は大きく変わらないこと、芸術系学部への進学を希望する受験生は美術研究所に通う傾向が高く、いわゆる学力偏差値があまり意味を持たないことなどから、偏差値で競合校を設定するのではなく、この3府県に所在する芸術系学部を有する四年制大学(通信制を除く)・学部を本学の競合校として位置付け、当該大学・学部の入学志願状況や入学定員充足率を調査した。競合校として位置付けているのは、京都美術工芸大学工芸学部、京都

芸術大学芸術学部、京都精華大学メディア表現学部・芸術学部・デザイン学部・マンガ学部、嵯峨美術大学芸術学部、大阪芸術大学芸術学部、大阪成蹊大学芸術学部、近畿大学文芸学部の7大学10学部(近畿大学文芸学部は芸術学科及び文化デザイン学科を擁するため加えた)である。本学を含めた8大学11学部の入学定員の合計、入学者数の合計から求めた入学定員充足率は1.12倍となる。8大学11学部それぞれに見た場合でも、1.00倍未満の学部の割合は、8大学11学部中1学部のみであるため未充足の学部の割合は9.1%という結果となった。1.00倍未満の結果となった1学部についても、学部の入学定員充足率は0.95倍であり、1.00倍未満ではあるが危険水域には無いものと考えられる。かつ、仮にその大学の擁する4つの芸術系学部の入学定員と入学者数を合計し、入学定員充足率を算出した場合、1.01倍となることから、同一大学内の芸術系学部間での入学者数の偏りという見方もできる。

このことから【資料3】における全国の芸術系学部と比較して、滋賀県、京都府、大阪府の芸術系学部は堅調であると考えられ、定員は充足するものと考えている。

【資料7】リクルート進学総研『マーケットリポート Vol.90 令和3(2021)年4月号』(抜粋)

リクルート進学総研マーケットリポート Vol.90 令和3(2021)年4月号によれば、本学が所在する近畿地方では、18歳人口減少期にあって平成23(2011)～令和2(2020)年の推移で、大学進学者数は90,318人から98,317人へと7,999人(8.9%)増加している。進学率についても大学では、52.5%から56.7%となり4.2ポイント上昇している。大学進学率(現役)を男女で見た場合、男子は55.9%から58.2%へと2.3ポイント上昇であるのに対し、女子は49.1%から55.2%へと6.1ポイント上昇している。女子は令和2(2020)年時点で、男子の平成23(2011)年時点での進学率よりもわずかに低い状況であり、今後男子の進学率の水準まで上昇することが期待できる。本学は全学年をとおして女子学生の割合が高く7割近い学生が女子学生であるため、女子の進学率が上昇することは、本学にとって追い風となる。このように18歳人口の減少は全国的な課題ではあるが、大学進学者数の増加や大学進学率の上昇、女子の大学進学率の上昇等プラス要因も見込めることから数年内に急激に落ち込むような状況には無く、滋賀県唯一の芸術大学である本学への18歳人口減少の影響は比較的軽微であると予測している。

【資料8】リクルート進学総研『カレッジマネジメント Vol.232 令和4(2022)年4-6月号』(抜粋)

リクルート進学総研カレッジマネジメント Vol.232 令和4(2022)年4-6月号の学部・学科トレンドデータ集によれば、マーケットトレンドとして美術は撤退期とされているが、これは平成30～令和3年の短期間の動きで見た場合であって、平成28～30年には成長を示す動向が読み取れ、平成24年度以降極端な成長も衰退も示しておらず安定化しているとも読める。一方、デザインは平成4～24年の長期間にわたる衰退傾向から堅調に再成長の予

兆を見せており、志願者は平成 24 年度の落ち込みのあと、平成 12 年度に近似する値まで順調に再成長の予兆を見せている。本学の芸術学部芸術学科の学びは美術及びデザインであり、このようなマーケットトレンドの観点から見ても、いずれの学科系統のライフサイクルからも顕著な衰退撤退傾向は見られないことから、将来的にも極端な志願者の減少は起こらないものと予測している。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

・高等学校訪問、美術研究所訪問

入学広報課の職員が、滋賀県の高高等学校、関西の芸術系高高等学校を中心とする高高等学校及び全国の美術研究所を、令和 3 年度はのべ 120 件訪問し、前年度の入試結果や、当年度入試制度の変更点、出身者の現況や就職状況、オープンキャンパス等のイベント情報を説明している。

・学外説明会

令和 3 年度には、各地方で実施される業者主催の進学説明会に 19 回、高高等学校及び美術研究所主催の進学説明会に 76 回参加した。

・オープンキャンパス

令和 3 年度は 5 回のオープンキャンパスを実施した。芸術学部芸術学科 6 領域のそれぞれの特徴や令和 5 年度入試についての説明のほか、各種ワークショップ、展覧会や個別相談会など多くのイベントを実施し、のべ 461 名の参加があった。

・大学見学会「SEIAN WATCHING」

入学広報課の職員が、高校生やその家族を対象に本学の教育環境や雰囲気を知ってもらうため、学内をツアー形式で案内する少人数の大学見学会である「SEIAN WATCHING」を、令和 3 年度は 9 回実施した。大学の学びの内容や入試の説明の他、施設見学、在学生のゲストトークや個別相談など、資料だけではわからない本学の魅力を伝えるツアーとして実施している。令和 3 年度はのべ 190 名の参加があった。

・卒業制作展鑑賞ツアー「卒展 WATCHING」

本学の卒業制作展に合わせ、「卒展 WATCHING」という受験生向けのイベントを実施している。「卒展 WATCHING」は、大学説明会と卒業制作展鑑賞を一度に体験できるイベントである。令和 3 年度は 27 名が参加した。

・成安デッサン模試

高校生・既卒者の方を対象に「成安デッサン模試」を行っている。鉛筆デッサンで特待生を目指している方対象の「特待生対策コース」と、初心者の方対象の「デッサン入門コース」が選択できる。模試形式でデッサンに取り組むことができ、最後には本学教員が講評を行っている。令和 3 年度は 3 回実施し、のべ 146 名の参加があった。

・オンライン個別相談会

オンライン個別相談会は、無料アプリ（Zoom ミーティング）を利用して行う個別相談である。参加者が興味のあることについて、入学広報課の職員が懇切丁寧に回答する。受験生のみならず、保護者や高等学校の教員、美術研究所の職員の参加も可能。令和3年度はのべ21名が参加した。

・オンライン大学説明会

オンライン大学説明会は、無料アプリ（Zoom ウェビナー）を利用して実施するイベントである。入学広報課の職員が大学や入試の説明をし、在学生のゲストトークなども実施する。令和3年度は4回実施し、のべ54名が参加した。

・セイアンウェブオープンキャンパス

新型コロナウイルス感染症の影響により、本学に直接足を運べない人を対象にいつでも自由に視聴が可能な形のウェブサイトを公開している。

本学では受験生や進路指導教員、美術研究所との接触を重視した募集活動を行っている。その他に本学では、入学者選抜制度、組織的な取り組みとして、学生確保につながる以下の4つの特色ある取り組みを行っている。

i) 入学者選抜における具体化と多様性の構築

個別選抜において、調査書等による高等学校での活動評価を含め、大学入学共通テストの利用や実技評価、また高等学校で取り組んでいる制作物を評価する多様な選抜制度を構築している。総合選抜型入試においては、知識・技能を単純に評価するのではなく、積極性、課題の理解度、制作過程での工夫などを評価のポイントとした。また、一部の入学試験では、試験課題（モチーフ）の公開や入学試験要項で合格者の実技作品を記載するなど、評価の基準や資料を積極的に明示してきた。

ii) 出願分野の明快化

高等学校の美術・デザイン教育の時間数や教員の人数が減少するなか、芸術・美術系大学の専攻分野はより多様化・細分化しており、志願者に数十の選択肢から専攻を選択させている大学も少なくない。本学では、受験生に希望や適性を正しく十分に理解させ、選考分野を選択させることは難しいと判断し、募集の最小単位を可能な限りまとめて6領域とし、受験に際してもその6領域からの選択で受験できるようにしている。

iii) 特待生制度

平成22年度から特待生を選抜する入試（旧給付奨学生入試）を実施している。成績優秀者を特待生として選抜する入試で、一部の選抜入試には所得制限を設ける形で、経済的支援を必要とする受験生に配慮している。特待生として合格して入学すると授業料が4年間大幅に減免され、年間授業料が698,000円になる。

iv) 教育連携推進センター

学びの観点では、本学は平成 30 年に基本理念(教育理念)「芸術による社会への貢献」のもと、本学独自の取り組みとして、芸術教育における研究や芸術教育支援を目的として「教育連携推進センター」を設置した。ここでは、授業指導や体験授業を受講する機会をとおして、大学での学び方を理解し、芸術教育における研究を恒常的に深め、次世代に向けた芸術による教育の充実を目指しており、幼・小・中・高等学校や美術研究所などと連携し、美術・デザインの次世代の担い手である園児児童生徒に対し、様々な授業・ワークショッププログラムを提供している。令和 3 年度は高等学校での連携授業を 19 回、美術研究所での連携授業を 11 回、提携高等学校との連携授業を 50 回、小・中学校等その他との連携授業を 21 回実施した。この取り組みは直接的に学生確保を目的とはしていないが、高校生だけにとどまらず、幼・小・中学校の園児児童生徒や教職員に対して、本学の教育研究に対する理解の向上を図るためのものであるが、中長期的な学生確保に資する取り組みであると考えている。

このような多様で特色ある募集活動や入学者選抜制度、組織的な取り組みを複合的に行なった効果や反応として、本学芸術学部芸術学科への志願者数に顕著な成果を見て取ることができる。これらの取り組みにシフトする以前の体制であった平成 26 年度と令和 4 年度の志願者数を比較すると、302 人から 691 人(2.29 倍)へと大幅に増加をしている。令和 4 年度の志願者数のうち、特待生選抜制度以外の選抜制度への志願者数は 420 人である。この数と特待生選抜制度が無かった平成 26 年度の志願者数 302 人を比較しても、令和 4 年度の志願者は 118 人(1.39 倍)多い計算となる。これは、特待生選抜制度のみによるものではなく、多様で特色ある募集活動や入学者選抜制度、組織的な取り組みを複合的に行なった効果や反応として志願者が増加していることを表している。このことから、今後も受験生や高等学校の進路指導教員、美術研究所との直接的な接触の機会を増やす多様な募集活動を展開し、入学者選抜制度や組織的な取り組みにより受験生が本学を志願しやすくなるような施策を継続したいと考えている。

(2)人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

本学の使命・目的は、成安造形大学学則第 1 条にあるように「デザイン及び美術に関する学術の中心として、広く知識を授けると共に、深く専門の理論、技能及びその応用を教授研究し、人格の完成を図り、国際性に富み、個性豊かな教養の高い人材を育成し、もって文化の創造・発展、産業の発展、国家社会の福祉に寄与すること」である。

また、学部、学科の人材育成目的については、学則第 2 条の 2 において「建学の精神、校訓、及び基本理念(教育理念)の下、芸術分野の専門性と創造性(クリエイティビティ)に優れ、よりよき社会のあり方について主体的に考え行動することができる人材の育成を目的とする。」と定めている。本学の基本理念(教育理念)は「芸術による社会への貢献」で

ある。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学は、基本理念(教育理念)「芸術による社会への貢献」のもと、芸術分野の専門性と創造性(クリエイティビティ)に優れ、よりよき社会のあり方について主体的に考え行動することができる人材の育成を目的としており、その実現のために、実践力、創造力、課題解決力、協働力、主体的行動力の5つの資質・能力を修得した者に学位を授与することとしている。

本学芸術学部芸術学科における芸術教育は、芸術の知識や技術の修得はあくまでも学位授与に至る過程で身に付けるべきものであり、芸術の知識や技術をきっかけとして主体的で対話的な学びを通して思考法や実践することを身に付けた者に対して学位を授与する実践的学士課程教育である。

【資料9】は令和元年度に本学が実施した平成26年度～平成29年度卒業生を対象としたアンケートである。卒業後一定年数が経過した卒業生の現状を調査するもので、平成26年度の卒業生は芸術学部芸術学科の最初の卒業生であり、卒業後5年目の社会人である。平成29年度の卒業生は卒業後2年目を迎えた社会人である。平成26年度の卒業生については、「問9現在の勤務先での職種を教えてください。」との質問に対して、いわゆるクリエイティブ職にあたる「デザイナー」と回答した者が16.7%、「問10在学中に学んだことは、社会に出てから、役に立ちましたか。」という質問に対して、「大変役に立っている」または「役に立っている」と回答した者が46.2%であった。また、平成27年度以降は70%以上が「大変役に立っている」または「役に立っている」と回答している。役立つと回答した者の割合と職種が「デザイナー」である割合との間に特段の相関関係は認められないことから、本学の学びはクリエイティブ職に就いた卒業生のみには生かされる限定的ものではなく、身に付けた思考法や実践力が、実社会の様々な職種において生かされるものであることの証左であると考えている。

【資料10】は成安造形大学芸術学部芸術学科の卒業生数及び就職者数と、学校基本調査の芸術系学科の卒業生数及び就職者数から算出した就職率(対卒業生)の比較である。この比較では、いずれの年度においても数%から10%程度、本学調査の就職率が学校基本調査の就職率を上回っており、芸術系学科の中でも本学芸術学部が3つのポリシーに則って受入・育成・輩出している人材は、社会から高い評価を受け、高い人材需要を有していると考えている。

折れ線グラフを見ると、学校基本調査の値も本学の値も、令和2年に下降しているが、これは衰退傾向ということではなく、新型コロナウイルス感染症の流行後、本格的に就職活動を行った年次で、企業の採用環境の悪化が影響したとみられ、芸術系学部に限らず多くの学部で見られる傾向である。

情報化やグローバル化といった社会的変化が人間の予測を超えて進展、社会や産業構造が変化し、質的な豊かさが成長を支える成熟社会に移行していく現代社会において、次代を

担う人材が身に付けるべき資質・能力として、学士力や社会人基礎力、21世紀型スキルなど、様々な提言がなされている。これからの社会に求められているのは、単なる知識や技能だけでなく、複雑化・多様化する社会の中で仲間と協働し、固定観念に捉われることなく創造力をもって取り組み、主体的行動力を発揮して社会で実践することにより課題を解決していく力を身に付けた人材である。本学の輩出する人材は実践的学士課程教育の中でまさにこうした資質・能力を研鑽し、感性を磨いてきた人材である。

経済産業省と特許庁は平成29年7月に「産業競争力とデザインを考える研究会」を立ち上げ、最終的には『「デザイン経営」宣言』（【資料11】）をまとめている。デザイン思考を活用した経営のあり方が「デザイン経営」と呼ばれ、情報技術によるビジネスモデルの転換や、仮想空間などによる顧客体験の革新など、モノを作れば売れた時代から個人の体験に対して価値を見出す時代への変容により、マーケットの主導権はメーカー側からユーザー側に移ってきており、ユーザー中心、人間中心の考え方は、今後ますます顕著になってくることが予想される。デザイン思考では、ユーザーを起点としてユーザーの共感や満足感を得られる製品やサービスを生み出すことに重点を置いて、アイデア出し、試作、試行を繰り返す。目まぐるしい変化の中で、企業側にも経営の変化が求められており、様々な分野で世界市場を席巻しているグローバル企業では、早くから経営や事業を展開していくうえでデザイン思考を積極的に取り入れ、各分野で次々とイノベーションをもたらしている。このことから、デザイン思考はデザインの制作過程だけで活用されているわけではなく、経営や事業において大きな役割を果たしうるとの考えが、日本の省庁や日本の各企業にもようやく浸透しつつある段階である。

デザイン経営に取り組む企業の活動データとしては、『「デザイン経営」宣言』の中でも各国の調査でデザインへの投資に見合うリターンがあることが挙げられているが、【資料12】に引用したとおり、公益財団法人日本デザイン振興会が令和2年に約4,000社を対象に実施(有効回答519社)した、日本企業における企業経営へのデザイン活用度調査を元にしたレポートにおいても、デザイン経営に積極的な企業、とりわけエンドユーザー向け事業を持つ企業やデジタル化を推進する企業ほど売上が成長している。日本においてもデザイン経営が投資に見合うリターンを生むことが証明されつつあり、地方や業態ごとに程度差はあったとしても徐々にデザイン経営が浸透していくことが見込まれる。

経済産業省・特許庁の『「デザイン経営」宣言』の中の施策の一つである「高度デザイン人材の育成」は、あるべき未来を構想し、事業課題を創造的に解決できる人材を育成するということであるが、もちろんそれを志す企業においてそうした人材を自前でゼロから育成する向きもあろうが、4年間の学士課程教育の中で研鑽を重ねデザイン思考を身に付けている人材と、雇用後に業務の合間に限られた時間でデザイン思考研修に取り組む人材とでは、どちらが高度デザイン人材の育成にかかる企業負担が軽いかは明白である。

本学の実際の学びに目を向けると、【資料13】のように、本学の大学案内の領域紹介タブロイドの中でデザイン思考というワードを直接的に謳っている総合領域での学びはもち

ろんのこと、いずれの領域の学びの中でもデザイン思考をはじめとしたクリエイティブな思考法や発想法の鍛錬はカリキュラムに組み込まれている。さらには学部共通科目として、芸術分野の専門性と創造性（クリエイティビティ）に優れ、よりよき社会のあり方について主体的に考え行動するための実践機会として、社会との関係の中で自己を確認し、卒業後の自己実現のために寄与する科目群として、社会実践科目群を設定しており、受講することを指定している。実践的な知識・技術を活用し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力に優れた人材育成を目的とする「地域貢献・プロジェクト科目」では、“結ぶ、つなげる、広げる”をテーマに、“学生・教員の教育、研究に貢献していること”、“連携先の社会活動に貢献していること”、“大学を含む地域社会全体に貢献していること”という3つの貢献を包括する事業をプロジェクトとして展開しており、学生は領域に関わらずこれらの科目の履修が可能であり、考えたことを社会実践していくことが求められる。また、【資料14】のとおり本学は令和3年4月に新しく「未来社会デザイン共創機構」を設立した。社会との共創により、芸術研究を深化・拡張し、新たな価値の創造とより良い未来社会の実現に貢献すべく、同機構が中心となって、学術研究と社会を結び、社会との共創関係を構築するハブとして機能することを目指している。令和3年度の取り組みとして、学生の研究活動の活性化を目的とした企画として「SEIAN ドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）」を実施し、学生が地域社会とかかわる研究が多数応募され採択された。領域の学び、学部共通の学び、機構による支援を受けた研究にと、大学による様々なアプローチによって在学中に地域社会と関わり、個々の作品のスタイルや意匠など、外見的な意味での狭義のデザインのみにとらわれることなく、芸術分野の専門性と創造性（クリエイティビティ）を発揮して、本学の基本理念（教育理念）である「芸術による社会への貢献」ができる人材へと成長する。本学が輩出する人材は、『「デザイン経営」宣言』にある“事業課題を創造的に解決できる高度デザイン人材”に通じるものであると自負している。

現在、本学の卒業生は【資料15】のとおり、社会的な人材需要により、いわゆるクリエイティブ系のみならず多種多様な業種の企業に就職している。本学が輩出する人材が様々な業種の企業のような職種で採用され、その企業の中でキャリアを重ねていくことで、企業においてもデザイン経営のリテラシーが進めば、『「デザイン経営」宣言』にあるような、変化の激しい社会で求められるモノ中心の考え方から人間中心の考え方への企業経営のシフトに寄与することができるであろう。

本学芸術学部芸術学科は、学校基本調査における芸術系学科の中でも就職率が高いことを【資料10】で示したが、就職先の所在地は【資料16】のとおり、近畿地方の割合が高く、中でも滋賀県、京都府、大阪府の割合が高い。このことは、本学芸術学部が3つのポリシーに則って受入・育成・輩出している人材に対する地域に所在する企業からの需要が高いことを示している。

昨今、新型コロナウイルス感染症の影響によって就職率は好転しないが、【資料17】に挙げた令和3年度におけるインターンシップの派遣人数・受入先数の変化を、回復の兆候と

捉えている。平成30年度と令和3年度の対比で、本学からの派遣人数が1.8倍、受入先数が1.6倍に増加している。これはコロナ禍による採用環境の悪化の中であって、たとえただちに就職率に結実しないとしても、企業側が本学の学生に興味を示している確かな証拠である。受入先数全体の増加に比例して、県内の企業も順調に数を増やしていることから、本学への興味関心は、大学が所在する地域の企業についても高まりを見せているものと考えられる。

これらの点から、本学芸術学部芸術学科の人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的は、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであると言える。高い評価を受けている滋賀県内唯一の芸術大学である本学が、今後も3つのポリシーに則って人材の受入・育成・輩出を続けることは、本学の使命であると考えている。

学生の確保の見通し等を記載した書類 別添資料 目次

(1)学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況に関する資料

- 【資料1】芸術学部芸術学科の過去5年間の入学定員・志願者数・入学者数・入学定員充足率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 【資料2】芸術学部芸術学科の過去5年間の外国人留学生の志願者数・入学者数・・・・・・ 4
- 【資料3】芸術学部芸術学科の外国人留学生の国籍比率（令和3年5月1日現在）・・・・ 5
- 【資料4】国際交流基金プレスリリース(令和元年11月28日)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 【資料5】日本私立学校振興・共済事業団『令和3（2021）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向』（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 【資料6】令和3年度の滋賀県、京都府、大阪府の芸術系学部の定員充足率・・・・・・ 2 2
- 【資料7】リクルート進学総研『マーケットレポート Vol.90 令和3(2021)年4月号』（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 3
- 【資料8】リクルート進学総研『カレッジマネジメント Vol.232 令和4(2022)年4-6月号』（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 3

(2)人材需要の動向等社会の要請に関する資料

- 【資料9】平成26～29年度卒業生のキャリアに関するアンケート結果・・・・・・・・・・ 3 5

【資料 1 0】 成安造形大学芸術学部芸術学科と学校基本調査(芸術系学科)の就職率比較	3 9
【資料 1 1】 経済産業省・特許庁 産業競争力とデザインを考える研究会『「デザイン経営」宣言』(平成 30 年 5月23日).....	4 0
【資料 1 2】 公益財団法人日本デザイン振興会『企業経営へのデザイン活用度調査レポート』 (平成 30 年 11 月 25 日)(抜粋).....	5 5
【資料 1 3】 成安造形大学『大学案内 2023 総合領域タブロイド』(抜粋).....	6 3
【資料 1 4】 成安造形大学 WEB サイト『未来社会デザイン共創機構』ページ.....	6 4
【資料 1 5】 芸術学部芸術学科 令和 3 年 3 月卒業者数、進学者数、就職者数・就職率(令和 3 年 5 月 1 日現在) 等.....	6 6
【資料 1 6】 芸術学部芸術学科 令和 3 年 3 月卒業者のうち就職者の就職先所在地.....	6 7
【資料 1 7】 芸術学部芸術学科 インターンシップ派遣人数・受入先数.....	6 8

芸術学部芸術学科の過去5年間の入学定員・志願者数・入学者数・入学定員充足率

学部学科	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
芸術学部 芸術学科	入学定員(人)	200	200	200	200	200
	志願者数(人)	743	727	698	721	691
	入学者数(人)	239	235	234	230	221
	入学定員充足率	1.19	1.17	1.17	1.15	1.10
	収容定員(人)	820	820	820	820	820
	在籍者数(人)	901	943	949	921	920
	収容定員充足率	1.09	1.15	1.15	1.12	1.12

注1) 入学定員充足率・収容定員充足率は小数点以下第3位を切捨て

注2) 令和3年度以降は入試改革のため志願者をエントリー者数に読み替えて掲載

芸術学部芸術学科の過去5年間の外国人留学生の志願者数・入学者数

学部学科	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
芸術学部 芸術学科	志願者数(人)	58	102	121	77	85
	入学者数(人)	24	22	30	50	22

本学調べ

外国人留学生のみを対象としていない入学試験選抜については、外国人留学生志願者の抽出集計おこなっていないため、志願者数は外国人留学生のみを対象とした入学試験選抜の志願者数の合計

入学者数は入学試験種別に関わらず、「留学」の在留資格を持って入学した外国人留学生の合計

令和3年度以降は入試改革のため志願者をエントリー者数に読み替えて掲載

芸術学部芸術学科の外国人留学生の国籍比率（令和3年5月1日現在）

国籍	人数(人)	比率(%)
中国	113	80.7
インドネシア	16	11.4
韓国	4	2.9
マレーシア	3	2.2
台湾	2	1.4
オーストラリア	1	0.7
スウェーデン	1	0.7
合計	140	100.0

本学調べ



ご報告

日本語試験「日本語能力試験（JLPT）」

2019年の年間受験応募者数は過去最多の136万6020人

～海外受験者数は対前年比15%増、東南・南アジア地域の伸び顕著～

国際交流基金が実施する、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し、認定する世界最大規模の日本語試験「日本語能力試験（JLPT）」の2019年の年間受験応募者数は、過去最多の136万6020人となりました。

海外での応募者数は、前年比で15%増加しました。最大規模の実施国である中国をはじめ東アジア地域で堅調に増加したことに加え、東南アジアで28%、南アジアで22%の顕著な伸びが見られたこと、在留資格特定技能1号の日本語能力要件であるN4レベルの受験者が34%増加したことから、日本で留学・就労ニーズ等を背景に、各地域における日本語学習への関心がますます高まっていることがうかがえます。

本試験は、国際交流基金と公益財団法人日本国際教育支援協会の2団体が、1984年から共催で実施しています。年に2回実施しており、第2回の試験は、海外75の国・地域、日本国内47都道府県で12月1日に行います。

記

2019年日本語能力試験 概要（応募者数は速報値含む）

実施日：第1回 2019年7月7日 第2回 2019年12月1日

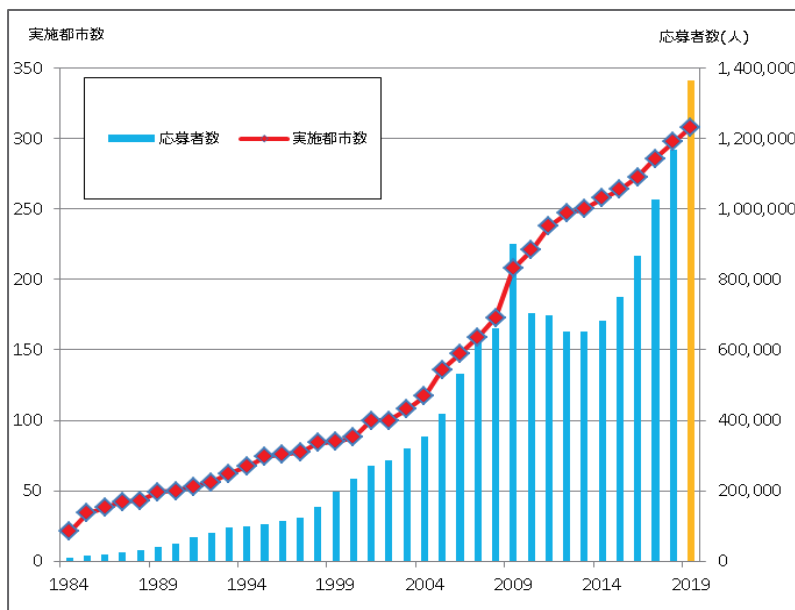
受験応募者数（年間）：136万6020人（海外88万6141人／日本国内47万9879人）対前年比 17%増
（第1回試験分）64万4104人（海外42万3604人／日本国内22万500人）同18%増
（第2回試験分）72万1916人（海外46万2537人／日本国内25万9379人）同16%増

※国際交流基金が海外実施を、公益財団法人日本国際教育支援協会が日本国内実施を担う。

実施国・地域、都市数（年間）：国内外計307都市（海外86の国・地域、260都市／日本国内47都道府県）

海外受験応募者数上位国・地域（年間）：中国、韓国、ベトナム

海外受験応募者数上位エリア（年間）：東アジア、東南アジア、南アジア



この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



HARADA 6-

今回の試験は、海外の受験者も増加し、海外からの受験者も増えています。海外からの受験者も増えています。

学生の確保の見通し等を記載した書類 別添資料

ご報告

海外受験応募者数上位国・地域（2019年の第1回と第2回の合計）

応募者数上位3か国・地域は、中国、韓国、ベトナム。

応募者数上位3エリアは、東アジアで9%、東南アジアで28%、南アジアで22%増加。

増加率の顕著な国・地域は、モンゴル、ミャンマー、ネパール等。

	国・地域	応募者数(人)	前年比増加率
受験応募者数上位3か国・地域	1位 中国※	331,233	14%
	2位 韓国	103,821	-1%
	3位 ベトナム	91,423	12%
受験応募者数上位3エリア	1位 東アジア	525,689	9%
	2位 東南アジア	262,728	28%
	3位 南アジア	51,626	22%
増加率の顕著な国・地域	モンゴル	5,048	89%
	ミャンマー	68,027	80%
	ネパール	8,285	49%

※香港・マカオを含む。

2019年第2回（12月）日本語能力試験 概要（応募者数は速報値）

実施日：2019年12月1日（日）

実施都市：海外75の国・地域、238都市、日本国内47都道府県

実施レベル：N1～N5の5レベル（N1が最も難易度の高いレベル）

※レベル毎の認定（合格）の目安および詳細は、後頁をご覧ください。

海外受験応募者数上位国・地域：上位3か国・地域は、中国、ベトナム、韓国。

その他の国・地域では、ミャンマー、インドネシア、フィリピン等の増加が顕著。

国・地域	応募者数(人)	前年同回比増加率
1位 中国※	158,474	12%
2位 ベトナム	48,667	16%
3位 韓国	48,374	-11%
4位 台湾	43,131	3%
5位 ミャンマー	38,558	78%
6位 インドネシア	19,571	39%
7位 タイ	19,193	9%
8位 インド	17,494	17%
9位 フィリピン	13,744	24%
10位 米国	7,072	3%

※香港・マカオを含む。

在留資格「特定技能」受入対象9か国でのN4レベル応募者前年比増加率

9か国でのN4レベル総応募者数増加率：55%（2019年6万1390人／2018年3万9641人）

国別増加率（増加率が高い順）：

ネパール 395%／カンボジア 132%／ミャンマー 125%／インドネシア 88%／モンゴル 39%／ベトナム 32%
／フィリピン 29%／中国 26%／タイ 12%

※N4レベル：簡単な日本語が理解でき、ゆっくりしたスピードでわかりやすく話しかければ、内容がほぼ理解できる

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

学生の確保の見通し等を記載した書類 別添資料



HARADA 7-

今年の受験に
応募者の増加
の背景に
、外国人に
受入が拡大
の影響が
あるか
。せんね。



ご報告

■ 日本語能力試験認定の目安 (N1~N5)

N1 が最も難易度の高いレベル

レベル	
N1	<p>幅広い場面で使われる日本語を理解することができる</p> <p>読む ・幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論等、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章等を読んで、文章の構成や内容を理解することができる。 ・さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。</p> <p>聞く ・幅広い場面において自然なスピードのまとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成等を詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができる。</p>
N2	<p>日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる</p> <p>読む ・幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論等、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。 ・一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。</p> <p>聞く ・日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができる。</p>
N3	<p>日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる</p> <p>読む ・日常的な話題について書かれた具体的な内容を表す文章を、読んで理解することができる。 ・新聞の見出し等から情報の概要をつかむことができる。 ・日常的な場面で目にする難易度がやや高い文章は、言い換え表現が与えられれば、要旨を理解することができる。</p> <p>聞く ・日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとまりのある会話を聞いて、話の具体的な内容を登場人物の関係等とあわせてほぼ理解できる。</p>
N4	<p>基本的な日本語を理解することができる</p> <p>読む ・基本的な語彙や漢字を使って書かれた日常生活の中でも身近な話題の文章を、読んで理解することができる。</p> <p>聞く ・日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば、内容がほぼ理解できる。</p>
N5	<p>基本的な日本語をある程度理解することができる</p> <p>読む ・ひらがなやカタカナ、日常生活で用いられる基本的な漢字で書かれた定型的な語句や文、文章を読んで理解することができる。</p> <p>聞く ・教室や、身の回り等、日常生活の中でもよく出会う場面で、ゆっくり話される短い会話であれば、必要な情報を聞き取ることができる。</p>

■ 合格者による試験結果の活用例

「高度人材に対するポイント制による出入国管理上の優遇制度」でのポイント付与 (N1、N2)
EPA (経済連携協定) に基づく看護師・介護福祉士候補者選定の条件 (インドネシア、フィリピン、ベトナム)
在留資格特定技能 1 号の日本語能力要件 (N4 以上)
在留資格「留学」の日本語能力要件 (N5 相当)

以上

この件に関するお問い合わせ :

国際交流基金 コミュニケーションセンター (広報担当 : 熊倉、原田)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

学生の確保の見通し等を記載した書類 別添資料



HARADA 8

今回の受験に
応募者の増加
の背景に
、外国人の
受入が拡大
の影が響いて
る。しかし、
材料は、大人
の材は、大人
か響く。あ
まるせんね。

I 大学の概況

1. 志願者数等の増減状況

R3年度	R2年度	増減
集計学校数 597校	593校	4校
入学定員 495,162人	491,012人	4,150人 (0.8%)
志願者数 3,834,862人	4,368,215人	△ 533,353人 (△ 12.2%)
受験者数 3,663,962人	4,174,803人	△ 510,841人 (△ 12.2%)
合格者数 1,437,906人	1,348,517人	89,389人 (6.6%)
入学者数 494,213人	503,830人	△ 9,617人 (△ 1.9%)
志願倍率 7.74倍	8.90倍	△ 1.16ポイント
合格率 39.24%	32.30%	6.94ポイント
留率 34.37%	37.36%	△ 2.99ポイント
入学定員充足率 99.81%	102.61%	△ 2.80ポイント
入学定員充足率 100%未満の学校数 (46.4%)	184校 (31.0%)	93校 (15.4ポイント)

志願倍率=志願者数÷入学定員、合格率=合格者数÷受験者数、歩留率=入学者数÷合格者数、入学定員充足率=入学者数÷入学定員

《今年度の特徴》

1 大学の概況

- 志願者数、受験者数、入学者数は前年度から減少したが、入学定員、合格者数は増加した。
- 入学者数は9,617人減少して、494,213人となった。
- 入学定員充足率は2.80ポイント下降して、99.81%となった。
- 入学定員充足率が100%未満の大学は93校増加して277校となり、大学全体に占める未充足校の割合は15.4ポイント上昇して、46.4%となった。

2 区分ごとの動向

- 規模別の動向
 - ・入学定員充足率が上昇した区分は、入学定員が「3,000人以上」のみで、0.84ポイント上昇した。
 - ・600人以上3,000人未満の4つの区分では、入学定員充足率が100%を超えた。
- 地域別の動向（学校別）
 - ・入学定員充足率が上昇した区分は「京都」のみで、0.46ポイント上昇した。
 - ・「北海道」、「宮城」、「関東(埼玉、千葉、東京、神奈川を除く)」、「東京」、「愛知」、「大阪」、「福岡」では、入学定員充足率が100%を超えた。
- 学部系統別の動向
 - 「医学」、「理・工学系」、「社会科学系」、「体育学」、「芸術系」では、入学定員充足率が100%を超えた。

4. 学部系統別の動向（大学）

全学部を『今日の私学財政』の系統区分と同様に区分した（学部系統区分については、47ページを参照）。

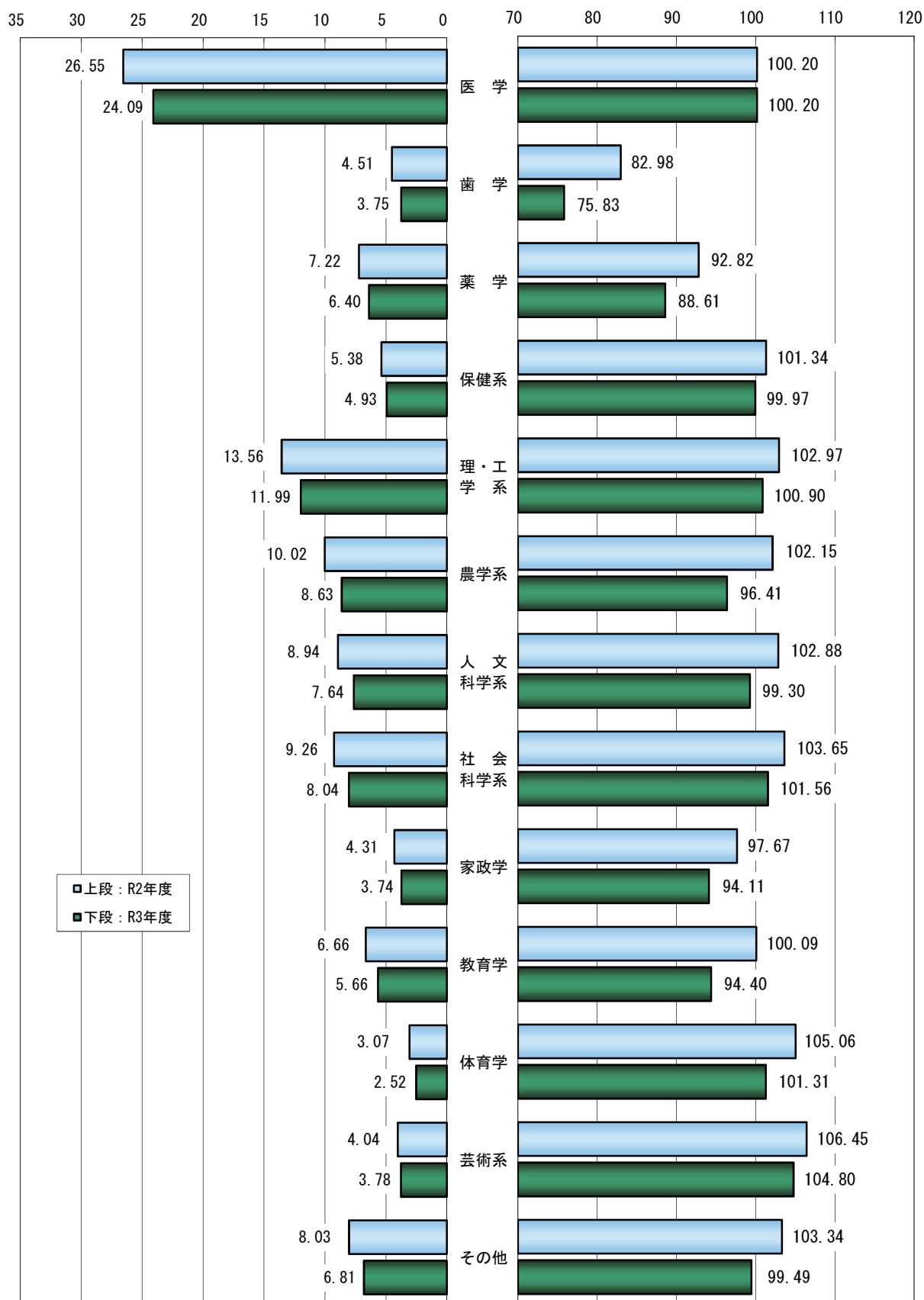
系統区分	年度	集計 学部数	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
		学部	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
医学	R2	31	4,084	108,429	100,457	9,301	4,092	26.55	9.26	44.00	100.20
	R3	31	4,091	98,563	91,218	9,693	4,099	24.09	10.63	42.29	100.20
	増減	0	7	△ 9,866	△ 9,239	392	7	△ 2.46	1.37	△ 1.71	0.00
歯学	R2	17	2,039	9,187	8,330	3,843	1,692	4.51	46.13	44.03	82.98
	R3	17	2,015	7,564	6,832	3,563	1,528	3.75	52.15	42.89	75.83
	増減	0	△ 24	△ 1,623	△ 1,498	△ 280	△ 164	△ 0.76	6.02	△ 1.14	△ 7.15
薬学	R2	59	11,451	82,668	76,646	32,170	10,629	7.22	41.97	33.04	92.82
	R3	60	11,501	73,580	68,606	32,506	10,191	6.40	47.38	31.35	88.61
	増減	1	50	△ 9,088	△ 8,040	336	△ 438	△ 0.82	5.41	△ 1.69	△ 4.21
保健系	R2	244	37,221	200,366	192,496	78,539	37,721	5.38	40.80	48.03	101.34
	R3	254	38,143	188,155	180,494	80,307	38,130	4.93	44.49	47.48	99.97
	増減	10	922	△ 12,211	△ 12,002	1,768	409	△ 0.45	3.69	△ 0.55	△ 1.37
理・工学系	R2	157	62,107	842,140	807,262	257,766	63,949	13.56	31.93	24.81	102.97
	R3	162	62,626	751,179	719,116	281,649	63,192	11.99	39.17	22.44	100.90
	増減	5	519	△ 90,961	△ 88,146	23,883	△ 757	△ 1.57	7.24	△ 2.37	△ 2.07
農学系	R2	23	8,784	87,982	81,478	33,253	8,973	10.02	40.81	26.98	102.15
	R3	25	9,042	78,039	72,644	34,714	8,717	8.63	47.79	25.11	96.41
	増減	2	258	△ 9,943	△ 8,834	1,461	△ 256	△ 1.39	6.98	△ 1.87	△ 5.74
人文科学系	R2	245	68,104	608,854	584,635	186,184	70,067	8.94	31.85	37.63	102.88
	R3	245	68,184	520,901	501,151	199,642	67,710	7.64	39.84	33.92	99.30
	増減	0	80	△ 87,953	△ 83,484	13,458	△ 2,357	△ 1.30	7.99	△ 3.71	△ 3.58
社会科学系	R2	520	170,182	1,576,350	1,505,607	450,552	176,402	9.26	29.92	39.15	103.65
	R3	526	171,506	1,379,159	1,317,801	490,212	174,183	8.04	37.20	35.53	101.56
	増減	6	1,324	△ 197,191	△ 187,806	39,660	△ 2,219	△ 1.22	7.28	△ 3.62	△ 2.09
家政学	R2	84	16,373	70,601	67,542	34,403	15,992	4.31	50.94	46.48	97.67
	R3	83	16,133	60,407	56,819	33,126	15,183	3.74	58.30	45.83	94.11
	増減	△ 1	△ 240	△ 10,194	△ 10,723	△ 1,277	△ 809	△ 0.57	7.36	△ 0.65	△ 3.56
教育学	R2	103	17,855	118,849	113,950	41,340	17,871	6.66	36.28	43.23	100.09
	R3	104	17,832	100,983	96,453	40,613	16,834	5.66	42.11	41.45	94.40
	増減	1	△ 23	△ 17,866	△ 17,497	△ 727	△ 1,037	△ 1.00	5.83	△ 1.78	△ 5.69
体育学	R2	11	5,040	15,462	14,844	7,560	5,295	3.07	50.93	70.04	105.06
	R3	11	5,040	12,680	12,240	7,480	5,106	2.52	61.11	68.26	101.31
	増減	0	0	△ 2,782	△ 2,604	△ 80	△ 189	△ 0.55	10.18	△ 1.78	△ 3.75
芸術系	R2	58	14,332	57,849	55,885	23,540	15,257	4.04	42.12	64.81	106.45
	R3	56	14,069	53,220	51,130	23,320	14,744	3.78	45.61	63.22	104.80
	増減	△ 2	△ 263	△ 4,629	△ 4,755	△ 220	△ 513	△ 0.26	3.49	△ 1.59	△ 1.65
その他	R2	297	73,440	589,478	565,671	190,066	75,890	8.03	33.60	39.93	103.34
	R3	304	74,980	510,432	489,458	201,081	74,596	6.81	41.08	37.10	99.49
	増減	7	1,540	△ 79,046	△ 76,213	11,015	△ 1,294	△ 1.22	7.48	△ 2.83	△ 3.85
合計	R2	1,849	491,012	4,368,215	4,174,803	1,348,517	503,830	8.90	32.30	37.36	102.61
	R3	1,878	495,162	3,834,862	3,663,962	1,437,906	494,213	7.74	39.24	34.37	99.81
	増減	29	4,150	△ 533,353	△ 510,841	89,389	△ 9,617	△ 1.16	6.94	△ 2.99	△ 2.80

学部系統別の志願倍率（大学）

学部系統別の入学定員充足率（大学）

(倍)

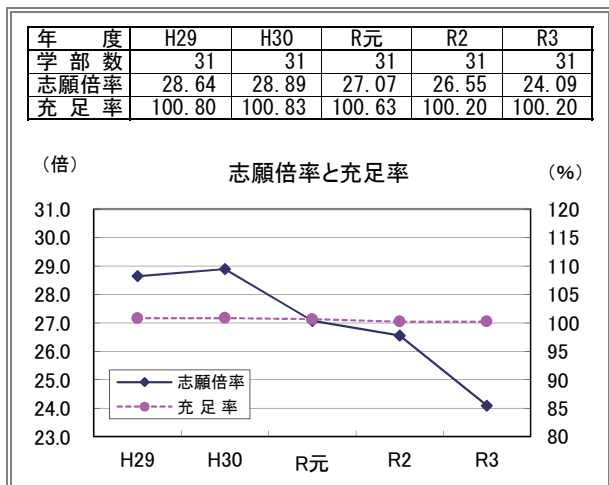
(%)



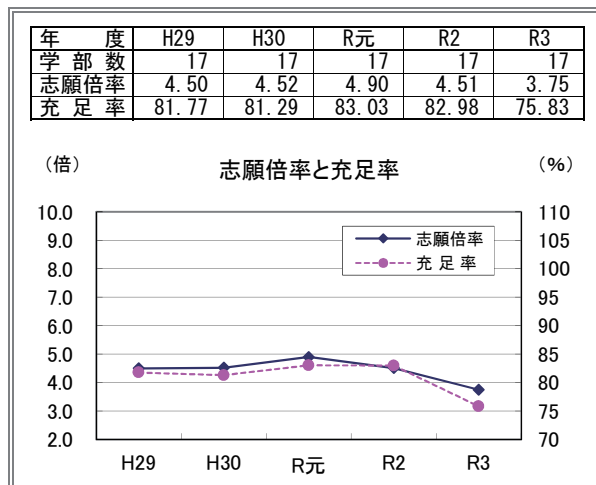
学部系統別の動向 過去5カ年の推移（大学）

過去5カ年における学部系統別の学部数、志願倍率、入学定員充足率を下表に示した。

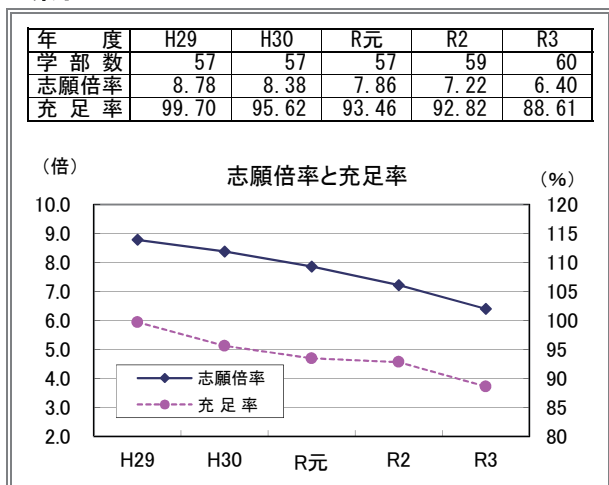
医学



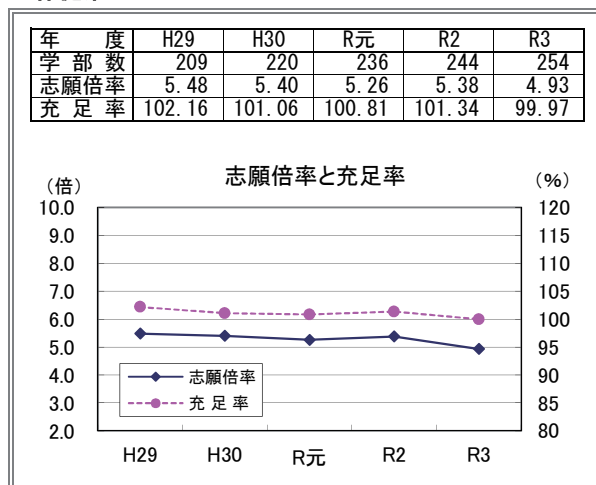
歯学



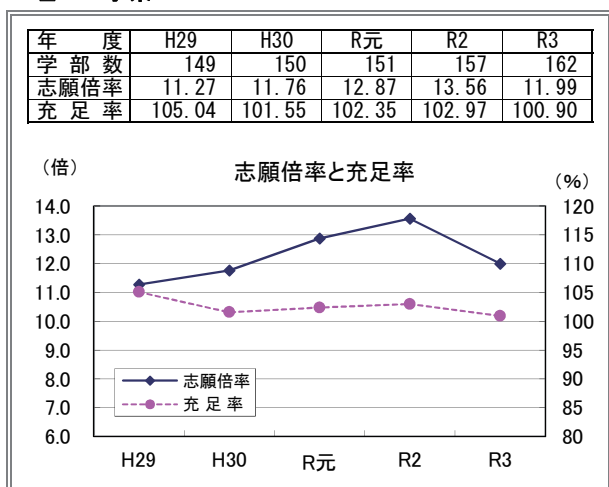
薬学



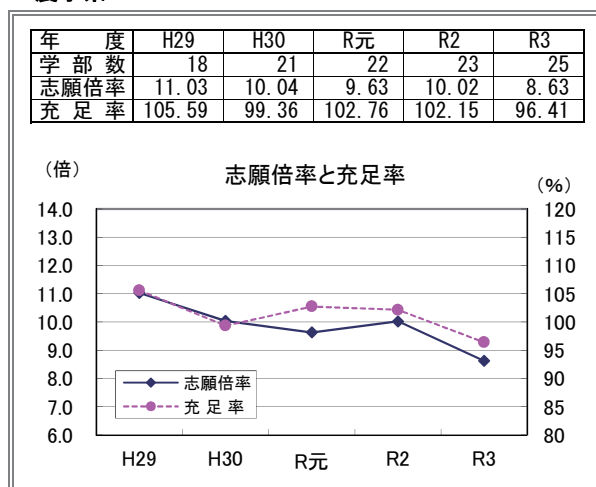
保健系



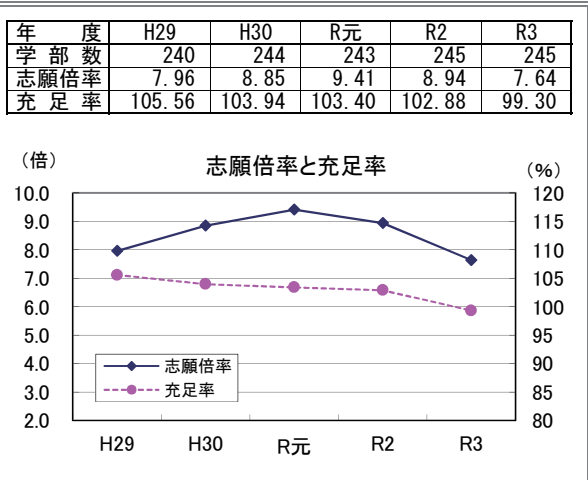
理・工学系



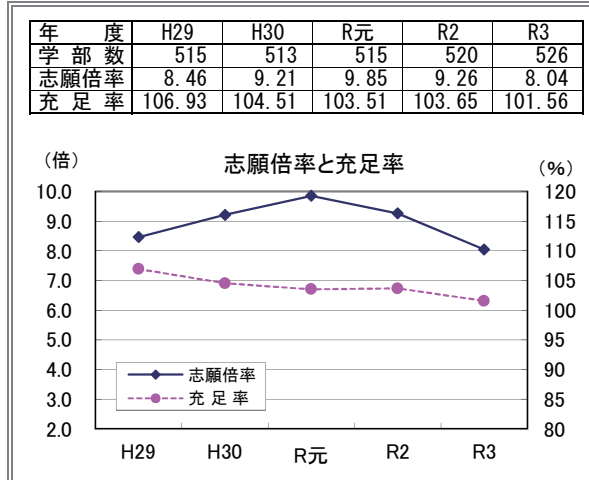
農学系



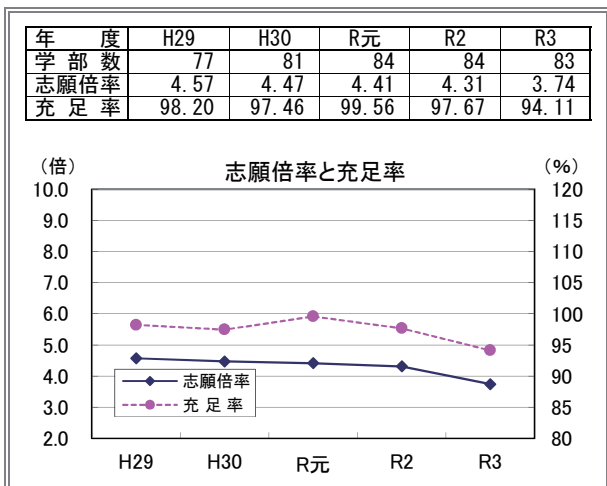
人文科学系



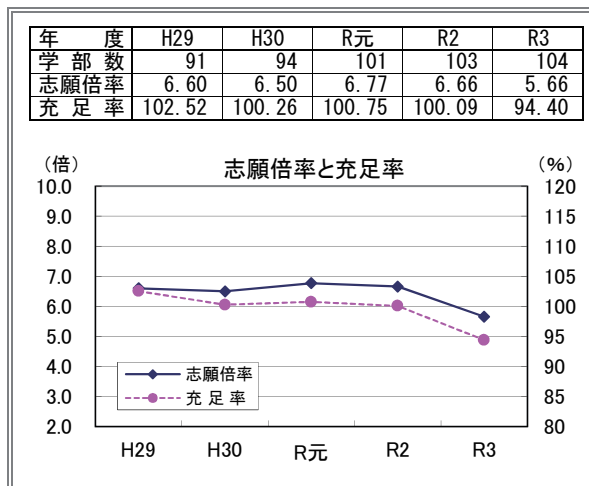
社会科学系



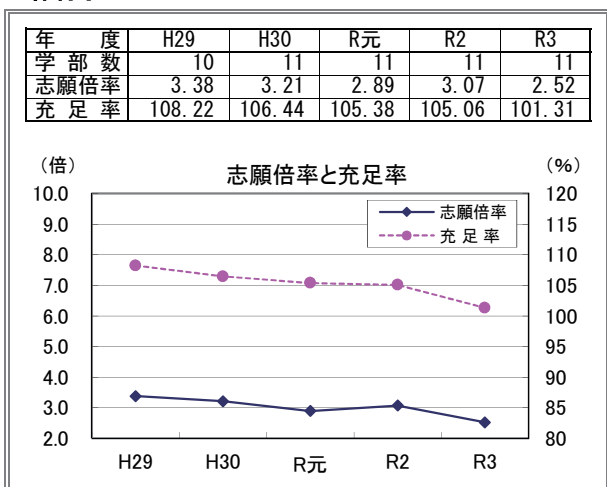
家政学



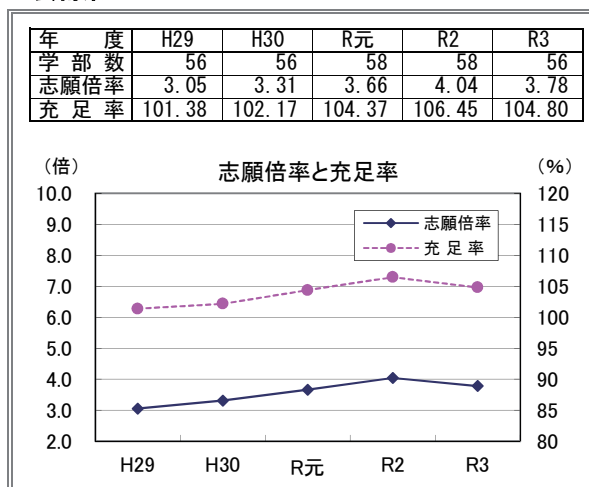
教育学



体育学

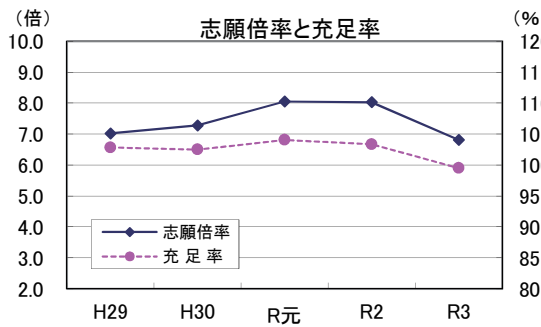


芸術系



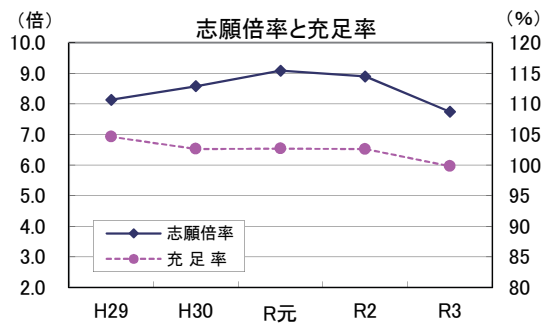
その他

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	273	281	288	297	304
志願倍率	7.02	7.28	8.05	8.03	6.81
充 足 率	102.83	102.50	104.04	103.34	99.49



合計

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
学 部 数	1,743	1,776	1,814	1,849	1,878
志願倍率	8.13	8.57	9.08	8.90	7.74
充 足 率	104.61	102.64	102.67	102.61	99.81



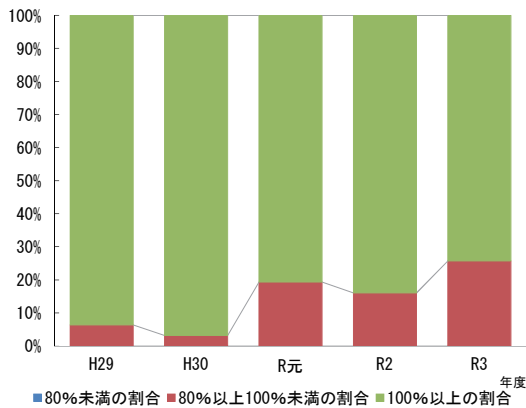
※医学、理・工学系、農学系の志願倍率目盛は他の系統と異なる。

学部系統別・入学定員充足率の動向（大学）

過去5カ年における学部系統別の入学定員充足率を7つの区分に分け、下表に示した。

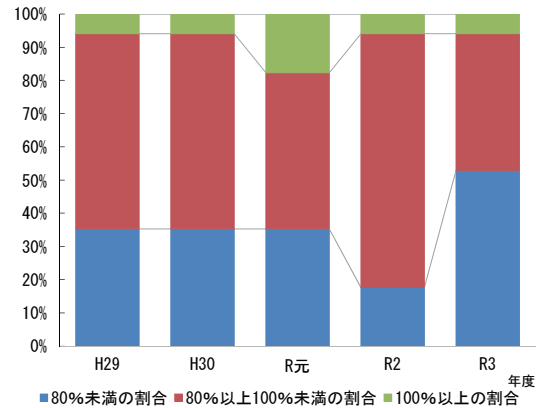
医学

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	100.80%	100.83%	100.63%	100.20%	100.20%
120%以上	0	0	0	0	0
110%以上120%未満	0	0	0	0	0
100%以上110%未満	29	30	25	26	23
90%以上100%未満	1	1	6	5	8
80%以上90%未満	1	0	0	0	0
70%以上80%未満	0	0	0	0	0
70%未満	0	0	0	0	0
合計	31	31	31	31	31
100%以上の割合	93.5%	96.8%	80.6%	83.9%	74.2%
80%以上100%未満の割合	6.5%	3.2%	19.4%	16.1%	25.8%
80%未満の割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



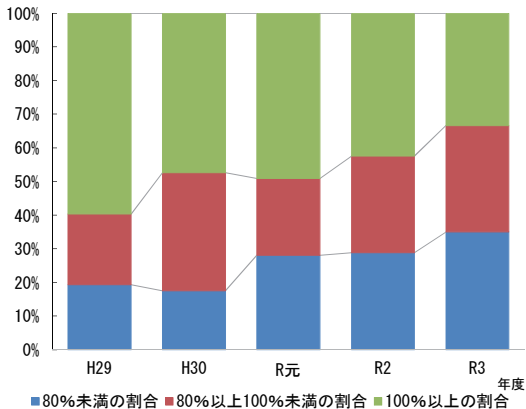
歯学

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	81.77%	81.29%	83.03%	82.98%	75.83%
120%以上	0	0	0	0	0
110%以上120%未満	0	0	0	0	0
100%以上110%未満	1	1	3	1	1
90%以上100%未満	7	6	5	6	4
80%以上90%未満	3	4	3	7	3
70%以上80%未満	2	2	3	0	3
70%未満	4	4	3	3	6
合計	17	17	17	17	17
100%以上の割合	5.9%	5.9%	17.6%	5.9%	5.9%
80%以上100%未満の割合	58.8%	58.8%	47.1%	76.5%	41.2%
80%未満の割合	35.3%	35.3%	35.3%	17.6%	52.9%



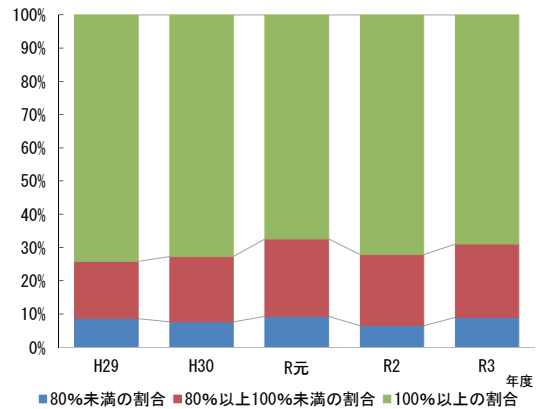
薬学

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	99.70%	95.62%	93.46%	92.82%	88.61%
120%以上	3	2	0	0	0
110%以上120%未満	7	4	3	2	4
100%以上110%未満	24	21	25	23	16
90%以上100%未満	10	14	8	12	10
80%以上90%未満	2	6	5	5	9
70%以上80%未満	4	0	7	4	5
70%未満	7	10	9	13	16
合計	57	57	57	59	60
100%以上の割合	59.6%	47.4%	49.1%	42.4%	33.3%
80%以上100%未満の割合	21.1%	35.1%	22.8%	28.8%	31.7%
80%未満の割合	19.3%	17.5%	28.1%	28.8%	35.0%



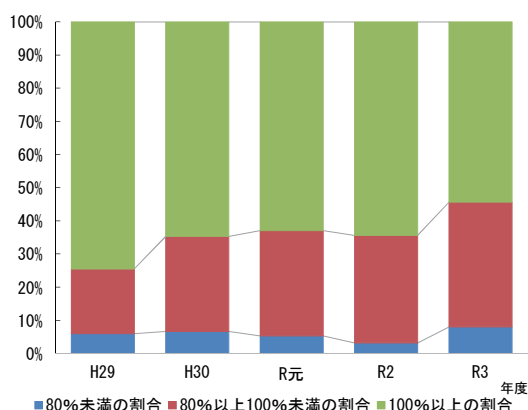
保健系

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	102.16%	101.06%	100.81%	101.34%	99.97%
120%以上	18	18	14	11	12
110%以上120%未満	52	47	45	47	48
100%以上110%未満	85	95	100	118	115
90%以上100%未満	25	33	42	38	35
80%以上90%未満	11	10	13	14	21
70%以上80%未満	7	6	12	8	13
70%未満	11	11	10	8	10
合計	209	220	236	244	254
100%以上の割合	74.2%	72.7%	67.4%	72.1%	68.9%
80%以上100%未満の割合	17.2%	19.5%	23.3%	21.3%	22.0%
80%未満の割合	8.6%	7.7%	9.3%	6.6%	9.1%



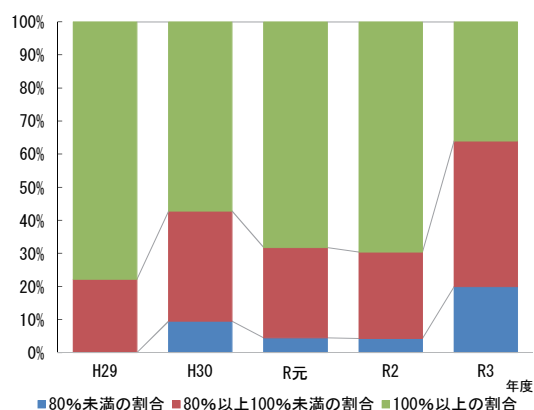
理・工学系

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	105.04	101.55	102.35	102.97	100.90
120%以上	9	6	9	8	3
110%以上120%未満	37	24	25	35	24
100%以上110%未満	65	67	61	58	61
90%以上100%未満	23	34	38	44	47
80%以上90%未満	6	9	10	7	14
70%以上80%未満	6	8	5	3	10
70%未満	3	2	3	2	3
合計	149	150	151	157	162
100%以上の割合	74.5	64.7	62.9	64.3	54.3
80%以上100%未満の割合	19.5	28.7	31.8	32.5	37.7
80%未満の割合	6.0	6.7	5.3	3.2	8.0



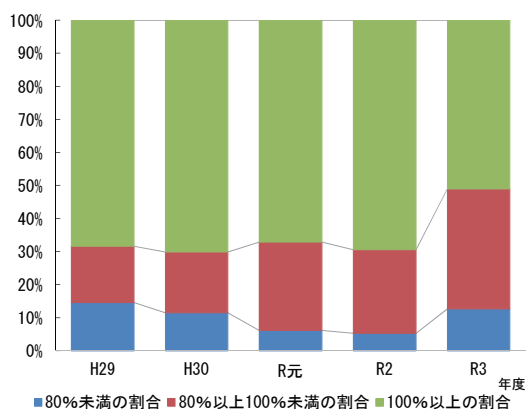
農学系

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	105.59	99.36	102.76	102.15	96.41
120%以上	3	0	1	1	2
110%以上120%未満	4	2	2	3	1
100%以上110%未満	7	10	12	12	6
90%以上100%未満	4	6	5	3	8
80%以上90%未満	0	1	1	3	3
70%以上80%未満	0	0	0	1	2
70%未満	0	2	1	0	3
合	18	21	22	23	25
100%以上の割合	77.8	57.1	68.2	69.6	36.0
80%以上100%未満の割合	22.2	33.3	27.3	26.1	44.0
80%未満の割合	0.0	9.5	4.5	4.3	20.0



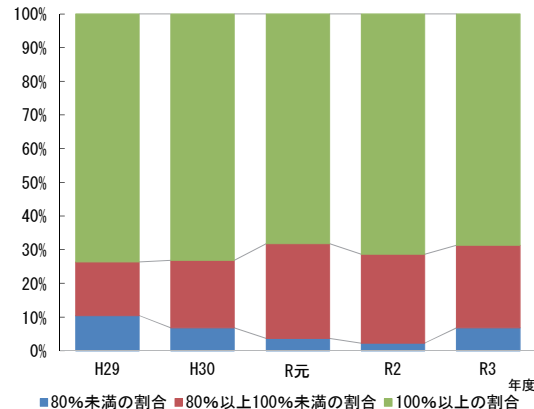
人文学系

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	105.56	103.94	103.40	102.88	99.30
120%以上	33	32	31	21	6
110%以上120%未満	58	54	37	45	26
100%以上110%未満	73	85	95	104	93
90%以上100%未満	32	30	57	52	62
80%以上90%未満	9	15	8	10	27
70%以上80%未満	10	9	3	4	15
70%未満	25	19	12	9	16
合計	240	244	243	245	245
100%以上の割合	68.3	70.1	67.1	69.4	51.0
80%以上100%未満の割合	17.1	18.4	26.7	25.3	36.3
80%未満の割合	14.6	11.5	6.2	5.3	12.7



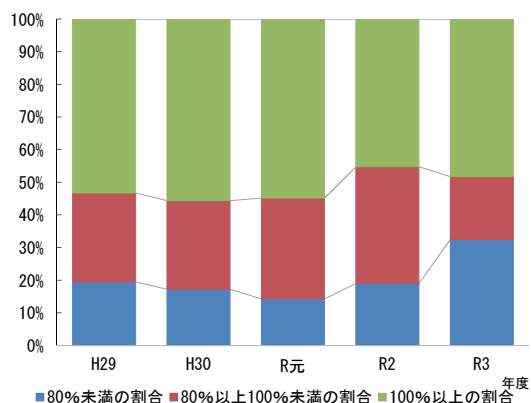
社会科学系

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	106.93	104.51	103.51	103.65	101.56
120%以上	89	75	80	65	34
110%以上120%未満	142	101	102	90	87
100%以上110%未満	148	199	169	216	240
90%以上100%未満	53	77	119	119	100
80%以上90%未満	29	26	26	18	29
70%以上80%未満	27	13	9	4	14
70%未満	27	22	10	8	22
合	515	513	515	520	526
100%以上の割合	73.6	73.1	68.2	71.3	68.6
80%以上100%未満の割合	15.9	20.1	28.2	26.3	24.5
80%未満の割合	10.5	6.8	3.7	2.3	6.8



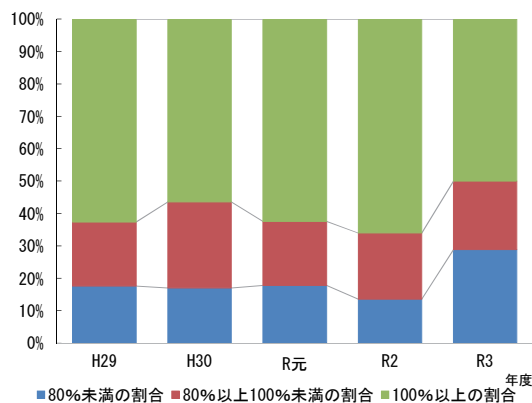
家政学

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	98.20	97.46	99.56	97.67	94.11
120%以上	4	2	4	3	1
110%以上120%未満	16	13	14	9	9
100%以上110%未満	21	30	28	26	30
90%以上100%未満	11	10	18	22	7
80%以上90%未満	10	12	8	8	9
70%以上80%未満	9	4	5	9	19
70%未満	6	10	7	7	8
合計	77	81	84	84	83
100%以上の割合	53.2	55.6	54.8	45.2	48.2
80%以上100%未満の割合	27.3	27.2	31.0	35.7	19.3
80%未満の割合	19.5	17.3	14.3	19.0	32.5



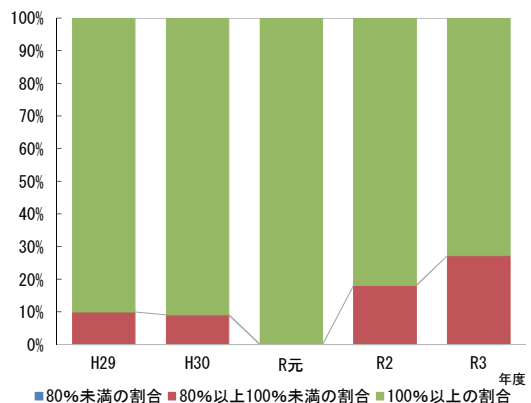
教育学

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	102.52	100.26	100.75	100.09	94.40
120%以上	10	11	8	5	2
110%以上120%未満	19	12	22	26	22
100%以上110%未満	28	30	33	37	28
90%以上100%未満	13	17	13	16	15
80%以上90%未満	5	8	7	5	7
70%以上80%未満	7	3	7	5	12
70%未満	9	13	11	9	18
合	91	94	101	103	104
100%以上の割合	62.6	56.4	62.4	66.0	50.0
80%以上100%未満の割合	19.8	26.6	19.8	20.4	21.2
80%未満の割合	17.6	17.0	17.8	13.6	28.8



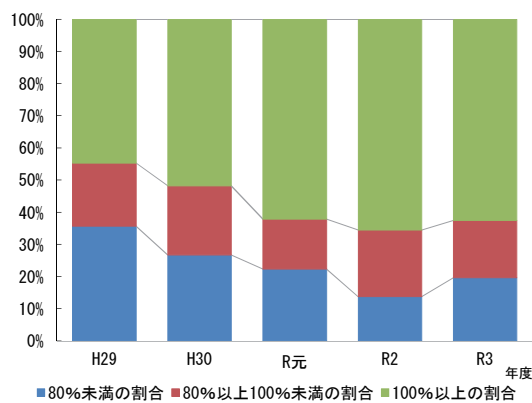
体育学

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	108.22	106.44	105.38	105.06	101.31
120%以上	1	1	0	0	1
110%以上120%未満	4	2	3	3	0
100%以上110%未満	4	7	8	6	7
90%以上100%未満	1	1	0	2	3
80%以上90%未満	0	0	0	0	0
70%以上80%未満	0	0	0	0	0
70%未満	0	0	0	0	0
合計	10	11	11	11	11
100%以上の割合	90.0	90.9	100.0	81.8	72.7
80%以上100%未満の割合	10.0	9.1	0.0	18.2	27.3
80%未満の割合	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



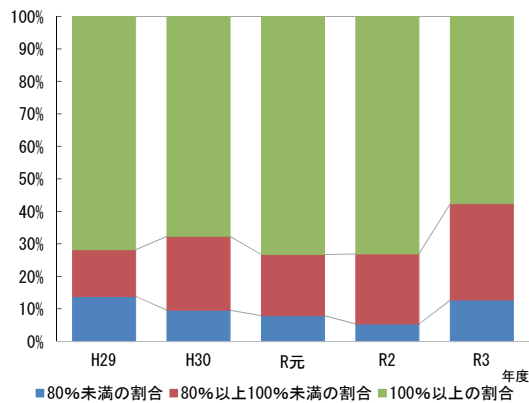
芸術系

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	101.38	102.17	104.37	106.45	104.80
120%以上	5	3	5	10	4
110%以上120%未満	8	8	14	14	14
100%以上110%未満	12	18	17	14	17
90%以上100%未満	6	6	2	5	5
80%以上90%未満	5	6	7	7	5
70%以上80%未満	7	2	4	1	3
70%未満	13	13	9	7	8
合	56	56	58	58	56
100%以上の割合	44.6	51.8	62.1	65.5	62.5
80%以上100%未満の割合	19.6	21.4	15.5	20.7	17.9
80%未満の割合	35.7	26.8	22.4	13.8	19.6



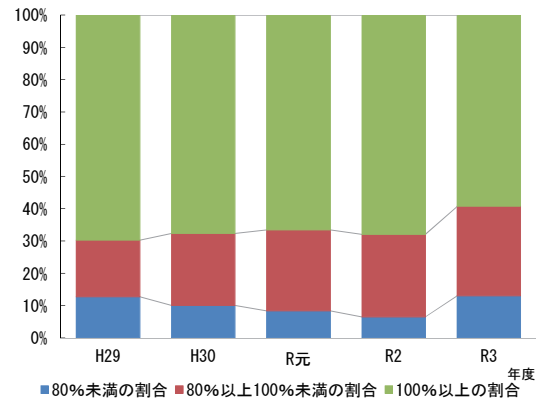
その他

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	102.83	102.50	104.04	103.34	99.49
120%以上	34	30	45	26	17
110%以上120%未満	59	49	55	60	38
100%以上110%未満	103	111	111	131	120
90%以上100%未満	23	45	45	49	67
80%以上90%未満	16	19	9	15	23
70%以上80%未満	11	12	6	8	17
70%未満	27	15	17	8	22
合計	273	281	288	297	304
100%以上の割合	71.8	67.6	73.3	73.1	57.6
80%以上100%未満の割合	14.3	22.8	18.8	21.5	29.6
80%未満の割合	13.9	9.6	8.0	5.4	12.8



合計

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	104.61	102.64	102.67	102.61	99.81
120%以上	209	180	197	150	82
110%以上120%未満	406	316	322	334	273
100%以上110%未満	600	704	687	772	757
90%以上100%未満	209	280	358	373	371
80%以上90%未満	97	116	97	99	150
70%以上80%未満	90	59	61	47	113
70%未満	132	121	92	74	132
合	1,743	1,776	1,814	1,849	1,878
100%以上の割合	69.7	67.6	66.5	67.9	59.2
80%以上100%未満の割合	17.6	22.3	25.1	25.5	27.7
80%未満の割合	12.7	10.1	8.4	6.5	13.0



※ 各学部系統の割合欄は、小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある。

5. 主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

学部名称の表記は、集計数3以上の学部とし、集計数2以下は「その他」とした。

系 統 区 分 学 部 名	集計学部数			入学定員(人)			志願者数(人)			入学者数(人)			入学定員充足率(%)		
	R2年度	R3年度	増減	R2年度	R3年度	増減	R2年度	R3年度	増減	R2年度	R3年度	増減	R2年度	R3年度	増減
医学	31	31	0	4,084	4,091	7	108,429	98,563	△ 9,866	4,092	4,099	7	100.20	100.20	0.00
歯学	17	17	0	2,039	2,015	△ 24	9,187	7,564	△ 1,623	1,692	1,528	△ 164	82.98	75.83	△ 7.15
薬学	59	60	1	11,451	11,501	50	82,668	73,580	△ 9,088	10,629	10,191	△ 438	92.82	88.61	△ 4.21
保健系	244	254	10	37,221	38,143	922	200,366	188,155	△ 12,211	37,721	38,130	409	101.34	99.97	△ 1.37
看護学部	100	101	1	9,150	9,203	53	54,346	50,733	△ 3,613	9,406	9,453	47	102.80	102.72	△ 0.08
保健医療学部	35	35	0	6,780	7,050	270	32,529	31,094	△ 1,435	7,121	7,149	28	105.03	101.40	△ 3.63
リハビリテーション学部	12	15	3	1,395	1,705	310	6,943	6,767	△ 176	1,374	1,711	337	98.49	100.35	1.86
医療保健学部	8	8	0	1,815	1,820	5	9,269	8,163	△ 1,106	1,889	1,887	△ 2	104.08	103.68	△ 0.40
保健科学部	5	5	0	1,130	1,070	△ 60	5,780	5,409	△ 371	1,246	1,196	△ 50	110.27	111.78	1.51
医療学部	5	5	0	470	470	0	1,020	1,009	△ 11	481	433	△ 48	102.34	92.13	△ 10.21
栄養学部	4	5	1	897	977	80	3,734	3,395	△ 339	816	834	18	90.97	85.36	△ 5.61
医療技術学部	4	5	1	1,655	1,735	80	11,472	10,575	△ 897	1,552	1,586	34	93.78	91.41	△ 2.37
医療科学部	4	5	1	840	854	14	4,391	4,817	426	866	876	10	103.10	102.58	△ 0.52
看護福祉学部	3	3	0	600	600	0	2,644	2,426	△ 218	570	579	9	95.00	96.50	1.50
保健福祉学部	3	3	0	715	715	0	1,610	1,405	△ 205	648	616	△ 32	90.63	86.15	△ 4.48
医療福祉学部	3	3	0	846	716	△ 130	1,495	1,245	△ 250	730	629	△ 101	86.29	87.85	1.56
健康医療科学部	3	3	0	590	590	0	4,158	3,750	△ 408	574	581	7	97.29	98.47	1.18
看護栄養学部	3	3	0	455	455	0	1,582	1,575	△ 7	445	490	45	97.80	107.69	9.89
保健看護学部	3	3	0	330	330	0	2,652	2,232	△ 420	349	360	11	105.76	109.09	3.33
ヒューマンケア学部	3	3	0	657	657	0	5,277	4,826	△ 451	668	643	△ 25	101.67	97.87	△ 3.80
リハビリテーション学部 （専門職）	3	3	0	430	430	0	351	542	191	270	343	73	62.79	79.77	16.98
その他	43	46	3	8,466	8,766	300	51,113	48,192	△ 2,921	8,716	8,764	48	102.95	99.98	△ 2.97
理・工学系	157	162	5	62,107	62,626	519	842,140	751,179	△ 90,961	63,949	63,192	△ 757	102.97	100.90	△ 2.07
工学部	48	51	3	22,010	22,649	639	265,197	238,695	△ 26,502	23,507	23,120	△ 387	106.80	102.08	△ 4.72
理工学部	30	29	△ 1	18,581	18,040	△ 541	292,296	253,201	△ 39,095	18,496	18,055	△ 441	99.54	100.08	0.54
理学部	13	14	1	4,354	4,534	180	49,849	46,650	△ 3,199	4,255	4,361	106	97.73	96.18	△ 1.55
建築学部	8	9	1	1,655	1,787	132	28,648	28,424	△ 224	1,806	1,883	77	109.12	105.37	△ 3.75
生命科学部	8	8	0	1,911	1,867	△ 44	29,165	23,380	△ 5,785	1,857	1,890	33	97.17	101.23	4.06
情報科学部	4	4	0	1,046	1,090	44	27,781	29,130	1,349	1,136	1,237	101	108.60	113.49	4.89
デザイン工学部	4	4	0	1,070	1,089	19	15,974	15,550	△ 424	1,104	1,100	△ 4	103.18	101.01	△ 2.17
その他	42	43	1	11,480	11,570	90	133,230	116,149	△ 17,081	11,788	11,546	△ 242	102.68	99.79	△ 2.89
農学系	23	25	2	8,784	9,042	258	87,982	78,039	△ 9,943	8,973	8,717	△ 256	102.15	96.41	△ 5.74
農学部	10	10	0	3,671	3,661	△ 10	52,530	45,327	△ 7,203	3,562	3,472	△ 90	97.03	94.84	△ 2.19
獣医学部	4	4	0	970	970	0	11,910	10,635	△ 1,275	1,037	961	△ 76	106.91	99.07	△ 7.84
その他	9	11	2	4,143	4,411	268	23,542	22,077	△ 1,465	4,374	4,284	△ 90	105.58	97.12	△ 8.46
人文科学系	245	245	0	68,104	68,184	80	608,854	520,901	△ 87,953	70,067	67,710	△ 2,357	102.88	99.30	△ 3.58
文学部	83	83	0	32,703	32,768	65	318,865	271,768	△ 47,097	33,471	32,676	△ 795	102.35	99.72	△ 2.63
人文学部	32	31	△ 1	6,765	6,470	△ 295	45,370	41,377	△ 3,993	7,076	6,473	△ 603	104.60	100.05	△ 4.55
外国語学部	29	28	△ 1	9,833	9,706	△ 127	91,083	73,790	△ 17,293	10,098	9,646	△ 452	102.70	99.38	△ 3.32
心理学部	21	22	1	2,968	3,053	85	29,548	24,990	△ 4,558	3,098	3,146	48	104.38	103.05	△ 1.33
人間学部	11	11	0	2,260	2,270	10	9,273	6,946	△ 2,327	2,302	2,144	△ 158	101.86	94.45	△ 7.41
国際文化学部	10	11	1	1,735	1,990	255	13,868	11,892	△ 1,976	1,782	1,827	45	102.71	91.81	△ 10.90
神学部	6	6	0	181	181	0	1,030	728	△ 302	177	164	△ 13	97.79	90.61	△ 7.18
仏教学部	5	5	0	487	487	0	2,167	1,803	△ 364	480	458	△ 22	98.56	94.05	△ 4.51
人間関係学部	5	5	0	1,060	1,045	△ 15	3,792	3,103	△ 689	1,217	1,142	△ 75	114.81	109.28	△ 5.53
グローバル・コミュニ ケーション学部（群）	5	5	0	888	888	0	8,006	5,978	△ 2,028	873	788	△ 85	98.31	88.74	△ 9.57
文芸学部	3	3	0	1,240	1,240	0	19,713	19,560	△ 153	1,325	1,343	18	106.85	108.31	1.46
現代文化学部	3	3	0	445	445	0	1,262	1,111	△ 151	436	382	△ 54	97.98	85.84	△ 12.14
その他	32	32	0	7,539	7,641	102	64,877	57,855	△ 7,022	7,732	7,521	△ 211	102.56	98.43	△ 4.13
社会科学系	520	526	6	170,182	171,506	1,324	1,576,350	1,379,159	△ 197,191	176,402	174,183	△ 2,219	103.65	101.56	△ 2.09
経済学部	91	91	0	38,695	39,013	318	391,925	350,241	△ 41,684	39,733	39,567	△ 166	102.68	101.42	△ 1.26
経営学部	88	89	1	27,861	27,966	105	292,165	252,916	△ 39,249	29,329	28,882	△ 447	105.27	103.28	△ 1.99
法学部	79	79	0	30,803	30,870	67	276,032	243,558	△ 32,474	31,574	31,638	64	102.50	102.49	△ 0.01
商学部	29	29	0	14,296	14,341	45	132,978	117,896	△ 15,082	14,638	14,314	△ 324	102.39	99.81	△ 2.58
社会学部	24	26	2	8,313	8,580	267	96,310	89,572	△ 6,738	8,410	8,652	242	101.17	100.84	△ 0.33
社会福祉学部	21	21	0	3,684	3,649	△ 35	11,735	10,181	△ 1,554	3,811	3,548	△ 263	103.45	97.23	△ 6.22
人間社会学部	13	13	0	3,570	3,570	0	17,964	14,837	△ 3,127	3,764	3,522	△ 242	105.43	98.66	△ 6.77
現代社会学部	12	13	1	2,741	2,931	190	28,055	21,295	△ 6,760	2,805	2,983	178	102.33	101.77	△ 0.56
総合政策学部	13	12	△ 1	3,005	2,840	△ 165	25,450	21,761	△ 3,689	3,096	2,839	△ 257	103.03	99.96	△ 3.07
経営情報学部	10	10	0	2,102	2,122	20	8,373	7,510	△ 863	2,300	2,283	△ 17	109.42	107.59	△ 1.83

※次のページに続く

系 統 区 分	集計学部数			入学定員(人)			志願者数(人)			入学者数(人)			入学定員充足率(%)		
	学 部 名	R2年度	R3年度	増減	R2年度	R3年度	増減	R2年度	R3年度	増減	R2年度	R3年度	増減	R2年度	R3年度
情報学部	9	9	0	2,040	2,040	0	22,907	21,409	△ 1,498	2,155	2,234	79	105.64	109.51	3.87
経済経営学部	8	9	1	1,655	1,985	330	7,940	7,815	△ 125	1,856	2,076	220	112.15	104.58	△ 7.57
観光学部	6	6	0	1,030	1,060	30	8,133	6,832	△ 1,301	1,065	993	△ 72	103.40	93.68	△ 9.72
現代ビジネス学部	6	5	△ 1	1,305	975	△ 330	7,918	2,160	△ 5,758	1,450	1,010	△ 440	111.11	103.59	△ 7.52
政治経済学部	5	5	0	2,810	2,810	0	32,746	26,488	△ 6,258	2,576	2,784	208	91.67	99.07	7.40
国際経営学部	4	4	0	1,260	1,260	0	7,928	6,801	△ 1,127	1,232	989	△ 243	97.78	78.49	△ 19.29
総合経営学部	4	4	0	920	920	0	3,573	2,591	△ 982	1,149	1,095	△ 54	124.89	119.02	△ 5.87
人間福祉学部	3	4	1	560	630	70	2,528	2,157	△ 371	627	585	△ 42	111.96	92.86	△ 19.10
環境情報学部	3	3	0	675	675	0	5,308	5,069	△ 239	770	679	△ 91	114.07	100.59	△ 13.48
国際観光学部	3	3	0	631	631	0	6,215	4,244	△ 1,971	633	595	△ 38	100.32	94.29	△ 6.03
経営経済学部	3	3	0	730	730	0	2,146	2,048	△ 98	880	758	△ 122	120.55	103.84	△ 16.71
その他	86	88	2	21,496	21,908	412	188,021	161,778	△ 26,243	22,549	22,157	△ 392	104.90	101.14	△ 3.76
家政学	84	83	△ 1	16,373	16,133	△ 240	70,601	60,407	△ 10,194	15,992	15,183	△ 809	97.67	94.11	△ 3.56
家政学部	16	15	△ 1	4,465	4,365	△ 100	22,007	18,864	△ 3,143	4,487	4,433	△ 54	100.49	101.56	1.07
健康栄養学部(群)	12	12	0	1,190	1,190	0	3,515	2,885	△ 630	987	982	△ 5	82.94	82.52	△ 0.42
生活科学部	10	9	△ 1	2,094	1,847	△ 247	10,568	7,695	△ 2,873	2,175	1,993	△ 182	103.87	107.90	4.03
人間健康学部	9	8	△ 1	1,475	1,275	△ 200	8,039	6,624	△ 1,415	1,624	1,258	△ 366	110.10	98.67	△ 11.43
人間生活学部	8	8	0	1,800	1,820	20	4,066	3,503	△ 563	1,686	1,508	△ 178	93.67	82.86	△ 10.81
栄養科学部	3	3	0	560	560	0	1,908	1,677	△ 231	588	586	△ 2	105.00	104.64	△ 0.36
現代生活学部	3	3	0	640	640	0	1,489	1,314	△ 175	545	512	△ 33	85.16	80.00	△ 5.16
その他	23	25	2	4,149	4,436	287	19,009	17,845	△ 1,164	3,900	3,911	11	94.00	88.17	△ 5.83
教育学	103	104	1	17,855	17,832	△ 23	118,849	100,983	△ 17,866	17,871	16,834	△ 1,037	100.09	94.40	△ 5.69
教育学部	51	52	1	9,884	9,936	52	87,242	76,423	△ 10,819	10,232	9,922	△ 310	103.52	99.86	△ 3.66
子ども(こども)教育学部	9	9	0	798	798	0	1,598	1,289	△ 309	663	632	△ 31	83.08	79.20	△ 3.88
子ども学部	7	7	0	875	875	0	2,369	1,977	△ 392	944	815	△ 129	107.89	93.14	△ 14.75
人間教育学部	4	4	0	505	600	95	2,675	2,177	△ 498	455	449	△ 6	90.10	74.83	△ 15.27
人間発達学部	4	4	0	460	420	△ 40	840	685	△ 155	362	345	△ 17	78.70	82.14	3.44
発達教育学部	4	4	0	985	925	△ 60	5,991	4,290	△ 1,701	976	780	△ 196	99.09	84.32	△ 14.77
こども学部	3	3	0	265	265	0	378	341	△ 37	248	223	△ 25	93.58	84.15	△ 9.43
その他	21	21	0	4,083	4,013	△ 70	17,756	13,801	△ 3,955	3,991	3,668	△ 323	97.75	91.40	△ 6.35
体育学	11	11	0	5,040	5,040	0	15,462	12,680	△ 2,782	5,295	5,106	△ 189	105.06	101.31	△ 3.75
芸術系	58	56	△ 2	14,332	14,069	△ 263	57,849	53,220	△ 4,629	15,257	14,744	△ 513	106.45	104.80	△ 1.65
音楽学部	20	19	△ 1	3,171	2,991	△ 180	4,399	4,029	△ 370	2,954	2,819	△ 135	93.16	94.25	1.09
芸術学部	18	18	0	6,522	6,557	35	26,933	24,598	△ 2,335	7,297	7,221	△ 76	111.88	110.13	△ 1.75
造形学部	6	6	0	1,948	1,948	0	12,678	11,010	△ 1,668	2,143	2,071	△ 72	110.01	106.31	△ 3.70
美術学部	5	5	0	1,430	1,430	0	8,265	7,908	△ 357	1,577	1,479	△ 98	110.28	103.43	△ 6.85
デザイン学部	4	4	0	696	696	0	3,652	4,120	468	726	727	1	104.31	104.45	0.14
その他	5	4	△ 1	565	447	△ 118	1,922	1,555	△ 367	560	427	△ 133	99.12	95.53	△ 3.59
その他	297	304	7	73,440	74,980	1,540	589,478	510,432	△ 79,046	75,890	74,596	△ 1,294	103.34	99.49	△ 3.85
人間科学部	31	30	△ 1	7,495	7,378	△ 117	55,475	44,391	△ 11,084	7,759	7,503	△ 256	103.52	101.69	△ 1.83
国際学部	21	23	2	5,126	5,259	133	45,697	39,219	△ 6,478	5,103	4,945	△ 158	99.55	94.03	△ 5.52
健康科学部	20	20	0	4,321	4,391	70	29,808	24,616	△ 5,192	4,407	4,306	△ 101	101.99	98.06	△ 3.93
国際教養学部	13	13	0	2,464	2,464	0	19,500	15,495	△ 4,005	2,642	2,273	△ 369	107.22	92.25	△ 14.97
スポーツ科学部	7	9	2	2,065	2,555	490	12,282	11,735	△ 547	2,150	2,644	494	104.12	103.48	△ 0.64
国際コミュニケーション学部	7	7	0	1,081	1,231	150	11,071	8,109	△ 2,962	1,173	1,191	18	108.51	96.75	△ 11.76
学芸学部	7	7	0	2,235	2,235	0	10,643	8,530	△ 2,113	2,487	2,233	△ 254	111.28	99.91	△ 11.37
国際関係学部	7	7	0	2,151	2,216	65	15,415	12,675	△ 2,740	2,113	2,142	29	98.23	96.66	△ 1.57
スポーツ健康科学部	7	7	0	1,576	1,766	190	11,436	9,015	△ 2,421	1,611	1,760	149	102.22	99.66	△ 2.56
総合情報学部	6	6	0	1,685	1,685	0	15,667	13,207	△ 2,460	1,779	1,786	7	105.58	105.99	0.41
健康福祉学部	6	6	0	880	880	0	2,503	2,352	△ 151	815	796	△ 19	92.61	90.45	△ 2.16
人間文化学部	5	5	0	725	725	0	2,497	2,605	108	696	649	△ 47	96.00	89.52	△ 6.48
スポーツ健康学部	4	4	0	585	610	25	5,420	4,282	△ 1,138	634	594	△ 40	108.38	97.38	△ 11.00
先進工学部	3	4	1	1,005	1,365	360	24,315	30,158	5,843	1,100	1,405	305	109.45	102.93	△ 6.52
教養学部	3	3	0	1,390	1,390	0	6,727	6,089	△ 638	1,435	1,401	△ 34	103.24	100.79	△ 2.45
人間環境学部	3	3	0	648	658	10	9,143	7,835	△ 1,308	688	683	△ 5	106.17	103.80	△ 2.37
メディア学部	3	3	0	790	790	0	5,295	4,994	△ 301	865	843	△ 22	109.49	106.71	△ 2.78
情報メディア学部	3	3	0	370	370	0	1,188	1,012	△ 176	391	414	23	105.68	111.89	6.21
現代人間学部	3	3	0	595	595	0	3,369	2,007	△ 1,362	661	524	△ 137	111.09	88.07	△ 23.02
現代教養学部	3	3	0	1,480	1,480	0	11,522	9,477	△ 2,045	1,562	1,538	△ 24	105.54	103.92	△ 1.62
危機管理学部	3	3	0	690	660	△ 30	3,871	2,959	△ 912	643	685	42	93.19	103.79	10.60
情報理工学部	3	3	0	835	835	0	14,833	12,739	△ 2,094	808	852	44	96.77	102.04	5.27
その他	129	132	3	33,248	33,442	194	271,801	236,931	△ 34,870	34,368	33,429	△ 939	103.37	99.96	△ 3.41
合 計	1,849	1,878	29	491,012	495,162	4,150	4,368,215	3,834,862	△ 533,353	503,830	494,213	△ 9,617	102.61	99.81	△ 2.80

学部系統区分	
医学	医
歯学	歯/生命歯/口腔歯
薬学	薬
保健系	保健/看護/栄養/鍼灸/保健衛生/医療技術/看護福祉/保健福祉/医療衛生/保健科/産業保健/保健医療/医療福祉/リハビリテーション/医療/健康メディカル/健康医療科/看護栄養/保健看護/医療健康科/医療看護/医療健康/看護医療/医療科/看護リハビリテーション/ヒューマンケア/医療保健/総合リハビリテーション/医療福祉マネジメント/保健医療技術/保健医療福祉/健康福祉学群/リハビリテーション科/医療情報/看護保健/健康医療/健康医療スポーツ/国際看護/リハビリテーション（専門職）
理・工学系	理工/理/工/生産工/芸術工/基礎工/情報科/医用工/デザイン工/生物理工/環境/生命科/情報工/科学技術/フロンティアサイエンス/環境都市工/技能工芸/産業理工/化学生命工/創造理工/創造工/応用生命科/ソフトウェア情報/応用バイオ科/バイオサイエンス/バイオ・化/コンピュータサイエンス/建築/情報通信工/情報通信/生物生命/未来科/生物/基盤工/システムデザイン工/ロボティクス&デザイン工/建築都市工/基幹工/航空工/データサイエンス/航空・マネジメント学群/情報経営イノベーション（専門職）/先端理工/工科（専門職）
農学系	農/獣医/海洋/生物産業/生物資源科/生命環境/海洋生命科/獣医学群/農食環境学群/動物看護/食料産業/フードサービスマネジメント（専門職）
人文科学系	文/文芸/神/仏教/外国語/人文/国際言語文化/比較文化/国際文化/現代文化/人間/文化/人間関係/人文学科/心理/神道文化/こども心理/心理科/国際人文/国際英語/国際・英語/表象文化/現代心理/心身科/言語コミュニケーション/異文化コミュニケーション/グローバル教養/文化構想/子ども未来/心理こども/歴史/グローバル・コミュニケーション学部（群）/英語キャリア/臨床心理/グローバル地域文化/英語国際/総合心理/文化社会/教育人文/教育・心理
社会科学系	社会/社会科/産業社会/社会福祉/法/政経/政治経済/経済/経営/商/商経/経営情報/情報/国際政治経済/経済情報/総合政策/人間社会/環境情報/社会情報/流通科/コミュニケーション/現代社会/流通情報/流通/人間福祉/経済科/国際経営/経営法/現代法/社会環境/現代日本社会/現代福祉/福祉社会/生涯福祉/観光/21世紀アジア/人間健康福祉/コミュニティ福祉/現代経営/コミュニティ政策/総合経営/マネジメント/シティライフ/総合福祉/ビジネス情報/総合社会/国際社会/政策/マネジメント創造/都市生活/サービス経営/福祉/総合マネジメント/国際観光/ビジネスデザイン/情報マネジメント/現代コミュニケーション/公益/経済経営/経営経済/現代マネジメント/観光ビジネス/アジア太平洋/知的財産/産業情報/社会システム科/現代ビジネス/地域政策/ネットワーク情報/福祉情報/社会イノベーション/政策情報/福祉総合/ビジネスマネジメント学群/ビジネス/工芸/情報社会/グローバルビジネス/地球社会共生/観光コミュニティ/地域創造/都市創造/国際社会科/観光経営/地域創生/情報連携/地域経営/公共/国際コミュニティ/地域共創/メディアビジネス/環境デザイン/社会共生/社会情報デザイン/事業創造（専門職）/情報（専門職）/経法商/アントレプレナーシップ
家政学	家政/生活科/人間生活/生活環境/食文化/健康プロデュース/栄養科/人間健康/服装/健康生活/食物栄養/食物栄養科/健康管理/管理栄養/現代生活/現代家政/服飾/健康栄養学部（群）/人間生活科/人間栄養/生活創造/食環境科/医療栄養/国際ファッション（専門職）/食健康科/生活創生
教育学	教育/児童/人間教育/人間発達/児童保育/保育/子ども/こども/発達科/子ども（こども）教育/発達教育/子ども生活/国際こども教育/子ども育成/人間開発/健康・スポーツ科/次世代教育/臨床教育/現代教育/学校教師/スポーツ健康政策/児童スポーツ教育/教育文化/保育児童/児童教育/心理・教育学群
体育学	体育/スポーツプロモーション
芸術系	芸術/美術/造形/音楽/デザイン/映画/ポピュラーカルチャー/アニメーション文化/メディア芸術/造形構想
その他	応用生物科/国際食料情報/地域環境科/地球環境科/人間文化/国際地域/国際交流/現代中国/国際コミュニケーション/健康科/教養/文理/学芸/人間科/国際関係/国際/不動産/スポーツ健康科/文化情報/総合情報/政策科/都市情報/国際情報/総合文化/ホスピタリティ・ツーリズム/メディア造形/基幹理工/現代ライフ/国際文化交流/表現/生命工/生命医科/生命・環境科/システム理工/先進理工/環境園芸/スポーツ科/総合人間科/知能情報/教育福祉/英語情報マネジメント/人間環境/人文社会学部（群）/メディアコミュニケーション/経営教育/メディア/キャリアデザイン/メディア情報/政策創造/情報メディア/現代人間/情報コミュニケーション/経営文化/文化創造/文化表現/医療経営管理/芸術情報/交流文化/国際福祉開発/現代教養/人間情報/社会安全/キャリア形成/国際日本/教育人間科/スポーツ/応用心理/国際教養/心理・福祉/生涯スポーツ/映像/メディア・芸術/総合人間/人間総合/未来デザイン/感性デザイン/マンガ/健康福祉/危機管理/リベラルアーツ学群/情報フロンティア/リベラルアーツ/グローバル・メディア・スタディーズ/グローバルスタディーズ/福祉健康/現代政策/応用生物/現代国際/総合文化政策/情報理工/生命健康科/バイオ環境/サービス創造/スポーツ健康/ライフデザイン/スポーツ・健康科/スポーツ人間/福祉貢献/モチベーション行動科/コミュニケーション文化/生物地球/生命/地域共創学群/総合数理/建築・環境/観光メディア文化/芸術文化学群/総合グローバル/国際キャリア/先進工/福祉心理/国際リベラルアーツ/人間社会学群/心理社会/グローバル/人間共生/創造表現/スポーツ文化/世界共生/心理・医療福祉マネジメント/健康/スポーツマネジメント/人間総合学群/国際貢献/食マネジメント/地域マネジメント/コミュニティ人間科/世界教養/建築都市デザイン/健康スポーツ/健康科（専門職）/グローバル・リベラルアーツ/アニメ・マンガ（専門職）/メディア表現/建築&芸術

※令和2年度及び3年度の集計学部を『今日の私学財政』と同様に区分した。

令和3年度の滋賀県、京都府、大阪府の芸術系学部の定員充足率

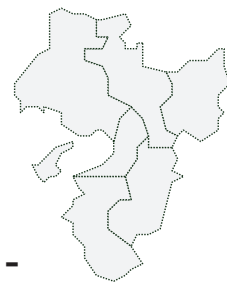
所在地	大学名	学部名	入学定員(人)	入学者数(人)	入学定員充足率
滋賀県	成安造形大学	芸術学部	200	230	1.15
京都府	京都美術工芸大学	工芸学部	250	271	1.08
	京都芸術大学	芸術学部	910	981	1.07
	京都精華大学	メディア表現学部	168	194	1.15
		芸術学部	112	112	1.00
		デザイン学部	240	242	1.00
		マンガ学部	312	299	0.95
	4学部合計(参考)		832	847	1.01
嵯峨美術大学	芸術学部	135	163	1.20	
大阪府	大阪芸術大学	芸術学部	1245	1455	1.16
	大阪成蹊大学	芸術学部	190	227	1.19
	近畿大学	文芸学部	234	313	1.33
総合計			3996	4487	1.12

本学調べ 入学定員・入学者数は各大学ウェブサイトの「情報公開」より引用

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向

近畿版

- 滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県 -



【将来予測 2020～2032年】

▶ 18歳人口予測 P2～P4

- ・ 2020年195,001人→2032年165,603人 (29,398人減少)
- ・ 減少率が高いのは、和歌山県 (2020年比較24.1%減少)。
- ・ 減少数が多いのは、大阪府 (2020年81,797人→2032年68,997人、12,800人減少)。

【経過推移 2011～2020年】

▶ 進学者数・進学率 (現役) の推移 P5～P10

進学者数

- ・ 大学は、2011年90,318人→2020年98,317人 (7,999人増加) と、8.9%増加。
- ・ 短期大学は、2011年11,625人→2020年8,382人 (3,243人減少) と、27.9%減少。
- ・ 専門学校は、2011年24,251人→2020年26,253人 (2,002人増加) と、8.3%増加。

進学率 (現役)

- ・ 大学は、2011年52.5%→2020年56.7% (4.2ポイント上昇)
- ・ 短期大学は、2011年6.8%→2020年4.8% (2.0ポイント低下)
- ・ 専門学校は、2011年14.1%→2020年15.1% (1.0ポイント上昇)

▶ 地元残留率の推移 P11～P13

- ・ 大学は、2011年44.7%→2020年46.3% (1.6ポイント上昇)
- ・ 短期大学は、2011年66.7%→2020年67.4% (0.7ポイント上昇)

▶ 近畿エリア概要(全体：府県別) P14～P16

■分析・データについて

- ① 18歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・ 18歳人口 = 3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数と義務教育学校卒業生数
 - ・ 中学校卒業生数 = 高校生 + フリーター + 就職者 全て含む
- ② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。(年 = 年度)
- ③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- ④ 卒業生数とは、高等学校卒業した数(全日制・定時制 + 中等教育学校後期課程)
- ⑤ 進学者数とは、高等学校卒業生のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ⑥ 進学率(現役)とは、進学者数(大学・短期大学・専修学校専門課程(専門学校)) ÷ 高等学校卒業生数(全日制・定時制 + 中等教育学校後期課程) で算出した。
- ⑦ 残留率とは、自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合(浪人含)
- ⑧ 図表で利用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。

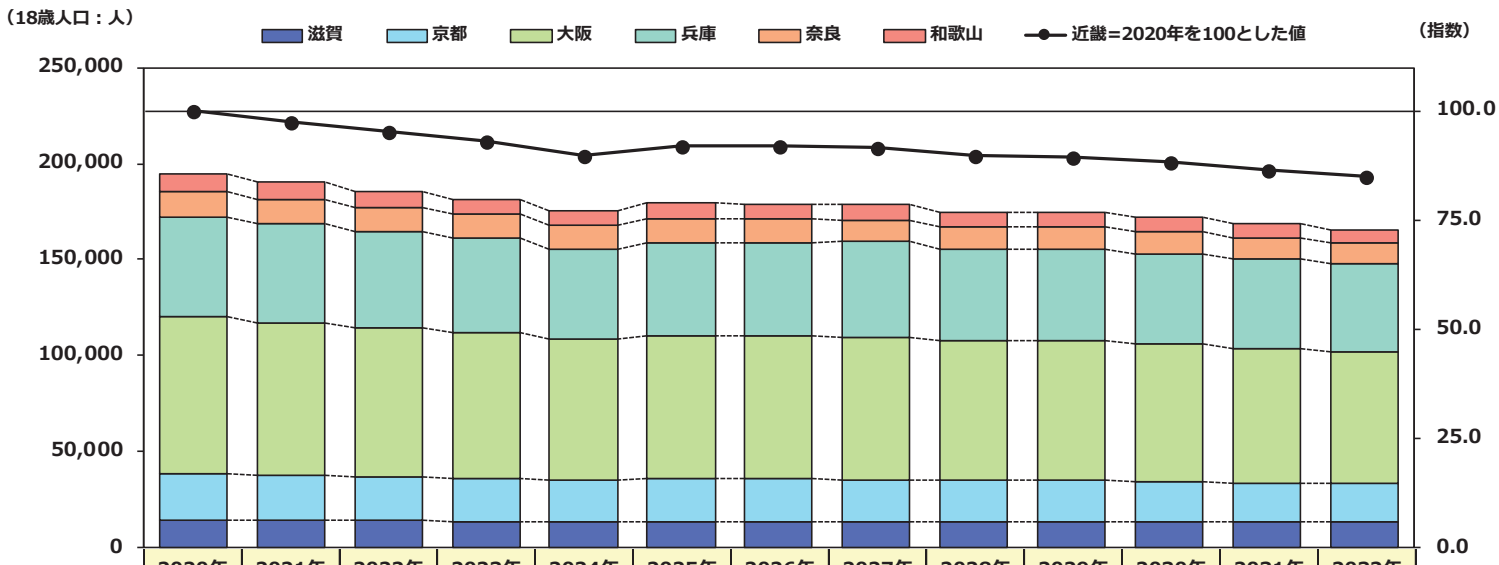
※専門学校 = 専修学校専門課程

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルート リクルート進学総研
<http://souken.shingakunet.com/>

18歳人口予測（全体：近畿：2020～2032年）

■ 2020年195,001人→2032年165,603人（29,398人減少）

- ・近畿エリアは12年間で29,398人・15.1%減少し、全国の減少率12.3%を2.8ポイント上回る。
- ・2024年に175,501人まで減少し、2025年までに3,747人増加するが、その後再び減少に転じる。
- ・減少率が高いのは、和歌山県（2020年比較24.1%減少）。
- ・減少数が多いのは、大阪府（2020年81,797人→2032年68,997人、12,800人減少）。



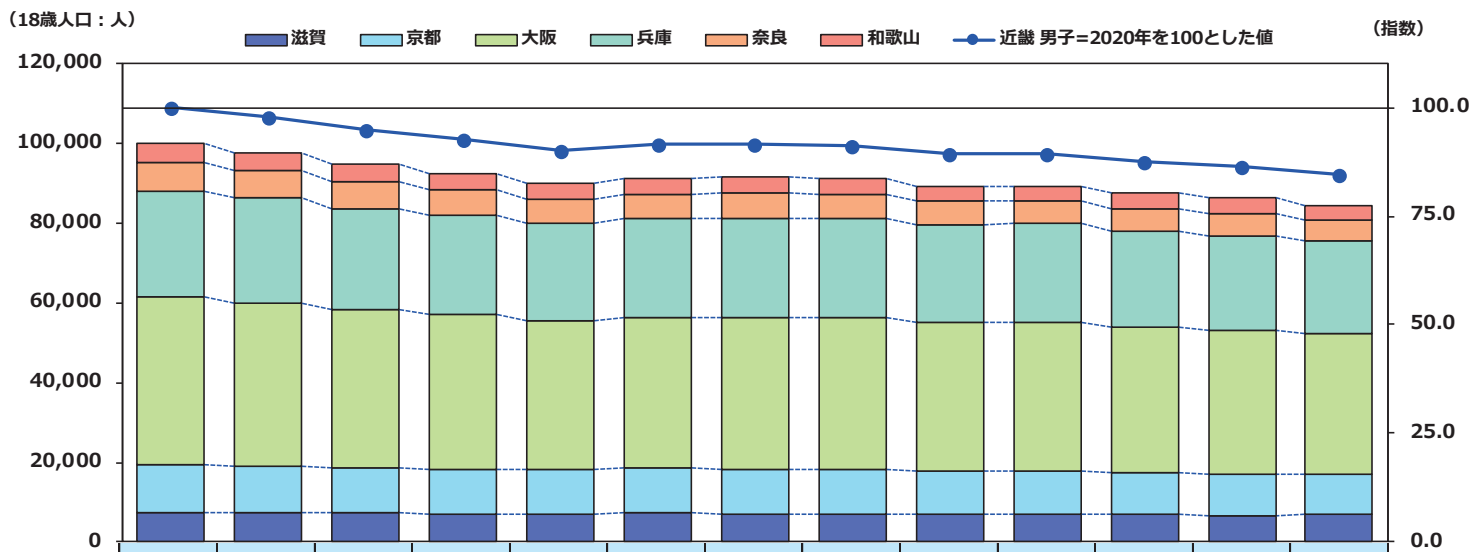
		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
近畿	人数	195,001	190,286	185,626	181,639	175,501	179,248	179,159	178,700	174,848	174,490	171,960	168,797	165,603
	指数	100.0	97.6	95.2	93.1	90.0	91.9	91.9	91.6	89.7	89.5	88.2	86.6	84.9
滋賀	人数	14,535	14,328	14,028	13,783	13,317	13,796	13,731	13,895	13,720	13,728	13,505	13,341	13,183
	指数	100.0	98.6	96.5	94.8	91.6	94.9	94.5	95.6	94.4	94.4	92.9	91.8	90.7
京都	人数	23,646	23,145	22,738	22,376	22,199	22,510	22,283	21,618	21,103	21,098	20,758	20,154	20,092
	指数	100.0	97.9	96.2	94.6	93.9	95.2	94.2	91.4	89.2	89.2	87.8	85.2	85.0
大阪	人数	81,797	79,549	77,446	75,864	72,803	74,401	74,532	74,254	72,937	72,650	71,491	70,406	68,997
	指数	100.0	97.3	94.7	92.7	89.0	91.0	91.1	90.8	89.2	88.8	87.4	86.1	84.4
兵庫	人数	52,305	51,482	49,960	49,121	47,250	48,284	48,330	49,380	48,000	48,254	47,520	46,478	45,542
	指数	100.0	98.4	95.5	93.9	90.3	92.3	92.4	94.4	91.8	92.3	90.9	88.9	87.1
奈良	人数	13,435	12,973	12,847	12,367	12,025	12,314	12,289	11,604	11,477	11,255	11,120	11,059	10,746
	指数	100.0	96.6	95.6	92.1	89.5	91.7	91.5	86.4	85.4	83.8	82.8	82.3	80.0
和歌山	人数	9,283	8,809	8,607	8,128	7,907	7,943	7,994	7,949	7,611	7,505	7,566	7,359	7,043
	指数	100.0	94.9	92.7	87.6	85.2	85.6	86.1	85.6	82.0	80.8	81.5	79.3	75.9
全国	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（男子：近畿：2020～2032年）

■ 2020年99,916人→2032年84,450人（15,466人減少）

- ・男子は12年間で15,466人・15.5%減少し、全国の減少率12.3%を3.2ポイント上回る。
- ・2024年に90,139人まで減少し、翌2026年に1,459人増加し、翌年から再び減少。
- ・減少率が高いのは、和歌山県（2020年比較23.4%減少）。
- ・減少数が多いのは、大阪府（2020年42,130人→2032年35,218人、6,912人減少）。



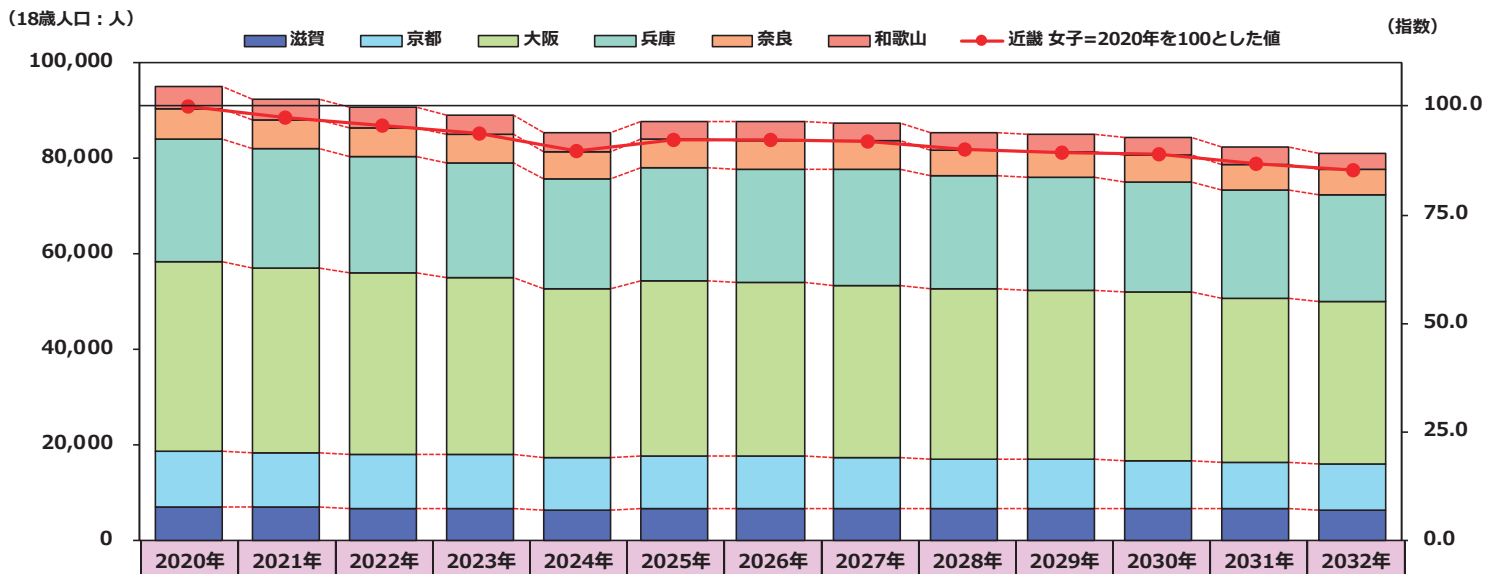
		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
近畿	人数	99,916	97,759	94,884	92,654	90,139	91,405	91,598	91,180	89,400	89,365	87,474	86,344	84,450
	指数	100.0	97.8	95.0	92.7	90.2	91.5	91.7	91.3	89.5	89.4	87.5	86.4	84.5
滋賀	人数	7,501	7,406	7,242	6,994	6,897	7,181	7,052	7,096	6,960	7,140	6,867	6,770	6,828
	指数	100.0	98.7	96.5	93.2	91.9	95.7	94.0	94.6	92.8	95.2	91.5	90.3	91.0
京都	人数	11,922	11,769	11,502	11,266	11,311	11,419	11,313	11,001	10,852	10,831	10,606	10,366	10,303
	指数	100.0	98.7	96.5	94.5	94.9	95.8	94.9	92.3	91.0	90.8	89.0	86.9	86.4
大阪	人数	42,130	40,870	39,470	38,756	37,343	37,803	38,057	38,160	37,245	37,148	36,388	35,993	35,218
	指数	100.0	97.0	93.7	92.0	88.6	89.7	90.3	90.6	88.4	88.2	86.4	85.4	83.6
兵庫	人数	26,674	26,500	25,482	25,018	24,293	24,642	24,845	25,061	24,458	24,716	24,224	23,792	23,079
	指数	100.0	99.3	95.5	93.8	91.1	92.4	93.1	94.0	91.7	92.7	90.8	89.2	86.5
奈良	人数	7,017	6,745	6,818	6,422	6,232	6,326	6,255	5,809	5,957	5,719	5,653	5,669	5,441
	指数	100.0	96.1	97.2	91.5	88.8	90.2	89.1	82.8	84.9	81.5	80.6	80.8	77.5
和歌山	人数	4,672	4,469	4,370	4,198	4,063	4,034	4,076	4,053	3,928	3,811	3,736	3,754	3,581
	指数	100.0	95.7	93.5	89.9	87.0	86.3	87.2	86.8	84.1	81.6	80.0	80.4	76.6
全国	人数	597,205	583,713	573,645	560,512	543,634	557,059	559,274	555,232	547,718	547,476	536,276	528,879	523,471
	指数	100.0	97.7	96.1	93.9	91.0	93.3	93.6	93.0	91.7	91.7	89.8	88.6	87.7

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（女子：近畿：2020～2032年）

■ 2020年95,085人→2032年81,153人（13,932人減少）

- ・女子は12年間で13,932人・14.7%減少し、全国の減少率12.2%を2.5ポイント上回る。
- ・2024年に85,362人まで減少、翌2025年に2,481人増加した後、減少に転じる。
- ・減少率が高いのは、和歌山県（2020年比較24.9%減少）。
- ・減少数が多いのは、大阪府（2020年39,667人→2032年33,779人、5,888人減少）。



		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
近畿	人数	95,085	92,527	90,742	88,985	85,362	87,843	87,561	87,520	85,448	85,125	84,486	82,453	81,153
	指数	100.0	97.3	95.4	93.6	89.8	92.4	92.1	92.0	89.9	89.5	88.9	86.7	85.3
滋賀	人数	7,034	6,922	6,786	6,789	6,420	6,615	6,679	6,799	6,760	6,588	6,638	6,571	6,355
	指数	100.0	98.4	96.5	96.5	91.3	94.0	95.0	96.7	96.1	93.7	94.4	93.4	90.3
京都	人数	11,724	11,376	11,236	11,110	10,888	11,091	10,970	10,617	10,251	10,267	10,152	9,788	9,789
	指数	100.0	97.0	95.8	94.8	92.9	94.6	93.6	90.6	87.4	87.6	86.6	83.5	83.5
大阪	人数	39,667	38,679	37,976	37,108	35,460	36,598	36,475	36,094	35,692	35,502	35,103	34,413	33,779
	指数	100.0	97.5	95.7	93.5	89.4	92.3	92.0	91.0	90.0	89.5	88.5	86.8	85.2
兵庫	人数	25,631	24,982	24,478	24,103	22,957	23,642	23,485	24,319	23,542	23,538	23,296	22,686	22,463
	指数	100.0	97.5	95.5	94.0	89.6	92.2	91.6	94.9	91.8	91.8	90.9	88.5	87.6
奈良	人数	6,418	6,228	6,029	5,945	5,793	5,988	6,034	5,795	5,520	5,536	5,467	5,390	5,305
	指数	100.0	97.0	93.9	92.6	90.3	93.3	94.0	90.3	86.0	86.3	85.2	84.0	82.7
和歌山	人数	4,611	4,340	4,237	3,930	3,844	3,909	3,918	3,896	3,683	3,694	3,830	3,605	3,462
	指数	100.0	94.1	91.9	85.2	83.4	84.8	85.0	84.5	79.9	80.1	83.1	78.2	75.1
全国	人数	570,143	557,427	547,640	536,904	519,236	532,911	532,844	531,341	522,748	520,813	513,601	505,669	500,492
	指数	100.0	97.8	96.1	94.2	91.1	93.5	93.5	93.2	91.7	91.3	90.1	88.7	87.8

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：近畿：2011～2020年）

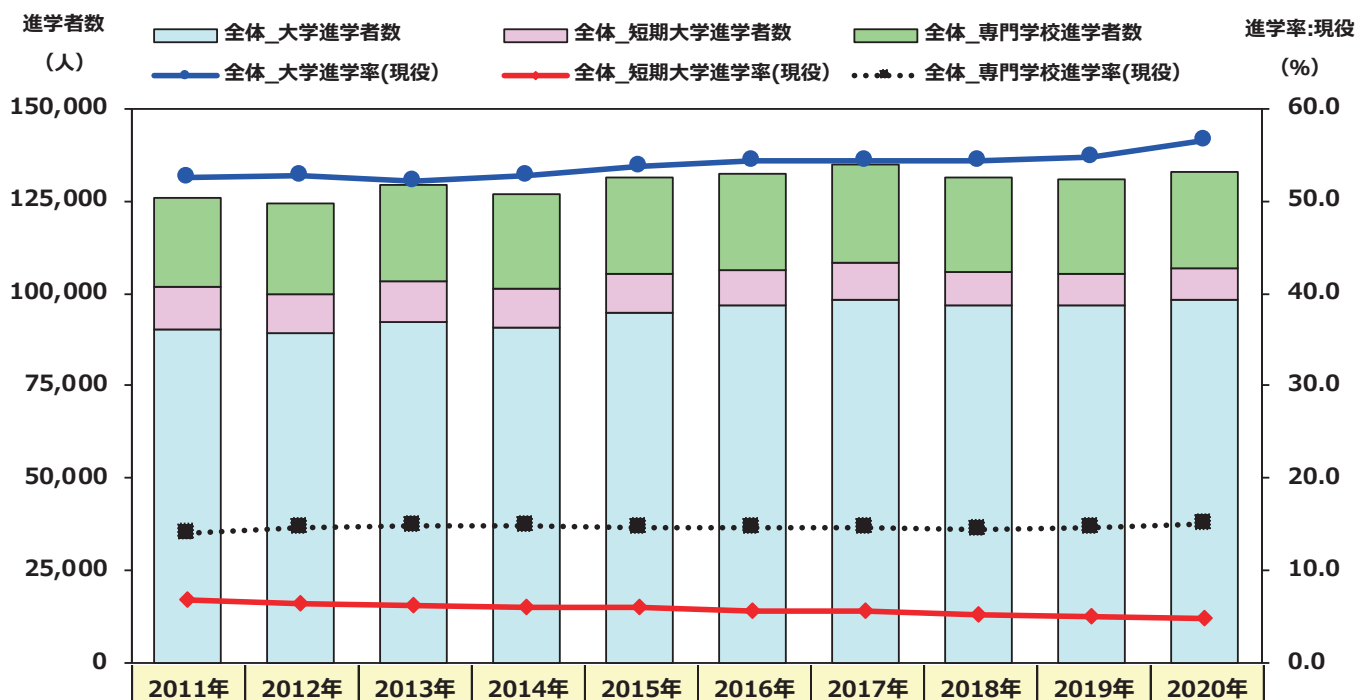
■ 10年で大学進学率が4.2ポイント上昇し、進学者数も7,999人増加する一方、短期大学進学者数は3,243人減少。

進学者数

- ・ 大学は、2011年90,318人→2020年98,317人（7,999人増加）と、8.9%増加。
- ・ 短期大学は、2011年11,625人→2020年8,382人（3,243人減少）と、27.9%減少。
- ・ 専門学校は、2011年24,251人→2020年26,253人（2,002人増加）と、8.3%増加。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2011年52.5%→2020年56.7%（4.2ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2011年6.8%→2020年4.8%（2.0ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2011年14.1%→2020年15.1%（1.0ポイント上昇）



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
近畿	卒業生数	171,930	168,891	176,788	172,279	176,642	177,523	181,010	178,474	176,398	173,375	
	進学者数	大学	90,318	89,088	92,259	90,952	94,972	96,659	98,287	96,866	96,658	98,317
		短期大学	11,625	10,636	10,843	10,374	10,384	9,876	9,906	9,124	8,578	8,382
		専門学校	24,251	24,622	26,216	25,447	25,981	25,920	26,635	25,709	25,895	26,253
	進学率 (現役)	大学	52.5	52.7	52.2	52.8	53.8	54.4	54.3	54.3	54.8	56.7
		短期大学	6.8	6.3	6.1	6.0	5.9	5.6	5.5	5.1	4.9	4.8
		専門学校	14.1	14.6	14.8	14.8	14.7	14.6	14.7	14.4	14.7	15.1

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・ 進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：府県別：2011～2020年）

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
滋賀	卒業者数	12,186	12,067	12,690	12,082	12,360	12,656	12,884	12,737	12,729	12,786	
	進学者数	大学	6,110	6,025	6,250	5,951	6,011	6,168	6,405	6,170	6,271	6,521
		短期大学	957	890	887	793	850	787	799	782	697	702
		専門学校	1,805	1,799	2,082	1,965	2,049	2,114	2,171	2,137	2,148	2,113
	進学率 （現役）	大学	50.1	49.9	49.3	49.3	48.6	48.7	49.7	48.4	49.3	51.0
		短期大学	7.9	7.4	7.0	6.6	6.9	6.2	6.2	6.1	5.5	5.5
専門学校		14.8	14.9	16.4	16.3	16.6	16.7	16.9	16.8	16.9	16.5	
京都	卒業者数	22,529	22,220	23,240	22,250	22,966	22,813	23,480	23,074	23,240	22,541	
	進学者数	大学	13,324	13,270	13,606	13,178	13,911	13,846	14,256	13,959	14,158	14,155
		短期大学	1,490	1,431	1,382	1,303	1,254	1,231	1,243	1,134	1,044	1,019
		専門学校	2,957	2,998	3,350	3,096	3,155	3,128	3,217	3,162	3,106	3,111
	進学率 （現役）	大学	59.1	59.7	58.5	59.2	60.6	60.7	60.7	60.5	60.9	62.8
		短期大学	6.6	6.4	5.9	5.9	5.5	5.4	5.3	4.9	4.5	4.5
専門学校		13.1	13.5	14.4	13.9	13.7	13.7	13.7	13.7	13.4	13.8	
大阪	卒業者数	69,770	68,709	72,621	71,537	73,971	74,542	75,967	75,146	73,952	72,659	
	進学者数	大学	35,936	35,406	37,004	37,040	39,169	40,561	40,882	40,461	40,096	41,060
		短期大学	5,040	4,563	4,799	4,640	4,657	4,385	4,368	4,139	3,886	3,749
		専門学校	9,925	10,294	10,852	10,770	11,155	10,953	11,413	10,987	11,401	11,566
	進学率 （現役）	大学	51.5	51.5	51.0	51.8	53.0	54.4	53.8	53.8	54.2	56.5
		短期大学	7.2	6.6	6.6	6.5	6.3	5.9	5.7	5.5	5.3	5.2
専門学校		14.2	15.0	14.9	15.1	15.1	14.7	15.0	14.6	15.4	15.9	
兵庫	卒業者数	45,587	44,641	46,319	45,473	46,090	46,442	47,411	46,566	46,132	45,077	
	進学者数	大学	24,562	24,234	25,084	24,839	25,625	25,773	26,442	26,118	26,046	26,108
		短期大学	2,725	2,457	2,452	2,326	2,330	2,296	2,267	2,035	1,983	2,012
		専門学校	6,161	6,249	6,553	6,364	6,399	6,418	6,606	6,145	6,198	6,336
	進学率 （現役）	大学	53.9	54.3	54.2	54.6	55.6	55.5	55.8	56.1	56.5	57.9
		短期大学	6.0	5.5	5.3	5.1	5.1	4.9	4.8	4.4	4.3	4.5
専門学校		13.5	14.0	14.1	14.0	13.9	13.8	13.9	13.2	13.4	14.1	
奈良	卒業者数	12,338	12,114	12,585	12,000	12,153	12,166	12,282	12,158	11,630	11,830	
	進学者数	大学	6,345	6,336	6,455	6,107	6,525	6,458	6,483	6,453	6,308	6,508
		短期大学	801	764	765	777	733	659	696	573	554	534
		専門学校	1,743	1,790	1,742	1,658	1,494	1,687	1,726	1,698	1,520	1,604
	進学率 （現役）	大学	51.4	52.3	51.3	50.9	53.7	53.1	52.8	53.1	54.2	55.0
		短期大学	6.5	6.3	6.1	6.5	6.0	5.4	5.7	4.7	4.8	4.5
専門学校		14.1	14.8	13.8	13.8	12.3	13.9	14.1	14.0	13.1	13.6	
和歌山	卒業者数	9,520	9,140	9,333	8,937	9,102	8,904	8,986	8,793	8,715	8,482	
	進学者数	大学	4,041	3,817	3,860	3,837	3,731	3,853	3,819	3,705	3,779	3,965
		短期大学	612	531	558	535	560	518	533	461	414	366
		専門学校	1,660	1,492	1,637	1,594	1,729	1,620	1,502	1,580	1,522	1,523
	進学率 （現役）	大学	42.4	41.8	41.4	42.9	41.0	43.3	42.5	42.1	43.4	46.7
		短期大学	6.4	5.8	6.0	6.0	6.2	5.8	5.9	5.2	4.8	4.3
専門学校		17.4	16.3	17.5	17.8	19.0	18.2	16.7	18.0	17.5	18.0	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業者数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：近畿：2011～2020年）

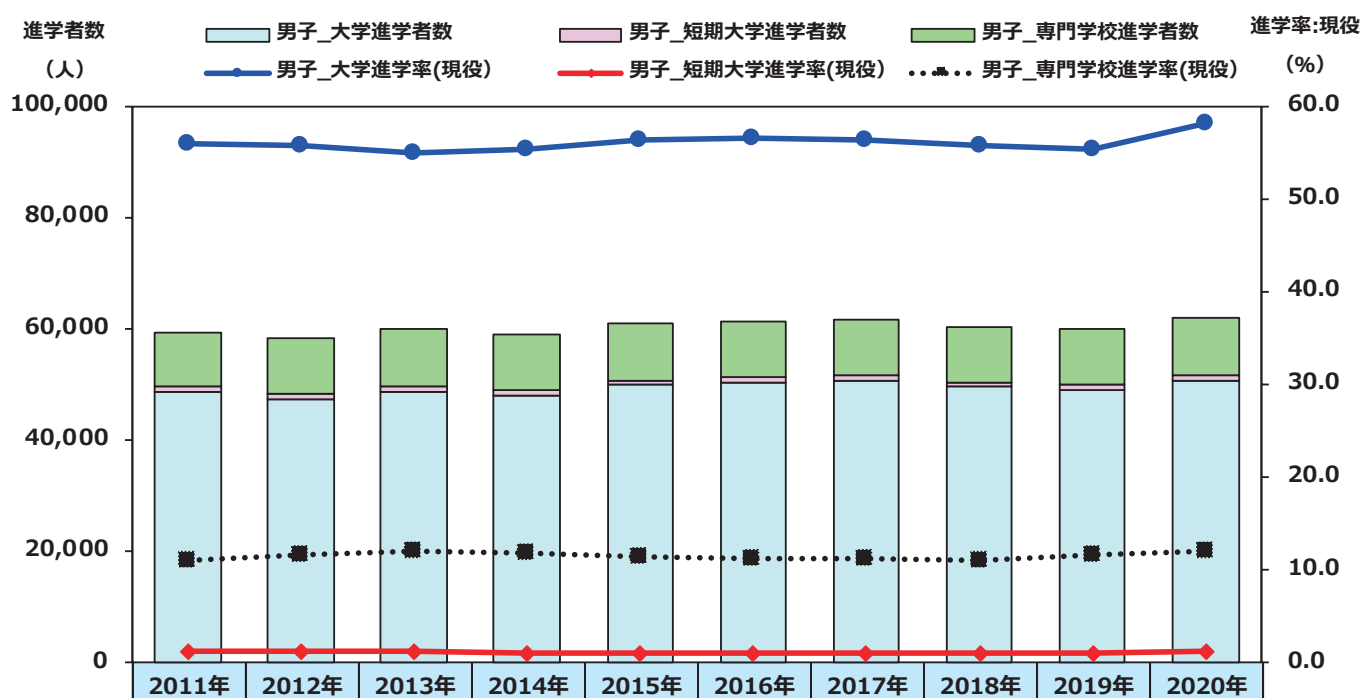
■男子では、大学進学率に大きな変化はないが、進学者数2,171人増加。また、専門学校進学者数も754人増加。

進学者数

- ・大学は、2011年48,429人→2020年50,600人（2,171人増加）と、4.5%増加。
- ・短期大学は、2011年1,069人→2020年961人（108人減少）と、10.1%減少。
- ・専門学校は、2011年9,566人→2020年10,320人（754人増加）と、7.9%増加。

進学率（現役）

- ・大学は、2011年55.9%→2020年58.2%（2.3ポイント上昇）
- ・短期大学は、2011年1.2%→2020年1.1%（0.1ポイント低下）
- ・専門学校は、2011年11.0%→2020年11.9%（0.9ポイント上昇）



近畿	卒業生数		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
				86,684	84,696	88,240	86,552	88,219	88,845	89,733	88,846	88,210
進学者数	大学		48,429	47,256	48,510	47,960	49,745	50,291	50,522	49,477	48,896	50,600
	短期大学		1,069	989	1,008	907	926	902	891	849	878	961
	専門学校		9,566	9,849	10,457	10,148	10,078	9,941	10,054	9,767	10,238	10,320
進学率 (現役)	大学		55.9	55.8	55.0	55.4	56.4	56.6	56.3	55.7	55.4	58.2
	短期大学		1.2	1.2	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1
	専門学校		11.0	11.6	11.9	11.7	11.4	11.2	11.2	11.0	11.6	11.9

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：府県別：2011～2020年）

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
滋賀	卒業者数	6,273	6,114	6,419	6,168	6,288	6,521	6,608	6,467	6,594	6,599	
	進学者数	大学	3,480	3,324	3,427	3,265	3,323	3,374	3,492	3,327	3,385	3,508
		短期大学	98	88	119	85	94	81	73	74	71	99
		専門学校	734	740	863	794	814	889	927	859	879	894
	進学率 （現役）	大学	55.5	54.4	53.4	52.9	52.8	51.7	52.8	51.4	51.3	53.2
		短期大学	1.6	1.4	1.9	1.4	1.5	1.2	1.1	1.1	1.1	1.5
専門学校		11.7	12.1	13.4	12.9	12.9	13.6	14.0	13.3	13.3	13.5	
京都	卒業者数	11,070	10,973	11,531	11,012	11,387	11,428	11,573	11,416	11,417	11,116	
	進学者数	大学	6,903	6,932	7,094	6,753	7,213	7,171	7,239	6,996	6,950	7,076
		短期大学	139	129	148	141	144	154	156	136	183	140
		専門学校	1,182	1,234	1,344	1,317	1,247	1,261	1,244	1,300	1,270	1,292
	進学率 （現役）	大学	62.4	63.2	61.5	61.3	63.3	62.7	62.6	61.3	60.9	63.7
		短期大学	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.6	1.3
専門学校		10.7	11.2	11.7	12.0	11.0	11.0	10.7	11.4	11.1	11.6	
大阪	卒業者数	35,313	34,576	36,182	35,928	37,088	37,251	37,419	37,408	36,834	36,549	
	進学者数	大学	19,616	19,150	19,725	19,833	20,902	21,388	21,208	21,098	20,486	21,538
		短期大学	462	432	380	373	383	360	323	353	321	363
		専門学校	3,923	4,147	4,336	4,249	4,293	4,159	4,214	3,998	4,461	4,494
	進学率 （現役）	大学	55.5	55.4	54.5	55.2	56.4	57.4	56.7	56.4	55.6	58.9
		短期大学	1.3	1.2	1.1	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.9	1.0
専門学校		11.1	12.0	12.0	11.8	11.6	11.2	11.3	10.7	12.1	12.3	
兵庫	卒業者数	22,796	22,236	22,980	22,849	22,789	23,012	23,425	23,020	22,930	22,357	
	進学者数	大学	12,643	12,376	12,772	12,708	12,941	12,992	13,195	12,773	12,816	13,037
		短期大学	263	241	275	217	215	235	260	227	221	275
		専門学校	2,373	2,407	2,519	2,434	2,412	2,340	2,444	2,342	2,342	2,366
	進学率 （現役）	大学	55.5	55.7	55.6	55.6	56.8	56.5	56.3	55.5	55.9	58.3
		短期大学	1.2	1.1	1.2	0.9	0.9	1.0	1.1	1.0	1.0	1.2
専門学校		10.4	10.8	11.0	10.7	10.6	10.2	10.4	10.2	10.2	10.6	
奈良	卒業者数	6,290	6,146	6,357	6,109	6,100	6,181	6,215	6,120	5,954	5,991	
	進学者数	大学	3,481	3,390	3,374	3,280	3,354	3,361	3,379	3,320	3,279	3,393
		短期大学	63	61	57	64	58	52	51	37	53	52
		専門学校	644	702	682	668	588	621	642	649	639	641
	進学率 （現役）	大学	55.3	55.2	53.1	53.7	55.0	54.4	54.4	54.2	55.1	56.6
		短期大学	1.0	1.0	0.9	1.0	1.0	0.8	0.8	0.6	0.9	0.9
専門学校		10.2	11.4	10.7	10.9	9.6	10.0	10.3	10.6	10.7	10.7	
和歌山	卒業者数	4,942	4,651	4,771	4,486	4,567	4,452	4,493	4,415	4,481	4,292	
	進学者数	大学	2,306	2,084	2,118	2,121	2,012	2,005	2,009	1,963	1,980	2,048
		短期大学	44	38	29	27	32	20	28	22	29	32
		専門学校	710	619	713	686	724	671	583	619	647	633
	進学率 （現役）	大学	46.7	44.8	44.4	47.3	44.1	45.0	44.7	44.5	44.2	47.7
		短期大学	0.9	0.8	0.6	0.6	0.7	0.4	0.6	0.5	0.6	0.7
専門学校		14.4	13.3	14.9	15.3	15.9	15.1	13.0	14.0	14.4	14.7	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業者数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：近畿：2011～2020年）

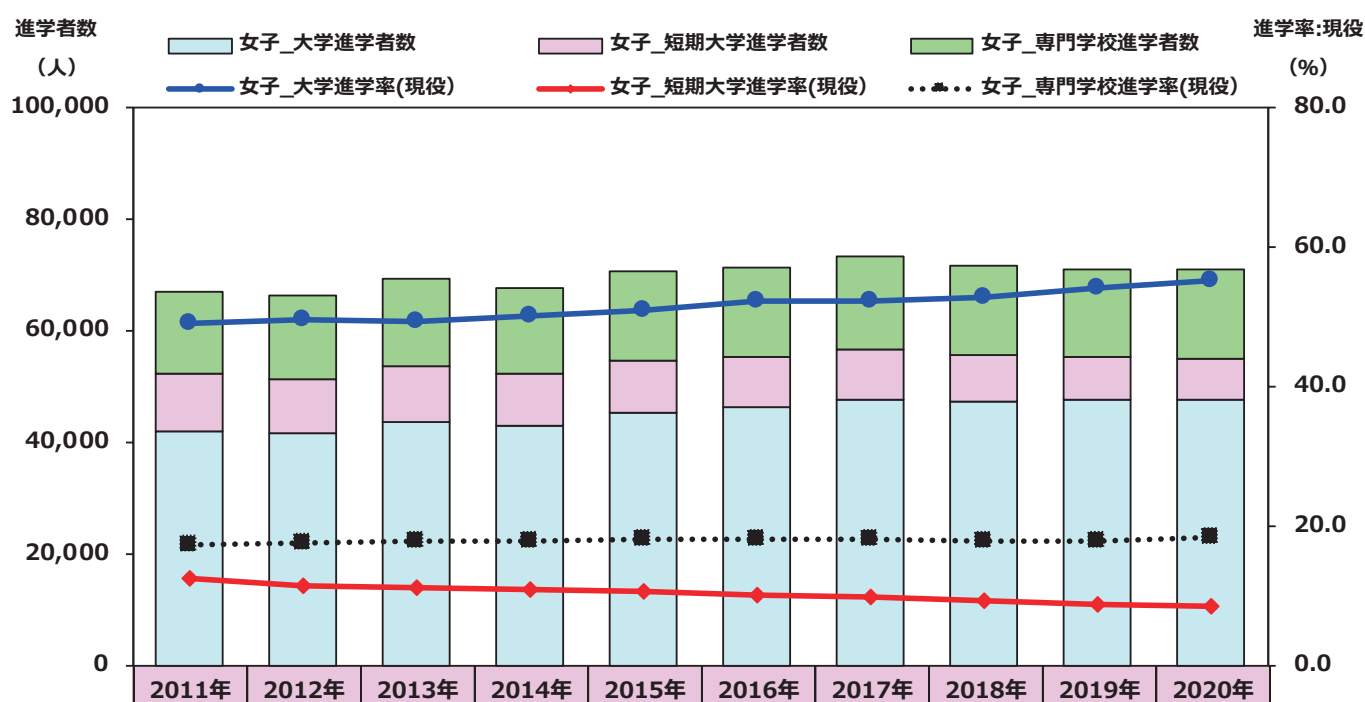
■女子では、大学進学率が6.1ポイント上昇し、進学者数も5,828人増加、短期大学進学者数は3,135人減少、専門学校進学者数は1,248人増加。

進学者数

- ・大学は、2011年41,889人→2020年47,717人（5,828人増加）と、13.9%増加。
- ・短期大学は、2011年10,556人→2020年7,421人（3,135人減少）と、29.7%減少。
- ・専門学校は、2011年14,685人→2020年15,933人（1,248人増加）と、8.5%増加。

進学率（現役）

- ・大学は、2011年49.1%→2020年55.2%（6.1ポイント上昇）
- ・短期大学は、2011年12.4%→2020年8.6%（3.8ポイント低下）
- ・専門学校は、2011年17.2%→2020年18.4%（1.2ポイント上昇）



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
近畿	卒業生数	85,246	84,195	88,548	85,727	88,423	88,678	91,277	89,628	88,188	86,471	
	進学者数	大学	41,889	41,832	43,749	42,992	45,227	46,368	47,765	47,389	47,762	47,717
		短期大学	10,556	9,647	9,835	9,467	9,458	8,974	9,015	8,275	7,700	7,421
		専門学校	14,685	14,773	15,759	15,299	15,903	15,979	16,581	15,942	15,657	15,933
	進学率 (現役)	大学	49.1	49.7	49.4	50.1	51.1	52.3	52.3	52.9	54.2	55.2
		短期大学	12.4	11.5	11.1	11.0	10.7	10.1	9.9	9.2	8.7	8.6
		専門学校	17.2	17.5	17.8	17.8	18.0	18.0	18.2	17.8	17.8	18.4

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

- ・卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数
- ・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：府県別：2011～2020年）

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
滋賀	卒業生数	5,913	5,953	6,271	5,914	6,072	6,135	6,276	6,270	6,135	6,187	
	進学者数	大学	2,630	2,701	2,823	2,686	2,688	2,794	2,913	2,843	2,886	3,013
		短期大学	859	802	768	708	756	706	726	708	626	603
		専門学校	1,071	1,059	1,219	1,171	1,235	1,225	1,244	1,278	1,269	1,219
	進学率 （現役）	大学	44.5	45.4	45.0	45.4	44.3	45.5	46.4	45.3	47.0	48.7
		短期大学	14.5	13.5	12.2	12.0	12.5	11.5	11.6	11.3	10.2	9.7
専門学校		18.1	17.8	19.4	19.8	20.3	20.0	19.8	20.4	20.7	19.7	
京都	卒業生数	11,459	11,247	11,709	11,238	11,579	11,385	11,907	11,658	11,823	11,425	
	進学者数	大学	6,421	6,338	6,512	6,425	6,698	6,675	7,017	6,963	7,208	7,079
		短期大学	1,351	1,302	1,234	1,162	1,110	1,077	1,087	998	861	879
		専門学校	1,775	1,764	2,006	1,779	1,908	1,867	1,973	1,862	1,836	1,819
	進学率 （現役）	大学	56.0	56.4	55.6	57.2	57.8	58.6	58.9	59.7	61.0	62.0
		短期大学	11.8	11.6	10.5	10.3	9.6	9.5	9.1	8.6	7.3	7.7
専門学校		15.5	15.7	17.1	15.8	16.5	16.4	16.6	16.0	15.5	15.9	
大阪	卒業生数	34,457	34,133	36,439	35,609	36,883	37,291	38,548	37,738	37,118	36,110	
	進学者数	大学	16,320	16,256	17,279	17,207	18,267	19,173	19,674	19,363	19,610	19,522
		短期大学	4,578	4,131	4,419	4,267	4,274	4,025	4,045	3,786	3,565	3,386
		専門学校	6,002	6,147	6,516	6,521	6,862	6,794	7,199	6,989	6,940	7,072
	進学率 （現役）	大学	47.4	47.6	47.4	48.3	49.5	51.4	51.0	51.3	52.8	54.1
		短期大学	13.3	12.1	12.1	12.0	11.6	10.8	10.5	10.0	9.6	9.4
専門学校		17.4	18.0	17.9	18.3	18.6	18.2	18.7	18.5	18.7	19.6	
兵庫	卒業生数	22,791	22,405	23,339	22,624	23,301	23,430	23,986	23,546	23,202	22,720	
	進学者数	大学	11,919	11,858	12,312	12,131	12,684	12,781	13,247	13,345	13,230	13,071
		短期大学	2,462	2,216	2,177	2,109	2,115	2,061	2,007	1,808	1,762	1,737
		専門学校	3,788	3,842	4,034	3,930	3,987	4,078	4,162	3,803	3,856	3,970
	進学率 （現役）	大学	52.3	52.9	52.8	53.6	54.4	54.5	55.2	56.7	57.0	57.5
		短期大学	10.8	9.9	9.3	9.3	9.1	8.8	8.4	7.7	7.6	7.6
専門学校		16.6	17.1	17.3	17.4	17.1	17.4	17.4	16.2	16.6	17.5	
奈良	卒業生数	6,048	5,968	6,228	5,891	6,053	5,985	6,067	6,038	5,676	5,839	
	進学者数	大学	2,864	2,946	3,081	2,827	3,171	3,097	3,104	3,133	3,029	3,115
		短期大学	738	703	708	713	675	607	645	536	501	482
		専門学校	1,099	1,088	1,060	990	906	1,066	1,084	1,049	881	963
	進学率 （現役）	大学	47.4	49.4	49.5	48.0	52.4	51.7	51.2	51.9	53.4	53.3
		短期大学	12.2	11.8	11.4	12.1	11.2	10.1	10.6	8.9	8.8	8.3
専門学校		18.2	18.2	17.0	16.8	15.0	17.8	17.9	17.4	15.5	16.5	
和歌山	卒業生数	4,578	4,489	4,562	4,451	4,535	4,452	4,493	4,378	4,234	4,190	
	進学者数	大学	1,735	1,733	1,742	1,716	1,719	1,848	1,810	1,742	1,799	1,917
		短期大学	568	493	529	508	528	498	505	439	385	334
		専門学校	950	873	924	908	1,005	949	919	961	875	890
	進学率 （現役）	大学	37.9	38.6	38.2	38.6	37.9	41.5	40.3	39.8	42.5	45.8
		短期大学	12.4	11.0	11.6	11.4	11.6	11.2	11.2	10.0	9.1	8.0
専門学校		20.8	19.4	20.3	20.4	22.2	21.3	20.5	22.0	20.7	21.2	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

学部・学科トレンド データ集

連携・融合という社会のトレンドは 志願トレンドにはまだ反映されず、やや時差ありか

編集部 鹿島 梓

経済環境や雇用情勢あるいは政治動向等、社会の様々な要因が受験生の志望分野に作用し、学部・学科の「ライフサイクル」は大きく変化する。本誌

では1992年以降その動きを把握し、定期的にマーケットトレンドを俯瞰してきた。今回はグローバル化・第4次産業革命といった大きな社会変化

のうねりが、特に複合分野のトレンドに影響を与えつつある状況をお伝えした。今回はその後、コロナ禍のさなかの状況をお伝えしたい。

図表 1 学科の78 学問分類と 2018-2021 トレンドー覧

トレンド： ↗(成長期) →(成熟期) ↘(衰退期) ✓(撤退期) ↖(再成長予兆期)

※成長期は定員増・志願者増、成熟期は定員増・かつ志願者増の幅が5%以内、衰退期は定員増・志願者減、撤退期は定員減・志願者減、再成長予兆期は定員減・志願者増 と定義 ※リクルート独自分類

学科系統(大分類)	学科系統(小分類)	トレンド	学科系統(大分類)	学科系統(小分類)	トレンド	学科系統(大分類)	学科系統(小分類)	トレンド
1 文化・地理・歴史	1 地理学	✓	6 生物	27 住居学	↘	11 スポーツ・健康・医療	53 語学(外国語)	✓
	2 歴史学	↘		28 生活科学	✓		54 語学(日本語)	✓
	3 考古学	↘		29 生物学	✓		55 スポーツ学	↘
	4 文化人類学	✓		30 生命科学	✓		56 健康科学	✓
	5 日本文化学	↗		31 農学	↘		57 医学(専門課程)	✓
	6 言語学	↘		32 森林科学・水産学	↘		58 歯学(専門課程)	✓
	7 教養学	↘		33 獣医・畜産学	✓		59 薬学	↘
2 芸術・文学・表現	8 音楽	↖	7 社会・マスコミ	34 社会学	↘	12 工学・建築・技術	60 看護学	↘
	9 美術	✓		35 観光学	↘		61 保健衛生学	↘
	10 デザイン	↖		36 情報学	↗		62 リハビリテーション学	↘
	11 舞台・演劇学	↗		37 図書館情報学	✓		63 医療技術学	↗
	12 日本文学	✓		38 コミュニケーション学	↗		64 機械工学	✓
	13 外国文学	↘		39 マスコミ学	✓		65 航空・船舶・自動車工学	↘
	14 児童文学	—		40 メディア学	✓		66 システム・制御工学	✓
	15 文芸学	↗		41 哲学・宗教学	✓		67 情報工学	↖
3 数学・物理学・化学	16 数学	✓	8 人間・心理・教育・福祉	42 心理学	→	68 通信工学	↖	
	17 物理学	✓		43 人間科学	↘	69 電気工学	↘	
	18 化学	↖		44 教育学	✓	70 電子工学	✓	
4 法律・政治・経済	19 法学	✓	9 地球・環境・エネルギー	45 保育・児童学	↘	71 画像・音響工学	✓	
	20 政治・政策学	✓		46 福祉学	✓	72 建築学	✓	
	21 総合政策学	✓		47 地球・宇宙学	→	73 土木工学	✓	
	22 経済学	✓		48 環境科学	↗	74 環境工学	↖	
	23 経営学	↘		49 エネルギー・資源工学	✓	75 応用物理学	✓	
	24 商学	✓		50 原子力工学	✓	76 応用化学	→	
5 家政・生活	25 栄養・食物学	↘	10 国際・語学	51 国際関係学	↘	77 材料工学	✓	
	26 服飾・被服学	↘		52 国際文化学	↘	78 経営工学	↗	

本調査では、「リクルート入試実態調査」の集計データを基に、2021年時点で国公立大学が設置していた5180の学科について、学科名称や教育内容に照らし合わせ、リクルート独自の12の大分類・78の小分類(図表1)に分類した。なお、この78分野に当てはまらなかった3485学科を「単独分野」と定義。また、複数分野が融合して78分野に当てはまらなかった1695学科を「複合分野」と定義している。

特集で見てきたように、社会・産業界の変化と人材育成トレンドの変化、初等中等教育の変化と、高等教育の前後では大きな変化が起こっている。高等教育は社会ニーズに応じたシ

ステークホルダーの理解は得られ、志願者数に結果が表れてくるであろう。当然効果的な広報や情報伝達ができているかどうかによっても結果は変わる。志願者が増えるかはそうした複合的な要因によるのであって、特定の学科が必ず伸びるという単純な話ではないことは言うまでもない。また、志願者が継続的に増加するには一定の時間を要するため、社会ニーズが顕在化してから設置までには一定の検討期間があり、かつ、そうした二

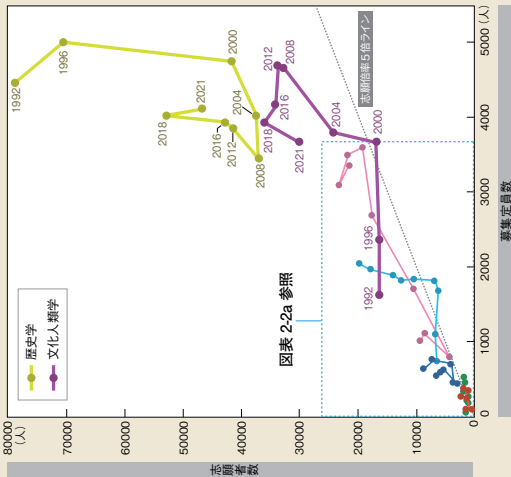
成し、探究軸で学んでくる生徒達の学びを止めず、シームレスな高大接続を継続的に実現する必要がある。ではそうした学びをデザインした場合、ブランド力が高まるのか、志願者数が増えるのか、というのは、短期的な経営テーマとして当然関心の高いところであろう。しかし、今回数値データで見ると、志願者数に跳ね返るのにはまだこれからのという感が否めない。つまり、新しい領域を創ったからといって、必ず集まるとは言い切れない。そこには立地やポジショニングといったた外的要素も影響するほか、大学自身の戦略やドメインに即した独自性、ストーリーが必要になる。そうしたストーリーやビジョンに

れからの可能性を感じれば、受験生やキャッチが明らかになった。

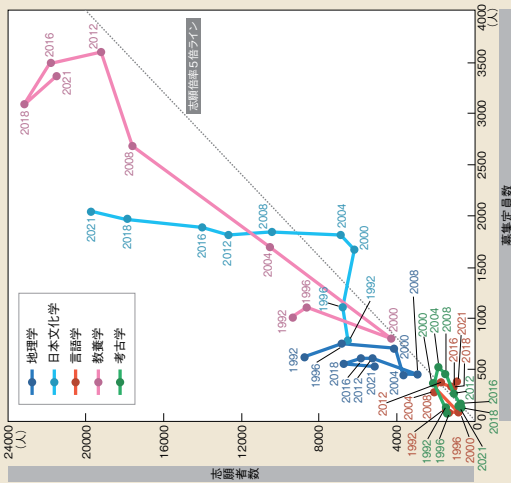
以下、単独分野グラフは全て「志願者数 × 募集定員数」である。

まず単独分野の学科系統から見ていこう。縦軸に志願者数、横軸に募集定員数を置き、図表上の矢印で、ライフサイクルのパターンがどのように変化してきたかを示したのが、学科系統のライフサイクル図である(図表2-2~2-13)。製品ライフサイクルになぞらえ、I成長期、II成熟期、III撤退期、IV撤退期、V再成長予兆期という、5つの段階があると仮説を立てている。ただし、マーケットの趨勢が必ずしもこの順序になるとは限らず、特に最近では変化が激しく、「成熟前に衰退する」「撤退したまま再成長しない」といったケースも散見される。

図表2-2 文化・地理・歴史系統の動向

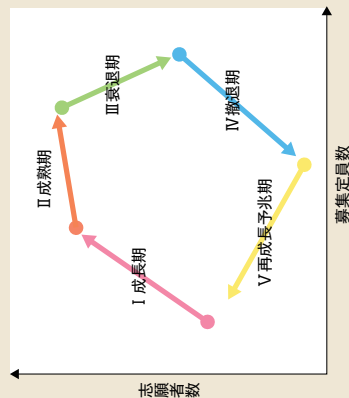


図表2-2a 文化・地理・歴史系統の動向



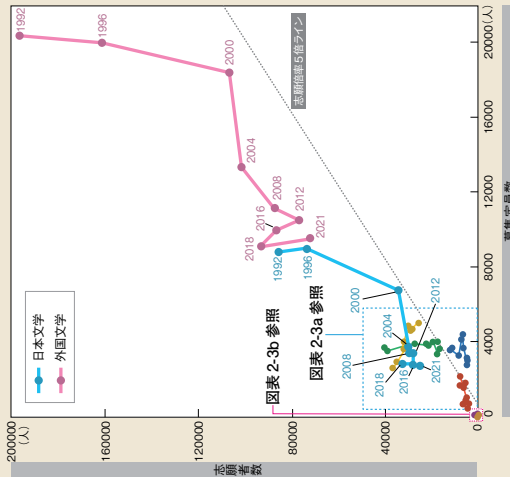
1章：単独分野のマーケットトレンド

図表2-1 学科系統のライフサイクル図

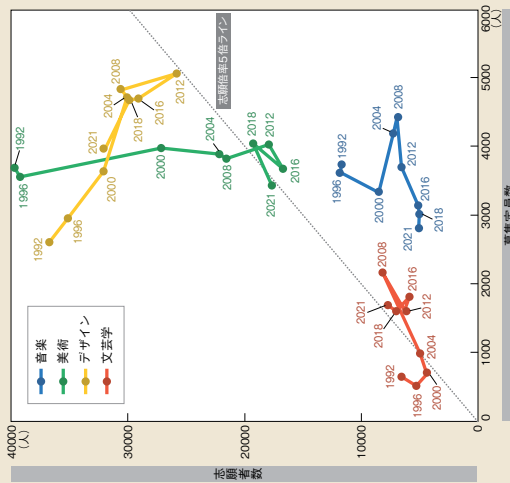


以下、単独分野グラフは全て「志願者数 × 募集定員数」である。

図表2-3 芸術・文学・表現系統の動向



図表2-3a 芸術・文学・表現系統の動向



平成26年度卒業生（2015年3月卒業）のキャリアに関するアンケート結果

芸術学部	依頼数	回答数	回収率
	146	13	8.9%

※アンケート実施年月：2019年5月（卒業後5年目）

問1 氏名を教えてください。

芸術学部	回答数
	13

問2 住所を教えてください。

芸術学部	回答数
	12

問3 メールアドレスを教えてください。

芸術学部	回答数
	12

問4 卒業年度を教えてください。

芸術学部	回答数
	12

問5 所属していた領域・コースを教えてください。

芸術学部	総合領域	イラストレーション領域	美術領域	メディアデザイン領域	空間デザイン領域	回答数計
	0	5	4	3	1	13
%	0.0%	38.5%	30.8%	23.1%	7.7%	100.0%

問6 現在の状況について教えてください。

芸術学部	①同じ勤務先	②転職した	③退職し休職中	④学生	⑤その他	回答数計
	8	3	1	0	1	13
%	61.5%	23.1%	7.7%	0.0%	7.7%	100.0%

問7 現在の勤務先を教えてください。

芸術学部	回答数
	11

問8 現在の勤務先での就業形態を教えてください。

芸術学部	正社員	契約社員	派遣社員	パート・アルバイト	自営業者	作家	その他	回答数計
	9	1	0	1	0	0	1	12
%	75.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	100.0%

問9 現在の勤務先での職種を教えてください。

芸術学部	事務	営業	販売	企画	デザイナー	プログラマー・SE	教員	製造・生産管理	その他	回答数計
	0	1	0	0	2	0	1	2	6	12
%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	8.3%	16.7%	50.0%	100.0%

問10 在学中に学んだことは、社会に出てから、役に立ちましたか。

芸術学部	①大変役に立っている	②役に立っている	③役に立っていない	④全く役に立っていない	⑤どちらともいえない	回答数計
	3	3	1	0	6	13
%	23.1%	23.1%	7.7%	0.0%	46.2%	100.0%

問11 問10で①、②を選択された方は、どんなことが役にたったかを教えてください。

芸術学部	回答数
	5

問12 在学中にやっておいた方が良かったと思うことは何ですか。

芸術学部	回答数
	9

問13 在学中にキャリアサポートセンターの支援を活用しましたか。

芸術学部	①活用した	②活用していない	回答数計
	11	2	13
%	84.6%	15.4%	100.0%

問14 問13で①を選択された方は、活用され役にたったかを教えてください。

芸術学部	①大変役に立った	②役に立った	③役に立っていない	④全く役に立っていない	⑤どちらともいえない	回答数計
	4	5	1	0	1	11
%	36.4%	36.4%	9.1%	0.0%	9.1%	100.0%

問15 問14で①、②を選択された方は、どんなことが役に当たったかを教えてください。

芸術学部	回答数
	9

問16 問13で②を選択された方は、活用していなかった理由を教えてください。

芸術学部	回答数
	0

平成27年度卒業生（2016年3月卒業）のキャリアに関するアンケート結果

芸術学部	依頼数	回答数	回収率
	155	25	16.1%

※アンケート実施年月：2019年5月（卒業後4年目）

問1 氏名を教えてください。

芸術学部	回答数
	25

問2 住所を教えてください。

芸術学部	回答数
	25

問3 メールアドレスを教えてください。

芸術学部	回答数
	23

問4 卒業年度を教えてください。

芸術学部	回答数
	25

問5 所属していた領域・コースを教えてください。

芸術学部	総合領域	イラストレーション領域	美術領域	メディアデザイン領域	空間デザイン領域	回答数計
	1	13	1	6	4	25
%	4.0%	52.0%	4.0%	24.0%	16.0%	100.0%

問6 現在の状況について教えてください。

芸術学部	①同じ勤務先	②転職した	③退職し休職中	④学生	⑤その他	回答数計
	10	11	1	1	2	25
%	40.0%	44.0%	4.0%	4.0%	8.0%	100.0%

問7 現在の勤務先を教えてください。

芸術学部	回答数
	20

問8 現在の勤務先での就業形態を教えてください。

芸術学部	正社員	契約社員	派遣社員	パート・アルバイト	自営業者	作家	その他	回答数計
	17	2	0	3	0	0	0	22
%	77.3%	9.1%	0.0%	13.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

問9 現在の勤務先での職種を教えてください。

芸術学部	事務	営業	販売	企画	デザイナー	プロダクト・SE	教員	製造・生産管理	その他	回答数計
	3	2	0	0	10	0	0	3	3	21
%	14.3%	9.5%	0.0%	0.0%	47.6%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	100.0%

問10 在学中に学んだことは、社会に出てから、役に立ちましたか。

芸術学部	①大変役に立っている	②役に立っている	③役に立っていない	④全く役に立っていない	⑤どちらともいえない	回答数計
	6	13	1	0	5	25
%	24.0%	52.0%	4.0%	0.0%	20.0%	100.0%

問11 問10で①、②を選択された方は、どんなことが役にたったかを教えてください。

芸術学部	回答数
	18

問12 在学中にやっておいた方が良かったと思うことは何ですか。

芸術学部	回答数
	23

問13 在学中にキャリアサポートセンターの支援を活用しましたか。

芸術学部	①活用した	②活用していない	回答数計
	19	6	25
%	76.0%	24.0%	100.0%

問14 問13で①を選択された方は、活用され役にたったかを教えてください。

芸術学部	①大変役に立った	②役に立った	③役に立っていない	④全く役に立っていない	⑤どちらともいえない	回答数計
	4	7	0	0	9	20
%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	45.0%	100.0%

問15 問14で①、②を選択された方は、どんなことが役に当たったかを教えてください。

芸術学部	回答数
	9

問16 問13で②を選択された方は、活用していなかった理由を教えてください。

芸術学部	回答数
	5

平成28年度卒業生（2017年3月卒業）のキャリアに関するアンケート結果

芸術学部	依頼数	回答数	回収率
	156	23	14.7%

※アンケート実施年月：2019年5月（卒業後3年目）

問1 氏名を教えてください。

芸術学部	回答数
	23

問2 住所を教えてください。

芸術学部	回答数
	21

問3 メールアドレスを教えてください。

芸術学部	回答数
	23

問4 卒業年度を教えてください。

芸術学部	回答数
	23

問5 所属していた領域・コースを教えてください。

芸術学部	総合領域	イラストレーション領域	美術領域	メディアデザイン領域	空間デザイン領域	回答数計
	4	11	0	6	2	23
%	17.4%	47.8%	0.0%	26.1%	8.7%	100.0%

問6 現在の状況について教えてください。

芸術学部	①同じ勤務先	②転職した	③退職し休職中	④学生	⑤その他	回答数計
	11	8	2	1	1	23
%	47.8%	34.8%	8.7%	4.3%	4.3%	100.0%

問7 現在の勤務先を教えてください。

芸術学部	回答数
	20

問8 現在の勤務先での就業形態を教えてください。

芸術学部	正社員	契約社員	派遣社員	パート・アルバイト	自営業者	作家	その他	回答数計
	17	2	1	0	0	0	0	20
%	85.0%	10.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

問9 現在の勤務先での職種を教えてください。

芸術学部	事務	営業	販売	企画	デザイナー	プロダクション・SE	教員	製造・生産管理	その他	回答数計
	0	1	1	1	13	0	0	2	1	19
%	0.0%	5.3%	5.3%	5.3%	68.4%	0.0%	0.0%	10.5%	5.3%	100.0%

問10 在学中に学んだことは、社会に出てから、役に立ちましたか。

芸術学部	①大変役に立っている	②役に立っている	③役に立っていない	④全く役に立っていない	⑤どちらともいえない	回答数計
	10	8	2	1	2	23
%	43.5%	34.8%	8.7%	4.3%	8.7%	100.0%

問11 問10で①、②を選択された方は、どんなことが役にたったかを教えてください。

芸術学部	回答数
	18

問12 在学中にやっておいた方が良かったと思うことは何ですか。

芸術学部	回答数
	21

問13 在学中にキャリアサポートセンターの支援を活用しましたか。

芸術学部	①活用した	②活用していない	回答数計
	18	3	21
%	85.7%	14.3%	100.0%

問14 問13で①を選択された方は、活用され役にたったかを教えてください。

芸術学部	①大変役に立った	②役に立った	③役に立っていない	④全く役に立っていない	⑤どちらともいえない	回答数計
	4	13	0	0	1	18
%	22.2%	22.2%	0.0%	0.0%	5.6%	100.0%

問15 問14で①、②を選択された方は、どんなことが役に当たったかを教えてください。

芸術学部	回答数
	17

問16 問13で②を選択された方は、活用していなかった理由を教えてください。

芸術学部	回答数
	3

平成29年度卒業生（2018年3月卒業）のキャリアに関するアンケート結果

芸術学部	依頼数	回答数	回収率
	155	38	24.5%

※アンケート実施年月：2019年5月（卒業後2年目）

問1 氏名を教えてください。

芸術学部	回答数
	37

問2 住所を教えてください。

芸術学部	回答数
	35

問3 メールアドレスを教えてください。

芸術学部	回答数
	35

問4 卒業年度を教えてください。

芸術学部	回答数
	38

問5 所属していた領域・コースを教えてください。

芸術学部	総合領域	イラストレーション領域	美術領域	メディアデザイン領域	空間デザイン領域	回答数計
	5	15	5	8	5	38
%	13.2%	39.5%	13.2%	21.1%	13.2%	100.0%

問6 現在の状況について教えてください。

芸術学部	①同じ勤務先	②転職した	③退職し休職中	④学生	⑤その他	回答数計
	29	5	0	0	4	38
%	76.3%	13.2%	0.0%	0.0%	10.5%	100.0%

問7 現在の勤務先を教えてください。

芸術学部	回答数
	32

問8 現在の勤務先での就業形態を教えてください。

芸術学部	正社員	契約社員	派遣社員	パート・アルバイト	自営業者	作家	その他	回答数計
	30	0	1	2	0	0	0	33
%	90.9%	0.0%	3.0%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

問9 現在の勤務先での職種を教えてください。

芸術学部	事務	営業	販売	企画	デザイナー	プログラマー・SE	教員	製造・生産管理	その他	回答数計
	4	3	4	1	12	0	2	2	6	34
%	11.8%	8.8%	11.8%	2.9%	35.3%	0.0%	5.9%	5.9%	17.6%	100.0%

問10 在学中に学んだことは、社会に出てから、役に立ちましたか。

芸術学部	①大変役に立っている	②役に立っている	③役に立っていない	④全く役に立っていない	⑤どちらともいえない	回答数計
	8	20	2	0	6	36
%	22.2%	55.6%	5.6%	0.0%	16.7%	100.0%

問11 問10で①、②を選択された方は、どんなことが役にたったかを教えてください。

芸術学部	回答数
	28

問12 在学中にやっておいた方が良かったと思うことは何ですか。

芸術学部	回答数
	31

問13 在学中にキャリアサポートセンターの支援を活用しましたか。

芸術学部	①活用した	②活用していない	回答数計
	23	13	36
%	63.9%	36.1%	100.0%

問14 問13で①を選択された方は、活用され役にたったかを教えてください。

芸術学部	①大変役に立った	②役に立った	③役に立っていない	④全く役に立っていない	⑤どちらともいえない	回答数計
	8	9	3	0	3	23
%	34.8%	34.8%	13.0%	0.0%	13.0%	100.0%

問15 問14で①、②を選択された方は、どんなことが役に当たったかを教えてください。

芸術学部	回答数
	17

問16 問13で②を選択された方は、活用していなかった理由を教えてください。

芸術学部	回答数
	9

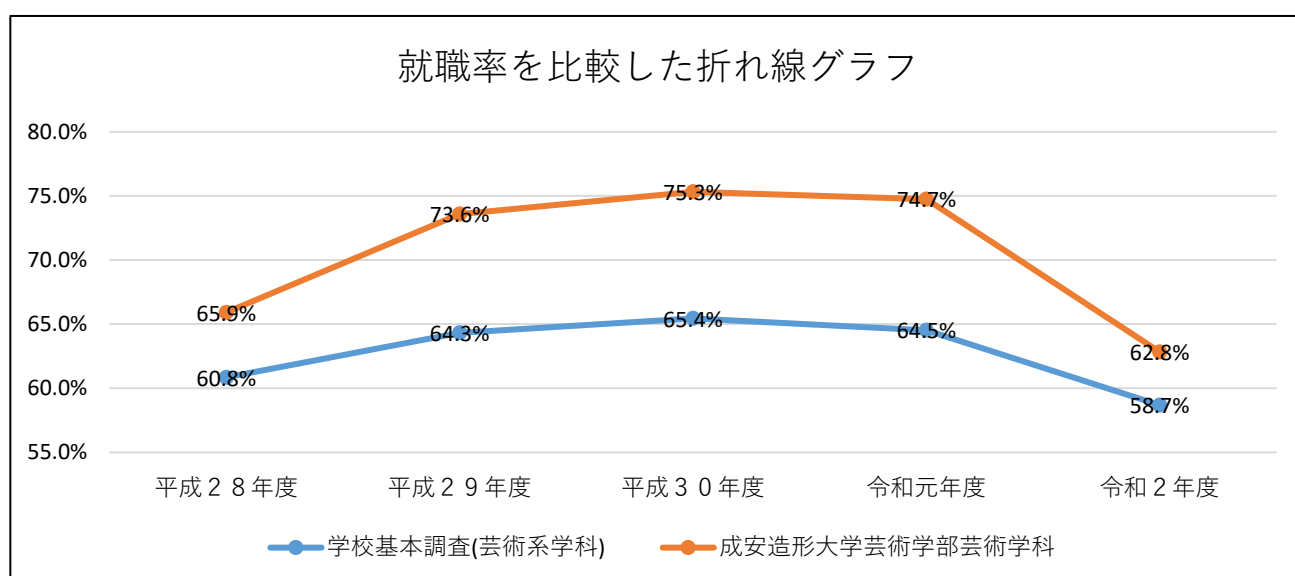
成安造形大学芸術学部芸術学科と学校基本調査(芸術系学科)の就職率比較

年度	区分	卒業者(人)	就職者(人)	就職率(b/a)
令和2年度	学校基本調査(芸術系学科)	15744	9238	58.7%
	成安造形大学芸術学部芸術学科	234	147	62.8%
令和元年度	学校基本調査(芸術系学科)	15658	10102	64.5%
	成安造形大学芸術学部芸術学科	194	145	74.7%
平成30年度	学校基本調査(芸術系学科)	15519	10157	65.4%
	成安造形大学芸術学部芸術学科	154	116	75.3%
平成29年度	学校基本調査(芸術系学科)	15096	9710	64.3%
	成安造形大学芸術学部芸術学科	159	117	73.6%
平成28年度	学校基本調査(芸術系学科)	15513	9438	60.8%
	成安造形大学芸術学部芸術学科	176	116	65.9%

※学校基本調査は、表番号73「関係学科別 状況別 卒業者数」統計表の区分「芸術」の各年度の値を引用

※就職者は、学校基本調査の「就職者」と「進学者」のうち就職している者の数を合算

※就職率は小数第二位を四捨五入して算出



「デザイン経営」宣言

経済産業省・特許庁

産業競争力とデザインを考える研究会

2018年5月23日

引用：
経済産業省・特許庁
産業競争力とデザインを考える研究会
「デザイン経営」宣言

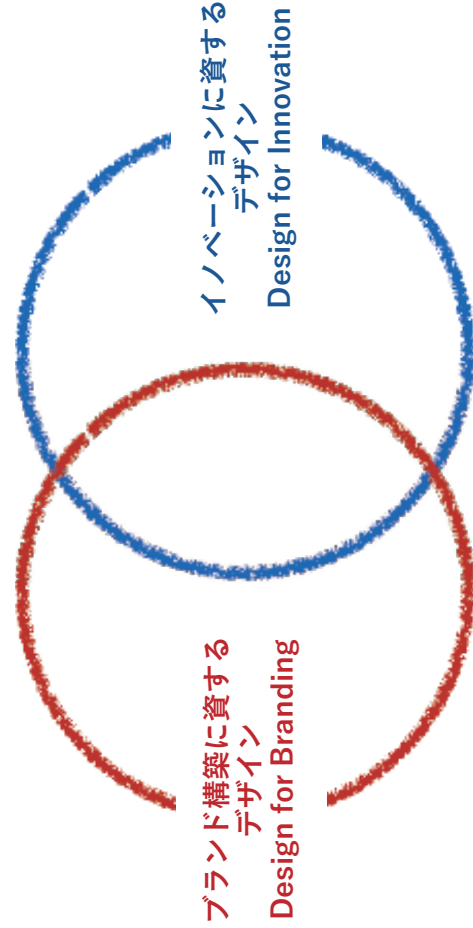
1. 「デザイン経営」の役割

「デザイン経営」の効果＝

ブランド力向上＋イノベーション力向上

＝企業競争力の向上

「デザイン経営」は、ブランドとイノベーションを通じて、企業の産業競争力の向上に寄与する。



「デザイン経営」の効果

日本は人口・労働力の減少局面を迎え、世界のメイン市場としての地位を失った。さらに、第四次産業革命により、あらゆる産業が新技術の荒波を受け、従来の常識や経験が通用しない大変革を迎えようとしている。そこで生き残るためには、顧客に真に必要とされる存在に生まれ変わらなければならない。そのような中、規模の大小を問わず、世界の有力企業が戦略の中心に据えているのがデザインである。一方、日本では経営者がデザインを有効な経営手段と認識しておらず、グローバル競争環境での弱みとなっている¹。

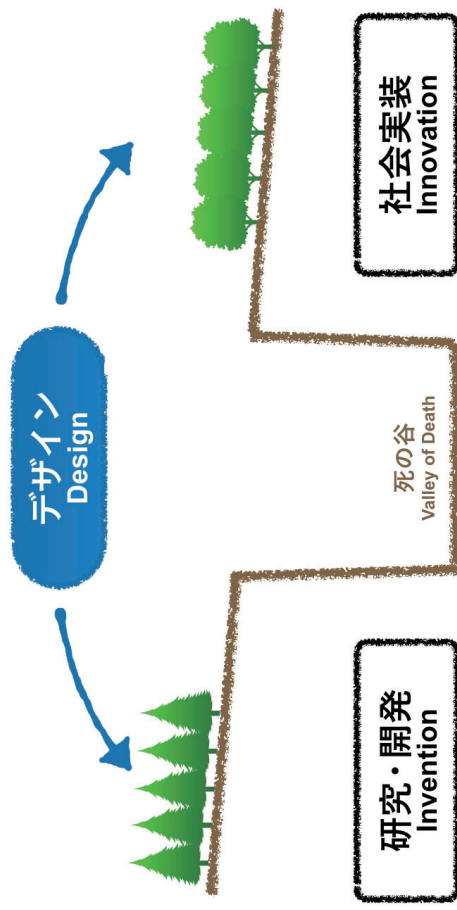
デザインは、企業が大切にしている価値、それを実現しようとする意志を表現する営みである。それは、個々の製品の外見を好感度の高いものにするだけではない。顧客が企業と接点を持つあらゆる体験に、その価値や意志を徹底させ、それが一貫したメッセージとして伝わることで、他の企業では代替できないと顧客が思うブランド価値が生まれる。さらに、デザインは、イノベーションを実現する力になる。なぜか。デザインは、人々が気づかないニーズを掘り起こし、事業にしていくなみでもあるからだ。供給側の思い込みを排除し、対象に影響を与えないように観察する。そうして気づいた潜在的なニーズを、企業の価値と意志に照らし合わせる。誰のために何をしたいのかという原点に立ち返ることで、既存の事業に縛られずに、事業化を構想できる。

このようなデザインを活用した経営手法を「デザイン経営」と呼び、それを推進することが研究会からの提言である。

1 「平成23年度中小企業支援調査 我が国ものづくり産業の競争力の源泉に関する調査報告書」（経済産業省）によれば、従業員100人超の製造業全て（全25,000社）を対象としたアンケートにおいて、「日本国内で市場開拓を成し遂げた成功要因」として、「高品質・高機能」を挙げた者は38.3%であるのに対し、デザインは0.8%。同様に「米国で市場開拓を成し遂げた成功要因」として、「高品質・高機能」を挙げた者は63.6%であるのに対し、デザインは0.0%。

2. 発明とイノベーションをつなぐデザイン

日本では、イノベーションは「技術革新」と翻訳されてきた。その「技術革新」は、研究開発によって新しい技術を生むこと、つまり発明（イノベーション）とほぼ同義のように考えられているのではないか。しかし、イノベーションの本来の意味は、発明そのものではなく、発明を実用化し、その結果として社会を変えることだとされている。革新的な技術を開発するだけでイノベーションが起きるのではなく、社会のニーズを利用者視点で見極め、新しい価値に結び付けること、すなわちデザインが介在してはじめてイノベーションが実現する。このプロセスを知財の観点からたどると、発明が行われると特許が出願され、その発明が商品化され市場に投入できるようになると意匠が登録されるということになると考えられる。ダイソン、アップルなどの企業は、特許出願が増えた後に意匠登録が増えるのに対し、日本企業の多くにおいては、1980年代に盛んだった意匠登録が、1990年代以降は低迷している。



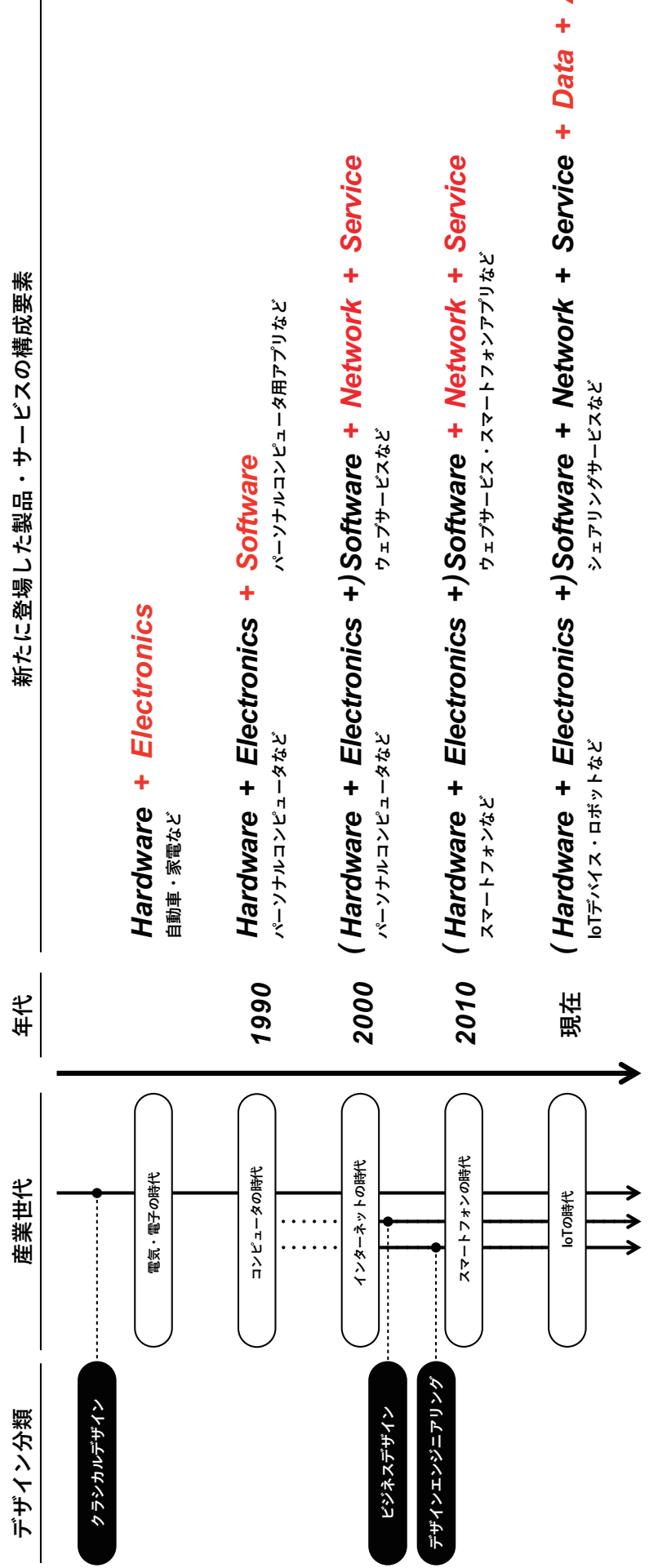
“必要は発明の母”とも古くから言われている。イノベーションは常に社会のニーズと突き合わせながら考える必要があるがあり、デザインはそれを実現する有力な手法である。

(出典) 「Between Invention and Innovation」 U.S. Department of Commerce (2002) (p.36) を基に特許庁作成

3. 産業とデザインの遷移

日本の産業が世界をリードしている分野は、ハードウェア・エレクトロニクスの組み合わせ領域が中心である一方で、世界の主戦場は第四次産業革命以降のソフトウェア・ネットワーク・サービス・データ・AIの組み合わせ領域に急速にシフトしつつある。そして、これらインターネットに接続された製品やサービスにおいては、顧客体験の質がビジネスの成功に大きな影響を及ぼすようになった。

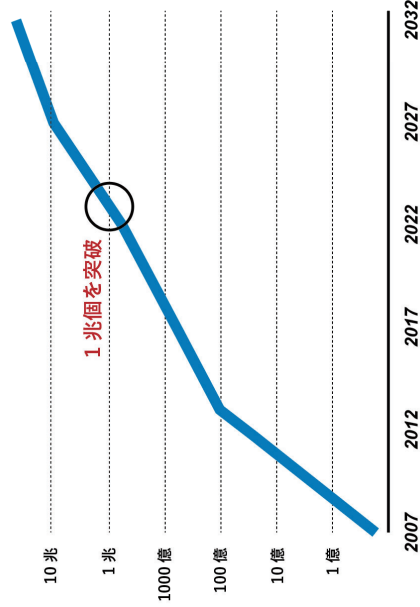
このため、顧客体験の質を大幅に高める手法であるデザインに注力する企業が、急速に存在感を高めていった。デザインは、①顧客と長期に渡って良好な関係を維持するためのブランド力の創出手法、②顧客視点を取り込んだイノベーションの創出手法、として活用されるようになった。デザインは、まさに産業競争力に直結するものとなった。



4. ネットワークとデータが全てを飲み込む時代

データやAIを活用したビジネスが社会に浸透しつつある。ネットの利用時間も1日平均3時間に迫っている。携帯端末のみならず各種の製品・部品に活用が広がるセンサーは、近い将来1兆個を突破すると予測がある。モノをインターネットでつなぐ“IoT”(Internet of Things)に続き、まもなく、ネットワークとデータがすべてを飲み込む時代が到来する。

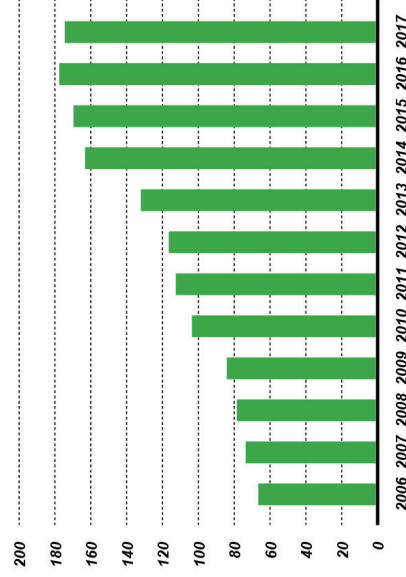
この時代のイノベーション競争をリードするグローバル企業は、質の高い顧客体験を設計するために、顧客やセンサーによって得られたビッグデータを活用してサービスの改善・拡張を速いスピードで進めている。製品やUI(ユーザーインターフェース)だけでなく、プラットフォームやデータを精緻にデザインし、高度な技術と組み合わせること、競争力の高いビジネスモデルを築いていると言える。



センサーの数が1兆個を超える

2014年頃に世界で使われたセンサーは年間約100億個。1兆個は2014年の100倍の規模に当たる。

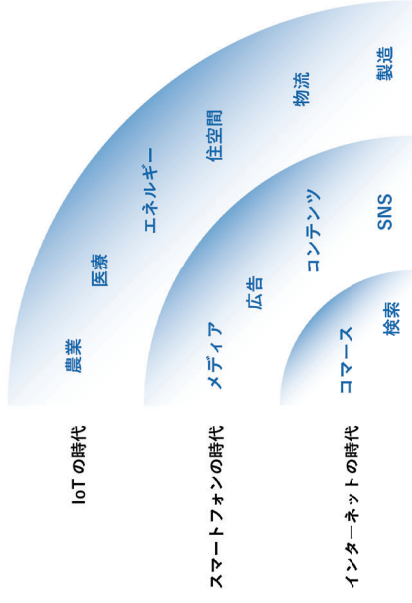
(出典) NEハンドブックシリーズ「センサーネットワーク(ローム社)を基に特許庁作成



平均3時間のネット利用

メディア総接触時間におけるデジタルメディアのシェアは年々拡大。携帯電話・スマートフォン・タブレットのシェアは合計で30%を占めている。

(出典) 博報堂DYメディアパートナーズ「2017年6月20日ニュースリリース「博報堂DYメディアパートナーズ「メディア定点調査2017」時系列分析より」を基に特許庁作成

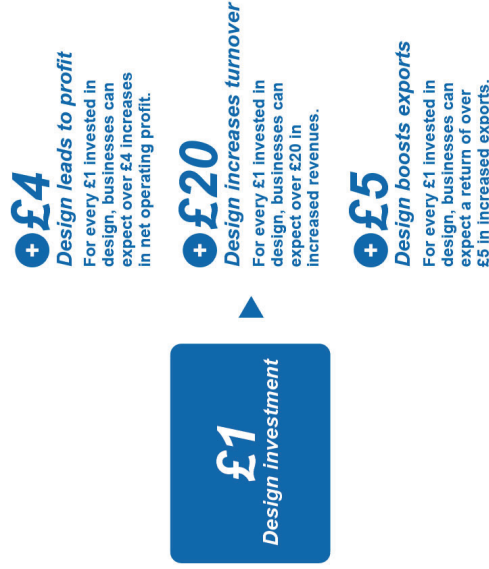


全ての産業にネットが波及

インターネットの時代から、スマートフォン時代の、IoTの時代を経て、ネットワークとデータは幅広い事業領域に浸透していく。

5. デザインの投資効果

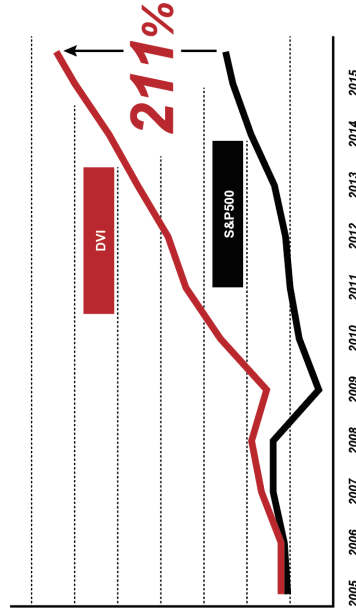
「デザイン経営」は、そのリターンに見合うだろうか。各国の調査は「YES」であることを示している。欧米ではデザインへの投資を行う企業パフォーマンスについての研究が行われている。それらはデザインへの投資を行う企業が、高いパフォーマンスを発揮していることを示している。例えば、British Design Councilは、デザインに投資すると、その4倍の利益を得られると発表した。また、Design Value Indexは、S&P500全体と比較して過去10年間で2.1倍成長したことを明らかにした。その他の調査を見ても、「デザイン経営」を行う会社は高い競争力を保っていることがわかる。これがデザインを取り巻く世界の常識となっている。一方、日本の経営者がデザインに積極的に取り組んでいるとは言い難い。



4 倍の利益

£1のデザイン投資に対して、営業利益は£4、売上は£20、輸出額は£5増加

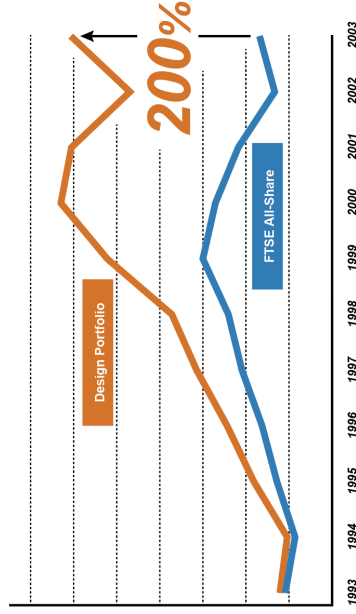
(出典) British Design Council “Design Delivers for Business Report 2012” を基に特許庁作成



2.1 倍の成長

デザインを重視する企業の株価は、S&P 500全体と比較して、10年間で2.1倍成長

(出典) Design Management Institute “What business needs now is design. What design needs now is making it about business.” を基に特許庁作成



2.0 倍の成長

デザイン賞に登場することの多い企業(166社)の株価は、市場平均(FTSE index)と比較し、10年間で約2倍成長

(出典) British Design Council “The impact of Design on Stock Market Performance: An Analysis of UK Quoted Companies 1994-2003, 2004” を基に特許庁作成

6. 「デザイン経営」の定義

「デザイン経営」とは、デザインを企業価値向上のための重要な経営資源として活用する経営である。

それは、デザインを重要な経営資源として活用し、ブランド力とイノベーション力を向上させる経営の姿である。アップル、ダイソン、良品計画、マツダ、メルカリ、AirbnbなどのBtoC企業のみならず、スリーエム、IBMのようなBtoB企業も、デザインを企業の経営戦略の中心に据えており、「デザイン経営」の実践企業・成功企業と一言で言える。ここで、「デザイン経営」と呼ぶための必要条件是、以下の2点である。

- ① 経営チームにデザイン責任者がいること
- ② 事業戦略構築の最上流からデザインが関与すること

デザイン責任者とは、製品・サービス・事業が顧客起点で考えられているかどうか、又はブランド形成に資するものであるかどうかを判断し、必要な業務プロセスの変更を具体的に構想するスキルを持つ者をいう。

デザインへの投資

金銭的投資（デザイン部門の予算増加など）および人的投資（組織改編・人材育成プログラムの充実など）を行う。

デザイン力の向上

デザインへの投資により、企業のデザイン力（市場ニーズを適切に捉え、必要な製品・体験を考案する能力）が強化される。

ブランド力向上・イノベーション創出

デザイン力の向上により、自社アセットを活かしながら、市場ニーズに合致した新製品・サービスを生み出すことが可能となる。製品・サービスを顧客からのフィードバックを受けながら改良することで、イノベーションを創出し、ブランド力が向上する。

競争力の強化

生み出されたイノベーションやブランド力は、効果的にデザインされた顧客とのコミュニケーションを通じて市場に波及し、企業に収益をもたらす。

7. 「デザイン経営」の実践

「デザイン経営」の実践には前ページで述べたように、①経営チームにデザイン責任者がいること、②事業戦略構築の最上流からデザインが関与すること、の2点が必要条件となる。

このような「デザイン経営」を実践するためには、企業において、複数の取り組みを一体的に実施することが望ましい。例えば、デザイン手法による顧客の潜在ニーズの発見や、アジャイル型開発プロセスなどにより、企業のイノベーションを向上させることができる。右図に、「デザイン経営」のための具体的な取り組みを整理した。

また、当研究会では、規模の大小にかかわらず、これから「デザイン経営」に取り組もうとする企業にとって参考となるように、日本・海外の企業における「デザイン経営」の先行事例を別冊として取りまとめた。

「デザイン経営」のための具体的取組

① **デザイン責任者（CDO,CCO, CXO等）の経営チームへの参画**
デザインを企業戦略の中核に関連付け、デザインについて経営メンバーと密なコミュニケーションを取る。

② **事業戦略・製品・サービス開発の最上流からデザインが参画**
デザイナーが最上流から計画に参加する。

③ **「デザイン経営」の推進組織の設置**
組織図の重要な位置にデザイン部門を位置付け、社内横断でデザインを実施する。

④ **デザイン手法による顧客の潜在ニーズの発見**
観察手法の導入により、顧客の潜在ニーズを発見する。

⑤ **アジャイル型開発プロセスの実施**
観察・仮説構築・試作・再仮説構築の反復により、質とスピードの両取りを行う。

⑥ **採用および人材の育成**
デザイン人材の採用を強化する。また、ビジネス人材やテクノロジー人材に対するデザイン手法の教育を行うことで、デザインマインドを向上させる。

⑦ **デザインの結果指標・プロセス指標の設計を工夫**
指標作成の難しいデザインについても、観察可能で長期的な企業価値を向上させるための指標策定を試みる。

コラム: なぜデザイナーはイノベーションの役に立つのか?

A. 観察の達人であり、顧客の潜在ニーズの発見を主導する

皆さんが日々使う歯磨き粉のチューブ。しばらく前までは細長いチューブの先に刻みのついたキャップが付いていて、中のペーストをこき出すようなタイプのもだった。チューブの出口に近いところを押しではいけない。出口から一番遠いところから順番に平たくなるようにしごき出さないと、最後まできれいに使いきれない。洗面所での行動を観察して、忙しい朝にこんなことをしたくないはずだというニーズに気づいて開発されたのが、逆さに立て置く自立型チューブだ。安定して立てられるよう、蓋は大きくなった。ペーストは昔より粘り気が減った。チューブの内側はつるつるになった。逆さに立てれば、中のペーストは自然に出口側に落ちて集まり、中身が減ってきても簡単に出せるようになった。この自立型チューブの開発と普及に尽力したのもデザイナーだ。ペーストの効能や味ではなく、誰もが受け入れたい使い勝手を劇的に改善することで、市場を一変した。デザイナーは、技術と人間中心的視点を上手く組み合わせることで、イノベーションを起こすのだ。

B. コトバにならないものをカタチにして開発サイクルを加速化する

世界の家電市場でシェアを急拡大した企業がある。この企業はデザイン活用に長けており、エンジニアリングとデザインを分けずに取り扱うことを設計プロセスの思想として持っている。エンジニアやデザイナーエンジニアが、ユーザーの行動観察を行い、そこで得た気付きをベースに設計の仮説を構築し、それを設計スタジオの横に付設されたプロトタイプングワークショップですぐに試作し、それを世界中の自宅環境が再現されたテスト施設で検証にかける。そして、その検証を通じて、得られる気付きを再度設計とデザインに反映する。このようにプロトタイプングを繰り返すことで、イノベティブなアイデアを具体化し、製品の完成度を上げていく。また、家電用品の中でも地味な部類の機器に対して、先進性のある外觀デザインを施し、その印象を製品ラインナップ全体・パッケージ・店頭展示・ウェブサイト・CMなどに統一的に展開することにより、洗練されたイメージのブランドを築いた。このデザイン駆動型のイノベーションとブランド構築が、この企業を世界で支持される企業に押し上げたと言われている。

8. 政策提言

当研究会は、「デザイン経営」を推進し、日本の産業競争力を強化するため、政府が実施すべき施策・取り組みについての具体的な政策提言を取りまとめた。この政策提言は、情報分析・啓発、知財、人材、財務、行政の実践の5つの切り口から構成されている。政府には、民間企業のデザインに対する意識を高め、「デザイン経営」推進のきっかけを作るとともに、意欲ある企業の取り組みを制度面から後押しする役割を期待する。

切り口	内容	効果
情報分析・啓発	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報分析と政策提言 2. 啓発 	経営層の意識向上 企業・行政へのデザイン導入の後押し 継続的取組の促進
知財	<ol style="list-style-type: none"> 1. 意匠法の改正 	保護の拡大 意匠権取得の手続きの改善
人材	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度デザイン人材の育成 2. 海外からの人材獲得 	企業の人材需要への対応 海外からの高度人材の迅速な獲得 東京のクリエイティブ都市化推進
財務	<ol style="list-style-type: none"> 1. デザインに対する補助制度の充実・税制の導入 	企業の財務面からのデザイン推進意欲醸成
行政の実践	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行政におけるデジタル・ガバメントの実践 2. 有望プロジェクトの発掘 	行政サービスの質の向上

8. 政策提言

情報分析・啓発

1. 情報分析と政策提言
2. 啓発

経営層の意識向上
企業・行政へのデザイン導入の後押し
継続的取組の促進

1. 情報分析と政策提言

継続的に技術動向や市場動向などを調査・分析し、デザインを巡る環境変化について常に把握するとともに、デザインに関する政策提言を行い得る、有識者を交えた組織を設置する。

2. 啓発

この5年間で「デザイン経営」の普及の集中期間として定め、官民連携して「デザイン経営」の実践と浸透を推進する。

「デザイン経営」の先行事例についての事例集を広く共有し、産業界における「デザイン経営」の機運を醸成する。「デザイン経営」についての考え方・実施の方法・先行事例などについての議論や「デザイン経営」を推進する関連政策についての発表を行うためのシンポジウム等をイベントを、経営者や有識者を招いて開催する。

特許庁は、世界に通じる優れたデザインを生み出し、知的創造サイクル²の実践に寄与したデザイン人材及びデザイン経営を確立した企業を知財功労賞において表彰する。

企業は、自社の製品・サービスを評価し購入する主体である生活者が、より良いデザインを求め顧客となるよう、そのデザインマインドの向上(デザインを評価する市場の創出)に取り組む。

2 「知的創造サイクル」とは、①開発された優れた研究成果を権利化し、②産業財産権の活用等によって研究開発の費用を回収し、③再び新しい研究開発に役立ててもらうという考え方。

8. 政策提言

知財

1. 意匠法の改正

保護の拡大
意匠権取得の手續きの改善

1. 意匠法の改正

デザインの役割が、①ブランド構築のためのデザイン＝企業の持つ哲学・美意識を表現するもの、②イノベーションのためのデザイン＝顧客に内在する潜在的ニーズ、事業の本質的課題を発見、技術と併走し課題解決を行うもの、③製品・サービスのコンセプト、外観、機能性、UIを含む顧客体験の品質を向上させるものとなったことを踏まえ、新技術の特性を活かした新たな製品やサービスのためのデザインや、一貫したコンセプトに基づいた製品群のデザインなど、その保護対象を広げるとともに、手續きの簡素化にも資するよう、意匠法の大幅な改正を目指す。（別紙参照）

8. 政策提言

人材

1. 高度デザイン人材の育成
2. 海外からの人材獲得

企業の人材需要への対応
海外からの高度人材の迅速な獲得
東京のクリエイティブ都市化推進

1. 高度デザイン人材の育成

企業・大学等において、事業課題を創造的に解決できる人材（高度デザイン人材）の育成を推進する。

企業においては、ビジネス系・テクノロジー系人材がデザイン思考を、デザイン系人材がビジネス・テクノロジーの基礎を身につけるための研修などを実施するとともに、専門領域の異なる人材同士が創造的に課題を解決するプロジェクトやワークショップなどを導入する。

ビジネス系・テクノロジー系大学においては、デザイン思考の力リキユラムや芸術系大学との連携プロジェクト（例：IIS-RCAデザインラボ）などを、芸術系大学においては、ビジネスおよびテクノロジーの基礎を身につけるためのカリキュラムやデザイナーとしての実践的能力を向上させるための産学連携プロジェクト（例：広島市立大学芸術学部共創ゼミ）などを実施する。

2. 海外からの人材獲得

増加が見込まれる高度デザイン人材の需要に応えるために、海外からの人材の戦略的獲得を行う。具体的には、①高度デザイン人材に対するビザ取得条件の緩和、②日本でデザイン系の大学・大学院を卒業した人材に対するポストスタディワークビザ（2年間）の創設、③外国人デザイナーが日本で創業することを容易にするためのプロフェッショナルビザ(D-visa)の創設、④世界最速グリーンカード制度において高度デザイン人材に対するポイント付与の実施を行う、⑤ビザ・グリーンカード制度のメリットを海外に向けて能動的に広報する。

8. 政策提言

財務

1. デザインに対する補助制度の充実・税制の導入

企業の財務面からのデザイン推進意欲醸成

1. デザインに対する補助制度の充実・税制の導入

デザインを活用する意欲を持つ企業の取り組みを後押しするため、財務面でのインセンティブ措置として、デザインに対する補助制度の充実・税制の導入を検討する。(例：平成27年に、中小ものづくり高度化法の対象技術にデザインが追加され、デザインの研究開発を対象とした補助金などの活用が可能となったことを踏まえ、今後、サービス領域においてもデザインを意識した支援策の充実を図る。さらに、それらの政策効果を見据えた上で、企業のデザイン活用を全国的に拡大させるため、デザイン税制の導入を検討する。)

8. 政策提言

行政の実践

1. 行政におけるデジタル・ガバメントの実践
2. 有望プロジェクトの発掘

行政サービスの質の向上

1. 行政におけるデジタル・ガバメントの実践

提供者視点ではなく、利用者視点で行政サービスを設計するため
に、デジタル・ガバメント実行計画³とも連動して、「デザイン思
考」の導入を推進する。

2. 有望プロジェクトの発掘

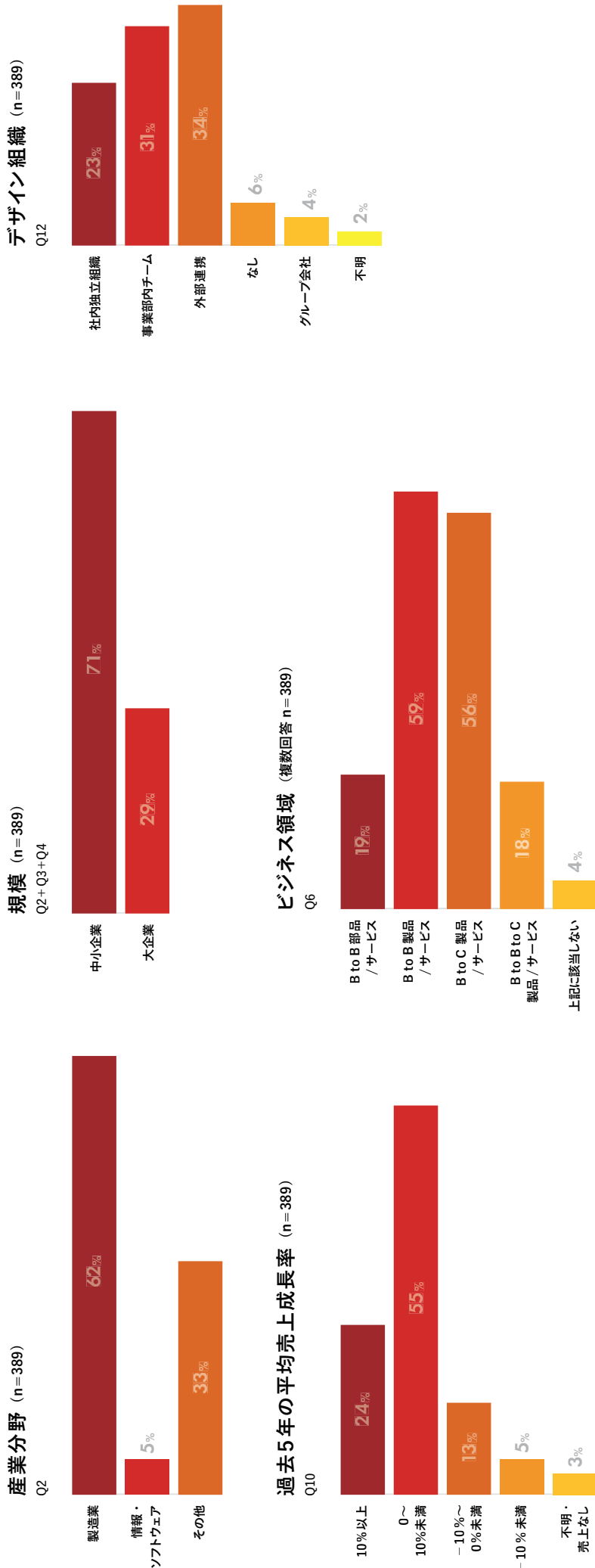
「デザイン思考」を導入することによって、より質の高い行政サ
ービスが期待できる分野に対して、これを実践する。まずは、特許
庁において実践する。

なお、観光分野においては、カスタマージャーニーを意識した戦略
や、顧客目線に立った旅客サービスの重要性が既に議論されてい
る。

³ デジタル・ガバメント実行計画 2018年1月16日にeガバメント閣僚会議にて決定された、政府・地方・民間全てを通じたデー
タの連携、サービスの融合を実現し、世界に先駆けた、日本型の「デジタル・ガバメント」の実現を目指す計画。

回答企業の概観

本調査ではグッドデザイン賞応募企業を対象に実施しましたが、結果として様々な類型から回答を得られました。製造業が約6割、中小企業が約7割、デザイン組織・チームを持つ企業は5割強、BtoB領域を持つ企業の方が多いことなどが、回答企業の概観です。

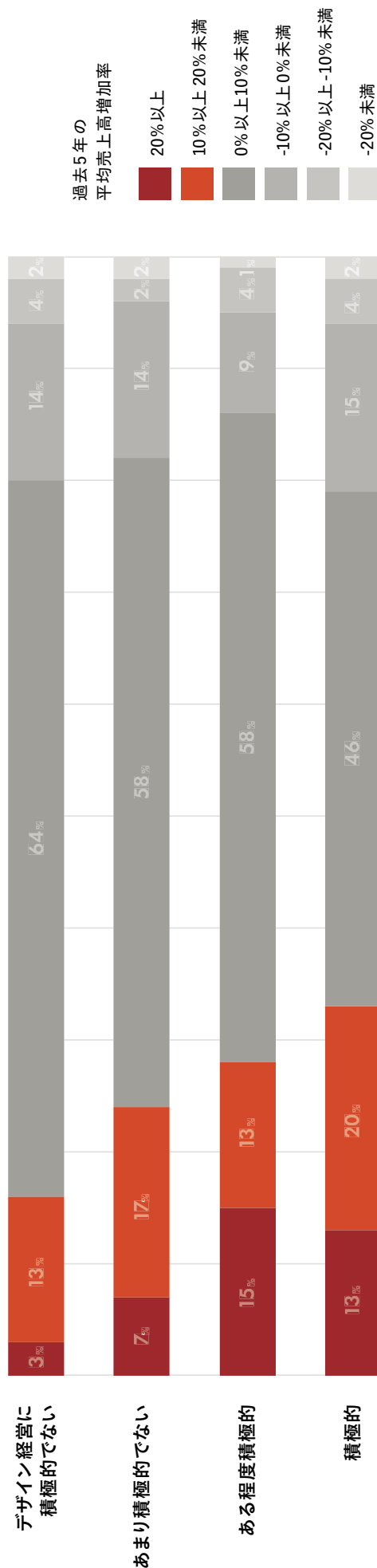


デザイン経営に積極的なほど売上が成長している

過去5年の売上高増加率が10%以上の企業の割合は、デザイン経営の取組みに積極的なほど増加傾向にあります。(16%→24%→28%→33%)
つまり、デザイン経営に注力している企業と売上成長の相関は大きいと言えます。

デザイン経営の取組みと過去5年の平均売上高増加状況の関係性 (n=393)

デザイン経営の取組み×Q10

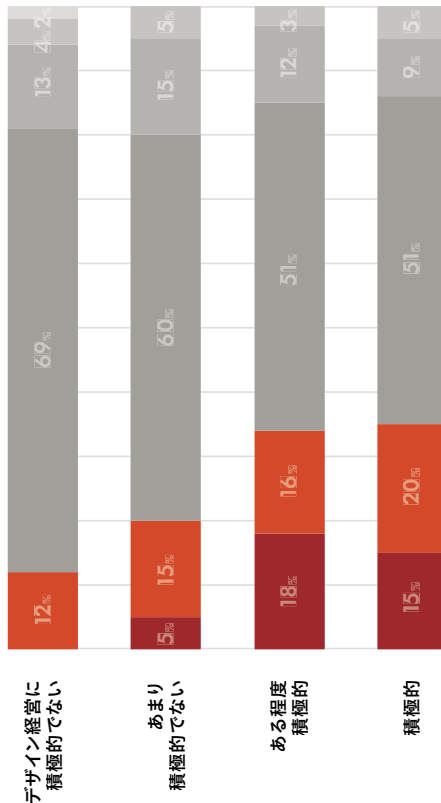


エンドユーザー向け事業を持つ企業、UX向上のためにデジタル化を推進する企業は更に傾向が顕著

エンドユーザー向け事業を多く持つ企業の過去5年の売上高増加率が10%以上の企業の割合は、デザイン経営の取組み状況に応じて増加傾向にあります。(12%→20%→34%→35%)
 またUX(User Experience:ユーザー体験)向上のためのデジタルへの取組みに積極的な企業で過去5年の売上高増加率が10%以上の企業の割合は、「デザイン経営にある程度積極的」な企業ではやや下がるもののデザイン経営の取組み状況に応じて増加傾向にあります。
 特に「デザイン経営に積極的」な企業では半数を超えています。(14%→31%→25%→54%)

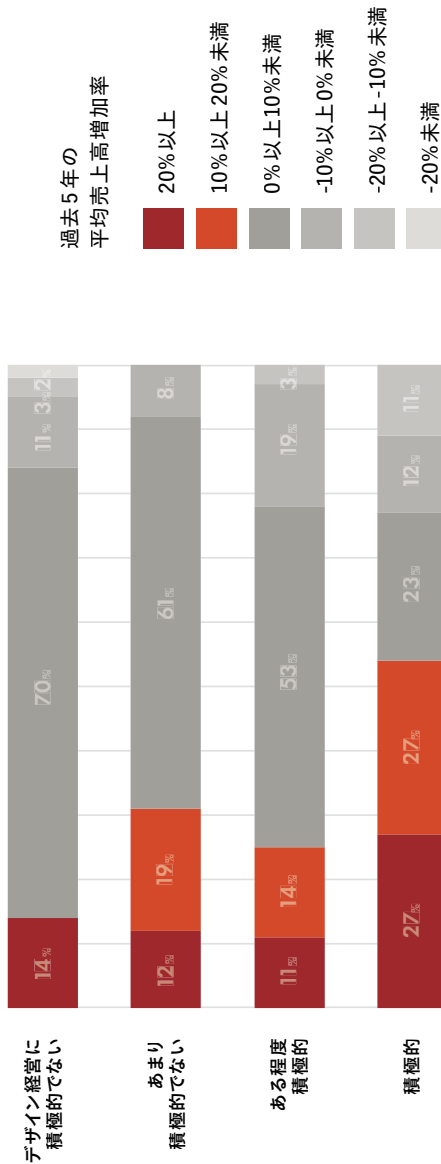
エンドユーザー向け事業を多く持つ企業における
 デザイン経営の取組み状況と
 過去5年の売上の増加状況 (n=240)

デザイン経営の取組み × Q7 × Q10

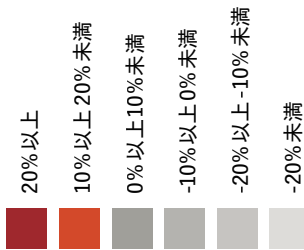


UX向上のためのデジタルへの取組みに
 積極的な企業のデザイン経営の取組み状況と
 過去5年の売上の増加状況 (n=96)

デザイン経営の取組み × Q8 × Q10



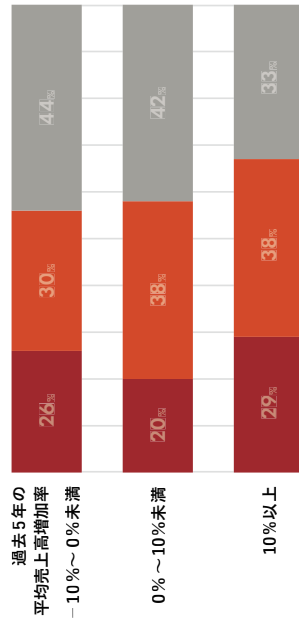
過去5年の
 平均売上高増加率



売上成長が高い企業は、デザインへの投資や教育、デザインの視点を活用した手法の実践に積極的である

売上成長している企業はデザインへの投資に積極的な傾向にあります。(増加している・やや増加しているが56%→58%→67%)
 また、売上成長している企業はデザインに関する啓発・教育(ここではデザイン系以外の職種へのデザインマインドの啓発やデザイン教育等)やデザインの視点を活用した手法の取り入れにも積極的に取り組む傾向にあります。

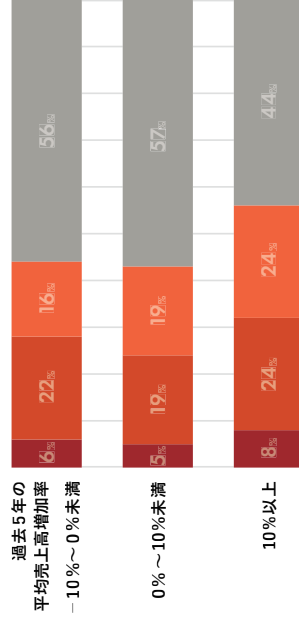
過去5年の平均売上高増加率と「デザインへの投資」の状況 (n=356)
 Q26×Q10



デザインへの投資

- 増加している
- やや増加している
- 変わらない/やや減っている/減っている/わからない

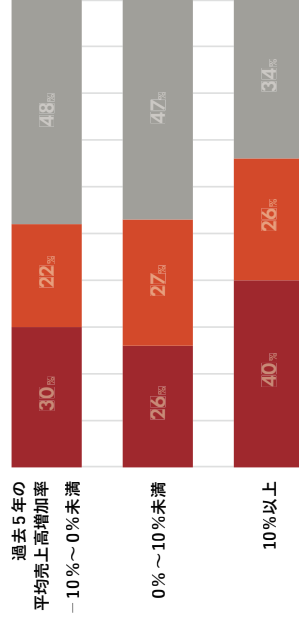
過去5年の平均売上高増加率とデザイン系以外の職種への啓発・教育の状況 (n=356)
 Q24×Q10



デザイン系以外の職種への啓発・教育

- 積極的に推進している
- 推進している
- 推進していないし、検討もしていない/わからない/デザイン系以外の職種はない

過去5年の平均売上高増加率と「デザインの視点を活用した手法」の取組み状況 (n=356)
 Q15×Q10



デザインの視点を活用した手法

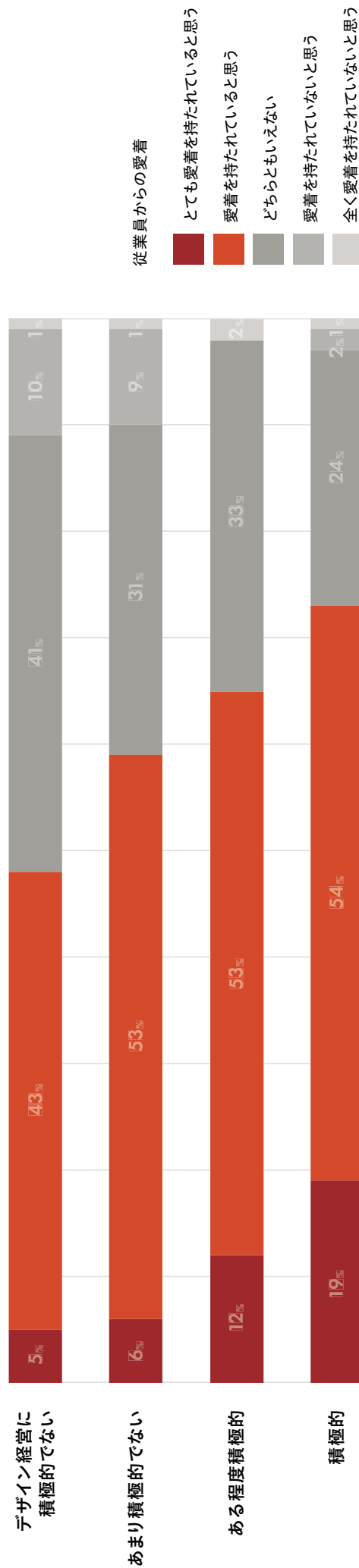
- 取り入れている
- 試行的に取り入れている
- 取り入れていない/わからない

デザイン経営に積極的なほど従業員から愛される

従業員から「とても愛着を持たれていると思う」「愛着を持たれていると思う」と回答した企業の割合は、デザイン経営の取組みに積極的なほど増加傾向にあります。(48% → 59% → 65% → 73%)

デザイン経営の取組み状況と従業員の自社への愛着状況 (n=393)

デザイン経営の取組み×Q28

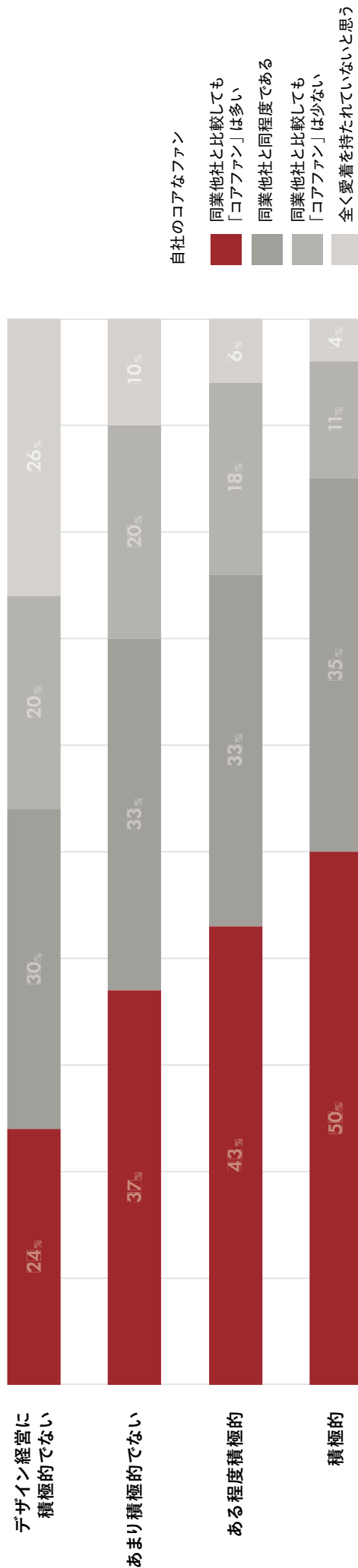


デザイン経営に積極的なほど顧客から愛される

自社又は、自社のサービスや製品のブランドに対するコアなファンは「同業他社と比較しても多い」と回答した企業の割合は、デザイン経営の取組みに積極的なほど増加しています。(24%→37%→43%→50%)

デザイン経営の取組み状況と同業他社と比較した「コアファン」の状況 (n=393)

デザイン経営の取組み×Q27

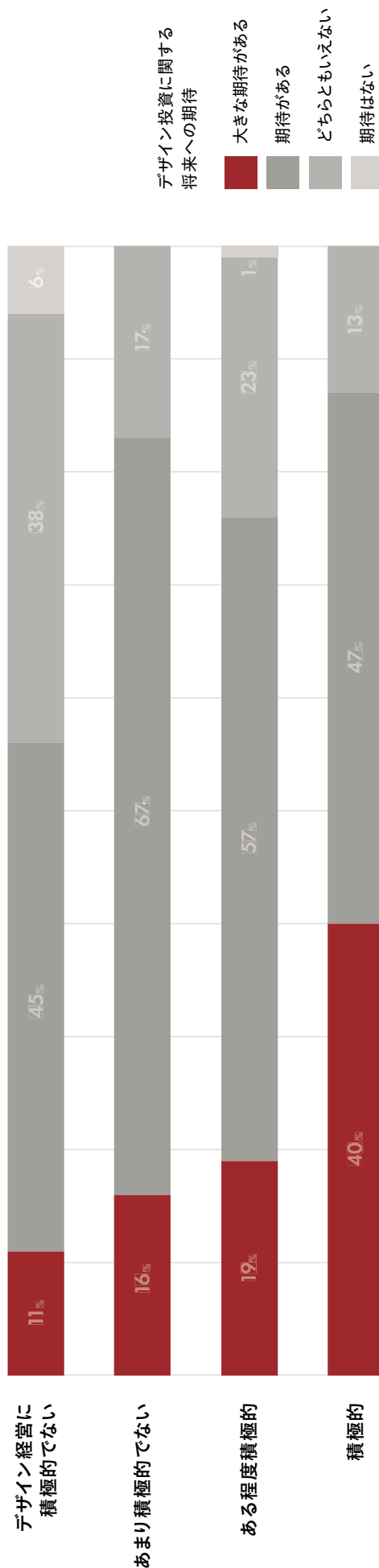


デザイン経営に積極的な企業は未来への希望を感じている

これまで実施した「デザインへの投資」が、自社の将来的な展開や新たな事業開発等においても効果を発揮してくれるという期待について「大きな期待がある」と回答した企業の割合は、デザイン経営の取組みに積極的なほど増加傾向にあります。(11%→16%→19%→40%)

デザイン経営の取組み状況とデザイン投資に関する将来への期待の状況 (n=393)

デザイン経営の取組み×Q29



本調査とこれまでの先行研究と比較した位置づけ

これまでもデザインの企業経営への効果に関する調査は様々ななされてきましたが、海外企業を対象とし、またデザインの取組みによるアウトカムは株価推移で分析されている調査が主でした。今回、日本企業を対象に様々な視点でのデザイン経営の取組みやアウトカムをアンケートで網羅的に把握し、日本企業にとっても納得性の高いデータとなるように意識を調査しました。

Design Value Index

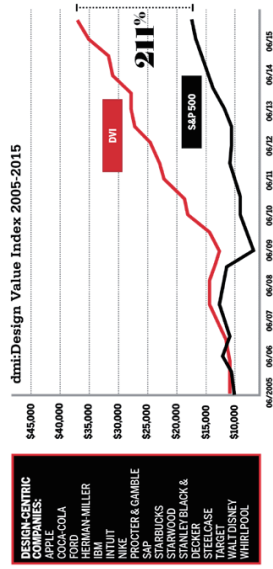
実施主体 Design Management Institute
(米国のデザイン推進を担う非営利組織)

調査概要

- S&P500企業中、デザインを重視している企業16社の株価をDVI (Design Value Index)とし、S&P500全体の株価推移と比較分析
- 比較期間: 2005～2015年

調査結果

- DVIはS&P500全体と比較して211%のデザインを重視している企業16社の株価は、そうでない企業と比較して2倍以上の成長率を記録
- デザインを重視する会社は成長率が高いことを示唆



© 2016 The Design Management Institute
www.dmi.org/page/DesignValue/The-Value-of-Design-.htm

Design Index : The Impact of Design on Stock Market Performance

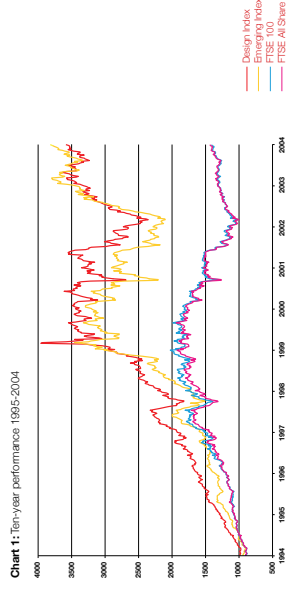
実施主体 Design Council (英国の非営利シンクタンク)

調査概要

- 1993年以降デザイン賞を獲得した166社をDesign Indexとし、ロンドン証券取引所の主要インデックス (FTSE100:ロンドン証券取引所の時価総額上位100企業)等の株価推移と比較分析
- 比較期間: 1994～2004年

調査結果

- Design IndexはFTSE100等と比較しS&P500全体と比較して2倍以上の成長率を記録
- デザインを重視する会社は成長率が高いことを示唆



designbusinesscouncil.com/wp-content/uploads/2017/08/design_index_9199.pdf

日本企業におけるデザイン経営の取組み状況

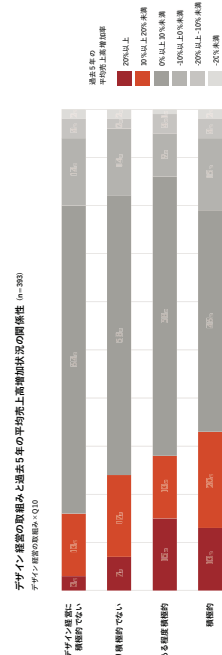
実施主体 日本デザイン振興会

調査概要

- グッドデザイン賞に応募した企業約4000社に対しアンケートを実施、有効回答数は519社
- デザイン経営の取組みやアウトカムについて網羅的に把握
- 実施期間: 2020年

調査結果

- 過去5年の売上高増加率が10%以上の企業の割合は、デザイン経営の取組み状況に応じて増加している (16%→24%→28%→33%)
- デザイン経営の取組みに積極的であることは、売上成長等様々なアウトカムにつながっていることを示唆



デザインプロセスを学ぶ専門科目と、他領域の授業を組み合わせて、一人ひとりのオリジナルカリキュラムをつくることができます。

総合領域のカリキュラムの目標は「デザイン思考を使いこなし、身のまわりのさまざまな課題を解決できる人材を育成すること」です。「コト・モノ・情報」のデザインプロセス科目を中心に総合領域独自の専門科目で知識を深めます。さらに、他領域の授業で技術を習得したり、プロジェクト科目で実践力をつけるなど、自分でカリキュラムを組み立て、専門研究へと昇華させます。

プログレス・ファイルで自らの成長を記録

総合領域では、自分が学んだことを一つのファイルにまとめていきます。授業で学んだ知識やスキルを書き込み、制作した作品の写真をまともな大きさで貼ります。このことで、自らの成長がよくわかり、現状を振り返ったり、次の目標をイメージしやすくなります。また、クリエーターとしての自分をアピールするカタログ「ポートフォリオ」を、このファイルをもとに作成。就職活動でも大きな力になります。



1年次

領域基礎科目

言葉によるコミュニケーション、スケッチを通じた創造性を学び、デザインにおける基礎的なプロセスを学びます。

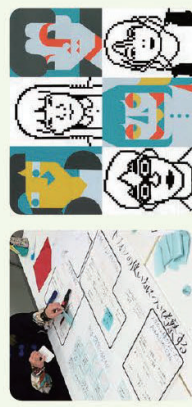


総合デザイン概論

2年次から実際に経験するデザインプロセスがどんなものか、まずは知ってみたい。総合領域の導入授業です。様々な分野の教員がリレー形式で行います。

他領域基礎科目を選択

デザインを学ぶ上で必要な、他領域の基礎授業を選択できます。「写真基礎」、「グラフィック演習」、「フィールドワーク」、「商品マップペンギン」など。



プロジェクト科目

実践力を身につける

企業や自治体、地域などと連携して社会とのつながりを実践的に学びます。ワークショップやイベントの企画運営、オリジナルグッズの企画デザイン、企業の広報ツールの作成などを通して、コト・モノ・情報の分野で実社会を相手にプロデュース能力、ディレクション能力を鍛えます。

2年次

知識・技能科目

デザインの知識や技術を身につける
実際のデザイン課題に取り組むためには、さまざまな知識や技能を総合的に学ぶ力、言葉に表す力、かたちや図式に表す力、既存のものを評価する力、える力、デザイン知識、素材知識、加工技法など、それらを取り上げて学びます。

デザインプロセス科目「デザイン思考」



「気づきからデザインへ」

市場調査、分析
アイデアの発散、収束技法
グループディスカッション
コンセプト構築
デザインの流れを理解する



「伝えるためのデザイン」

組立装幀 (in Design)
印刷装幀知識
冊子編集デザイン
Webデザイン
分かりやすく魅力を表現する



「企画をデザインにまとめる」

商品企画、商品デザイン
ネーミングロゴデザイン
パッケージデザイン
販売計画
プロモーション
トータルデザインする



「社会のためのデザイン」

身近な社会問題を考える
文獻調査
テーマの発見
現場調査
課題抽出
解決への道筋を提案する



他領域専門科目を選択

多様な専門知識や技能を身につける
他領域の専門科目を各自が選択し履修します。自分の意向や興味に沿った専門的な知識や技術を獲得して、企画立案に活かします。この幅広いな学びが総合領域の強みです。

「マルシェをつくる」

商品に込められた気持ちを暮らし手に伝
入、暮らしへの提案をこまめに、生活を豊かに
にするヒントを得る。コンセプトを導き出す
デザイン、商品開発、販売、マーケティング
企画まで実践を通して学びました。

「医療現場でのコミュニケーションの提案」

医療現場におけるデザインについて、医師・
薬剤師、患者と一歩先を歩きます。医療現場での
提案活動(ワークショップ)で医療現場での
コミュニケーションの提案活動(ワークショップ)
デザインによる提案活動を企画・提案す
るの機会があります。

3年次

専門研究

自分の専門分野を深める
4年次はこれまでの学びの集大成として卒業研究に取り組みます。総合領域独自の専門的な学びと、企画運営能力、プロデュース能力を活かして社会に向けてデザイン提案を行います。

「社会のためのデザイン」

「デザイン思考」育成の中心にあるのが「デザインプロセス科目」。いわば総合的な実践科目です。左の図のようなデザインプロセスの各ステップに分けて学びを重ね、デザインプロセスのサイクルを繰り返すことで経験を深め、高度で複雑な問題に取り組み企画提案力を養います。

「企画をデザインにまとめる」

商品企画、商品デザイン
ネーミングロゴデザイン
パッケージデザイン
販売計画
プロモーション
トータルデザインする



「社会のためのデザイン」

身近な社会問題を考える
文獻調査
テーマの発見
現場調査
課題抽出
解決への道筋を提案する



4年次

専門研究

自分の専門分野を深める
4年次はこれまでの学びの集大成として卒業研究に取り組みます。総合領域独自の専門的な学びと、企画運営能力、プロデュース能力を活かして社会に向けてデザイン提案を行います。



「まちづくり」プロジェクト

大津市山崎町山崎町公式キャラクター
「大津熊」をデザインし、まちづくり、子育て、教育
に活用する。まちづくり(まちづくり)を通じて、子どもたち
に向け、「まちづくり」をテーマにしたまちづくり活動(まち
づくり)を行う。まちづくり活動(まちづくり)を通じて、まち
づくりを行う。まちづくり活動(まちづくり)を通じて、まち
づくりを行う。



設置目的

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構は、学園建学の精神『成安』、校訓『誠と熱』、および大学基本理念（教育理念）『芸術による社会への貢献』を、今日の条件下で、より力強く実践・展開することを目的として設立されました。社会との共創により、芸術研究を深化・拡張させ、新たな価値の創造とより良い未来社会の実現に貢献します。

設置理念

芸術研究と社会を結び、産官学民連携の場を作ります。
主体的な姿勢で、社会と共に創造的サイクルを生み出します。
芸術分野がどのように社会へ貢献できるかを、誠意と熱意を持って議論します。

芸術分野と様々な社会テーマの交点を捉え、特色ある今日的芸術研究を推進します。
横断的視点を重視し、新領域や融合領域の創出を推進します。
社会課題の共有により組織的連携を推進し、基礎研究段階からの共創を目指します。
相談案件や研究プロジェクトの舵取りを行い、研究・連携支援の一元的窓口となります。
研究の成果を積極的に社会へ発信することにより、新たな共創を構築します。

未来社会のあり方を考え、人間環境の改善に資する様々な研究の創出を目指します。
未来社会のあり方を考え、こころの豊かさや安らぎの獲得に資する様々な研究の創出を目指します。
優れた芸術の価値を顕在化させ、未来社会のデザインに資する様々な研究の創出を目指します。

研究活動の推進

SEIANドリームプロジェクト

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構では、研究活動の活性化を目的とした企画第一弾として、「SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）」を実施します。本学の学生から枠にとらわれない独創性豊かな研究・制作プロジェクトを募集。採択となったプロジェクトには、総額100万円の研究・制作資金の助成支援を行うとともに、相談や指導をはじめ、各種外部団体やスポンサー企業とのマッチングなどの活動支援を行います。

SEIAN DREAM PROJECT

学生の“夢実現”を応援！

総額**100万円**の助成プログラム

自由な発想の研究・制作プロジェクトを募集します

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構
SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）

応募受付期間：
2021年
4月1日[木]–5月31日[月]

助成・活動支援期間：
2021年 2022年
7月1日[木]–2月28日[月]

主催者：成安造形大学 未来社会デザイン共創機構
芸術研究と社会を結ぶ、新機構が誕生。社会との共創により、芸術研究を深化・拡張させ、より良い未来社会の実現を目指す「成安造形大学 未来社会デザイン共創機構」が2021年4月に誕生。学生・教員の研究活動の活性化や社会との共創関係構築を目指します。

特別研究助成金

本学教員による大学の教育研究活動の発展や文化の向上及び社会的に貢献することを目指した研究・制作活動に対して助成を行います。

研究活動の発信

- ① [成安造形大学紀要](#)
- ② [芸術文化研究所（本機構の前身）活動記録](#)
- ③ [研究活動における不正行為防止等への取り組み](#)

◎ お問い合わせ

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構

TEL：077-574-2118（直通）

FAX：077-574-2120

E-mail：mirai@seian.ac.jp

●卒業生数・進学者数・就職者数・就職率(令和3年5月1日現在)●

【大学全体】

学部	学科	性別	卒業生数	卒業生内訳							合計			
				進学者数		就職者数		専修学校・外国の学校等入学者	一時的な仕事に就いた者(雇用契約が1年未満又は短時間勤務の者)	左記以外の者				
				大学院研究科	大学学部	正規の職員・従業員、自営業主等	正規の職員等でない者(雇用契約が一年以上かつフルタイム勤務相当の者)			進学準備中の者		就職準備中の者	その他	
芸術学部	芸術学科	男	52	12	0	24	0	0	1	0	6	9	0	52
		女	182	7	0	115	8	0	10	0	17	25	0	182
芸術学部計			234	19	0	139	8	0	11	0	23	34	0	234
大学全体合計			234	19	0	139	8	0	11	0	23	34	0	234
				19		147				57				

※ 上記のデータは、令和元年度卒業生の内訳です。
 ※ 就職希望者数：173名
 ※ 対就職希望者就職率：85.0% (就職者数/就職希望者数)
 ※ 対卒業生就職率：74.7%(就職者数/卒業生数)

●令和2年度卒業生の産業別就業者数(令和3年5月1日現在)●

【大学全体】

業種	芸術学部			大学全体合計
	芸術学科		芸術学部計	
	男	女		
農業	0	0	0	0
建設業	3	8	11	11
製造業	5	24	29	29
情報通信業	4	33	37	37
運輸業・郵便業	0	1	1	1
卸売業・小売業	5	17	22	22
金融業・保険業	0	1	1	1
不動産業・物品賃貸業	0	0	0	0
学術研究 専門・技術サービス業	0	5	5	5
宿泊業・飲食サービス業	0	4	4	4
生活関連サービス業、娯楽業	1	5	6	6
教育・学習支援業	1	6	7	7
医療・福祉	0	5	5	5
サービス業	5	14	19	19
公務	0	0	0	0
合計	24	123	147	147

●令和2年度卒業生のおもな就職先●

印刷・出版・広告・デザイン 他	(株)ITP、(株)イージャーワークス、(有)ウエスト、(株)永昌堂印刷、(株)エムハンド、(株)kurumi、(株)コンセント、菊田印刷(株)、(株)グラフィック、(有)セメントプロデュースデザイン、(株)SEESAW、(株)バイスリー、(株)メンバーズ、(株)リッソ
ゲーム・アニメ・映像 他	(株)アストロプロダクション、(株)オルガンソフト、(株)カイロソフト、(株)カプコン、(株)共同エディット、(株)Cygames、(株)トーセ、(株)フリー・フォーム・カンパニー、(株)ピットグループ、(有)ムクオスタジオ、(株)ライブ総合舞台
製造・小売・サービス 他	岩本繊維(株)、(有)画箋堂、(株)カミオジャパン、(株)サンリオ、しまむらグループ、(有)島田家具工芸、セガサミーホールディングス(株)、澤染工(有)、タカギ繊維(株)、(株)ニッセン、パセリエンタープライズ(株)、(株)ホリゾン、(株)ムーンスター、(株)ライトオン、(株)アクア、(株)アウトソーシング、(株)エイジェック、(株)Hal、初音、(株)平山、(株)ベスト・ワン
建築・ディスプレイ・不動産 他	(株)アーキダム、(株)エイチ、(株)エムケー、(株)小野建築設計事務所、(株)協和フロンティア、日都産業(株)
学校教育 他	明石市教育委員会、高知市教育委員会、高槻市教育委員会、豊中市教育委員会、成安造形大学
その他、進学	医療法人桜花会醍醐病院、チェルシーアニマルクリニック、わたぼうしの会たんぼぼの家、愛知県立芸術大学大学院、大阪芸術大学大学院、京都精華大学大学院、九州産業大学大学院、筑波大学大学院、広島市立大学大学院、成安造形大学研究生

●令和2年度学位授与数(令和3年3月31日現在)●

学士(芸術学)授与数

令和2年度授与数	学部	学科	人数	
		芸術学部	芸術学科	234
	芸術学部計		234	
	合計			234
平成8年度～令和2年度累計	芸術学部	芸術学科	1425	
	芸術学部計		1425	
	造形学部	デザイン科	2,635	
	造形学部計		1,311	
	合計			5,371

※学位は、芸術学部・造形学部ともに学士(芸術学)です。
 ※造形学部は、平成29年3月31日で廃止しました。

令和3年3月卒業者のうち就職者の就職先所在地

地方	都道府県	就職者数		都道府県別 男女計(人)	都道府県別 割合	地方別 就職者数(人)	地方別 割合
		男(人)	女(人)				
北海道 東北	北海道				0.0%	0	0.0%
	青森県				0.0%		
	岩手県				0.0%		
	宮城県				0.0%		
	秋田県				0.0%		
	山形県				0.0%		
	福島県				0.0%		
北関東 南関東	茨城県				0.0%	34	23.1%
	栃木県				0.0%		
	群馬県				0.0%		
	埼玉県				0.0%		
	千葉県	1		1	0.7%		
	東京都	5	26	31	21.1%		
	神奈川県		2	2	1.4%		
北陸 甲信越	新潟県				0.0%	6	4.1%
	富山県		1	1	0.7%		
	石川県	1		1	0.7%		
	福井県	1	2	3	2.0%		
	山梨県	1		1	0.7%		
	長野県				0.0%		
東海	岐阜県				0.0%	2	1.4%
	静岡県				0.0%		
	愛知県		1	1	0.7%		
	三重県		1	1	0.7%		
近畿	滋賀県	5	22	27	18.4%	94	63.9%
	京都府	4	29	33	22.4%		
	大阪府	4	23	27	18.4%		
	兵庫県	1	4	5	3.4%		
	奈良県		1	1	0.7%		
	和歌山県		1	1	0.7%		
中国	鳥取県		1	1	0.7%	4	2.7%
	島根県		1	1	0.7%		
	岡山県		2	2	1.4%		
	広島県				0.0%		
	山口県				0.0%		
四国	徳島県				0.0%	5	3.4%
	香川県		1	1	0.7%		
	愛媛県		1	1	0.7%		
	高知県		3	3	2.0%		
九州	福岡県	1	1	2	1.4%	2	1.4%
	佐賀県				0.0%		
	長崎県				0.0%		
	熊本県				0.0%		
	大分県				0.0%		
	宮崎県				0.0%		
	鹿児島県				0.0%		
	沖縄県				0.0%		
合計	合計	24	123	147	100.0%	147	100.0%

インターンシップ派遣人数・受入先数

	平成30年度	令和3年度	増加率
派遣人数(人)	26	47	180.8%
うち滋賀県内派遣人数(人)	11	17	154.5%
受入企業数(人)	15	24	160.0%
うち滋賀県内受入企業数(人)	5	8	160.0%

本学調べ

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	サキ ヨシキ 小 崎 善 通 <令和3年4月>		修士 (文学)		成安造形大学 学長 (令和3年4月～令和6年3月)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。